

【熟紙】 唐代ニハ行文用紙ニ「生紙」熟紙ノ二種アリ。嘉禮ニハ熟紙ヲ用キ凶禮ニハ生紙ヲ用キルヲ法トセリ。又普通ノ文案ニハ熟紙ヲ用キルヲ正式トシ生紙ヲ用キルヲ略式トセリ。祕書監ニ熟紙匠アリテ之ヲ製造ス。今ノ「熟紙」又ハ「經煮紙」ニ同ジ。

【熟紙】 熟紙ニ記シタル狀、官府ノ決議書ヲ稱ス。【夢溪筆談】「本朝要事。對察常事擬進書ヲ可。然後施行。謂之熟紙云云。」

【熟田陸科正米】 開墾地既ニ熟成シ、一定ノ成例ニ照シテ正項糯米ノ數ヲ按ジテ租稅ヲ徵收スルコトヲ謂フ。【六部成語註解】「田已成熟。照例按正項糯米之數徵收。」

【熟蕃】 蕃ハ或ハ番ニ作ル。蕃族中普通民部落ノ附近ニ居處シテ平民ト相親ミ、教化ニ浴シ術役ノ義務ヲ負フ者ヲ謂フ。即チ歸順蕃族ナリ。臺灣熟蕃ノ如キハ其一例ナリ。之ニ反シ山洞ニ深居シ野性慣レ難キ者ヲ蕃蕃ト謂フ。

【熟苗】 苗族ノ省界ニ接シテ住居シ輪租服役等平民ニ等シキ者ヲ謂フ。

【熟羊胛】 【唐書】「骨利幹ハ瀚海ノ北ニ處リ其地ハ北、海ヲ距テ京師ヲ去ルコト最モ遠シ。又北、海ヲ渡レバ則チ晝長ク夜短シ。日入りテ羊ヲ烹テ胛熟ス」ト記ス。蓋シ夏日ノ夜短キヲ指シテ言フ。或ハ又歲月ノ速ナルニ喻フ。

【祝】 (部首) (風) (韻)

【祝史】 古ノ新羅ヲ司ルノ官ナリ。【左傳】「上思利レ民。忠也。祝史正辭。信也。」【唐書】「禮樂志」祝史。陪ニ其後。皆北向。後世ハ官名ヲ以テ氏ト爲シ祝史氏アリ。【皇朝通志】

【祝詞】 (一) 祭祀ニ用キル祭文ナリ。【唐樂章】「祝詞。以信。明德惟聰。」(二) 後世ハ吉詞ヲ以テ人ヲ頌スルヲ「祝詞」ト爲ス。

【祝版】 祭時祝文ヲ書シタル札。清制ハ天壇ノ祝版ハ純青紙ニ朱書シ、地壇ノ祝文ハ黃紙ニ黃線ノ墨ニ書シ、日壇ノ祝文ハ朱紙ニ朱書シ、太廟、社稷中祀及ヒ羣祀等ハ白紙ニ黃

線ノ墨或ハ純墨ニテ書スルヲ法トセリ。

【祝文】 天ニ祈願スルノ文即チ邦語ノ「ノリ」トナリ。伊書氏ニ始マル。【事物紀原】「自ニ伊書氏ニ始爲ニ八蜡。則有レ之。其文曰。土反ニ其宅。水歸ニ其壑。具蟲毋レ作。草木歸ニ其澤。是也。禮記云。(卷)【文體明辨】「祝文者。要神之辭也。劉勰所レ謂祝史陳レ信。費ニ手文辭一者。是也。云云。」

【縮項】 未ノ異名ナリ。【ハレノ部】「白」

【縮財】 財政ヲ縮少スルコト【戰國策】「縮三子財用。則國亡。」注「歎也。贏之反也。」

【縮餉】 退嬰シテ進マザルノ親ナリ。【漢書】「五行政。當ニ春秋時。侯王半多ニ縮餉不任事。臣下緩弛。故月行遲。」

【肅】 (部首) (風) (韻)

【肅紀】 清制、刑部ニ「肅紀司」ノ課アリ。肅紀司前司郎中、肅紀後司郎中、肅紀左司郎中、肅紀右司郎中、ノ官ヲ置キ、侍郎監督ノ下ニ裁判事務ヲ分掌ス。【會典】

【肅紀司】 (前條ヲ) (見ヨ)

【肅政臺】 唐武后ノ時御史臺ヲ改メテ「肅政臺」ト爲ス。左右肅政二臺ヲ置キタルガ龍朔以後改メテ「左右御史臺」ト爲ス。

【肅政廉訪使】 (察使) (見ヨ)

【肅政廳】 民國新設ノ行政裁判所ナリ。平政院ニ附設スルモ獨立ニシテ其權限ヲ行ヒ平政院ノ拘束ヲ受ルコトナシ。其主ナルモノハ(一) 行政官吏ノ憲法ニ違反シタル件、(二) 賄賂及ビ收賄等ニ關スル件、(三) 官吏ノ職權濫用等ニ關スル件等ヲ審判ス。

【出】 (部首) (韻)

【出】 男子ガ己レノ姉妹ノ子(男)ヲ指稱ス。普通ハ「甥」(甥女)ト稱ス。【大學衍義補】

【出閣】 科擧時代、試験終了ノ義、閣ハ試場、出ハ退出ノ義ナリ。會試終了ノ日試験官以下

ニ賞宴ヲ賜フヲ「出閣筵宴」ト稱ス。【會典】

【出閣筵宴】 (前條ヲ) (見ヨ)

【出京】 京官ガ京師ヲ出デテ地方ニ出張スルコト、日本ノ用例トハ正反對ナリ。【普通ノ文】

【出居完聚】 (一) 出居ハ妻ノ買家又ハ妻ヲ不法ナル後夫ノ家ヨリ出シテ正當ナル前夫ノ家ニ復歸セシムルノ義、完聚ハ夫妻同棲スルノ義ナリ。(二) 或ハ又婿ガ女家ヨリ出デテ別居スルヲ「出居」ト曰フ。完聚ハ從前ノ如ク夫婦同棲スルコトヲ曰フ。【出居完聚】 (見ヨ)

【出妻】 (妻ヲ) 支那法ニ於テハ妻ノ離婚請求權ヲ認メズ故ニ夫ノ方面ヨリ立法シテ「出妻」ト曰フ、出妻トハ即チ夫ノ離婚權ヲ意義ス。然モ離婚ハ人生ノ凶事ト爲スガ故ニ夫ト雖モ事由ナクシテ離婚ヲ強制スルヲ得ズ。離婚ノ

要件ハ七出ト義絶トノ二項アルノミ、(各本見)且ツ七出ハ禮制上ノ離婚要件ニシテ法律上必シモ悉ク之ヲ履行セシムルニアラザルノミナラズ七出ノ事實アルモ三不去(本條ヲ)ノ事實アルトキハ離婚スルヲ得ズ。【明律】「清律」戸律婚姻篇「出妻」ノ條「凡妻無三出及義絶之狀。而出レ之者。杖八十。雖犯七出。有三不去。而出レ之者。減三。等。追還完聚。云云。」(明律卷六)

【出罪】 (罪ヲ) (ハレノ部) (應) (出罪) (出罪) (見ヨ)

【出示曉諭】 官廳ガ人民ニ對シテ發スル命令、或ハ略シテ「示諭」、「出示」、「諭示」等ト曰フ。

【出舍】 (一) 招贅又ハ招夫ト爲リタル者ガ、一定ノ年限ヲ經過シ、妻ヲ伴ヒテ妻家ヨリ別居スルコトヲ謂フ。臺灣ニ於テハ「伴妻出去」ト稱ス。(臺灣私法) (二) 婿妻子が不義ヲ犯シタル妻ヲ離婚シテ、妻家ヨリ出ヅルコトヲ謂

【元典章】妻犯姦出舍ノ條、高孫兒於二部金蓮處ニ作レ塔因ニ姦斷レ妻出舍。(卷十)

【出將入相】(出デテハ相) (入リテハ相) (侯世爵) (公)

【出震乘時】(震ニ出デ) (易經) 說卦傳、帝出ニ乎震。齊ニ乎巽。云云。トアルニ出ヅルノ語、

【出身】一定ノ試験(吏部)ノヲ經テ官吏ト爲ル身分ヲ謂フ。此語ハ唐代ヨリ始ルガ如シ。

【出藍】師ノ右ニ出ヅル者ヲ謂フ、【荀子】勸學篇、青出ニ於藍、而青ニ於藍。

【出金】新制、陸海軍佐官兵卒ノ國事ニ死亡シタル遺族補助金ノ制ナリ。一次出金ト、年

【恤刑】(書經) 舜典、惟刑之恤哉。トアルニ出ヅ。罪人ヲ憫憐スルノ義ナリ。後世此主義ニ

【恤孤】孤兒ヲ救済スルコト王道仁政ノ要ナリ。【大學】上恤孤而下不倍。歴代之ヲ以テ

【恤功】國民ノ功勞ヲ酬察スルノ義、【書經】「乃命三后、恤功于民。」

【恤産保嬰會】(ヲ見ヨ) (恤産會)

【恤恤】(ヲ見ヨ) (恤恤會)

【述作】(創作) 舊ヲ傳フルヲ述ト曰ヒ、始作(ノ義)

成績ノ優劣ニ依リテ官吏任用ノ資格ヲ定メ五等ニ分チ、一二等ヲ及第ト曰ヒ三等ヲ出身ト曰ヒ四五等ヲ同出身ト曰フ。(宋史選)

【出青】牧畜ノ方法ニシテ、水草ノ豐茂セル地ヲ擇ビテ放牧スルコトヲ謂フ。

【出井稅】礦物ノ産出地ヲ、鑛井ト爲ス。故ニ礦物産出稅ヲ指シテ、出井稅ト爲ス。

【出擔】出擔トハ一荷ノ商品ヲ仕入レ、之ヲ擔ヒ戸戸ニ就キテ行商スル者ヲ謂フ。(私法)

【出入】法官ガ任意ニ罪人ヲ出シテ無罪人トシ又刑ニ入レテ有罪人トスルノ謂。(律例)

【出付市易】官吏ガ官物ヲ出シテ人ニ交付シ及ビ之ヲ賣買交易セシムルコトヲ謂フ。唐

【出養入道】(養ヲ出デ) 出家ハ實家ヲ出テ他家ノ養子ト爲リタル者。入道ハ度ヲ受ケテ道士、女冠ト爲リタル者ヲ謂フ。(唐律) 卷十七、僧尼(條)

【出禮入刑】(禮ヲ出ヅレ) 刑ハ禮教ノ擁護ヲ以テ目的トス。【書經】舜典、汝爲士。明于五刑。而弼三教。トアルハ是ナリ。故ニ禮ノ範圍ヲ脱出スル行爲ハ刑罰ノ範圍ニ入ル。之ヲ「出禮入刑」ト謂フ。葉良佩撰「刑禮論」乃如ニ聖人之意ニ制ニ其刑一也。正所以輔禮也。是

ト曰ヒ外ヨリ生ズルノ患ト曰フ。【左傳】昭公十二年「且言曰。恤恤乎」

【恤廢局】(廢局) 廢局トハ、唐代以後ハ特ニ專司ヲ設ケテ之ヲ事實ノ上ニ勵行ス。之ヲ「恤廢局」ト稱ス。或ハ地方官民ノ慈善事業ニ委シ政府之ヲ獎勵ス。(文獻通考)

【恤務會】(恤務會) 清制、天津地方ニ於ケル寒苦ノ婦孺ヲ救済スルヲ目的トス。毎月一定ノ口糧ヲ給ス。其費用ハ洋藥稅或ハ又鹽商ノ捐助ニ出ヅ。(門雜記) 尙ホ其外、恤産保嬰局ナルモノアリ。貧民ノ子女ヲ産ミ養育スル力ナキ者ヲ救済スルヲ目的トス。(同上)

【恤禮】(恤禮) 五禮ノ一タル凶禮ノ事項ニシテ寇亂發生ノ場合ニ人民ヲ救済スルノ法ナリ。禮ニ規定セルガ故ニ「恤禮」ト曰フ。【周禮】春官大宗伯、以「恤禮」哀三寇亂。寇トハ敵ノ外ヨリ來ルヲ曰ヒ、亂トハ兵ノ内ヨリ作ルヲ曰フ。

【述作】(創作) 舊ヲ傳フルヲ述ト曰ヒ、始作(ノ義)

【恤恤】(恤恤會)

【恤恤】(恤恤會)

【恤恤】(恤恤會)

【恤恤】(恤恤會)

【恤恤】(恤恤會)

【恤恤】(恤恤會)

【恤恤】(恤恤會)

スルヲ述ト曰フ【論語】述而篇「述而不作。」  
【晉書】南陽王子保傳「少有文義。好述作。後世ハ亦著作ノ義ニ用フ。【李商隱】詩「湯盤孔鼎有述作。」

【述三言】(三言ヲ) (サレノ部「三言」)  
【述職】(述ヲ) (除三惡「見ヨ」)

【述職】諸侯ガ朝廷ニ出テ、其封内ノ治績ヲ奏上スルコトヲ謂フ。【孟子】梁惠王篇「諸侯朝ニ於天子。曰「述職。述職者。述レ所レ職也。」疏「謂レ述「已」之所「守」職。如「春」朝以「圖」天下之事。夏宗以「陳」天下之「讓」。秋親以「比」邦國之功。冬遇以「協」。諸侯之「述」是也。」

【述奏】口頭ヲ以テ直接天子ニ上言スルノ義ナリ。【魏書】劉芳傳「尙書述奏。云云。」

【准】(部首) (軫) (韻)

【准】准ハ準ノ俗字ナルモ制書又ハ律例等ニ於テハ特ニ准字ヲ用フ。(一)「准」此レトアルハ皇帝ガ或ル機關ニ對シテ之ヲ命ズルノ義ナリ。清朝ノ制勅ニハ其終ニ「准」此レノ字樣ヲ用ケルハ是ナリ。(二)「准」律例ニ於テハ我法規ニ於

テ何々ノ條ヲ準用スルノ用語ニ用フ。【明律】又ハ「清律」「准」盜論又ハ「准」賊論ノ類ナリ。(三)許可又ハ贊同ノ義「准」實「准」駁ノ類ナリ。(四)又對等ノ官廳ニ於テハ比照ノ義ニ用ケルヲ例トス。

【准擬】(擬スルコ) 下級審ニ於テ定罪權ナキ事件ニ對シテ犯罪者ノ事實ヲ取調ベ之ニ適用スベキ刑罰ノ擬議ヲ爲スコトヲ許ス。之ヲ「准擬」ト謂フ。(明律卷三、清律卷六吏律)

【准過不給賞】(過ヲ准ジテ) 元制、盜賊ヲ捕ヘタル者ニハ賞ヲ給スルヲ本則トスルモ、過失ニ因リテ盜賊ヲ逐シタル者ガ他種別途ノ盜賊ヲ逮捕シタルトキハ其功過ヲ相殺シテ過失逸捕ノ罪ハ之ハ免ズルモ別途ノ盜賊ヲ逮捕シタル功ハ賞セザルノ義ナリ。【元典章】刑部第十三篇「獲賊准過不給賞」ノ條、略本界失過賊人。却獲別境賊徒。准折除過。其賞不須。給付。云云。(卷五)

【准賞】清制、府州縣學ノ學生即チ生員ニシ

テ從軍シタル者ニ「准」賞生トシテ國士監ニ入學スルコトヲ許ス即チ之ヲ「准」賞ト爲ス。

【准此】(此ヲ) (見ヨ)

【准除折耗】(折耗ヲ) 租穀ヲ徵收スルトキ其正租ノ石數ヨリ定令ニ依リ倉中損耗等ノ額ヲ見積リテ之ヲ扣除スルコトヲ准ス。之ヲ「准除折耗」ト謂フ。【明律】戶律倉庫篇「多收稅糧斛面」ノ條同文ヲ以テ「凡各倉收受稅糧。聽令二納戶親自行。平。斛。交。收。作。數。支。銷。依。令。准。除。折。耗。」(明律卷七)

【准竊盜論】(竊盜ニ准) 竊盜ニ非ザルモ其罪情ガ竊盜ニ類スル者ヲ罰スル法ニ二種アリ一ヲ「以」竊盜ニ論シ「ト」爲シ一ヲ「准」竊盜ニ論シ「ト」爲ス。前者ハ罪情ノ重キ者ニ竊盜罪ヲ適用シ刺ヲ加ヘテ罰シ後者ハ輕キ者ニ准用シ刺ヲ免ズ。【讀律提綱】「竊盜有ニ專條。其本非竊盜。而情節類ニ於竊盜。則按」其輕重。或准論。或以論。以レ重准輕。(中) 律中凡言「准」竊盜ニ論上者

皆免レ刺。言「以」竊盜ニ論上者。皆不「免」刺。然律中言「准」竊盜ニ論上者多。(學海堂叢) 刑第五册)

【准駁】中央ノ主務官廳ニ於テ地方官廳ヨリ送來スル奏請ヲ檢査(之ヲ「檢査」シ、其合例不

合例トヲ定ルコト、准トハ贊同(是)スルコトヲ謂ヒ、駁トハ反對スルコトヲ謂フ。(戶部)

【巡】(部首) (眞) (韻)

【巡按】明制、每省御史ヲ遣ハシテ國情民俗ヲ巡察セシム。之ヲ「巡按御史」ト謂フ。三歲一更トス。清初メ之ニ因ル後廢ス。

【巡按御史】(巡按) (見ヨ)

【巡鹽御史】(巡鹽) (見ヨ)

【巡警】巡警ノ語ハ唐宋時代ヨリ使用セラル

、モ周巡警察ノ義ニシテ官名ニアラズ。清末

巡警部(警)ヲ置キ專ラ警査事務ヲ掌ラシメ

タルモ後之ヲ廢シ其職務ヲ民政部ニ併合シ別

ニ巡警總廳ヲ設ケ各省ハ巡警道ヲ置キタ

リ。亦警察人役ヲ巡警ト稱ス我巡查ニ當ル。

【巡檢司巡檢】元代ハ縣ヲ分チテ上中下三

縣ト爲シ上縣ニハ「巡檢花赤尹丞」(簿尉)各一

人、典史二人、及ビ「印典史」一人、「巡檢司巡

檢」ヲ置キテ其縣治ヲ分掌セシム。(清國行政)

【巡查口岸】清制、關稅ノ徵收又ハ取締ノ

目的ヲ以テ一定ノ地ニ口岸ヲ設ク。其口岸ニ

ハ徵稅口岸ト巡查口岸ト二種アリ。巡查口

岸ハ稅稅其他違法事件ヲ警防査察スルコトヲ

任トス。(戶部則例)

【巡察使】臨時任命ノ官職、諸國ヲ巡視シテ

政治ノ得失、民情ノ善惡ヲ觀察スルコトヲ掌

ル。(秦使) (參照)

【巡狩】(一ニ) 巡守(二ニ) 巡守(天子諸侯國ヲ巡遊シテ

政治ノ得失、國民ノ休戚ヲ觀察スルコトヲ謂

フ。【孟子】梁惠王篇「天子適諸侯。曰「巡狩。狩

者。巡レ所レ守也。」詳シク言ヘバ天子一定ノ時

期ニ獵狩ニ依リテ兵戰ノ演習ヲ爲シ、諸侯

國ヲ巡廻シテ各邦國ノ政治、民情ノ實況ヲ視

察スルコトヲ主トス。

【巡緝】巡緝シテ犯罪者ヲ緝捕スルコト、巡

警ノ任ナリ。(清會典)

【巡卡】清制、客商ノ釐金稅運ヲ防ク爲メニ

地方分局ノ外、臨時ニ番所ヲ置ク之ヲ「巡卡」

ト曰フ。(皇朝政典類纂)

【巡漕御史】明制、鹽場ヲ監督スル者ヲ「巡鹽

御史」ト稱シ漕運ノ事ヲ監督スル者ヲ「巡漕御

史」ト稱ス。蓋シ此制ハ明ニ因ル。(清國行政)

【巡道】明代ハ一省ヲ分チテ數道ト爲シ按察

副使、按察使事ヲシテ之ヲ分掌セシメ之ヲ

「按察分司」ト曰ヒ分司ニ分道、兵巡道、

兵備道等ノ名稱アリ。清ハ副使使事等ノ官ヲ

廢シ簡シテ巡道ト稱シ始メテ道ヲ以テ官名ト

爲ス。民國初メ「觀察使」ト稱シ後之ヲ廢ス。

【巡牌】「夜巡銅牌」ノ略語、夜警番ノ所持ス

ル銅製ノ札ヲ謂フ。(明律卷三「雜毀

巡撫」) 明以前ハ地方官ガ國內ヲ巡廻シテ按

撫スルノ義ナリシガ明初メ軍事アリ京官ヲシ

テ地方ヲ巡撫セシム。其後各省事ニ因リテ增

員シ遂ニ定員ト爲ル。清之ニ因リテ外省行政長官ト爲シ本ト兵部侍郎及ビ副都御史ヲ以テ之ヲ兼シメタルガ宣統ニ及ビテ廢ス。

**【巡捕】** (一) 清制、北京ニ巡捕署アリ京師ヲ徵巡シテ奸宄ヲ詰禁シ、道路ヲ平易ニシ、警嚴ヲ肅清スル等ノコトヲ掌ル。(二) 清代ニハ總督巡撫皆其下ニ巡捕官アリ傳宣及ビ讓諭ノ事ヲ掌ル。文事ヲ掌ルヲ「文巡捕」ト曰ヒ軍事ヲ掌ルヲ「武巡捕」ト曰フ。(三) 通商地又ハ外國人租借地界ノ幕備ニ係ル警察官亦之ヲ「巡捕」ト稱ス。

**【巡捕營】** 清制、京城ノ四圍廟及ビ圓明園ニ設置セル綠營ノ管轄ニ屬スル兵營ヲ謂フ。

**【會典】** (兵部)

**【徇】** (殉ト) (部首) (韻眞)

**【徇隱】** 上官ガ下僚ノ不正行爲ヲ隱庇スルコトヲ謂フ。(明清律) (吏律篇)

**【徇節】** 節義ヲ固守シテ死ニ至ルマテモ其志

ヲ變ゼザルノ義ナリ。『魏文帝文』「願レ身徇レ節。前代美レ之。」

**【徇地】** 略地ト云フガ如ク其地ヲ巡行シテ之ヲ己ノ所有ト爲スコトヲ謂フ。『史記』陳涉世家「諸將之徇地者。不可二勝數。」

**【徇通】** 周到(周ネク行)ト云フガ如シ。『晏子』思慮徇通。トアルハ其一例ナリ。

**【徇難】** 身ヲ以テ國難ニ投ズルコトヲ謂フ。『南史』齊太祖紀「公投袂徇難。趙然奮發。」トアルハ其一例、徇一ニ「殉」ト作ル。時亦國難ニ殉死スルノ義ニモ用フ。

**【循】** (部首) (韻眞)

**【循階】** 資格ニ由リテ秩ヲ進ムルコトヲ謂フ(南史伏) (南史)

**【循環冊】** 清制、逐日ノ納稅、收稅、紅單稅(收稅證書)及ビ其商賈ノ姓名ヲ記入スル帳簿(ノ手賬料)ニシテ、一ニ亦「循環簿」ト稱ス。(戶部) (則例) 循環ハ終リテ又始ムル義ニ取ル。

**【循資】** 官吏ノ銜選ニ應ズル資格、一定ノ順

序又ハ平生ノ功績ニ依リテ官ヲ選スコトヲ謂フ。『大學衍義補』「其七。階選人。則考第次序。無二過失。或有二勞績一者選遷。謂之循資。」(卷十)

**【循資格】** 唐ノ開元十八年裴光庭吏部尚書ト爲ルヤ始メテ「循資格」ヲ作り一定ノ資格アル者ハ賢愚ヲ問ハズ一槩ニ銜授シ一定ノ年限ニ達スレバ陞級スルヲ法トシタリ。(大學衍義) (補卷十)

**【循吏】** 循良ノ官吏ヲ謂フ。『史記』「循吏傳」アリ。

**【春】** (部首) (韻眞)

**【春開】** 明清時代ノ會試(舉人ニ行フ試)ハ三月ヲ期シ京師ニ於テ舉行スルヲ例トス。故ニ之ヲ「春開」ト稱ス。

**【春宴】** 宋代始メテ春秋二季ニ大宴ヲ催シテ群臣ヲ慰勞ス。但シ初メハ春宴ノミナリシガ後ニ春秋二季ニ催スコト、爲ス。『事物紀原』「太平興國三年三月。大宴大明殿。春宴自茲始也。乾明節在二十月。故太宗朝止設春宴。」成

平三年九月。大宴含光殿。眞宗朝聖節外始備。設春秋二宴。自此爲定制。(一)

**【春祈秋報】** 春祈ハ春行フ祈年祭、秋報ハ秋行フ新嘗祭ナリ。『詩序』「載芣。春藉田而祈。社稷也。良相。秋報。社稷也。」「白虎通」社稷歲再祭之何。春祈秋報之義也。云云。

**【春牛】** 春ヲ迎フルノ禮、[東東夢華錄]「立春前一日。開封府進春牛二入禁中。鞭春。開封祥符兩縣。置春牛於府前。至日絕早。府僚打春如三方州儀。」蓋シ「禮記」月令篇「出土牛以示農耕早晚。」トアルノ遺志ナリ。

**【春牛花鞭費】** 清制、地方官ノ新春ヲ迎フル禮典ニ關スル費用ヲ謂フ。其春牛花鞭ト云フハ地方官豫メ荒神土牛ヲ製シ、立春ノ日長官屬僚儒師耆老ヲ率キ春ヲ東郊ニ迎ヘテ花鞭ヲ以テ土牛ヲ打ち、耕作ノ狀ヲ爲スガ故ナリト云フ。

**【春官】** 『周禮』六官ノ一、宗伯ヲ以テ春官ト爲ス。邦禮ヲ掌リ神ニ事フルコトヲ任トス。

其長官ヲ大宗伯ト曰ヒ次官ヲ小宗伯ト曰フ。其後南北時代ノ周之ヲ稱シタルモ後全ク廢ス。惟ダ唐代等春官ト稱スルハ其舊制ヲ虛稱スルノミ。清代ハ春ヲ迎フルノ日、人ヲ以テ春官ニ扮シ春牛ヲ鞭タシムルノ式アリキ。

**【春關】** 宋代春試即チ進士試驗ノ成績ハ正勅ノ下ルヲ俟チテ南曹都省御史臺ニ報告シ然ル後ニ貢院之ヲ寫シテ受驗者ニ散給ス。之ヲ「春關」ト稱セリ。

**【春帖子】** 宋代翰林ニ於テ春詞ヲ書シ立春ノ日ヲ以テ帖ヲ剪リテ禁中ニ張ル。之ヲ「春端帖子」ト稱ス。即チ聯ノ一種ナリ。(官箴要要、晉) (論傳)

**【春汛】** (秋汛) (秋汛) (秋汛)

**【春坊】** (一) 魏晉以來皇太子ノ宮殿又ハ皇太子ヲ「春坊」ト稱ス。(二) 唐詹事府ヲ置キ以テ尚書省ニ比シ左右春坊ヲ置キ以テ門下、中書兩省ニ比ス。爾後清代ニ及ブ。清末之ヲ廢ス。

**【春勝】** 春試ノ成績ヲ發表スル揭札ナリ。

(宋史選) (舉志)

**【春聯】** 除夕(大晦日)吉祥ノ聯句ヲ書シテ之ヲ門上ニ帖ス。之ヲ「春聯」ト謂フ。即チ門聯ナリ。(響雲樓)

**【殉】** (部首) (韻眞)

**【殉子貨色】** (貨色ニ) 殉ハ下ノ各項ニ解スル如ク事ニ依リテ其義ヲ同ウセザルモ專ラ其心ト身トヲ其事ニ抛ツノ義ト解スレバ可ナリ。本條ノ場合ハ即チ貨財ト色慾トニ其心ト身ヲ抛ツノ義ニ取ルベシ。『書經』伊訓篇「殉子貨色」トアルハ是ナリ。

**【殉國】** 殉ハ身ヲ以テ犧牲ニ供スルノ義、即チ國家ノ難ニ身ヲ獻シテ死スルヲ「殉國」ト曰フ。『漢書』李陵傳「當奮不顧身。以殉死國家之急。」師古ノ註「營也。求也。」トアルモ寧ロ「殉利」ト名ノ解ニ用キルベシ。

**【殉葬】** 君上ノ死ニ殉死スルノ義ナリ。古禮ハ輿車(土ニテ作)又ハ芻靈ニ(芻ニテ作)ノ類ヲ用キタリシガ後ニ僂ヲ用キタルコトアリ

【禮記】檀弓篇「孔子謂爲三節者善。爲レ節者不仁。又、人ヲ以テ殉死セシメタル例アリ。左傳」文公六年「秦伯子好任卒。以子車氏之三子爲レ殉。國人哀之。」

【殉難】殉國ニ同ジ。(殉見ヨ)

【殉名】殉ハ營ム又ハ求ムルノ義(殉國、註參)即チ名ヲ求ムルヲ「殉名」ト曰ヒ利ヲ求ム

ヲ「殉利」ト曰フ。「莊子」駢拇篇「小人則以レ身殉利。士則以レ身殉名。天下盡殉也。彼所レ殉仁義也。則俗謂之君子。所レ殉貨財也。則謂之小人。」

【殉利】(殉見ヨ)

【淳】(部首) (眞韻)

【淳熬】珍肴ノ名。醢ヲ煎テ膏ヲ沃ギ製シタルモノ。【禮記】内則「煎醢加ニ於陸稻上。沃之。以レ膏曰「淳熬」。註「淳。沃也。熬。亦煎也。沃煎成之。」

【淳熙閣法帖】宋孝宗帝ノ淳熙十二年詔シテ御府藏ムル所ノ淳化舊帖ヲ禁中ニ重刻セシメタルモノナリ。其規模ハ淳化閣法帖ト略ホ

同一ナリ。之ヲ「淳熙閣法帖」ト謂フ。又南渡後得ル所ノ晋唐遺墨ヲ摹刻ス。之ヲ「淳熙閣續帖」ト謂フ。(淳化閣法帖)

【淳化閣法帖】開ハ宋ノ淳化(太宗ノ)年間ニ作ル。故ニ「淳化閣」ト曰フ。古來諸名家ノ墨跡ヲ選ビテ其中ニ藏ス。侍書王著ニ詔シテ以上ノ墨跡及ビ南唐ノ建築帖ヲ以テ禁中ニ撰刻シテ十卷ト爲シ之ヲ「淳化閣法帖」ト謂フ。清、乾隆ノ時、敏中等ニ命ジテ鈔摹セシメテ重刻ス。(帖源流考)

【淳母】醢ヲ煎テ黍食ノ上ニ加ヘ之ニ沃タニ膏ヲ以テスルモノ、淳熬ニ象ル。【禮記】内則「煎醢加ニ於黍食之上。沃之。以レ膏曰「淳母」。註「母讀曰模。模象也。作レ此象ニ淳熬。」

【淳鹵地】濱邊ノ鹽害多キ荒地、淳ハ鹹(シハユ)ノ義ナリ。【左傳】襄公二十五年「度(山)林。鳩(穀)澤。辨(京)陵。表(淳)鹵。註「淳鹵地薄。收種常小。故表之。輕ニ其賦稅。」(註及ビ大學衍義補卷)

各準二分法ニ留置。尙ホ老疾ノ爲メニ縁坐ヲ免カルル者ハ各子孫一人ノ取得スル分法ニ依リテ留置セラル。之ヲ「準一子分法」ト謂フ。前記規定ノ脚註ニ「老疾得レ免者、各準一子分法。」(七)

【淳】(部首) (眞韻)

【淳灘墊沙】河底ノ淤泥ヲ掃除スルコトヲ謂フ。【六部成語註解】「河底爲ニ淤沙。墊平抗澇。而灘除之也。」

【淳柳船】柳ヲ以テ造リタル船、河底淤泥ノ用ニ供ス。【六部成語註解】「柳木所造之船。澇河時用之也。」

【淳】(部首) (眞韻)

【淳】(部首) (眞韻)

【淳】(部首) (眞韻)

【淳】(部首) (眞韻)

【淳】(部首) (眞韻)

【淳】(部首) (眞韻)

【淳】(部首) (眞韻)

【淳】(部首) (眞韻)

【淳】(部首) (眞韻)

【淳】(部首) (眞韻)

【淳】(部首) (眞韻)

【淳】(部首) (眞韻)

【淳】(部首) (眞韻)

【淳】(部首) (眞韻)

【淳】(部首) (眞韻)

【淳】(部首) (眞韻)

【淳】(部首) (眞韻)

【淳】(部首) (眞韻)

【淳】(部首) (眞韻)

【淳】(部首) (眞韻)

【淳】(部首) (眞韻)

【淳】(部首) (眞韻)

【淳】(部首) (眞韻)

【淳】(部首) (眞韻)

【淳】(部首) (眞韻)

【淳】(部首) (眞韻)

【淳】(部首) (眞韻)

【淳】(部首) (眞韻)

【淳】(部首) (眞韻)

【淳】(部首) (眞韻)

【淳】(部首) (眞韻)

【淳】(部首) (眞韻)

【淳】(部首) (眞韻)

【淳】(部首) (眞韻)

【淳】(部首) (眞韻)

【準】(部首) (軫韻)

【準一子分法】(一子分法)「準分法留置」(還)「準見ヨ」

【準罪人原減法】(罪人原減)犯人自首若クハ國家ノ恩典ニ由リテ其罪ヲ原減セラルルトキハ一般罪人ノ全原減等ノ法ヲ準用ス、之ヲ「準罪人原減法」ト謂フ。(唐律卷五名例篇)

【準繩】平ヲ測ルノ器(邦語「ミ」)ヲ準ト爲シ、直ヲ爲スノ器ヲ繩ト爲ス。事物ノ標準ヲ意義ス。(孟子)萬章篇「繼レ之以ニ規準繩。爲ニ方員平直。」

【準人】周代、法ヲ守ルノ有司即チ法官ヲ謂フ。(政體立)

【準析決放】徒罪犯ニシテ服刑限内ニ其家ノ男子死亡シ策丁ナキニ至リタルトキハ初ヨリ家ニ兼丁(二人以上)ナキノ例ニ準ジ徒刑ヲ杖罪ニ換算シ、杖ヲ決行シテ放免スルコトヲ謂フ。【唐律】名例篇「徒應役無策丁」ノ條、若徒

扱フノ義ナリ。(齊會典)

【遵養時晦】【詩經】周頌「於饗王師。遵養時晦」。鄭玄ハ「時昧ノ君ヲ養ヒテ其惡ヲ老(助)ケシムル」ノ義ト爲シ。(鄭)朱子ハ「身ヲ退キテ自ら稽省シ時ト皆晦マヌ」ノ義ト爲ス(集傳)今人ハ隱棲シテ時ヲ待ツノ語ニ用フ。蓋シ朱子ノ註ニ取ルナリ。

【閔位】(閔見ヨ)

【閔位】正統ノ天子ニ非ズシテ其位ニ在ルヲ謂フ。【漢書】王莽傳「紫色繩屨。餘分閔位。」

【閔耗銀】閔年ニ出會シタルトキハ、行政上ノ經費一箇月分ヲ增加スルガ故ニ、租稅徵收ノトキ若干ノ稅額ヲ附加シテ徵收スルコトヲ謂フ。(清戶部則例)

【順儀】(順見ヨ)

【順儀】女官ノ名、九嬪ノ一、隋代ニ始マル。【事物紀原】「隋内官有ニ順儀。北史后妃傳曰。隋煬代參三詳典故。置ニ順儀。爲ニ九嬪云云。」(卷一)

【準】(部首) (軫韻)

【準】(部首) (軫韻)

【準】(部首) (軫韻)

【準】(部首) (軫韻)

【準】(部首) (軫韻)

【準】(部首) (軫韻)

【準】(部首) (軫韻)

【準】(部首) (軫韻)

【準】(部首) (軫韻)

【準】(部首) (軫韻)

【準】(部首) (軫韻)

【準】(部首) (軫韻)

【準】(部首) (軫韻)

【準】(部首) (軫韻)

【準】(部首) (軫韻)

【準】(部首) (軫韻)

【準】(部首) (軫韻)

【準】(部首) (軫韻)

【準】(部首) (軫韻)

【準】(部首) (軫韻)

【準】(部首) (軫韻)

【準】(部首) (軫韻)

【準】(部首) (軫韻)

【準】(部首) (軫韻)

【準】(部首) (軫韻)

【準】(部首) (軫韻)

【準】(部首) (軫韻)

【準】(部首) (軫韻)

【準】(部首) (軫韻)

【準】(部首) (軫韻)

【準】(部首) (軫韻)

【準】(部首) (軫韻)

【準】(部首) (軫韻)

【準】(部首) (軫韻)

【準】(部首) (軫韻)

【準】(部首) (軫韻)

【準】(部首) (軫韻)

【準】(部首) (軫韻)

【準】(部首) (軫韻)

【準】(部首) (軫韻)

【順祝】(リ)ノ部(六) (祝)ヲ見ヨ

【順職】職務ノ當ニ盡スベキヲ盡スノ義ナリ。【禮記】大夫曰。吾聞爲人臣者。盡忠以順。職云云。

【順容】女官ノ名。九嬪ノ一。隋代ニ始マル。【事物紀原】隋九嬪有順容。北史曰。煬帝置。宋朝會要。眞宗祥符中。又增置順容之官。

【序】(部首) (語) (一) 卷

【序】(部首) (語) (一) 卷 夏后氏(即禹)ノ學校ノ名。東序西序ニ分チ。東序ハ大學ニシテ國中王宮ノ東ニ在リ。西序ハ小學ニシテ西郊ニ在リ。(ト)ノ部(見)

【序庠】一ニ「庠序」ニ作ル。地方郷里ニ設置スル學校ノ名ナリ。【漢書】庠序置ニ孝經師一人云云。

【序班】明代創設ノ官。鴻臚寺ニ屬ス。侍班。齊班。糾儀及ビ傳贊等ノ儀式ヲ掌ル。清之ニ因ル。古代九嬪ノ職ナリト云フ。

【庶】(部首) (語) (一) 卷

【庶尹】庶ハ衆。尹ハ長ナリ。百官ノ正長ヲ謂フ。一ニ「庶正」ニ作ル。【書經】庶尹永諧

【庶吉士】官名。明ノ太祖ガ【書經】周書篇。庶常吉士ノ義ニ探リテ。庶吉士ヲ置ク。六科及ビ中書皆之アリ。永樂中始メテ翰林院ニ專屬シ進士文學優等及ビ書ヲ善クスル者ヲ以テ之ニ任ズ。清之ニ因リテ。庶常館ヲ置キ翰林官ヲシテ教習トシ三年修業セシメタル後。試験ヲ經テ職ヲ授ク。之ヲ「散館」ト謂フ。

【庶吉士散館】(前條ヲ) (見) 庶出ノ子即チ妾婢等ノ生ミタル子ヲ謂フ。(史記商) (秩傳)

【庶獄庶慎】庶獄ハ諸ノ獄訟。庶慎ハ國ノ禁戒及ビ儲備ニ關スルコトヲ謂フ。【書經】立政篇「和」我庶獄庶慎。時則勿有間之。蔡沈註「庶獄。獄訟也。庶慎。國之禁戒儲備也。」

【所監臨女】(監臨スル) 監臨官(任ニ一地テ其管内ノコト) ヨリ其管内ノ女子ヲ指スノヲ監督スル官吏(見) 語。【唐律】以來監臨官ハ己レノ管内ノ女子ヲ娶リテ妻妾ト爲スコトヲ得ズ。是レ其權威ヲ濫用シテ強娶スルノ弊ヲ防グ爲メナリ。

【所後之親】養子ヨリ養父ヲ指シテ「所後之親」ト曰フ。【清律】戶律戶役篇。立嫡子違法ノ條例。若義男女婿。爲所後之親。喜悅者。聽其相爲依倚。(七) 但シ此語ハ【儀禮】ヨリ出ヅ。

【所後父母】人後ト爲ル者即チ養子ヨリ養父母ヲ指スノ語ナリ。(明清律) (服圖)

【所親】旁系親ヲ謂フ。【唐律】名例篇。以理去官。條ノ疏議。所親。謂旁親非ニ祖父母父母及子孫。(二) (見)

【所】(部首) (語) (一) 卷 清制。郵便局ノ一種。清初ハ之ヲ以テ

【庶子】左傳ノ註「庶子。妾子也」。トアルガ如ク。妾出ノ子ヲ指スノ語ナリ。故ニ庶子ト云フハ其母ガ父ノ妾タル身分ヲ有スルコトヲ要ス。婢出ノ子ハ之ヲ庶子ト稱セズ。「婢生子」ト稱シ。俗ニ云フ野合ノ子ナルトキハ之ヲ「姦生子」ト稱ス。又。官名。東宮職ナリ。(禮記) (燕義)

【庶常】【書經】周書篇。庶常吉士アリ。常事ヲ理ムルノ善士ト云フノ意。明之ニ本ヅキテヲ置ク(庶吉士) (ヲ見)

【庶常館】庶吉士ヲ教養スル學館ナリ。(庶吉士) (ヲ見)

【庶績咸熙】(考績)ヲ見ヨ

【庶祖母】祖父ノ妾ニシテ子女アル者ヲ指稱ス。(八母ヲ見) 俗間ニ於テハ子女ノ有無ニ拘ハラズ祖父ノ妾ハ「庶祖母」ト稱ス。

【庶孫】嫡孫ニ對シテ妾出ノ孫ヲ謂フ。(禮儀) (庶孫) (見)

【庶士交正】(庶士交) 庶士トハ諸ノ土地ニシテ特ニ殷士ノミニアラズ。山林。川澤。丘

【鈇】(一) 官職ヲ授クルコト。【書經】直以

【鈇】(部首) (語) (一) 卷 尺履ノ義。舜代ニ始マリ春秋時代ニ行ハル。漢始メテ「尺履」ト曰フ。後世ハ「一」書尺トモ曰フ。【事物紀原】舜曰。書以識歲。春秋子家母ニ宣孟一以書。漢曰。尺履。陳遵所善是也。故今日書尺。名雖見ニ於有虞。而實始ニ於春秋。(二) 例セバ叔向ガ子產ニ送リタル書ノ如キ亦是ナリ。

【書院】支那ニ於ケル學校ノ一種。唐代ニ始マ

【書院】支那ニ於ケル學校ノ一種。唐代ニ始マ

【書院】支那ニ於ケル學校ノ一種。唐代ニ始マ

【書院】支那ニ於ケル學校ノ一種。唐代ニ始マ

【書院】支那ニ於ケル學校ノ一種。唐代ニ始マ

文學之士。爾後宋代ニ榮ヘ、元明ヲ經テ清ニ及ビテ隆盛ヲ極ム。後世ノ書院ハ地方ノ大官又ハ在郷ノ紳士等ノ設立ニ係リ官ヨリ之ヲ補助スルヲ通例トス。(清學政)

【書會】 書籍ノ問屋ヲ謂フ。(尙書)

【書會】 文書ヲ發シテ照會スルコトヲ謂フ。【六部成語註解】「發」書知會也。

【書契】 文字ノ未ダ無キ時代ハ國民繩ヲ結ビテ契約ノ證ト爲シタルガ(現ニ臺灣生蕃ニハ今ニ結繩ノ俗行ハル)。(ケレノ部)結 伏羲氏ノ時文字ヲ造リテ契約ノ用ト爲ス。故ニ之ヲ「書契」ト謂フ。【事物紀原】「尙書序曰。古者伏羲氏之王天下也。始畫八卦。造書契。以代結繩之政。帝王世紀曰。伏羲氏仰觀象於天。俯察理於地。觀鳥獸之文與地宜。近取諸身。遠取諸物。於是造書契。」(三)

【書寫過名】 (過名ヲ) 犯罪者ノ罪名ヲ其門首ニ書キ附ケテ之ヲ戒ムルコトヲ謂フ。(明律)

史律職制篇(漢)

【書社】 古制ハ二十五家ヲ以テ里ト爲シ每里各一社ヲ立テ其社中ノ人名ヲ籍ニ書スヲ法トセリ之ヲ「書社」ト曰フ。【史記】孔子世家。楚昭王將以書社地七百里封孔子。(參照)

【書社三百】 社ハ部落ノ名、二十五家ヲ社ト爲ス。社ノ戶數ヲ戶籍簿ニ書シタルヲ書社ト爲シ。三百ハ社數ナリ。故ニ「書社三百」ト曰フ。【增補四書人物考】周禮二十五家爲一社。書社。謂以三社之戶口書于版圖。者凡三百社。荀子仲父篇。齊桓公見管仲之能。足以批國也。是天下之大智也。遂立以爲仲父。是天下之大決也。立爲仲父。而貴成莫之敢妬也。與高國之位。而本朝之臣。莫之敢惡也。高氏國氏與之書社三百。而富人莫之敢距也。距。敵也。(六)

【書丹】 墓誌、碑文、碑銘等ヲ書スコトヲ謂フ。後漢靈帝ノ時詔シテ六經ノ文字ヲ訂正セ

シムルニ方リ、蔡邕自ラ碑ニ丹書シエラシテ鑄刻セシメタルニ起因ス。

【書籠】 書物ノ箱ノコト、即チ博覽ニシテ而モ用ナルナキ人物ニ喻フ。【唐書】「真港貫古今。不能屬詞。人誠爲書籠。」

【茹】 (部)首 (魚)類

【茹船寫漏】 (船ヲ茹ギ) 茹船トハ船體ヲ補塞スルコトヲ曰ヒ寫漏トハ漏水ヲ瀉去スルコトヲ曰フ。【唐律】「茹船寫漏。謂寫去漏水。茹船。謂寫去漏水。茹船。謂寫去漏水。」

【茹】 (部)首 (魚)類

【茹毛飲血】 (茹毛) 茹ハ食フノ義、上古飲食ノ道未ダ備ハラザル時代ハ禽獸ヲ獵取シテ其毛肉ヲ食ヒ其膏血ヲ飲ミテ生活シタリ。略シテ「茹毛飲血」ト謂フ。【禮記】「禮運篇。茹毛飲血。又、未レ有二火化。食草木之實。」

【茹】 (部)首 (魚)類

【茹】 (部)首 (魚)類

【茹】 (部)首 (魚)類

【茹】 (部)首 (魚)類

【紆】 緩又ハ解ノ義、「紆難」、「紆禍」ハ皆解ノ義ニ用ケラレタルノ例、難ヲ解ク、禍ヲ解クノ義ナリ。【左傳】僖公二十一年「紆禍也。」同書文公六年「難必紆。」

【紆民力】 (民力ヲ) 民力休養ノ一方法、即チ納稅者ノ便益ヲ計リ、其好時期ヲ以テ税金ヲ徵收シ、民力ニ餘裕アラシムル義ナリ。【乾隆會典】戶部「凡州縣催科。以二分限之法。紆民力。」云云。

【署】 (部)首 (御)類

【署正】 官名、清制ニ光祿寺署正アリ、秩六品トス。(會典)

【署名】 新法ノ用語、官廳發スル所ノ命令、該官廳ノ重官必ズ其上ニ名ヲ署シテ責任ヲ明ニス。【公同署名】「單獨署名」トノ二種アリ。我國ノ法例ニ依リモノナリ。

【署理】 或ル官廳ノ官吏ガ死亡免官出差等ノ爲メニ、其官職ニ缺亡ヲ生ジタルトキ、他ノ官吏ヲシテ其事務ヲ兼掌セシムルコトヲ謂

フ。【嘉慶會典】吏部「有署理。以權其乏。」辭源「凡本任官。離去本缺。而以他官署理。其事者。謂之署理。」

【胥】 (部)首 (魚)類

【胥師】 周禮地官ノ屬、市場ニ於ケル群胥ノ長ニシテ市場貨物ノ價ヲ平ニシ擅ニ高下ヲ爲シテ暴利ヲ貪ル者ヲ取締マルコトヲ掌ル。(周禮地官)

【胥鈔】 庶吏(下級)ハ本ト文件ヲ鈔寫スルコトヲ掌ル。故ニ之ヲ「胥鈔」ト謂フ。【宋史】張

允傳「胥吏有鈔錄之勞。官吏無商略之暇。」

【胥靡】 刑徒即チ囚徒ノ稱【史記】「殷紀」殷爲

胥靡。云云。說ハ即チ傳説ナリ。

【芻】 (部)首 (魚)類

【芻】 芻ハ芻ノ正字【唐韻】側愚ノ反即チ音(ス)ト爲シ、【正韻】楚徂ノ切音初「ショ」ト爲ス。音通ハ正韻ニ從フ。故ニ「シ」ノ部ニ出ス。芻ハ

【說文】ニハ「刈草也」ト曰ヒ、【詩經】「疏」ニハ

「牛馬ヲ芻フノ草」ト曰ヒ、【禮記】月令篇ノ注ニハ「牛羊也」ト解ス。

【芻狗】 羣ヲ結ビテ作タル狗、祭ニ用キ祭終レバ棄ツ。故ニ用アラバ用キ、用ナケレバ棄ツルニ喻フ。【老子】「聖人不仁。以百姓爲芻狗。」

【芻豢】 豕ハ犧牲ト云フニ同ジク、芻ハ草ヲ食スル畜類、牛羊ヲ指シ、豢ハ穀物ヲ食スル畜類、犬豕ヲ指ス。【孟子】「告子爲理義之悅。我

心。猶芻豢之悅。我口。」【大戴禮】「宗廟曰。新

豢。韓氏外傳」園子養始見ニ於夫子。有二菜

色。後有二芻豢之色。」

【芻蕘】 一ニ「芻蕘」ニ作ル。(芻ハ芻) 芻ハ牛

馬ヲ芻フノ草、蕘ハ火ヲ燃スノ草、即チ草薪ナリ。故ニ草ヲ刈リ薪ヲ拾フコトヲ芻トスル

賤者(樵夫)ノ稱ト爲ス。(詩經大雅及

【芻尼】 一ニ「芻芻」ト曰フ。楚語、僧侶ノ代名

詞ト爲ス。(詩經周) 又「芻芻」稱ス。(傳燈)

【芻米】 馬ヲ芻フ草ト米トナリ。【左傳】「僖公

二十九年「公在會。饋芻米。禮也。」  
【芻蕘】 牛馬ヲ飼フニ用キル草(即チヤ)ナリ。周書「王思政傳」魯田農。積芻蕘云云。

【芻蕘】 古ハ葬式ノ時草ヲ束ネテ人ヲ作リ以テ死者ノ從衛ト爲シ之ヲ「芻蕘」ト謂フ。後ニ之ニ代フルニ「備」ヲ以テスルニ至ル。事ハ【孟子】梁惠王篇ノ註ニ詳ナリ。(イノ部)

【芻蕘】 備(部首) (語) 備(部首) (語) 備(部首) (語)

【處決】 (一) 處理決定ノ義ナリ。【唐書】李輔國傳「中外事聽老奴處決。」(二) 裁判確定シテ罪人ヲ刑殺スルコトヲ處決ト曰フ。(新法) 又、(三) 責任ヲ自覺シテ自殺スルコトヲ「自處決」ト曰フ。

【處士】 (一) 仕官セザルノ士ヲ「處士」ト曰フ。【孟子】「諸侯放志。處士橫議。」(二) 人君、大方偉人ヲ優遇スルニ「處士」ノ名ヲ以テシ、賓ヲ以テ遇シ臣ヲ以テ遇セザルノ稱ト爲ス。【事物紀原】「史記。伊尹於湯致於王道。曰。伊尹處士。湯迎之。五反。然後往。此名處士之始也。」

【諸侯】 封建ノ制ハ堯舜以前ヨリ始マル。堯帝ノ時已ニ諸侯アリト曰フ。【事實紀原】「帝王世紀曰。女媧未レ有レ諸侯。有レ共工氏。任レ智刑。以レ強霸。而不レ王。炎帝世。乃有レ諸侯風沙氏。炎帝修德。風沙之民。自攻其君。則建諸侯分レ工。自炎帝始也。」(卷四) 周武王商ニ克ツヤ兄弟及ビ宗族功臣ヲ封ジテ諸侯ト爲ス。其順序ハ(一) 公侯百里(二) 伯七十里(三) 子、男五十里(四) 五十里ニ滿タザルヲ附庸トス。【史記】周紀「武王克商。光レ有天下。兄弟之國者。

也。宋朝有レ冲晦處士。李退天在レ慶曆皇祐之間也。林甫兩朝實調曰。康定中賜ニ興化徐復。號ニ冲晦處士。終南高隱號ニ安素處士。」(卷三)

【處分】 (一) 罪惡ノ有無ヲ分別スルコト【晉書】杜預傳「處分既定。乃啓請ニ伐吳之期。」(二) 清制。官吏ニ法令違犯ノ行爲アルトキ、之ニ加フルニ懲戒ヲ以テス。之ヲ「處分」ト謂フ。(吏部處)

【諸侯】 (部首) (魚) 諸(部首) (魚) 諸(部首) (魚)

所レ除外。死失及課不充者。一牧長及牧子管三十。三加一等。過杖一百。十加一等。罪止徒三年。羊減三等。(卷十) (三) 廣ク責任免除ノ義ニ用キルコト彼我同ジ。又、(四) 諸侯會盟ヲ爲ストキ新タニ地ヲ除治シテ壇ヲ作ルヲ除ト爲ス。【左傳】昭公十三年。令諸侯日中造子除。註「除。地爲壇。盟會處。」

【除】 (一) 新ニ官ヲ拜スルコト【前漢書】「拜官曰除。」元來除ニハ去ル又ハ易フルノ義アリ。故ニ故官ヲ除去シテ新官ヲ補任スルヲ除ト曰フ。後世科擧ノ制備ハルヤ一定ノ資格ヲ有スル者ニ始メテ官ヲ授クルヲ「除」ト爲ス。例セバ殿試及第者ノ第一甲第一名即チ狀元ニ翰林院修撰ヲ授クルトキニ「除」ト曰フガ如キノ類ナリ。尙ホ詳シク曰ヘバ、吏律ト廢收律トニ依リテ其義ヲ異ニス。吏律ニ在リテハ前記ノ如ク初メテ官ニ任ズルヲ除ト曰フモ(二) 廢收律ニ於テハ牧畜百頭内ヨリ一定ノ數ヲ除去シテ其課稅ヲ免ズルコトヲ「除」ト曰フ。【唐律】厩庫篇「牧畜產課不充」ノ條「諸牧畜產準

【除去參夷連坐之法】 (參夷連坐ノ) 三族ヲ夷シ家族ヲ連坐スルハ秦始皇以前ノ法、漢高祖蕭何ヲシテ律令ヲ制定セシムルニ當リテ之ヲ除去ス。【漢書】高帝紀「以三章之法。不レ足ニ以禦姦。遂令蕭何續ニ抵秦法。定。律令。除參夷連坐之法。」

【除收格諸相坐律令】 (收格諸相坐ノ) 秦ノ法ハ一人罪ヲ犯ストキハ並ニ其家族ヲ罪シタルガ漢文帝ノ時其苛法ヲ删除ス。【漢書】文帝紀「今犯法者已論。已使無罪之父母妻子同產坐之。及爲收格。朕甚弗取。其議除收格諸相坐律令。」

【除】 (部首) (魚) 除(部首) (魚) 除(部首) (魚)

十有五人。姬姓之國者四十八。爵五品而土三等。公侯百里。伯七十里。子男五十里。不滿爲附庸。蓋千八百國。春秋之世。見於經傳者。總一百二十四國。蠻夷戎狄。不レ在其間。」

【諸色課程】 一種ヲ一色ト曰フ。諸色ハ諸種ト曰フニ同シ。課程ハ物ノ貴賤ニ依リテ定メタル稅料ナリ。即チ諸種ノ物ニ對スル稅錢ヲ「諸色課程」ト曰フ。【明律】戶律倉庫篇「錢法」ノ條「凡諸人將賣鈔。赴倉場庫務。折納諸色課程。」(七)

【諸王】 王ハ元ト天子ノ特稱タリシガ、周大權ノ實ヲ失フヤ、春秋ノ代ト爲リ吳侯及ビ楚侯始メテ僭シテ王ト稱ス。秦始皇ノ時天子ハ皇帝ト號シ王ノ名ヲ除ク。漢楚ヲ滅シテ之ヲ諸侯王ト謂フ。以後一様ナラズ。【事物紀原】古者天子稱レ王。周失其道。春秋之時。吳楚之君始僭稱之。楚世家曰。周夷王時。楚熊渠曰。我蠻夷也。乃立二長子康。爲二句亶王。紅爲二鄂王。執統爲二越章王。厲王暴虐復去之。至二於熊

【除授日】 官吏ヲ任命スル日ヲ曰フ。在京官ハ此日ヨリ赴任ノ義務ヲ生ジ、在外官ハ赴任證明書ヲ領受シタル日ヨリ赴任ノ義務ヲ生ズ。【明律】吏律職制篇「官員赴任過限」ノ條、凡已除官員。在京者以三除授日爲レ始。在外者以領照會日爲レ始。各依已定程限赴任。若無レ故過限者一日笞一十。每二十日一加一等。云云。」(卷二) 【清律】ハ全然之ヲ襲用スルモ「照會」ヲ改メテ「文憑限票」ト爲ス。(五)

【除籍】 附會ノ義ナリ。【福惠全書】「除籍既下。其本地鄉紳。想見父母丰采。」

【除盜賊】 (盜賊ヲ) (クノ部) 見ヨ

【除陌錢】 唐、德宗ノ時凡ソ公私給與及ビ買賣ニ付キ每緡官ニ五十錢ヲ留ムルヲ法トシ之ヲ「除陌錢」ト謂フ。(唐書食) (貨志)



**【除班】** 清朝ニ於テハ授官ノ順位ヲ分チテ六トシ、其第一位ヲ「除班」ト曰フ。即チ官吏登用法ニ依リテ官吏ヲ任命スル順位ノ義ナリ。例セバ文進士一甲一名ヲ修撰ニ除シ、同第二名三名ヲ編修ニ除スル等ノ類ナリ。(清會典 吏部)

**【除名】** 官吏不廉罪ヲ犯シタル者ニ對スルノ處分ニシテ其氏名ヲ職員録ヨリ除去スルト共ニ其官爵悉ク剥奪シ課役庶人ト同クス。但シ除名後六載(載ハ年)ヲ經タルトキハ官ニ叙スルコトヲ聽ス。【唐律】名例篇除名者ノ條「諸除名者官爵悉除。課役從本色。六載之後聽叙。依出身法。」(三)蓋シ此規定ハ晋代ヨリ始マルガ如シ。【事實紀原】「何法盛晋中興書曰。胡崇母爲永康令。多受貨賂。除名爲民。此事不他見。疑始於晋。」(十)

**【除名當差】** (名ヲ除キテ)又武官ガ私罪ヲ犯シタルトキ其氏名ヲ仕籍ヨリ削除シ其原籍地ニ發遣シテ差役ニ當ラシム。之ヲ「除名當差」ト謂フ。(明律卷一、清律卷三、名例篇「除名當差」ノ條)

**【除名配流】** (名ヲ除シ)五流(「コノ部」五)犯人ニシテ官爵ヲ有スル者ハ官籍ヲ除去シ一定ノ地ヲ限リテ誦居セシム。之ヲ「除名配流」ト謂フ。除名配流ノ者ハ居作(勞)ヲ免ズルヲ例トス。【唐律】名例篇「應請減ノ條」(五)流ヲ列「各不得減贖。除名配流如法。」其註「除名者免居作。即本罪不應配流。而特配者。雖無官品。亦免居作。」疏議「犯五流之人。有二官爵者。除名配流。免居作云云。」(卷二)

**【除免】** 除免トハ除名ト免官トノ合稱ナリ。官ヲ除キ罪ヲ免ズルノ義ニアラズ。【唐律】名例篇「應請減」ノ條註「有官爵者。各從除免當贖法。其疏議略男夫於監守內。犯二十惡及盜。婦人姦入內亂者。並合除名。若男夫犯盜。斷徒以上。及婦人犯姦者。並合免官。」(卷一)

**【除免當贖法】** 除名ハ前條ノ如ク除名免官ノ義。當贖法トハ官爵ヲ有スル者ハ其官爵ヲ

以テ罪ヲ贖ハシムル法ナリ。【唐律】名例篇「婦人官品號」ノ條「婦人犯姦者。亦不得減贖。」其註「有官爵者。各從除免當贖法。」其疏議「本犯免官。免所居官。及官當者。留贖收贖。縱有二官爵合減。亦不得減。故云各從除免當贖法。」(卷二)

**【乘車就刑】** (車ニ乘リテ)唐制、五品以上ノ官ハ罪アリテ死刑ニ處セラル、トキハ特ニ車ニ乘リテ刑場ニ臨ムコトヲ許ス。【大學生義補】唐制五品以上。罪論死。乘車就刑。大理正殺之。或賜死於家。(卷百)

**【乘傳】** 驛站ニ用キル四頭ノ下馬車ヲ「乘傳」ト曰ヒ亦其馬車ニ乘ルヲ乘傳ト曰フ。即チ「聽解」ト言フニ同ジ。【漢書】高帝紀「乘傳詣雒陽。」其註「如淳曰。律。四馬高足爲置傳。四馬中足爲三傳。四馬下足爲二傳。一馬二馬爲一傳。急者乘二。乘傳。四馬ハ車ニ四頭ノ馬ヲ駕スノ意。高足、中足、下足ハ馬匹ノ品等ニシテ上中下ト言フガ如シ。急者乘二。乘傳。」

トアルハ普通ハ駟車即チ一頭二頭ノ馬車ヲ用キ急ヲ要スルトキハ乘傳即チ四頭ノ馬車ヲ用キルノ意ナリ。

**【乘田】** 春秋時代ノ牧畜ヲ掌ル小吏ノ名ナリ。【孟子】萬章篇「孔子嘗爲乘田一矣。」【史記】孔子世家「嘗爲司職史。而畜蕃息。司職ノ職ハ一ニ「概」又ハ「棧」ニ作ル。犧牲ヲ養フノ所ナリ。」

**【乘輿】** 天子乗ル所ノ車、臣下天子ノ尊ヲ避ケテ「乘輿」ト曰フ。即チ天子ノ別稱ナリ。【獨斷】「天子至尊。臣下不敢濫言。之。故託之於乘輿。」【孟子】梁惠王篇「今乘輿已駕矣。」

**【乘輿車駕】** 兩者共ニ天子乗ル所ノ車、故ニ天子ノ尊ヲ避ケテ或ハ「乘輿」ト曰ヒ或ハ「車駕」ト曰フ。而モ刑律ニ於テ乘輿ト稱スルハ乘輿服御物ノ類ヲ盜ミタル場合ニ用キ車駕ハ車駕儀仗ヲ犯シタル等ノ場合ニ用キルヲ通例トス。故ニ必シモ天子ニ限ラズ太皇太后、皇太后、皇后並ニ同シ。(明律卷一、清律卷四、名例篇「稱乘輿車駕」ノ條)

**【仍世】** 猶ホ累代ト曰フガゴトシ。【晉書】「仍世多故。」

**【仍孫】** 昆孫ノ子ヲ「仍孫」ト爲ス。第七世孫ナリ。【爾雅】釋親「昆孫之子。爲仍孫。」一説自己ノ孫ヲ「仍孫」ト爲ス。(太支)

**【剽】** (部首) (經)

**【剽員】** (一)宋制、殿兵ノ義(剽ハ餘)。惟々殿員。皆支體廢者。不忍遣棄。令(廢)給。如故。自是率以爲例。(卷二)退職ノ者ヲ以テ剽

員ト爲シ其老後自活ノ途ヲ得シム。【玉海】「初置剽員。以處退員。」

**【勝】** (部首) (經)

**【勝冠】** 冠ニ勝フルノ義、年甫メテ二十ニ及ブコトヲ曰フ。【禮記】曲禮篇「二十曰弱冠。」【漢書】石奮傳「萬石君子孫。勝冠者左側。雖無必冠。申申如也。」

**【勝國】** (一)戰爭ニ依リテ勝チタル國ヨリ其亡ビタル國ヲ指シテ「勝國」ト謂フ。周ハ殷ヲ以テ勝國ト稱シ、其社ヲ謂ツテ「亳社」ト爲ス。【周禮】士師「若祭勝國之社稷。則爲之尸。」(同書)「(二)後世ハ前朝ヲ謂ツテ勝國ト爲ス。」

フ、丘濬曰ク「吏之冗員。兵之冗食。其中節目雖多。然大要有二定名。云云。」(大學衍義補卷二十)

【冗官】 無用ナル官吏ナリ。【漢書】申屠嘉傳「冗官。居其中。」

【冗從】 官名。漢武帝ノ時。期門郎ヲ置ク。其下ニ「僕射」アリ。兵ヲ執リテ送從ス。官者ヲ以テ之ニ充ツ。名ツケテ「冗從」ト曰フ。後漢及ビ魏之ヲ「冗從僕射」ト稱ス。(源)一説、休職シテ王族ニ從ヒ居ル者。史記「枚乘傳」與「冗從」

【冗從僕射】 (前條ヲ見ヨ)

【冗費】 無用ノ經費ヲ謂フ。【唐書】康承訓傳「罷冗費。市馬。」(冗兵)

【冗賦】 猶ホ雜稅ト言フガ如シ。【宋史】「獨冗賦及民運數百萬。」

【冗兵】 無用ノ兵員之ヲ「冗兵」ト謂フ。【宋蘇轍文】「方今之計。莫如節財。然所節費財者。非二求財而益之也。去事之所。以害財者。上而已。」(中)略)事之害財者三。一曰冗吏。二

曰冗兵。三曰冗費。云云。(大學衍義補卷二十一)

【正字通】「冗。散也。雜也。今無事備員。曰冗員。蘇軾曰。爲政在去三冗。冗官不可不革。冗兵不可不汰。冗費不可不節。」

【冗吏】 無用ノ官吏ヲ謂フ。(冗兵)ト見ヨ

【承引】 斷獄律ニ於テ承引ト言フハ犯罪人ガ自ラ犯罪ノ事實ヲ認メ法官ノ宣告ニ服スルコトヲ謂フ。【唐律】斷獄篇「訊囚察辭理ノ條。若賊狀露驗。理不可疑。雖不承引。即據狀斷之。」(卷二十九)

【承繼】 家ニ實子ナク同宗ノ姪ヲ姪子ト爲シ家業及ビ祭祀ヲ相續セシムル場合ニ使用ス。

【清律】戶律戶役篇「立嫡子違法」ノ條附例「無子者。許令同宗昭穆相當之姪承繼。」(卷七)

【承催】 上命ヲ承ケテ租稅ノ催徵(即チ催收)スルヲ爲スコトヲ謂フ。【六部成語註解】「承催催徵之事。」

【承旨】 本ト官名。唐ニ「翰林學士承旨」アリ。

宋及ビ五代ニモ「樞密院承旨」アリ。清制ハ主務官廳ガ上旨ヲ承ケテ之ヲ其下司。又ハ地方官廳等ニ上命ヲ傳出シ、之ヲ遵行セシムルコトヲ謂フ。【皇朝政治學問答】「承旨。是承三顧此旨。而傳出令二人遵行一也。」

【承舍】 地方官廳ノ吏員ヲ謂フ(福惠)

【承順正救】 承弼ヲ註釋シタル語。君命ヲ承ケテ輔弼ノ任ニ在リ君ノ過誤ヲ正救スルノ謂ナリ。(承弼)ト見ヨ

【承詔置推者】 (詔ヲ承ケテ)臨時詔ヲ承ケテ裁判事務ヲ掌ル者ヲ置クノ謂。之ヲ「制勸院」ト謂フ。但シ中書省ノ命ニ出ヅル者ハ之ヲ「推勸院」ト謂フ。事件終了スレバ其職モ亦罷ム。(大學衍義補卷百四、七)

【承重】 (一)父早ク死亡シ其子が父ニ代リテ祖父ノ相續人ト爲リタル等ノ場合ヲ謂フ。此ノ場合ニ於テハ祖父父母ニ對シ、父母ニ對スルト同一ノ關係ヲ生ズ。故ニ喪服ノ如キモ、祖

父母ニ對シテ斬衰三年ニ服ス。(明清律卷一) (二)子が父ニ代リテ家長ノ地位ニ就クコト亦此語ヲ用フ。姪子ノ場合亦同ク。

【承弼】 承ハ承順、弼ハ救正ノ義。君ノ命ヲ承ケテ輔弼ノ任ヲ盡スノ謂ナリ。【書經】罔命篤「且夕承弼厥辟。出入起居罔有不飲。」(大學衍義補卷七詳解)

【承祧】 父祖ニ代リテ祖先ノ祭祀ヲ相續スルコトヲ謂フ。(承祧)ト見ヨ

【承佃戶】 小作人ノ謂ナリ【大學衍義補】「其爲人耕佃者。則曰承佃戶。」(卷十)

【承夫分】 (夫ノ分) 夫ガ未ダ家財ノ分配ヲ承ケズシテ死亡シタルトキ其妻ガ子ナキニ拘ラズ(子アレバ當然)志ヲ守リテ夫家ニ在ルトキハ夫ノ相續スベキ財產ヲ承ク。但シ此場合ハ夫家ノ族長ニ依頼シ夫ノ昭穆相當ノ姪ヲ擇ビテ嗣祀姪子ト爲シ之ニ其產財ヲ讀ルヲ法トス。【清律】戶律戶役篇「立嫡子違法」ノ條附例

「婦人夫亡無子。守志者。合承二夫分。須要二族長二擇昭穆相當之人繼嗣。」(卷一)本「人」(作)

【承辨】 上命ヲ承ケテ事務ヲ取扱フコトヲ謂フ。(六部成語註解)

【承乏】 本義ハ(一)或ル官職ガ缺乏ノ爲メ他官ガ其職ヲ兼ヌルヲ謂フ。左傳「成公二年」敢告不敏。攝官承乏。(二)後世ハ自ラ讓避シテ「非材ヲ以テ其任ニ當ル」ノ意ニ用フ。

【承】 (部首) (又) 徑

【承】 (一)祭ノ名。冬祭ヲ曰フ。(ヤ)ノ部

【承】 (二)己ヨリ身分尊キ婦女ト私通スルコトヲ謂フ。左傳「桓公十六年」衛宣公承于夷姜。夷姜ハ宣公ノ庶母ニ當ル。【小爾雅廣義】「上淫曰承。下淫曰承。」

【承】 祭祀ノ名。敬ヒ祭ルノ義ナリ。陸機撰「辨亡論」「掃清宗廟。承禮皇祖。」

【承】 天下億兆ノ民ト云フノ義ナリ。【詩經】「大雅」天生烝民。有物有則。【書經】益稷

「烝民乃粒。」

【稱】 (部首) (蒸)

【稱引】 引證。援擧ト云フニ同ジク、引合ニ出スコトヲ謂フ。曹閻撰「六代論」其言深切。多所稱引。

【稱號】 (一)名目ノ義。後漢書「無稱號。不立宗室。挾義誅伐。」(二)名號ノ義。【史記】嚴安傳「稱號曰皇帝。」

【稱旨】 (旨)ニ上意ニ適合スルコトヲ謂フ。【漢書】孔光傳「成帝初即位。舉爲博士。奉使稱旨。由是知名。」杜陽雜編「德宗試制科於宣政殿。稱旨者必稱足期吟。」

【稱疾】 疾病ニ託スルコトヲ謂フ。【史記】項羽紀「稱疾不往。」

【稱職】 (職)ニ才能ガ其職務ニ適合スルコトヲ謂フ。【漢書】成帝紀「公稱稱職。奏議可稱。」後世官吏法ノ名トス。

【稱制】 (制)ニ皇帝幼ナルトキ又ハ他ノ事故アリテ政ヲ親ニスルコト能ハザルトキ、太后等ガ皇帝ニ代リテ政ヲ行フノ義ナリ。【史記】

呂后紀「今太后稱政。王昆弟諸呂。無所不可。又「太后臨朝稱制。註「天子之言。一日。制書。謂爲「制度之命也。非皇后所得稱。今呂太后臨朝行天子事。斷決萬機。故稱制。」

【稱責】「周禮」小宰職「稱責。以傳別。」トアルニ出ヅルノ語、金錢其他ノ貸付ヲ意義ス。

【稱貸】「周官」義疏「金ヲ貸シテ利足ヲ取ルコトヲ謂フ。【孟子】滕文公篇「稱貸而益之。」

【稱父命】「父ノ命」父ノ命令ト稱シテ就官ヲ辭スル等ノ場合ヲ謂フ。【唐類函】「稱父命」其註「晉下書字望之。爲「尙書令」時。召「樂讓」爲「郎中正」。更庚怡爲「廷尉評」。一人。告「稱父命」。不「就」。奏「一切班下不「得」。以「私」。讓。爲「永制」。二子不「得」。已「就」之。」(卷六)

【繩糾】「過失ヲ矯正スルノ義、繩糾糾レ。」

ノ略ナリ。(「繩糾糾レ」ヲ見ヨ) 【繩矩】「繩ハ屈曲(ナシ)矩ハ曲金(ガネ)法度ノ義ナリ。【唐書】德宗賢紀章氏傳「言動有「繩矩」。」

【繩愆糾謬】「愆ヲ糾シ」愆ハ過失、謬ハ誤謬ナリ。繩ハ過失ヲ正ダシ直クスルノ義、糾ハ「糾察」糾治ノ糾、誤謬ヲ正ダシ治ムルノ義ナリ。【書經】周官篇「繩愆糾謬。格「其非心」。」(大學衍義補) (卷七參照)

【繩廠】「繩ヲ製造スル所ナリ。【六部成語註】「製「造」麻繩「之」場也。」

【繩櫃】「繩ヲ以テ戸櫃ニ懸ケルコト、貧者ノ居ヲ謂フ。買置「過泰論」陳涉妻屬繩櫃之子。」

【繩尺】「法度ニ合スルコトニ喻フ。【金史】文藝傳「元好問「文有「二」繩尺。」

【繩墨】「繩ハ物ヲ直クスルノ具、墨ハ物ヲ平ニスルノ具、即チ法度ノ義ナリ。【禮記】經解篇「繩墨誠陳。不「可」。欺。以「二」曲直。」【後漢書】寇

物傳「尙書背「繩墨」。案「空劫」。註「繩墨謂「法」律也。」

【莊】「(一)大農ノ居ル所ヲ莊ト曰フ。【莊家】「莊」ト曰フガ如シ。(二)古人別墅ヲ「莊」ト曰フ。唐裴度ノ「午橋莊」、同李德裕ノ「平泉莊」ノ如シ。(三)店肆ノ名、貨物ヲ各地ニ運搬スル總匯ノ處ト爲ス。(四)貨物ノ代稱、貨物ハ地方ニ因リテ好尚同ジカラズ品質又異ル。故ニ發賣ノ根地ヲ「莊」ト曰ヒ、略シテ「莊」ト曰フ。【廣雅】「洋莊」ノ類ナリ。

【莊園】「清制、皇室ノ私有ニ屬スル土地ノ一種、大體ハ「莊田」ト同ジク我所謂御料地ニ匹敵スルモノナリ。畿輔、盛京、錦州、熱河、歸化城、打牲烏拉等凡ソ千餘所ヲ有ス。其地畝ノ大小、地質ノ肥瘠及ビ產物ニ依リテ一等莊、二等莊、三等莊、四等莊、五分莊、豆糧莊、稻田莊、菜園等ノ數種アリ。每國內務府若クハ盛京將軍ヨリ吏ヲ派シ又ハ所在地方官ニ委

シテ一定ノ地租ヲ徵收セシム。其莊田ト異ナルハ莊田ハ概シテ水田ヲ指シ莊園ハ水田以外ノ土地ヲ指ス點ニ在リ。(清國行政法) (卷三參照)

【莊戶】「今ノ北方支那ニ於テハ農ヲ以テ業ト爲ス者、自ラ稱シテ「莊戶」ト曰フ。

【莊口】「(「莊」ト見ヨ)

【莊田】「莊田ノ名ハ唐代ヨリ始マルガ如シ。【舊唐書】「官健有「莊田」戶籍者。仰「三」州縣「放」免戶籍。清制ノ制ハ「嘉慶會典」(卷十)ニ規定ス。皇室ノ私有ニ屬スル土地、其性質我國御料地ニ匹敵ス。其土地ハ清制ノ祖先ガ滿洲ニ在リシトキ所有セシモノト、都ヲ北京ニ奠ムルニ及ビテ前明ノ帝室及ビ勳戚大臣太監等ノ領地ヲ沒收シタルモノトヨリ成リ其管理ハ內務府ノ事務ニ直屬シ、州縣官ノ事務ニ屬セズ。其地ハ地質ニ由リテ四等ニ分チ、莊毎ニ莊長ヲ置キ其部族ヲシテ耕作セシム。蓋シ莊長ハ小作人ノ代表ナリ。(清國行政法) (卷一(上))

【莊奴】「莊田小作人ノ別稱ナリ。【吳補、詩】

「莊奴不「入」租。報「我」田「久」荒。」

【莊票】「清制、民間發行ノ錢票(爲「錢」莊ヨリ發行ス。故ニ「莊票」ト曰フ。本地ノ市場ニ流通ス。或ハ銀兩ヲ以テ計リ或ハ銀圓ヲ以テ計ル。都會、商阜大抵之レアリ。以テ市中運轉資本ノ缺乏ヲ補フヲ目的トス。

【蒸】「(部首) (韻) (蒸) (廿) (轉) (蒸) (韻) 蒸ト通ズ。天子諸侯宗廟ノ祭名、秋ヲ「嘗」ト曰ヒ冬ヲ「蒸」ト曰フ。(見ヨ)

【蒸晒】「水ニ濡リタル米ヲ蒸シ、日ニ晒シテ乾スコトヲ謂フ【六部成語註】「將「濕」米。蒸而晒之。使「乾」之也。」

【衝要】「(部首) (韻) (衝) (要) 緊要ノ地、水患其他衝路ニ當ル處ヲ謂フ。(見ヨ) 【後漢書】「防「遏」衝要。疎「決」壅積。十里立「二」水門。更相洞注。無「復」潰漏之患。」

【衝驛】「繁華ナル土地ノ驛遞ヲ謂フ。(福惠全

【衝決】「河水堤防ヲ破壞シ、流ヲ決シテ下ルコトヲ謂フ。【六部成語註】「河水冲「開」堤口。決「流」而下也。」

【衝刷】「河水暴漲シテ堤防ヲ破壞シ盡スコトヲ謂フ。【六部成語註】「河水衝「決」。至「底」如

同有「二」入刷レ之一掃而盡也。」

【衝車】「兵車ノ隊、敵陣ヲ突破スルニ用フ。【淮南子】註「衝車。大轂著「其」輻。馬被「用」。車被「兵」。所以衝「二」敵城也。」

【衝繁疲難】「清ノ雍正年間、廣西布政使ノ建議ニ依リ天下州縣ヲ分チテ衝、繁、疲、難ノ四種ト爲ス。衝ハ險要ノ地、繁ハ繁忙ノ地、疲ハ疲弊ノ地、難ハ多難ノ地ナリ。(參照)

【衝僻】「都鄙ト云フニ同ジク、都會ノ地ヲ衝ト謂ヒ、僻遠ノ地ヲ僻ト謂フ。(清會典) (兵部)

【訟】「(部首) (言) (訟) (韻) (訟) (韻) 訟トハ獄(刑事)ニ對シテ民事上ノ訴訟ヲ謂フ。【周禮】大司寇「以「二」兩造「禁」三民訟。」其註「爭「罪」曰「獄」。爭「財」曰「訟」。詳「シ」ク云

へバ訟ノ字ハ言ニ从ヒ公ニ从フ。即チ公署ニ於テ言論スルコトヲ意義ス。【易經】訟卦ノ註「訟争也。言ニ之于公也」又【六書故】「訟争ニ曲直子官有司也」

【訟學】 訴訟専門ノ學科ナリ。江西省ノ人一般ニ訴訟ヲ好ム。是ヲ以テ警報ノ譏アリ。往往訟學ヲ開キテ人ニ教フル者アリ。問題ヲ出シテ談論スルコト金科ノ法ノ如シ。(癸辛雜識)

【訟獄】 民事訴訟ヲ「訟ト曰ヒ刑事訴訟ヲ獄ト曰フ。(訟ノ引例)又【孟子】萬章上篇「訟獄者。不レ之ニ免之。子而之レ舜。」

【訟棍】 訴訟ヲ欺瞞シテ不正ノ利ヲ漁スル者ヲ謂フ。一ニ「光棍」トモ稱ス。

【訟師】 他人ヲ欺瞞シテ訴訟ヲ興ス者即チ三百代言ノ徒ヲ謂フ。

【證左】 當時、現場ノ左右ニ在リテ其事ヲ實見シタル人ヲ謂フ。今ハ證人ノ義ニ用フ。【漢書】王莽傳「召ニ會吏民。遂ニ捕證左。」

【證徒】 證人トシテ逮捕スルコトヲ謂フ。【案陰比事】「劉歆侍讀。知ニ水與軍一時。大姓范偉冒ニ武功令詐ニ爲レ祖。偉乃穿ニ詐墓。以ニ己祖母ニ附レ之。規ニ避徭役ニ者五十年。數犯レ法。至ニ徙流。輒以レ贖免。長安人共患ニ苦之。然吏莫ニ敢誰何。歆按ニ其事。獄未レ具而召。由レ是辭屢變。證ニ逮數百人。云云(下)」

【證徒】 共犯罪ノ場合ニ事實ヲ立證スル徒黨ヲ曰フ。徒黨ナキヲ「無ニ證徒」ト曰フ。【唐律】名例篇「共犯罪有逃亡ノ條。諸共犯罪。而有ニ逃亡。見レ獲者。稱ニ亡者ニ爲レ首。更無ニ證徒。則決ニ其從罪。」(五)卷

【鐘】 (部首) (冬) (韻) 鐘ノ(部首) (冬) (韻) 鐘ノ(部首) (冬) (韻)

【鐘】 古ノ量名。(一)六斛四斗ヲ鐘ト曰フ。【左傳】襄公二十九年「鐘國人粟一鐘。」註「六斛四斗曰鐘。」(二)八斛ヲ鐘ト曰フ。【前漢書】食貨志「穀種千鐘。」小爾雅「二倍謂ニ之鐘。」註「八斛也。」(三)十斛ヲ鐘ト曰フ。【淮南子】要略篇「一朝用ニ三千鐘。」註「鐘十斛。」古ハ鐘鐘相通ズ。

【鐘官】 官名、鑄錢ヲ掌ルノ官、水衡都尉ニ屬ス。【漢書】百官公卿表「水衡都尉屬官。有ニ鐘官令丞。」

【鐘師】 音樂ヲ掌ル官名。【周禮】春官ノ屬ニ鐘師アリ「掌ニ金奏。」ト記ス。

【鐘釜】 古ノ量名、鐘ハ六斛四斗、釜ハ其十分ノ一、六斗四升ナリ。【左傳】昭公二年「豆區釜鐘。四升爲レ豆。各自ニ其四ニ以登ニ于釜。釜十則鐘。」註「釜六斗四升。鐘六斛四斗。」

【鐘懸】 堤防ガ洪水ノ爲メニ浸害セラレテ僅ニ一段ヲ存ジ、其形孤鐘ヲ懸ケタルガ如キコトヲ謂フ。【六部成語註解】「河堤被レ沖。僅存ニ一段。如ニ孤懸之鐘也。」

【鐘鼎文】 鐘又ハ鼎ニ書スルノ文字即チ金文、古銅器ノ古文ニ見ユ。後世ノ小篆ニ似テ非ナルモノナリ。此ニ依リテ古文ヲ稽フルコトヲ得ルナリ。

トヲ得ルナリ。

【鐘鳴鼎食】 食時鐘ヲ鳴シテ相圖シ鼎ヲ列ヘテ食ス。富貴ノ家庭ノ驕奢ヲ形容ス。(張衡ノ文) (王勃)

【陸】 (部首) (頭) (韻) 陸ノ(部首) (頭) (韻)

【陸科】 清制、農戶ニ荒蕪地ヲ開墾セシメ、三年内ハ租稅ヲ免ジ、其土地ノ成熟スルヲ待チテ、之ヲ徵收册内ニ編入シ、一定ノ租稅ヲ科スルコトヲ謂フ。(戶部則例及ビ六部成語註解)

【陸增】 荒蕪地ノ開墾成熟スルヲ待チテ半稅ヲ科シ、漸次增加スルコトヲ謂フ。(六部成語註解)

【陸擦】 陸ハ升増ノ義、擦ハ輕減ノ義即チ丁賦銀糧等ノ増減ヲ爲スコトヲ謂フ。(編惠全書卷九)

【陸調】 官吏ヲ黜陟スルノ義、陸ハ官職ヲ昇スコト、調ハ左遷スルコトヲ謂フ。(清會典)

【畜】 (部首) (口) (韻) 畜ノ(部首) (口) (韻)

【畜夫】 (一)田夫ヲ謂フ。【說文】「从レ來从尙。來者。而而藏レ之。故田夫謂ニ之畜夫。」(二)司空ノ屬官【證肥】「畜夫承レ命告ニ于天子。」(三)幣ヲ主トルノ官【書經】胤征篇「畜夫馳。」(四)鄉官ノ稱【管子】「吏畜夫任事。人畜夫任教。」(五)秦ハ地方自治ノ制ニ里、亭、鄉ノ法アリ、百家ヲ里ト爲シ里ニ「里魁」アリ十里ニ亭アリ亭ニ「亭長」アリ、十亭ヲ鄉ト爲シ、鄉ニ「三老」「有秩」「畜夫」「游徼」アリ。畜夫ハ訟獄及ビ租稅ヲ掌ラシム漢晉劉宋皆之ニ因ル。(清國行政ニ辭) (六)虎園ノ虎ヲ養フノ賤役ヲ「虎園畜夫」ト謂フ。【漢書】張釋之傳「虎園畜夫。」註「掌ニ虎園。」

【織造】 詔勅等ノ用ニ供スル軸帛及ビ文武官封奏用ノ錦羅、綢緞絹布其他宮廷及ビ政府所用ノ織物ヲ製造スル所、即チ官設ノ織物所ナリ。江寧、蘇州、杭州ノ三處ニ設置シ織造監督ヲ派シテ其事ヲ管掌セシム。此三處ハ明制ヲ繼承シタルモノニ係リ、順治初年ハ戶部ニ屬シタルガ同八年工部ニ屬シ、康熙八年會計事務ハ之ヲ戶部ニ屬セシム。(清會典事例卷百五十三)

【織室】 漢代織造ヲ主トスル所、漢少府ノ屬官ニ東織西織令丞アリ。後東織ヲ廢シ西織ヲ「織室」ト爲ス。婦女過罪アル者ハ織室ニ作業セシム。唐之ヲ「織染署」ト謂フ。

【織成】 織物ノ名、文彩ノ類、漢代ハ陳留(今ノ留城鎮、江蘇沛縣ノ東ニ在リ)襄邑ヨリ産出セリ。(後漢書)(輿服志)

【織染署】 (織室) (ヲ見ヨ)

【織坊】 機ヲ織ルノ室ナリ。【晉書】李太后傳「時后爲ニ宮人。在ニ織紡中。數夢ニ兩龍枕。日月入レ懷。遂生ニ孝武帝。」

【織紡】 機ヲ織リ絲ヲ紡ムコト。王通撰【元經】薛氏傳「太妃李氏者。簡文爲ニ會稽王二時。使ニ卜人輩レ之。織紡中得ニ李氏。」

【職】 (部首) (耳) (韻) 職ノ(部首) (耳) (韻)

【職】 (一)官吏ノ擔任スル職務ノ義ナリ。【周禮】六官ノ序各篇「惟王建國。辨レ方正レ位。體レ

國經野。設官分職。以爲民極。其註「官。言三所司之人。職。言三所掌之事。」(各卷)【書經】周官篇。六卿分職。職亦此義ナリ。(二)品官ノ職務ヲ曰フ。文職、武職、職名職銜ノ如キ是ナリ。(三)人トシテ各應ニ爲スベキ義務行爲ヲ謂フ。子職、婦職、職務、職業等ノ如シ。

【職銜】職ハ實職即チ實在ノ官職、銜ハ名譽的ノ官職ニシテ。本職以上ノ虛職ヲ兼帶セシムルヲ例トス。【六部成語註解】官員之實職虛銜也。

【職官】一定ノ實職ヲ有スル官吏、即チ閑散官ニ對シテ現任官ヲ謂フ。(明律卷一、清律卷一)故ニ歷代ノ國史ニハ其一部門ヲ置キ或ハ「職官志」ト曰ヒ或ハ「百官志」ト曰フ。清朝ニハ「歷代職官表」ノ編成アリ、歷朝ノ官制ヲ編纂シタルモノナリ。

【職揭】官吏ニ登用セラレタル者が、吏部ニ赴キテ履歷書ヲ親寫シテ提出スル前ニ、其官

職及ビ姓名ヲ寫シテ文選司(吏部ノ一課)ニ提出スルコトヲ謂フ。【六部成語註解】赴部投供之員。皆先寫本身官銜姓名一紙。呈於文選司。【職歲】周禮「天官ノ屬、司會ノ副官ナリ。一歲間ノ會計ヲ掌ルヲ職トス。故ニ此名ナリ。【職次】官吏ノ職務、職守ヲ次第スルノ義ナリ。【杜氏通典】開元二十五年刊定職次。著爲二合格。

【職事官】散官、衛官、勳官等ニ對シテ實在ノ官職ヲ執掌スル官吏ノ通稱ナリ。(唐律卷二去官)

【聯制律】唐律十二篇ノ一、官吏ノ職務ニ關スル責任ヲ定メタモノナリ。按スルニ晉律始メテ之ヲ置キ、連制律ト名ヅク。爾後齊ニ至ルマデ之ニ因リテ改メザリシガ隋開皇律改メテ「職制」ト爲シ唐律之ニ因ル。明律ハ刑律ノ體裁ヲ改ムルト同時ニ之ヲ吏律ニ編入シ其一節ト爲ス。清律之ニ因ル。

【職秩】官職及ビ秩秩ノ合稱ナリ。【左傳】王

子朝因官百工之喪。職秩。以爲亂。云云。【職田】官吏ノ身分ニ應ジテ官ヨリ分給スル所ノ田、唐ニ始マル。古ノ「采邑」、「采地」ノ如キモノナリ。【事物紀原】孟子曰。卿以下必有圭田。禮王制曰。圭田無征。周官亦有二大夫之采地。此職田之起也。晉有二祭田之田。後魏給二公田。北齊自二品已下各有差。武德元年十二月制。外官各給職分田。則職田之名。唐始有之也。宋朝會要曰。咸平二年七月。眞宗欲復興職田。詔杜鎰等。檢討故事。律革復給之也。(卷一)

【職內】周禮天官ノ屬、司會ノ副官ナリ。租稅ノ收入ヲ掌ルコトヲ職トス。

【職方】官名、天下四方ノ事務ヲ分掌スルヲ職トス故ニ職方ト曰フ。【周禮】夏官ノ屬ニ「職方氏」アリ。天下ノ地圖及ビ四方ノ職貢ヲ掌ル。其職制「掌天下之地圖。主四方之職貢。」隋ハ職方侍郎ヲ置キ、唐ハ兵部ニ職方郎中ヲ置ク。明ハ改メテ職方清吏司使ト爲シ清之ニ

因ル、民國ハ内務部ニ職方司ヲ置キ地方疆界及ビ土地統計ノ事ヲ掌ラシム。

尙ホ職方ノ意義ヲ詳述スレバ方ハ東方四方ノ方、各分レテ四方ノ一方ヲ管轄スルノ義、其職務ヲ「職方」ト曰フ。伯爵之ニ任ズ。【禮記】曲禮篇「五官之長曰伯。是職方。其註「職主也。是伯分主東西者。春秋傳曰。自陝以東。周公主之。自陝以西召公主之。後世ノ職方清吏司使ノ官此ニ因ル。

【職幣】周禮「天官ノ屬、司會ノ副ニシテ餘財ヲ主トルノ官ナリ。

【贖刑】贖刑ノ略(下條ヲ)【事物紀原】世本曰。夏作二贖刑。呂刑曰。穆王訓二夏贖刑。則贖刑疑書名也。按舜典曰。金作二贖刑。注謂二誤而入刑出。金以贖。則贖罪。蓋始於虞氏也。(十)

【贖刑】罪情ノ有無疑アル者、又ハ罰ムベキ事情アル者ニ對シ、五刑ヲ免シ金ヲ以テ其刑

ヲ贖ハシムルコト、【尙書】舜典、金作二贖刑。トアルハ其出所ナリ。夏代ニハ夏ノ贖刑アリ、周代ニハ周ノ贖刑アリ、夏ノ贖刑ハ宋ノ羅泌ノ撰ニ係ル【路史後紀】夏后禹紀ニ載ス。周ノ贖刑ハ【尙書】呂刑篇ニ載セテ詳ナリ。然レドモ舜代ノ贖刑ト夏周ノ贖刑トハ多少其主義ヲ異ニス。舜代ノ贖刑ハ輕罪犯中罪ノ疑ハシキ者又ハ情ノ憫ムベキ者ニ對シ情法ニ於テ宥恕スベキ者ハ特ニ金ヲ以テ之ヲ贖ハシメタルモノニシテ、純然タル刑罰ニ非ズ。然ルニ夏ノ贖刑及ビ呂刑ノ贖刑ハ罪ノ輕重ニ拘ハラズ五刑ノ疑ハシキ者ハ死罪以下一定ノ金額ヲ定メテ之ニ處シタルモノニシテ、即チ五刑ノ裏面刑トシテ之ヲ存シタルモノナリ。

尙ホ【文獻通考】(刑法)ニモ下ノ如ク記ス。唐虞ノ時ハ刑輕ク律簡、是ヲ以テ罰金ノ法ハ止ダ鞭扑ニ及ブノミ。五刑ニハ贖法ナシ。周ニ至リテ律ノ繁極マリ五刑ノ屬三千ニ至ル。悉ク之ヲ適用セバ天下ノ人完膚ナシ。穆王之ヲ哀

ミテ五刑ノ疑シキハ各贖ヲ以テ論ズ。後世ノ贖刑ハ其遺意ト爲ス。云云。漢代ニハ律令ニ贖刑ノ規定アルノ外(漢書陳寵傳「今律令贖一」)時々贖罪ニ關スル詔勅ヲ發セリ。蓋シ贖金ヲ以テ國費ヲ補充スル目的ニ出テタルモノナリ。【漢書】惠帝紀「民有貧者。得買爵三十級。以免死罪。應劭註「一級直錢二千。凡爲二六萬。若贖罪。入二三四錢。矣」同書、武帝紀「太始二年。募死罪人。贖錢五十萬。減死。」晉代ニハ五歲刑贖金一斤十二兩。四歲及ビ五歲刑各四兩ヲ以テ差トス。(晉書刑)以テ其變遷ヲ見ルベシ。

尙ホ漢以前ハ贖罪ニ銅ヲ用キタルガ漢始メテ黃金ヲ用キタルガ如シ。但シ其斤兩ヲ少クシテ銅ト相敵ハシメタリト云フ。(尙書刑)【贖章】特殊ノ身分ヲ有スル者及ビ其家族ニ對シ一定ノ成例ニ從ヒテ刑ヲ贖フコトヲ許ス場合ニ用キル章程ヲ謂フ。(唐律疏議卷二名例贖)

【贖食物】 人ノ刑戮ヲ加ヘラレントスル者ヲ救助シテ其報酬ヲ求ムルコトヲ謂フ。【北史】「和士開見二人將加刑戮。多所營救。既得免。即命二人。謂之。責其珍寶。謂之贖食物。」

【食醫】 【周禮】ニ載スル所ノ醫師ノ一、天子ニ供スル飲食ヲ掌ル專門醫、中士二人ヲ以テ之ニ充ツ。同書、天官食醫職、掌和王之六食六飲百羞百膳八珍之齊。云云。(五卷)

【食邑】 官吏ニ與フル領地、其邑ノ收入ヲ以テ自己及ビ家屬從屬ノ口食ト爲スガ故ニ食邑ト稱ス。【漢書】高帝紀「吾與天下之豪士賢大夫。共定天下。同安社稷。其有功者。上致之王。次爲列侯。下乃食邑。」

【食貨】 【書經】洪範篇八政、「一曰食。二曰貨。云云。」トアルニ出ヅルノ語、其内容ハ【漢書】食貨志ノ註「食ハ農殖嘉穀ノ食フベキ者ヲ謂ヒ、貨ハ布帛ノ衣ルベク及ビ金刀龜貝ノ財

ヲ分チ利ヲ布キ有無ヲ通ズル者ヲ謂フ。トアルハ是ナリ。故ニ後世歷朝ノ正史ハ皆「食貨志」ノ一篇ヲ置キ經濟的事項ヲ列記スルヲ例トス。

【食前方丈】 己ノ坐邊方一丈ノ間ニ食膳ヲ陳アルコト其數者ヲ形容ス。【孟子】盡心篇下「食前方丈。侍妾數百人。我得志。不爲也。」【韓詩外傳】「北郭先生妻曰。結駟列騎。所不安。不遇容膝。食方丈於前。所不甘。不遇一肉之味。」

【食單】 食品ノ種目ヲ列記シタル書付ナリ。【表異錄】「晋何曾有安平公食單。」【鄭望勝夫錄】「韋僕射巨源有燒尾食單。」

【食地】 開墾シテ食物ヲ種藝スル土地ノ義。【管子】「彼野悉辟。而民無積者。國地小而食物淺也。田半墾而民有餘食。而粟米多者。國地大。而食地博也。」又、祿ヲ食ムノ義ニモ用フ。【食物稅】 清制、飲食物ニ課スル關稅ノ一種、【嘉慶會典】戶部分註、凡各關貨物之稅。有二衣

物稅。有二食物稅。云云。其種類ハ米麩。芝麻。酒。茶。烟。葷味。蔬菜。作料。菓。糖。蜜等ノ類ヲ指ス。

【飾行債匿】 姦商ガ外觀ヲ飾リ惡心ヲ蔽ヒテ不正ノ貨物ヲ賣ルコトヲ謂フ。【禮記】王制篇「李觀ノ解。民之詐僞。盡其常心。矧技市井。飾行債匿。何所不至哉。」

【飾擢】 人才ヲ獎飾シテ拔擢スルコトヲ謂フ。【晉書】陶瑛傳「聖恩廣厚。拔擢。擢。唐書」王毛仲。始見。飾擢。頗持。法不。避。權貴。爲。可。喜。事。」

【飾非】 自ラ其非ナルコトヲ知ツテ而モ故ラニ之ヲ文飾スルノ義ナリ。【莊子】「辨足以飾非。云云。」【說苑】「知足以飾非。」後世此意義ヲ以テ使用スル所多シ。

【人】 法律上人ト稱スルハ籍ヲ以テ定ト爲ス即チ戶籍ニ登錄セラレテ始メテ人格ヲ生ズ。

【明律】清律ノ名例篇「稱日以百刻ノ條。略稱人者以。稱爲。定。」(明律卷一)

【人參】 (ニノ部)

【人丁】 成年ニ達シタル男子ヲ指ス。【唐書】食貨志「租庸調之法。以三人丁爲一。今ハ人口ヲ稱シテ人丁ト爲ス。

【人牧】 人ハ人民、牧ハ養フノ義、人民ヲ治メル者、即チ人君ノ稱ナリ。【孟子】梁惠王篇「今夫天下之人牧。未有不嗜殺人者。」

【人門】 (門ノ部)

【信局】 民營ノ郵便局、一ニ「民局」トモ稱ス。清代僻遠ノ地多ク之ヲ設ク。政府亦之ヲ公認ス。

【信差】 清制、郵便ヲ配達スルコト、從ツテ郵便配達人ヲ指稱ス。(郵政)

【信賞必罰】 賞スベキ者ハ必ズ賞シ罰スル者ハ必ズ罰ス、賞罰ノ嚴明ナルコトヲ謂フ。

【後漢書】宣帝紀「孝宣之治。信賞必罰。」

【信牌】 (一) 郵便物發送ノ時、土地ノ遠近ヲ按シテ其到着ノ日時ヲ示ス符信ナリ。後世ハ紙ヲ用キテ印行ス。俗ニ之ヲ「排單」ト謂フ。(二) 符契即チ封印ヲ附シタル證券、犯罪人ノ引渡又ハ公事ノ催督ヲ爲ス等ノ場合ニ使用ス。【清律】吏律職制篇「信牌」ノ條アリ。「凡府州縣置立信牌。拘提人犯。催督公事。云云。」トアリ。(同書)【明律】ニハ吏律公式篇ニ同文ノ規定アリ。(同書)

【信票】 清制、郵便切手ヲ稱シテ「信票」ト曰フ。(郵政)

【侵街錢】 【宋史】李稷傳「李稷陝西轉運使ト爲ル。秦民舍ヲ道旁ニ作ル者創メテ「侵街錢」ヲ納メシム。ト記ス。即チ街道ヘ屋舎ヲ作ル者ニ對シ道路ヲ侵スルノ賠償トシテ徵收シタルモノナリ。

【侵挪挪移】 州縣官所管ノ倉庫錢糧ハ皆一定ノ使途アリ、擅ニ使用スルコトヲ指ス。其用項ノ中ニ在リテ、私ニ銀兩ヲ掠ムルヲ「侵」ト曰ヒ、又應ニ支出スベキ銀兩ヲ吝ミテ故意ニ遲延シテ支出セザルヲ「挪」ト曰ヒ、又甲ノ經費ニ使用スベキ項ヲ擅ニ自ラ改メテ乙又ハ丙ノ用ニ充ツルヲ「挪移」ト曰フ。【六部成語註解】「州縣官所管之倉庫錢糧。皆有二定之用處。不。得。擅。自。隨。便。用。之。如。在。二。用。項。之。中。自。己。私。留。銀。兩。一。曰。侵。如。應。辦。之。事。而。吝。惜。錢。財。故。意。遲。延。不。辦。者。曰。挪。如。此。項。應。辦。作。某。項。使用。而。擅。自。改。爲。別。項。之。用。則。曰。挪。移。」

【侵欺】 或ル事柄ニ假託シテ官金ヲ侵取シ、以テ朝廷ヲ欺クコトヲ謂フ。【六部成語註解】「借。事。侵。吞。官。項。以。欺。二。朝廷。一。也。」

【侵漁】 漁人ガ魚ヲ取ルガ如ク官金ヲ掠メ取ルコトヲ謂フ。(六部成語註解)

【侵尅】 官金ヲ漸次竊取シテ其額ヲ減少スルコトヲ謂フ。【六部成語註解】「侵尅減也。」

【侵蝕】 掩ヒ取ルノ義、暗中人ヲ損ジテ已ヲ肥スハ皆侵ナリ。緩ク之ヲ取リテ漸ク其數ヲ純スルヲ「侵蝕」ト曰ヒ數ヲ全クシテ掠メ取ルヲ「侵吞」ト謂フ。即チ官金ヲ劫取スル行爲ヲ謂フ。(下條)

【侵蝕銀】 官吏ガ自ラ管掌スル官銀ヲ劫取スルコトヲ謂フ。「六部成語註解」侵蝕也。吞用也。將ニ經手官銀。自行ニ吞用ニ也。

【侵佔】 彼此田宅相連ナル者其田界ヲ侵越シテ他人ノ領分ヲ占メ己レノ業ト爲スコトヲ謂フ。(明律卷五、清律卷八戶律田宅篇、盜賣田宅ノ條及比註)

【侵佔街道】 (街道ヲ) 街ハ街巷ノ略、道ハ道路ノ略、城市通行ノ地ヲ「街巷」ト曰ヒ、郊野通行ノ地ヲ「道路」ト曰フ。侵佔ハ街巷道路ノ範圍ヲ侵蝕シテ房屋ヲ蓋ヒ圍圍ヲ作ル等ノ行爲ヲ謂フ。「明律」工律河防篇「侵佔街道」ノ條アリ「凡侵佔街巷道路而起房屋蓋屋。及爲圍圍者杖六十。各全復舊。云云。」ト規定ス。「清律」ノ附註「城市通行之地曰街巷」

【侵佔】 他人ノ領分ヲ占メ己レノ業ト爲スコトヲ謂フ。(明律卷五、清律卷八戶律田宅篇、盜賣田宅ノ條及比註)

【侵佔】 他人ノ領分ヲ占メ己レノ業ト爲スコトヲ謂フ。(明律卷五、清律卷八戶律田宅篇、盜賣田宅ノ條及比註)

郊野通行之地曰道路。皆係官地云云。ト記シ該賦註「侵蝕」ニ於界外ニ也。然全占者亦是ト記ス。(明律卷三十清)

【侵占罪】 新刑律第三百九十一條乃至第三百九十六條ニ規定スル所ニシテ我刑法ノ橫領罪ニ相當ス。

【侵損】 侵トハ財物ヲ盜取スルコトヲ曰ヒ損トハ人身ヲ傷害スルコトヲ曰フ。「唐律」名例篇「共犯罪遺意爲首」ノ條「侵損於人」者。以ニ凡人首從ニ論。其疏議ニ「侵。謂盜劫財物。損。謂圍殺傷之類。」(五卷)

【侵佔街道】 官ノ市街地ニ民房鋪戶ヲ作リテ占領シ去ルコトヲ謂フ。「六部成語註解」官街地。爲民房鋪戶。佔去也。

【侵吞】 (侵蝕) (ヲ見ヨ)

【侵犯】 他國又ハ他人ノ財產ヲ侵害スルノ義「吳志」各守三分土。無相侵犯。

【侵肥】 官吏ガ官金ヲ劫取シテ自己ノ懐ヲ肥

スノ義ナリ。(六部成語註解)

【侵陵】 侵ハ侵掠、陵ハ凌辱ノ義ナリ。「禮記」諸侯相接以二敬讓。則不相侵陵。

【侵漏】 官金ヲ劫取スルコトヲ謂フ。「六部成語註解」侵。吞倫。漏。官項ニ也。

【侵】 (部首) (眞韻) 馬ヲ飼養スル者ヲ謂フ。「揚子方言」燕齊間。謂之養馬者。爲侵。

【侵子】 漢制、僮僕ヲ行フトキ役ヲ運フ者、十歲以下ノ少年ヲ以テ組織ス。(「僮」ヲ見ヨ)

【侵解】 徵收スル所ノ數ヲ盡シテ全部送達スルコトヲ謂フ。「六部成語註解」侵。盡。所。徵。之。數。解。交。也。

【侵收】 侵ハ極ト同義即チ極力租稅ノ徵收ニ勉ムルコトヲ謂フ。「六部成語註解」侵。極。也。極。力。經。徵。

【侵先】 清制、先ノ先即チ第一番ト云フノ義

ナリ。「會典」吏部「儘先補用」是レ官吏ヲ補用スルトキハ其順位ガ、最モ先位ニ在ル者ヲ以テスルノ謂ナリ。

【儘犯人財產】 (犯人ノ財) 儘ハ盡ニ同ジ亦極ムルナリ。放火延燒ノ場合犯人ノ財產ヲ盡シテ被害者ノ損害ヲ賠償セシムルコトヲ謂フ。(「七」ノ部、折) (推賠償ノ對照)

【刃】 (部首) (眞韻) 關敵罪ニ於テ刃ト言フハ兵器ニシテ及ヲ用キタル物ヲ總稱シ大小ノ區別ナシ。苟モ人ヲ殺スニ堪フルモノハ皆刃ト稱ス。「唐律」關敵篇「兵刃所傷人」ノ條註「刃。謂金鐵無二大小之限。堪以殺人者。」(卷二)

【刃傷】 金刃(兵器)ノ刃ヲ以テ人ヲ傷クルコト、兇器中最モ危險ナルモノト看做シ重ニ從テ其罪ヲ論ズ。「唐律」關敵篇「兵刃所射人」ノ條疏議「謂金刃傷人。」(「ホ」ノ部、保)

【刃】 (部首) (眞韻)

【審官院】 宋代官署ノ名、京師文武官ノ選授勳封、考課ノ政令ヲ掌ル。東院西院アリ。東院ハ文選ヲ掌リ西院ハ武選ヲ掌ル。後悉ク選部(吏部)ニ歸シ、東院ヲ尙書(長官)左選ト爲シ流内銓ヲ侍郎(次官)左選ト爲シ、西院ヲ尙書右選ト爲シ、三班院(使臣ノ銓)ヲ侍郎右選ト爲シタリ。(大學衍義) (補卷十)

【審計院】 宋代創設ノ官廳、主トシテ會計ノ事務ヲ司トル。民國ニ及ビテハ大總統ニ直隸シ審計法ニ依リテ國家歲出入ノ決算ヲ審定スルコトヲ掌ル。院長一人、副院長、審計官十五人、協審官二十七人ヲ以テ主ナル職員トス。三廳ニ分設シ審計官三人以上協審官四人以上ヲ以テ之ヲ組織ス。

【審計法】 前記審計院ノ權限及ビ其應ニ審定ヲ行フベキ事項ヲ規定シタルモノ、民國三年十月公布ス。凡ソ十九條ヨリ成ル。

【審檢所】 民國未ダ新制ニ依リテ審判廳ヲ設置セザル地方ニ限リ審檢所ヲ設置シテ其管内民刑訴訟ノ初審案件及ビ初審ノ判決ニ服セザ

ル案件ヲ掌ル。其檢察事務ハ縣知事之ヲ行ヒタルガ後之ヲ廢ス。

【審判】 審問シテ是非曲直ヲ判斷スルノ義、清中葉以前ハ民事ノ訴訟事件ヲ行政官廳ニ於テ審判ヲ爲シタルガ、清末始メテ大理院(審判)ニ當リテ審判ノ最高機關ト爲シ、並ニ京師及ビ各省ノ高等、地方、初級各審判廳(我裁)ニ當リテ分設シ司法ノ獨立ヲ期ス。民國之ニ因ル。

【審錄】 下級審(即チ府州縣)ノ擬律定罪ニ對シテ上級審ノ官吏ガ再審ヲ爲シ其當否ヲ査定スルコトヲ謂フ。(「エ」ノ部、港) (禁)ヲ見ヨ

【宸翰】 天子親筆ノ書翰ナリ。(「宸」ヲ見ヨ) 【宋史】宗室傳「上求得上皇宸翰。懷之以歸。」【魏林玉露】「親親宸翰。」 【宸鑒】 御覽ト言フガ如ク、天子ノ覽ヲ求ムルトキニ用フ。「王僧辨表」新仰宸鑒。 【宸襟】 天子ノ心情ヲ謂フ。宸ハ宮中ノ奧殿、

元ト北宸ノ義ニ取り加フルニムヲ以テシ帝居ノ義ト爲ス。禮ハ衣ノ禮、胸ニ當ルヲ以テ心懷ノ義ト爲ス。【品字箋】宸。室之深奥者。又帝居曰宸。取北宸之義。加レム。象ニ宮室一也。又宸聽。宸衷。宸翰。宸遊等。不ニ敢直指ニ至尊。稱其居一也。

【宸藻】宸翰ト同義ナリ。【沈荃期、詩】「宸藻光溢レ尺。斐歌樂ニ譏豊。」

【宸算】天子ノ計策ヲ謂フ。【十國春秋】「後蜀上ニ表宋嗣。曰。染習偷安。因循積歲。所ニ以上類ニ宸算。」

【宸聰】聰ハ耳ノ敏ナルコト、天子ノ國事民情ニ對シテ顯敏ナルコトヲ謂フ。【宸聰】(見ヨ)

【宸衷】天子ノ國事民情ニ心ヲ用キラル、至情ノ謂ナリ。【宸衷】(見ヨ)

【宸謨】天子ノ計策ヲ謂フ。【邵説、謝表】「宸謨獨斷。」

【尋章】尋ハ尋常ノ義、章ハ章程ノ章、即チ

常法、常典ノ義ナリ【唐律疏議】ノ進表、卓陶創ニ其尋章。其解。創。始制也。尋章。常典也。【卷首】

【尋盟】國ト國トノ舊約ヲ改訂スルコト、條約改正ノ義ナリ。【左傳】「哀公十二年、吳請尋盟。云云。」

【心紅】印肉ノコトヲ謂フ。【下條ヲ】

【心紅銀】各官衙ニ使用スル印肉費ノコトヲ謂フ。【六部成語註解】「心紅。印肉也。衙門中一年用印之費。」

【心證】此語ハ本ト佛敎上ノ語、心カ佛ト相合證スルト云フノ義、近世法ハ我國法ニ用キル意義ニ依リテ此語ヲ用キ、法官ガ或訴訟事件ニ關シ法律ノ規定以外ニ於テ種種ノ方面ノ證據物ニ據リテ心裏上確信ヲ得ルコトヲ謂フ。

十二年七月阿片戰爭ノ結果トシテ、英清兩國間ニ締結セラレタル江寧條約ニ依リ、清國政府ハ廣州福州厦門寧波及上海ノ五港ヲ開キ英國政府ガ領事官等ノ官ヲ派シ、專ラ商賈ノ事宜ヲ辦理セシムト共ニ、地方官ト交渉シ、英國人民ヲシテ一定ノ條件ニ從ヒテ貨稅鈔餉等ノ費ヲ交納セシムルコトヲ許サル。然レドモ尙ホ各開港地ノ關稅ハ清國人ノ手ニ依リテ徵收セラレシガ、咸豐三年廣東ニ於テ劉麗川亂ヲ作シ、上海ヲ陷レテ長髮賊ニ應ズ。此ニ於テ稅務ノ任ニ在ル者皆租界ニ遷レシカバ、稅關モ之ニ從ヒテ移轉シタリ。此ノ時ヨリ關稅事務ヲ外人ニ委スルヲ便トスルノ論起リ、道台亦之ニ和シ、翌年六月上海駐在英米佛領事ト道台トノ間ニ稅關事務ニ關スル章程ヲ議結シ、秩序回復マテ一時外人ニ關稅ノ辦理ヲ委スルコト、爲レリ。而シテ外人ノ辦理其宜ヲ得タルヲ以テ秩序回復ノ後モ外人ノ手ニ委シ、一時ノ便法變ジテ恒例ト爲リ、上海以外

【振窮】(窮ヲ) (ホレノ部) (保) 振ス(息) (見ヨ)

【振古】極メテ古キ世ノ義ナリ。【爾雅】「振古也。」【詩經】周頌載芣芣、匪今斯今。振古如茲。我國ノ註家ハ「振古(古) (ト) 調スル者アリ。」

【振子】童男童女ヲ指ス。【史記】註「振子萬里。(張衡ノ賦) 文選「振子」ニ作ル。又、童女ノミヲ「振女」ト曰フ。蓋シ振下ガ髮ノ義ナルベシ。

【振郵】振ハ賑ノ義、郵ハ恤ニ通ス。即チ窮民ヲ賑恤スルノ義。【南史】會二年。計振郵。振亦倉ヲ發クノ義ナリ。【左傳文公十六年】「振郵云云。」

【振旅】治兵ニ對スルノ語、出軍ヨリ除ヲ整ヘテ歸ルコト、振ハ整フ、旅ハ衆ナリ。本來演習上ノ語ナリ。【周禮】大司馬、中春教振旅。【左傳】隱公五年、三年而治兵。入而振旅。

【新田】(部首) (眞) (調) 古ノ西域ノ地ナリ。西域ニハ、回子(即チ回) 及ビ、準噶爾ノ居住セリ。回子ハ(教徒) (見ヨ)

ニモ推行セラレ終ニ常關ニ對シテ新關ノ名ヲ附シ以テ清代國稅ノ大宗ヲ成スニ至レリ。【清國行政】(法第六卷)

【新陸】清制、荒蕪地ノ開墾成熟ヲ待チテ、其土地ヲ徵稅冊ニ編入シテ租稅ヲ科スルコトヲ謂フ。【戶部則例及ビ】(六部成語註解)

【新田】荒蕪地ヲ開墾シテ二年ニ滿チタルモノヲ謂フ。【爾雅】「田一歲曰菑。二歲曰新田。云云。」

【新寧鐵路】一ニ寧陽鐵路ト名ヅク。原定路ハ新寧ヨリ陽江ニ至ルノ線路ナリ。已成路ハ廣東新寧縣ヨリ三夾海口ニ至ル長一百二十里、寧陽鐵路公司ガ商股ニ依リテ建設シタルモノナリ。

【新法】(一) 新定ノ法律【韓非子】「利在二故法。前令則道レ之。利在二新法。後令則道レ之。」【唐書】「魯公止傳、條ニ上新法。」(二) 宋ノ王安石法令ノ改革ヲ行ヒテ農田、水利、青苗、均輸、保甲

天山南路ニ據リ、準噶爾ハ天山北路ニ據リテ兩々相對持シタルガ、準噶爾ノ勢力增加スルニ從ヒテ回子ハ途ニ之ニ壓迫セラレ、貢賦ヲ供スルニ至レリ。(所謂「阿拉巴圖」) 清朝ノ勢力西域ニ及ブニ當リ、回部諸部落ノ中最モ早ク内附セシヲ「哈密」及ビ「吐魯番」ト爲ス。前者ハ康熙年間ニ内附シ、後者ハ雍正年間ニ内附ス。此ヨリ漸次内附シ、乾隆十九年悉ク西域一面ヲ平定シ、光緒ニ及ビ新ニ一省ヲ設ケテ、新疆省ト稱ス。

【新關】清制、常關即チ舊來ノ稅關ニ對シ、各開港場ニ設置セル稅關ヲ指シテ「新關」ト曰フ。一ニ「洋關」トモ稱ス。今其沿革ヲ按スルニ、西洋人ノ支那ニ對スル通商ハ始メ廣東ノ一局部ニ限ラレ、又其關稅ハ支那從來ノ稅法ニ照シテ粵海關監督之ヲ徵收シタリ。西洋人ノ所謂「ポツポツ」ハ即チ粵海關監督ニシテ、正稅ノ外種種ナル名目ノ下ニ苛稅ヲ課シ、殆ド負擔ニ堪ヘザルモノアリキ。然ルニ道光二



免役、市易、保馬、方田等ニ關スル諸法規ヲ成定ス。之ヲ號シテ「新法」ト爲ス。(宋史王(青苗法ハ、セシ)ノ部詳出)

【新頒律】 新ニ發布シタル刑律ヲ謂フ。律ハ發布ノ日ヲ以テ效力ヲ生ズルガ故ニ從前ノ獄訟ニシテ未決定ノモノハ新律ニ依リテ審判ヲ行フヲ法トス。(新頒律ヲ見ヨ)

【新奉鐵路】 奉天ノ新民縣ヨリ奉天省城ニ至ル鐵道、東ハ南滿洲ニ接シ西ハ關内外ニ連ナル。本ハ我日本軍用ノ爲メニ設ケタル輕便鐵道ナリシガ。光緒三十三年銀百六十六萬元ヲ以テ清國ニ賣渡ス。今ハ關内外鐵路ト合シテ「京奉鐵路」ト稱ス。

【新舍】 開墾三歲ヲ經タル新田ナリ。【詩經】周頌「嗟嗟保介。維莫之春。變何求。如何新田。」

晉 (部首) (韻) 田 (部首) (韻) 【晉贈】 (ヲ見ヨ)

【晉授】 清制、官員已ニ封典ヲ得タル者、第二次以上覃恩合例ニ遇ヒテ給封ヲ請求シ得ル本人ニ與フルヲ「晉授」ト爲ス。曾祖父母、祖父母、父母及ビ妻存スル者ニ與フルヲ「晉封」ト爲シ死セル者ニ贈ルヲ「晉贈」ト爲ス。

【晉鑄刑鼎】 (晉、刑鼎) 魯昭公二十九年晉國ガ范宣子作ル所ノ刑書ヲ鼎ニ鑄リシテ國民ニ公示シタルヲ謂フ。【左氏傳】昭公二十九年「晉鑄刑鼎。著范宣子所爲刑書焉。仲尼曰。晉夫亡乎。失其度一矣。夫晉國。將守唐叔之所受法度。以經緯其民。卿大夫以序守之。民是以能尊其貴。貴是以能守其業。貴賤不征。所謂度也。今棄是度也。而爲刑鼎。民在罪矣。」

【晉封】 (ヲ見ヨ) 風 (部首) (韻) 又ハ霖雨ノ出水シテ澎湃スルコト、春ヲ「春汛」ト曰ヒ、秋ヲ「秋汛」ト曰フ。(サノ部) (三)

【汛】 (一) 清制、軍隊ノ名 (汛地) (二) 雪解又ハ霖雨ノ出水シテ澎湃スルコト、春ヲ「春汛」ト曰ヒ、秋ヲ「秋汛」ト曰フ。(サノ部) (三)

【深刑】 深酷ナル刑罰。【漢書】元帝紀「上失其道。而繩下以深刑。朕甚痛之。」

【深故之罪】 深刻ニシテ故意ニ人ヲ罪ニ入レルコトヲ謂フ。(ケノ部) 見知故縱(深) 【深刻】 慈悲ノ反、殘酷ト云フニ同ジ。【後漢書】光武紀「用刑深刻。云云。」

【深室】 囚人ヲ入レル室ナリ。(普通ノ義ハ) 【左傳】「晉人執三衛侯。歸之於京師。請置諸深室。」其註「囚室也。」

【深文】 深刻ナル法令ノコト、深ハ深刻、文ハ法文ノ略ナリ。【漢書】張湯傳「湯與趙禹共定諸律令。務在深文。」

【清陽】 今ノ盛京ノ別名ナリ。清太祖遼陽ヨリ都ヲ此ニ遷シテ盛京ト爲ス。後ニ奉天府ヲ置クニ及ビテ陪都ト爲ス。光緒二十九年、中美條約ニ及ビ「中日條約」ヲ改訂シテ商埠(貿易開港場)

【津貼】 不足ヲ補足スルノ義、例セバ一定ノ俸給又ハ一定ノ經費ノ外特別ノ名目ヲ以テ支

【津逮】 古人ガ書籍ヲ藏メタル石室ヲ探グリ其石室ニ至リ及ブノ義、【水經注】「懸巖之中。多石室。室中有積卷一矣。而世上罕有津逮者。」明、毛晉「津逮秘書」ノ校刊アリ。秘書多キノ義ニ取ル。

【津梁】 橋ヲ川上ニ立テ、行人ノ往來ヲ便ニスルコトヲ謂フ。【說苑】「三月而溝渠修。十月而津梁成。」後漢書「蓋延傳」北度「泗水。壞二舟。壞津梁。僅而得免。」

【深衣】 古代ノ制服、衣ト裳ト相連リ人體ヲ深遠ナラシム故ニ之ヲ「深衣」ト謂フ。【禮記】深衣篇アリ、其疏「連衣裳而純之。以采者。素純曰長衣。有采者。則謂之中衣。」大夫士朝祭ノ衣服。庶人ハ吉禮ノ服トス。

【深劾】 嚴重ニ其罪ヲ質スコトヲ謂フ。【齊書】陸澄傳「詔曰。澄表據多。謬不不足。深劾。可。白衣領職。」

【深拱】 天子、宮中ニ默坐シテ天下ノ休戚ヲ考フルノ義、【史記】李斯傳「陛下深拱禁中。

【津貼】 不足ヲ補足スルノ義、例セバ一定ノ俸給又ハ一定ノ經費ノ外特別ノ名目ヲ以テ支

【津逮】 古人ガ書籍ヲ藏メタル石室ヲ探グリ其石室ニ至リ及ブノ義、【水經注】「懸巖之中。多石室。室中有積卷一矣。而世上罕有津逮者。」明、毛晉「津逮秘書」ノ校刊アリ。秘書多キノ義ニ取ル。

【津梁】 橋ヲ川上ニ立テ、行人ノ往來ヲ便ニスルコトヲ謂フ。【說苑】「三月而溝渠修。十月而津梁成。」後漢書「蓋延傳」北度「泗水。壞二舟。壞津梁。僅而得免。」

【深衣】 古代ノ制服、衣ト裳ト相連リ人體ヲ深遠ナラシム故ニ之ヲ「深衣」ト謂フ。【禮記】深衣篇アリ、其疏「連衣裳而純之。以采者。素純曰長衣。有采者。則謂之中衣。」大夫士朝祭ノ衣服。庶人ハ吉禮ノ服トス。

【深劾】 嚴重ニ其罪ヲ質スコトヲ謂フ。【齊書】陸澄傳「詔曰。澄表據多。謬不不足。深劾。可。白衣領職。」

【深拱】 天子、宮中ニ默坐シテ天下ノ休戚ヲ考フルノ義、【史記】李斯傳「陛下深拱禁中。

【舊唐書】「以後所レ有祥瑞。但合レ申ニ報有志。不得ニ上聞。」

【申命】 申ハ重復ノ義、命ハ命令、重キテ命ズルノ義ナリ。【易經】巽卦ノ象辭「重巽。以申レ命。」【書經】堯典「申ニ命義叔。」

【申明亭】 州縣各里皆申明亭ヲ設ケ民ニ不孝、不弟、犯盜犯姦等一應ノ惡事ヲ爲シタル者ノ姓名事蹟ヲ板榜ニ書シ之ヲ掲出シテ其羞惡ノ心ヲ發セシム。能ク過ヲ改メテ自新シタル者ハ之ヲ去ル。戶婚田土等(戶口、婚姻、田土)ノ小事ハ其里ノ父老此ニ於テ勸誘和解スルコトヲ許ス。乃チ教誡ヲ申明スル處ナリ。【明律卷二十六、清律卷三十二】(刑律雜犯高拆毀申明亭ノ條)

【申令】 民國ノ制、大總統命令ノ一、法律、敕令、條約、豫算ヲ公布シ、又ハ各官廳及文武官ニ對スル訓示、其他大總統ガ其職權ニ依リテ執行スルノ事件ハ皆「申令」ヲ以テ之ヲ行フモノトス。

神 (部首) (眞) (讀)

【神祇】 天神、地祇ノ合語、天ノ神ヲ神ト曰ヒ、地ノ神ヲ祇ト曰フ。【論語】述而篇「禘、爾子上下神祇。」

【神器】 天子ノ位ヲ代表スル器、玉璽、寶鼎ノ類我國ノ三種ノ神器ノ如シ。班彪撰「王命論」云「不レ知ニ神器有レ命。不レ可ア以ニ智力ニ求レ也。」

【神號】 祭時ニ用キル尊稱、(號)ヲ見ヨ。

【神道】 天地造化ノ法則ヲ謂フ。【易經】觀卦ノ象「觀ニ天之神道。而四時不レ忒。聖人以ニ神道ニ設レ教。而天下服矣。」トアルニ出ヅ。明丘濬曰ク「聖人觀ニ天之神道。以設レ教。謂レ如ア天之春而夏。而秋。而冬。當レ暖而暖。當レ寒而寒。無ニ一時之差忒。不レ見ニ其有レ所作爲。自然而然。所謂神也。云云。」(大學衍義補 卷六十七)

【簪花】 祝宴ノ時、頭ニ戴ク花簪ナリ。【宋史】司馬光傳「中ニ進士甲科。年甫冠。性不レ喜ニ華飾。」

【簪花】 祝宴ノ時、頭ニ戴ク花簪ナリ。【宋史】司馬光傳「中ニ進士甲科。年甫冠。性不レ喜ニ華飾。」

【簪花】 祝宴ノ時、頭ニ戴ク花簪ナリ。【宋史】司馬光傳「中ニ進士甲科。年甫冠。性不レ喜ニ華飾。」

【紳衿】 紳ハ摺紳ノ略、身ニ大帶ヲ帶フ身分アル者、衿ハ青衿ノ略、府州縣學ノ學生ヲ謂フ。昔時合シテ「紳衿」ト曰フトキハ士大夫ノ在郷者ノ稱トス。

【紳笏】 大帶ハ笏(シヤ)文武式禮ノ時ニ著ケル裝束ナリ。【宋史】劉伯正傳「紳笏儼然。聲色不レ動。」

【紳帶】 大帶ノコト、文官儀式ノトキ之ヲ著ス。【後漢書】第五倫傳「劉ニ著五臟。書ニ諸紳帶。」

【紳辦】 釐金徵收等ニ就キ、便宜上其地方ノ紳士ニ委嘱シテ辦理サシム之ヲ「紳辦」ト謂フ。(諭摺)

親 (部首) (眞) (讀)

【親】 (一)父母ヲ稱ス。【孝經】「愛レ親敬レ親者。不レ敢慢ニ於人。受敬盡ニ於事親。然後德教加ニ於百姓。刑ニ於四海。蓋天子ノ孝也。」【禮記】「忘日必哀稱レ諱。如レ見レ親。祀之忠也。」又「孔子曰。身也者親之枝也。敢不レ敬與。云云。【孟子】「事孰爲レ大。事レ親爲レ大。」(二)親族ノ稱。【禮記大傳】「親。屬也。疏。謂有レ親者。各以レ屬而爲ニ之服。」【左傳】昭公十四年「緣勳合レ親。」杜註「親。九親也。」

【親耕】 天子躬ヲ藉田ヲ耕スノ典禮ナリ。【穀梁傳】「天子親耕以共ニ粢盛。」(推)【親衛】 宿衛ノ事ヲ掌ル官、漢ノ三署郎ノ如シ。隋始メテ本官ヲ置ク。後世之ヲ親衛用ス。明代ニ至リテ廢ス。

【親供】 自ラ或ル要件ヲ書シテ提供スルコト例セバ始メテ官吏ニ委任セラレタルトキ、親ラ履歷書ヲ書キテ提供スル等其一例ナリ。【六

部成語註解「此官親筆所レ書之履歷單。」

【親管頭目】 指揮使官以下小旗(一旗)ヲ總稱ス。(補篇從駕稽察ノ條)

【親迎】 古來婚姻ハ六禮ノ舉行ヲ成立要件ト爲ス。親迎ハ最後ノ儀式ニシテ夫タル男子ガ妻タル女家ニ往キテ妻ヲ迎ヘテ歸ルノ式ナリ故ニ「親迎」ト曰フ。(禮)ヲ見ヨ。

【親告罪】 被害者ノ自訴自告ニ因リテ受理スルノ罪ナリ。例セバ祖父父母父母ノ生在中ハ子孫ハ別籍異財スルコトヲ得ズ、又父母ノ喪中(年)ハ父母ノ遺命アルヲ除クノ外兄弟ハ別籍異財スルコトヲ得ズ(異財)ヲ見ヨ。若シ之ヲ犯セバ前者ハ祖父父母父母ノ親告罪トシ後者ハ期親以上ハ尊長ノ親告罪トス。前者ハ「清律」戸律戸役篇「別籍異財」ノ條脚註「須ニ祖父父母親告」乃坐。後者ハ同ジク「須ニ期親以上尊長親告」乃坐。或奉ニ遺命者。不レ在此律。(七)

【親蠶】 古ハ季春ノ月皇后躬親ヲ養蠶ヲ爲シ

給ハル、ノ典禮ナリ。【穀梁傳】桓公十四年「王后親蠶以共ニ祭服。」

【親身關牌】 (牌)關(ス)内府(我宮内省)ニ當直スル者ガ自身直接ニ門札ヲ領收スルコトヲ謂フ。(明律清律戸律宮衛篇内)

【親屬】 凡ソ本宗親及ビ外姻ノ喪服關係アル者ヲ兼稱ス。

【親族】 同宗親(父系)ニ限リ親族ト稱ス。父系及ビ母系ヲ合スル者ハ親屬ト稱ス。

【親屬相盜】 此ニ言フ親屬ハ居テ同クセズ財ヲ共ニセザル親屬ヲ指稱ス。支那法ハ一家ノ財產ハ家族ノ共有物ト看做セルガ故ニ(管理)及ビ處分權(ハ)同居ノ親屬間ニ在リテハ竊盜罪ヲ構成セザルヲ原則トス【明律】刑律賊盜篇「親屬相盜ノ條」同文ヲ以テ、凡各居親屬。相盜ニ財物者。期親減凡人五等。大功減四等。小功減三等。緦麻減二等。無服親減一等。並免レ刑。若行ニ強盜者。尊長犯ニ卑幼亦各依レ上減罪。卑幼犯ニ尊長以ニ凡人論。云云。

ト規定ス。即チ親屬關係ノ親疏ニ因リテ區別シ親ヲ輕クレ疏ヲ重クス。相盜トハ互ニ相盜ムノ謂ナリ。若シ同居ノ卑幼ガ他人ヲ將引シテ自家ノ財物ヲ盜ミタルトキハ卑幼ハ私擅用財物ノ條ニ依リテ論ジ二等ヲ加ヘ他人ハ凡盜ニ一等ヲ減ズルヲ法トス。(明律卷十八清律卷二十四)

【親聞】 官吏ガ奉制ノ使臣ヲ罵リ郡民ガ本屬知府知州ヲ罵リ軍士ガ本管長官ヲ罵リタルトキハ並ニ本人ノ親ヲ上聞スルヲ俟ツテ之ヲ罰ス之ヲ「親聞乃坐」ト謂フ。(明律卷二十一、清律卷二十七) 官長ノ條「私人ニ在リテハ、親告」ト謂フ。(同上) 奴隸罵(家長ノ條)

【親聞乃坐】 (前條ヲ見)

【親廟】 天子ノ高祖、曾祖、祖、(父)ノ廟ヲ稱シテ親廟ト爲ス。漢書「章元成傳」蓋聞明王制「立親廟四。祖宗之廟。萬世不廢。」

【親母】 嫡子ハ父母共ニ親字ヲ附シテ「親父」「親母」ト曰フモ妾出ノ子ハ生母ノミヲ親母ト

曰ヒ。父ニハ親字ヲ附セズ。  
【親老丁單】 民國現行法律ノ名詞、父母年七十歳以上ニ在ルヲ老ト爲シ家ニ十六歳以下ノ次丁(男)ナキ者ヲ「丁單」ト爲ス。

【親王】 (一)南北朝周及ビ隋ハ皇帝ノ伯叔兄弟及ビ皇子國ニ封セラレバ皆之ヲ親皇ト謂フ。【隋書】百官志「皇伯叔昆弟皇子是爲親王。」但シ(二)周、隋ハ皇帝ノ兄弟及ビ皇子ハ國ニ封セラレテ後始メテ親王ト稱シタルガ如シ。唐始メテ皇子ヲ親王ト稱ス。【唐書】百官志「皇兄弟皇子皆封國爲親王。親王之承レ嫡者爲嗣王。此從周所制也。本朝稱皇子ニ爲親王一本レ之。清代ハ封爵ノ名ト爲ス。

【訊】 (一)詰問、詰ヒ謀ルノ義、近世ノ陪審制度ニ於ケル法例ノ適用ヲ陪審官及ビ民間選出ノ陪審者ニ詰ヒ謀ルノ義ナリ。【周禮】小司寇「以三刺三聽庶民獄訟之中。」一曰訊三群臣。二曰訊三群吏。三曰訊三萬民。云云。(二)國ノ政治ヲ進取ト曰フ。【六部成語註解】倉中放米之入室曰「進取」。

【身家不清】 清制、科舉即チ官吏登用試験ハ四民平等、身分ノ區別ナキモ俳優、乞丐、隸卒等ハ之ヲ「身家不清」ト稱シ其本人ハ勿論其子孫モ身分ヲ回復シテ三代ヲ經ザレバ試験ニ應ズルコトヲ得ズ。(會典)

【身言書判】 唐代、官吏ト爲ル資格ニ四アリ、一ヲ身(容)ト曰ヒ、二ヲ言(辭)ト曰ヒ、三ヲ書(筆)ト曰ヒ、四ヲ判(文理、即チ判)ト曰フ。【唐書】選舉志「凡擇人之法。有レ四。一曰身。言體貌豐偉。二曰言。言辭辯正。三曰書。言楷法遒美。四曰判。言文理優長。四事皆可レ取。宋代モ初ハ之ニ因ル。(大學衍義)

【身丁錢】 丁税(見)ノ別稱ナリ。唐代ニ始マリテ宋以後之ニ因ル。(鄭氏)

【進取】 倉中更ニ米ヲ放置スル分室アリ、之

ニ就キ上ヨリ下ニ問フヲ訊ト曰フ。【公羊傳】僖公十年「荀息曰。君嘗訊臣矣。」註「上問下曰訊。」

【訊讞】 職場ニ於テ敵人ヲ殺シ其耳ヲ截ツテ音ニ代フルヲ「讞」(カ)ト曰ヒ、生禽者有罪ヲ訊問シテ其實ヲ明ニスルヲ「訊」ト曰フ。訊讞ハ凱旋ノ後國學ニ於テ釋奠ヲ行ヒ之ヲ報告スルヲ式例トス。學校ハ聖王文德ノ地ナルヲ以テナリ。【禮記】王制篇「天子出征。執有罪者二而反。釋奠於學。以訊讞。告。」其註ハ「一様ナラザレドモ。此義ニ解スルヲ正シトス。」

【訊問】 法官ガ公然罪ノ有無ヲ訊問スルノ義ナリ。【後漢書】郭舉傳「罪無申證。獄不訊問。」此。乃精加訊檢。華果引証云云。  
【訊問】 訊問シテ犯罪ノ事實ヲ檢察スルノ義ナリ。【北史】源賀傳「武邑袁人石華。告沙門道可與賀謀反。有司以聞。文成曰。賀保無此。乃精加訊檢。華果引証云云。」

【進口稅】 清制、外國輸入貨物ニ對シ海關ニ於テ徵收スル稅ヲ謂フ。(日用百)

【進士】 進士ノ名ハ周代ニ起ル。【禮記】王制篇「大樂正論進士之秀者。」以告於王。而升諸司馬。一曰進士。一曰進士。是ナリ。隋煬帝ノ時進士科ヲ設ケ官吏ノ任用ハ一ニ之ニ由ルコト爲シタリ。唐亦之ニ因ルト共ニ、應試者ノ資格ヲ生徒、鄉貢、制舉ノ三種ト爲シ、科目ヲ秀才、明經、進士、明法、明字、明算ト爲シタリ。其「生徒」ト云フハ國子監以下學館出身者ヲ曰ヒ、「鄉貢」トハ學館ニ由ラズ州縣ノ推擇ニ係ル者ヲ曰ヒ、「制舉」トハ臨時勅選ニ由リテ才能卓越ノ士ヲ登用スルコトヲ曰フ。韓退之ノ如キハ鄉貢ニシテ進士科ニ應ジタル者ナリ。故ニ其上書等ニハ「鄉貢進士」ト書ス。然レドモ進士ト云フハ進士科ニ應ジ及第シタル者ノ

名稱ニシテ、後ノ進士トハ其性質ヲ異ニス。後ノ進士ハ殿試ニ及第シタル者ノ特稱ニシテ明代以後ノ事ニ屬ス。科舉三層ノ制ハ宋代ニ於テ確立シタルモ、宋代ニ於テハ前代ノ遺制ニ基キ、進士、明經、明法ノ三科ヲ置キ、進士ハ即チ科目ノ名タルニ過ギザリキ。明代ハ三層ノ制ヲ製用スルト同時ニ、鄉試ニ及第シタル者ヲ「舉人」ト稱シ、會試ニ及第シタル者ヲ「貢士」ト爲シ、殿試ニ及第シタル者ヲ「進士」ト爲ス、此ヨリ進士ハ學位ノ稱ト爲ル。

【進士科】 官吏登用試験ノ科名、所謂鄉貢進士ニ對シ禮部ニ於テ行フノ試験、隋ヨリ始マル【大學衍義補】隋始置進士科。臣按。此後世進士之科之始。云云。(卷五)

【進善旌】 昔、堯帝ノ時朝廷ノ前、一定ノ場所ニ旌ヲ建テ、善事ヲ上ニ進言セント欲スル者ハ其旌下ニ立ナテ言ハシメ、其係ノ者ヲ經テ朝廷ニ進セシム。之ヲ「進善旌」ト謂フ。【史記】學文帝紀「古之治天下。朝有進善諍諫之木。

云云。管子。舜有二告善之。而主不殺也。  
【進奏院】 官廳ノ名。詔勅及ビ三省等ノ宣制符牒ヲ受ケテ之ヲ諸路ニ頒布スルコトヲ掌ル

【事物紀原】 唐大曆十二年勅。詔置上都留侯院。以官改曰上都進奏院。此蓋其始也。宋朝會要曰。唐藩鎮皆置留。京師謂之。上都留侯院。大曆十三年改。上都知進奏院。五代支那

【進奏吏】 進奏院ノ屬官。宋史。進奏吏。給事中。掌受詔勅及三省。樞密院宣制。六曹寺監百司符牒。頒布諸路。

【進丁】 丁年ニ達シ賦役ニ應ズベキ男子ヲ謂フ。唐律。名例篇。犯死罪非十惡ノ條疏議。家有二期親進丁。及親終更奏。如元奉。進止。者上

【進呈寶錄】 清制。歷世ノ皇帝(即チ)實ヲ用キテ政ヲ行フ。一之ヲ冊ニ錄ス。之ヲ寶錄ト曰ヒ。内閣日ヲ按シテ皇帝ノ閱覽ニ供ス。之ヲ進呈ト謂フ。(皇朝政治)

震 (部首) (又震)  
【震宮】 皇太子ノ宮ヲ謂フ。震ハ易八卦ノ一。長男ト爲ス故ナリ。盧僊。上幸太子宮。應制詩。佳氣晚慈。乾行入震宮。

【震旦】 印度。昔時支那ヲ稱シテ。震旦ト曰フ。續譯名義集。東方屬震。是日出之方。故云。震旦。今人或ハ曰ク。震ハ秦ノ音轉ニテ。秦且ハ所謂。斯坦義地ト爲ス。即チ秦地ヲ稱ス。

【震謨】 天子政治上ノ計策。謨ハ書經。卑陶謨等ノ謨ナリ。邵說。謝封表。實謨獨斷。

す (ス) ノ 部

垂 (部首) (又垂)  
【垂拱】 衣ヲ垂レ手ヲ拱キ何等人爲ヲ加ヘズレテ國ノ治マルコト天下泰平ノ謂ナリ。書經。武成篇。惇信明義。崇德報功。垂拱而天下治。禮記。玉藻篇。凡侍於君。垂拱。

【垂統】 帝王ノ統緒ヲ繼承シテ後世ニ垂レルコトヲ謂フ。孟子。梁惠王篇。君子創制垂統。統爲可繼。

【垂簾之政】 天子幼少又ハ其他事故ノ爲メニ天子國政ヲ親ニスル能ハザルトキ皇太后。太后等一時之ニ代リテ政事ヲ聽クコトヲ。垂簾之政ト曰フ。麗。垂レテ玉額ヲ顯ハサマルノ義ニ取ル。漢。呂后ニ始マリ唐。則天武后。宋。

【垂拱格】 唐ノ則天武后ノ時制定公布シタル法令。官吏ノ職掌ニ關スル法規ナリ。(リ) (ノ) 部

【垂祉】 許ハ幸福。即チ幸福ヲ子孫ニ傳フルノ義ナリ。宋史。梁志。發祥垂祉。永世貽孫。

【垂社】 社ハ幸福。即チ前條ト同義ナリ。宋史。神宗元傳。宗社垂祉。啓二祐皇心。

【垂仲】 四瀆喇嘛ノ能ク神靈ヲ身ニ附ケテ言ヲ爲シ。以テ神意ヲ傳達スル喇嘛ノコトヲ謂フ。

【推勘院】 推勘ハ罪情ヲ推問シテ事實ヲ取調ベルコト(宗史太) 後世臨時ニ裁判ヲ掌ル官署ヲ。推勘院ト曰フ。(置權者) (見ヨ)

【推究所因】 (因ル所) 犯罪事件ノ因ツテ起ルノ義。即チ其原因ヲ推シ究メテ罪ヲ定ムルコトヲ謂フ。讀律提綱。律必推究所因者。所因指事言。謂所犯因。此事。而致也。如。威。逼人。致。死。條。特。重。因。姦。因。盜。之。罪。是也。(學海堂)

【推官】 法官ノ稱。唐之ヲ置キ以テ節度觀察兩使ノ僚屬ト爲ス。其後諸州皆之ヲ置ク。一ニ亦。軍事推官トモ曰フ。其次官ヲ。衙推ト爲ス。宋ハ其制ニ沿フ。元明ハ各府ニ推官一人ヲ置キ。專ラ一府ノ刑名(刑事)ヲ理メシム。俗ニ之ヲ。刑廳ト謂フ。清ハ初メ之ニ因リタルモ後之ヲ廢ス。

【推己以議物】 (己) (ヲ) (推) (シ) (テ) (以) (テ) (物) (ヲ) (議) (ス) 法官が裁判ヲ爲スニ己レノ心ヲ推シテ他人ノ犯罪ヲ酌議スルコトヲ謂フ。(タ) (ノ) 部 (探)

章獻太后。宣仁太后ノ如キハ其實例ナリ。近ク清代ニ於テハ同治及ビ光緒初年ノ慈安。慈禧兩皇太后ノ聽政。光緒中年後ノ慈禧皇太后(即チ) (四) ノ聽政ノ如キ皆是ナリ。惟ダ清朝ハ表面上太后等女皇ノ親政ナキヲ原則トシタルガ故ニ表面ハ皇帝ノ名ヲ以テ之ヲ行フ例トセリ。同治帝即位初年ノ上諭。我朝向無皇太后垂簾之儀。云云。然レドモ皇帝ト雖モ母后皇太后在セバ其敕命ヲ尊重セザルベカラズ。【推】 (一) 天子及ビ公卿諸侯ガ農業獎勵ノ爲メニ親ヲ耒ヲ執リテ歩ヲ田圃ニ進メテ耕スコト。即チ籍田親耕ノ場合ニテ一定ノ式アリ。【禮記】 月令篇。孟春。躬耕。帝籍。天子三推。三公五推。卿諸侯九推。其註。執耒而進。謂三之推。二(二) 己レノ有スル所ヲ譲リテ人ニ予フノ

義。【史記】 淮陰侯傳。解衣衣我。推食食我。【後漢書】 光武紀。推赤心置人腹中。【三】 推薦スルノ義。【書經】 周官篇。推賢讓能。庶官乃和。【禮記】 儒行篇。上弗援。下弗推。【四】 推究又ハ推擊ノ義。故ニ法官ヲ推事ト曰フ。【史記】 酷吏傳。天水略。推減。註。謂推擊之。以成獄也。(推事) 【推諉】 己ノ責任ヲ他ニ委スルコトヲ謂フ。【正韻】 諉。猶。委也。言。何可。他委。後人因借爲。推諉。【明。清會典】 ニハ各部各所ニ散見スル語ナリ。

【推恩】 昔時ハ君恩ヲ衆ニ推シ及ボスノ義ニ用フ。【孟子】 梁惠王篇。故推恩足以保四海。【清制】 ハ皇太后及ビ皇后ノ父ニ爵位ヲ授クルコトヲ。推恩ト謂フ。【嘉慶會典】 略。三曰。推恩。以逮外戚。其附例。外戚推恩皇太后皇后之父。爲三等承恩公。其不係嫡后者。封爲二等承恩公。已故者皆追贈。俱世襲罔替。

【推故不受理】(推故シテ)事故ニ推托シテ訴狀ヲ受理セザルコトヲ謂フ。【明律】清律刑律訴訟篇「告狀不受理」ノ條「若詞訟元告被論。在二兩處遞州縣一者。聽元告就二被論官司一告理歸結。推故不受理一者亦如之。」(明律卷二律卷二)

【推刻之吏】檢酷ナル法官ヲ謂フ。(大學衍義補)武后時。侍御史周矩上疏曰。推刻之吏。以二深刺二爲レ功。云云。(卷百)

【推穀寄重】(穀ヲ推シテ)推穀ハ人ヲ事ニ乗セ後ヨリ推スノ義(史記魏其)即チ人オヲ推舉シテ重任ヲ託スルノ謂ナリ。【唐律】擅興篇「任人稽留」ノ條疏議「推レ穀寄重。義實二英雄。」(卷十)

【推事】裁判官ノコト。宋代大理寺ニ左右推事ヲ置キタルニ始マル。大理寺ハ清末大理院ト改ム。即チ我大審院ニ當ル。民國亦之ニ因ル。

【推收】一定順序ヲ推行シテ其所有權ヲ收得スルノ義ナリ。【元典章】戶部需買典章「買三賣田宅」告官推收ノ條アリ。「今後典三賣田宅。先行レ經三官給レ據。然後立レ契。依例投。稅。隨時推收。云云。」(規定ス。(卷十))

【推授】應ニ階級スベキ願番ニ當レル官吏中ヨリ一定ノ人員ヲ拔キ、其俸金及ビ正陪ノ順序ヲ立テ、推薦シ、引見ヲ經テ官職ヲ補授スルコトヲ謂フ。【清會典】吏部「推授」ノ註「以二應升之員。論レ俸擬三正陪。推二取二十人。引見補授。」

【推丞】宋代ノ大理寺ハ左寺右寺ニ兩分シテ左寺ハ專ラ法制ノ適用ヲ掌リ、右寺ハ推問理獄ヲ掌レリ。推丞ハ右寺ノ主任ニシテ卿及ビ小卿ノ監督ノ下ニ其事務ヲ掌ル者ナリ。(宋史)後世概ネ之ニ因ルト雖モ、其職掌ハ宋代ノ右寺ノ事務ヲ專トシ、推問理獄ノ事ハ刑部之ヲ掌レリ。從テ左寺右寺ノ區別ハ職務上ノ區別ニアラズシテ、唯ダ編制上ノ形式タルニ止ル。

【推排法】宋ノ景定五年ニ行ヒタル田稅整理ノ法、其法ハ縣ヲ以テ都ヲ統ヘ、都ヲ以テ保ヲ統ヘ、才略アリ且ツ公平ナル者ヲ選任シテ田稅ヲ整理セシメ、之ヲ圖冊ニ登載シ農民ノ財產ヲ明ニシテ之ヲ保存スルト共ニ一定ノ率ニ依リテ租稅ヲ賦課シ其稅額ヲ戶籍ニ記入マレリ。(歷代職官表)卷二十二

【推籍】推薦ト言フニ同ジ。【大學衍義補】「襄說喜推三籍後進。」(卷十)

【推擇】推ハ人材ヲ下ヨリ推舉スルコト、擇ハ上ニ於テ擇用スルコトヲ謂フ。【史記】淮陰侯傳「不得ニ推擇爲レ吏。」

【推託】(一)適任者ヲ推舉シテ事件ヲ囑託スルコトヲ謂フ。【中論】「推ニ託恩好。不レ較ニ輕重。」(二)今ハ己レノ欲セザル事ヲ辭フ設ケテ辭去スルコトニ用フ。

【推調】雙方互ニ責任ヲ避クルコトヲ謂フ。(カノ部)含稱(行移)ヲ見ヨ

【捶楚】刑事被告人ヲ詰責スルニ用ケル杖ナリ。【漢書】路溫舒傳「捶楚之下。何求而不レ得。故囚不レ勝レ痛。則飾レ辭以觀レ之。」

【捶扑】刑事被告人ヲ詰責スルニ杖ヲ加フルコト、杖罪ノ一種ナリ。【三國魏志】何夔傳「加二其捶扑之罰。」

【水引】水先キ案内ノ義ナリ。

【水勇】清朝時代ノ水兵ノ稱ナリ。(關邦兵)備略

【水曳工費銀】清制、礦山開採ノトキ、礦坑排水ノ費用ニ充ツル銀ヲ謂フ。(戶部)則例

【水衡】水澤ヲ掌ルノ官名ナリ。(下條)參照

【水衡錢】水衡ハ水澤ノ政ヲ掌ルノ官、收入特ニ多シ。故ニ漢ノ宣帝ガ平陵ニ徙民ノ第宅ヲ起ストキ水衡所藏ノ錢ヲ以テ其費用ニ充ツ。因テ之ヲ「水衡錢」ト謂フ。【漢書】宣帝紀

【水脚】(一)海水路貨物ヲ運漕スル貨銀、(二)宋史「食貨志」罷三鼓鑄。盡取二木炭銅鉛本錢及官吏兩類衣糧水脚之屬。」(三)旅費ノ一種、但シ清制ハ租稅取立ノ爲メニ役員ヲ差遣スル場合ハ其旅費ヲ納稅者ヨリ加徵スルヲ法トスルガ故ニ一種ノ手數料ト看ルベキ場合多キモ、政府ガ舉人ノ上京其他官吏ニ支給スルトキモ、「水脚」又「水脚銀」ノ名ヲ用ケルガ故ニ廣ク旅費ト看ルヲ可トス。(會典吏部)及(比科場條例)

【水課】清制、河水ヲ利用スル者ニ課スル稅ヲ曰フ。【六部成語註解】課。稅課也。屬レ徵水利稅課也。

【水庫】水車(龍骨車)ヲ以テ水ヲ田ニ汲入スルコト、即チ「厚水」ノ別名ナリ。(農政)全書

【水獄】水中ニ毒蛇ヲ聚メ置キテ罪人ヲ之ニ

投ズルヲ「水獄」ト曰フ。【資治通鑑】水獄註「聚三毒蛇水中。以二罪人二投レ之。謂レ之水獄。」

【水師】周代ヨリ已ニ存スル官名、共工氏ハ水ノ瑞アリ。水ヲ以テ官名ト爲ス。周官亦水師アリ。未ダ水軍ノ名ニアラズ。清朝始メテ海水軍ノ名ト爲ス。外海水師、長江水師ノ別アリ。其長官ヲ提督ト爲ス。

【水次】河水沿道ノ區別ヲ謂フ。【六部成語註解】沿河之區也

【水船】河水ヲ往來スル小船、一ニ「三板船」トモ稱ス。(六部成)語註解

【水黨】黃河流域ノ要處ヲ扼シテ劫奪ヲ行フ盜賊ヲ指稱ス。【六部成語註解】「河路行レ劫之盜也。」

【水中丞】水孟(文房貯)ノ別名、即チ文房貯水器ノ大ナルモノヲ曰フ。林洪ガ文房ノ圖贊ニ水孟ヲ稱シテ「水中丞」ト曰ヒタルニ始マル。

【水廳】詞部(ヲ見ヨ)ノ別稱。【錦字箋】「詞

部稱「水端」言清冷也。(同書) 卷一

【水程道費】 清制、運濟營業者ヨリ道台ニ照單即チ免許鐵札ノ下付ヲ請求スルトキニ上納セシムル手數料ナリ。【六部成語註解】「凡船戶水路往來皆應請領照單」

【水排】 水力ヲ藉リテ精礪(火ヲ起)ヲ推引レテ農具ヲ鼓鑄スルコトヲ謂フ。【後漢書】杜詩傳「杜詩造二作水排。鑄爲農具。註「治鑄者。爲排吹炭。令激水以鼓之也。」

【水部】 官名、溝洫其他水道ノ事ヲ掌ル。「事物紀原」周禮夏官有「司險。掌溝洫。蓋水部之職也。魏尙書始有「水部郎」。

【水部郎】 (同條) 見ヨ

【水利】 水田ニ灌溉スル水道ノ利、魏ノ李愷之ヲ始ム。但シ灌溉ノ利ハ三代巳ニ之アリタルモ李愷更ニ之ヲ改良シタルモノト看ルベシ。【事物紀原】「治草曰。井田廢。溝澮埋。水利所ニ以作一也。本起ニ於魏李愷。通典曰。魏文侯使李愷作「水利」(卷)

【水利衙】 清制、江防(揚子江流域)ニ從事スル地方官ニ帶領セシムル位階ヲ謂フ。(嘉慶會典卷七百四、衙ハ)

【水輪】 翻譯語、水力ヲ以テ旋轉スル車、諸般ノ工業ニ應用ス。支那ハ古來「水確」ト稱ス。之ニ當ル。

【瑞記洋行南京借款】 日清戰役第一次賠償金五千萬兩ニ充テング爲メニ西曆一千八百九十五年七月柏林獨逸銀行、海德公司、韓博克布倫洋行ヨリ借入レタルモノ、總額一百萬鎊、年利六部毎半年正月一日、七月一日ニ支拂ヒ六年據置キ以後十五年間ニ償還スルコト、定メタルモノナリ。(「コレノ部」克薩借款) (「コレノ部」露佛借款) 照對

【瑞祝】 (「リ」部、六) 祝ヲ見ヨ

【蕞符之盜】 蕞符ハ草ノ名、葦蒲ノ類、盜賊ノ以テ隱匿スル場所ト爲ス。即チ「草窠」ノ義ニ用フ。【左傳】昭公二十一年「鄒子大叔與二徒兵。以攻蕞符之盜。盡殺之。」

【蕞符之澤】 盜賊ノ隱匿シ易キ場所、即チ「蕞符」ト云フニ同ジ。【左傳】鄭國多盜。取二人於蕞符之澤。故ニ後世蕞符ヲ以テ草賊ノ別稱トス。(參照)

【蕞符聚藪】 蕞符ハ草賊ノ別稱、即チ草賊ノ屯聚セル處ヲ指稱ス。【六部成語註解】「蕞符。草窠也。言其地爲草窠屯聚之所一也。」

【蕞符】 (部首) (支) (韻)

【筆策】 二字トモ馬ヲ鞭ツノ杖ナリ。以テ刑罰ノ杖答ノ義ニ用フ。【孔子家語】「不能御民者。棄其法。專用刑辟。譬猶御馬棄其銜勒。而專用策策云云。」

【筆楚】 杖刑ノ別稱ナリ。【雲麓漫鈔】「杜詩云。脫身簿尉中。始與一筆楚。昌黎詩云。判司卑官不堪填。說未。免筆楚塵埃中。云云。」

【筆梃】 篇ハ馬ニ加フル槓、挺ハ龜大ナル杖、

國民發揚ノ際互ニ之ヲ用キテ團聚ス。【漢書】吾丘壽王傳「秦兼天下。隨二名城。殺二家徒。餽二甲兵。折二鋒刃。其後民以二獲。錮錮二相建。註「錮馬槓。挺。大杖。」

【筆令】 漢景帝ノ時詔シテ筆令ヲ定ム、管三百ヲ減ジテ二百トシ管二百ヲ減ジテ一百トス。【漢書】刑法志「景帝中六年定「筆令」。」大學行補義「景帝中六年詔曰。加レ管者。或至レ死而管未レ畢。朕甚憐レ之。其減管三百曰二百。管二百曰一百。又簡者所ニ以敬之也。其定管令。(卷百) (三)

【遂】 (部首) (實) (韻)

【遂】 地方區劃ノ名、王城ヲ起點トシテ區劃セルモノト、家ヲ單位トシテ區劃セルモノトアリ。前者ハ「周禮」遂士ノ鄭玄註「遂ハ王城ヲ距ル百里以外二百里以内ノ地ヲ謂フ」トアルモノ是ナリ。(但シ、鄭衆ハ百里以上) 後者ハ同書遂人ノ職、五家ヲ鄰ト爲シ、五鄰ヲ里ト爲

シ、四里ヲ都ト爲シ、五都ヲ部ト爲シ、五部ヲ縣ト爲シ、五縣ヲ遂ト爲スアルモノ是ナリ。比以上皆各長アリ、其區内ノ庶務ヲ管理ス。即チ一種ノ自治制ナリ。(周官)

【遂士】 【周禮】秋官司寇ノ屬、四郊ノ裁判事務ヲ掌ル。四郊トハ四方ノ郊ニシテ王城ヲ去ル百里ニ在リ。遂ハ地方區劃ニ於テハ郊外之ヲ遂ト謂ヒ即チ百里以上二百里 (鄭玄ノ說ニハ百里以上三) ナルモ其裁判管轄ハ四郊ヨリ始マルガ故ニ最小限ノ區劃ヲ舉ゲタルモノハ要スルニ其裁判管轄ハ四郊ヨリ始マルノ意ニ解スベシ。其職制「遂士。掌四郊。各掌其遂之民數。而糾其戒命。聽其獄訟。察其辭。辨其獄訟。與其死刑之罪。而要之。二旬而職聽于朝。司寇聽之。斷其獄。其訟于朝。云云。」

【遂師】 【周禮】地官司徒ノ屬官、遂人ノ補助官ナリ。

【遂初】 官職ヲ辭去シテ閑地ニ隱居シ其初志ヲ全ウスルコトヲ謂フ。(晉書孫) 傳)

【遂人】 【周禮】地官司徒ノ屬、王城ヲ距ル二百里以外三百里即チ野ノ政事ヲ掌ル。其職制「凡治野。夫間有遂。十夫有溝。百夫有洫。千夫有澮。萬夫有川。蓋シ一夫受クル所ノ田ハ百畝ノ間ニ必ズ遂(小)アリ。十夫ハ百畝ノ田ニシテ溝アリ。百夫ハ萬畝ノ田ニシテ澮(道水)アリ。千夫ハ十萬畝ノ田ニシテ洫(注)アリ。萬夫ハ百萬畝ノ田ニシテ川(注)アリ。川ハ總テノ水ヲ受クル所ナリ。(同書)

【遂心】 商人利ヲ得ルコトヲ「遂心」ト曰ヒ利ヲ得ザルコトヲ「犯耗」ト曰フ。(解題)

【遂大夫】 【周禮】地官司徒ノ屬官、其遂ノ政令ヲ掌ル者即チ遂ノ長官ナリ。其下ニ縣正、鄙師、鄒長、里宰、鄒長等アリ。皆地方自治ノ職員ナリ。

【隨】 (部首) (支) (韻)

【隨結】 公務ヲ逐一處理シテ還滯ナカラシムルコトヲ謂フ【六部成語註解】「公事隨手辦

結。不<sub>レ</sub>就<sub>レ</sub>延<sub>レ</sub>。」

【隨坐】 騎水連坐ト言フガゴトシ。犯罪本人ニ附隨シテ罪ニ坐スルノ義ナリ。【史記】趙括傳、趙王因以括爲將。代廉頗。其母上<sub>レ</sub>書。願王勿<sub>レ</sub>遣。王曰。吾已決矣。母因曰。王終遣<sub>レ</sub>之。有如<sub>レ</sub>不<sub>レ</sub>稱。妾得<sub>レ</sub>無<sub>レ</sub>隨坐<sub>ニ</sub>乎。

【隨身】 旅行等ニ際シ必要携帶ノ物品ヲ謂フ。【唐書】高宗時。左右上將軍以下。又有<sub>ニ</sub>六雜給<sub>一</sub>。一曰糶米。二曰鹽。三曰私馬。四曰手刀。五曰隨身。六曰春冬服。近世ハ旅行必需ノ物ヲ謂ツテ隨身ト爲ス。又隨行者ノ稱トス。

【隨即】 直チニ又ハ即時ト言フニ同シ。【明律】清律名例篇處決叛軍ノ條(上)委<sub>レ</sub>官審問。無<sub>レ</sub>冤。隨即依<sub>レ</sub>例處治。(明律卷一) 【隨帶】 清制。官吏ノ加級ナリ。隨帶字樣ヲ有スル者ハ升遷ノ時ニモ其資格ヲ注銷セズ。此二字ナケレバ則チ否ヲズ。(會典)

【隨逮】 召喚ニ應ズルコトヲ謂フ。【淮南子】「百姓之隨逮。肆刑。挽<sub>レ</sub>轉首<sub>一</sub>死<sub>レ</sub>路者。一旦不<sub>レ</sub>結。不<sub>レ</sub>就<sub>レ</sub>延<sub>レ</sub>。」

知<sub>ニ</sub>千萬數<sub>一</sub>。」

【隨封】 財物ヲ以テ人ニ饋ルトキ其從僕ヲ并セテ饋ルコトヲ謂フ。【後漢書】宣帝傳、每郡國貢獻。先輸<sub>ニ</sub>中壘<sub>一</sub>爲<sub>ニ</sub>進<sub>レ</sub>行費<sub>一</sub>。注、謂<sub>ニ</sub>貢獻外別有所<sub>レ</sub>入。以爲<sub>ニ</sub>所<sub>レ</sub>獻<sub>レ</sub>物<sub>一</sub>之導引。是<sub>レ</sub>後世隨封ノ始ナリ。

【錐指】 見<sub>レ</sub>譚<sub>ニ</sub>小ナル<sub>一</sub>ニ喻フ。【莊子】秋水篇「是<sub>レ</sub>直用<sub>レ</sub>管<sub>レ</sub>闕<sub>レ</sub>天。用<sub>レ</sub>錐<sub>レ</sub>指<sub>レ</sub>地也。不<sub>ニ</sub>亦少<sub>一</sub>乎。」

【錐刀之末】 細微ノ利益ニ喻フ。【左傳】昭公六年、錐刀之末。將<sub>ニ</sub>盡<sub>レ</sub>爭<sub>レ</sub>之<sub>一</sub>。【禮記】禮運、竊惟故主大傳、清河王職、樞衡之位、居<sub>ニ</sub>輪道<sub>一</sub>云云。

【樞機】 樞ハ戸ノ樞、機ハ弩ノ引金、因リテ

(一)事物ノ最モ肝要ナルコトヲ謂フ。【易經】繫辭傳、言行。君子之樞機。樞機之發。榮辱之主也。(二)朝廷近要ノ官ヲ謂フ。【後漢書】先帝防<sub>ニ</sub>慎<sub>レ</sub>房<sub>一</sub>氏。不<sub>レ</sub>令<sub>ニ</sub>在<sub>ニ</sub>樞要<sub>一</sub>之位。

【樞近】 樞要近臣ノ義ナリ。【唐書】陸象先傳「崔暹曰。象先人望。宜<sub>ニ</sub>幹<sub>ニ</sub>樞近<sub>一</sub>。」

【樞相】 樞密使ガ宰相ノ印綬ヲ兼帶ス。之ヲ樞相ト爲ス。【文獻通考】職官考、樞密使帶<sub>ニ</sub>相印<sub>一</sub>爲<sub>ニ</sub>樞相<sub>一</sub>。

【樞府】 樞密院ノ別稱ナリ。【宋史】李昉傳「在<sub>ニ</sub>樞府<sub>一</sub>。專務<sub>ニ</sub>革<sub>ニ</sub>濫<sub>一</sub>賞。抑<sub>ニ</sub>僥<sub>レ</sub>倖<sub>一</sub>。人以爲<sub>ニ</sub>樞機<sub>一</sub>。」

【數事共條】 (數事條ヲ) 判決文ハ法條ノ全文ヲ備載スルヲ原則ト爲ス。一<sub>レ</sub>條内ニ二<sub>レ</sub>箇以上ノ犯罪事項ヲ規定シタルモノニ在リテ而モ其犯ス所ハ單一<sub>レ</sub>事項ナルトキハ其直接關係ノ一<sub>レ</sub>事項ノミヲ摘舉スレバ足り敢テ全文ヲ具載スルヲ要セズ。「數事共條」トハ異ナル數種

ノ事項ヲ一條内ニ共ニ規定セルノ謂ナリ。【明律】清律刑律斷獄篇、斷罪引律令ノ條、凡<sub>レ</sub>斷罪皆須<sub>ニ</sub>具<sub>ニ</sub>引律令<sub>一</sub>。違者答<sub>ニ</sub>三十<sub>一</sub>。若<sub>ニ</sub>數事共<sub>レ</sub>條(清律ハ條ノ上一<sub>レ</sub>ヲ) 止<sub>ニ</sub>引<sub>レ</sub>所<sub>レ</sub>犯<sub>レ</sub>罪<sub>一</sub>者(加<sub>レ</sub>ヘテ)一條トス。止<sub>ニ</sub>引<sub>レ</sub>所<sub>レ</sub>犯<sub>レ</sub>罪<sub>一</sub>者(明律卷二十八) 聽。(清律卷三十五)

【數奇】 不遇、薄命ノ義、數ハ命數、奇ハ遇ノ反、相合ハザルヲ謂フ。【史記】李將軍傳、以爲<sub>ニ</sub>李廣老數奇<sub>一</sub>。母<sub>レ</sub>令<sub>ニ</sub>當<sub>ニ</sub>單于<sub>一</sub>云云。

【郛】 (部首) (韻) 春秋時代ハ邦國ト稱シタルガ、戰國ノ時改メテ都ト稱ス。漢代縣ヲ置キテ都縣ト爲ス。歷朝之ニ因ル。明、清時代ハ山東省兗州ニ屬ス。民國ハ改メテ濟寧道ニ屬ス。孟子出生ノ地ナリ。

【郛國亞聖公】 元代孟子ノ諡號ヲ、郛國亞聖公ト爲ス。(復聖公ト見ヨ)

【騶衍】 (部首) (尤韻) 神仙ノ術ニ妙ヲ得タル人名、春秋ノ

時代齊ノ宣王ノ時ニ、終始四德論<sub>レ</sub>ヲ著シ陰陽ノ運ヲ主ドルヲ以テ諸侯ニ知ラレ、中ニモ特ニ燕昭王ノ厚遇ヲ受ケタリト云フ。(玉璽)

【驪虞】 (一)馬ノ屬、獸類中至猛ノ物ト稱セラル。【詩經】召南ニ驪虞篇アリ。壹發五豝。于<sub>レ</sub>嗟驪虞。【玉篇】尾長<sub>ニ</sub>於身<sub>一</sub>。西方之獸也。不<sub>レ</sub>履<sub>ニ</sub>生物<sub>一</sub>。食<sub>ニ</sub>自死<sub>レ</sub>之肉<sub>一</sub>。或ハ驪牙<sub>レ</sub>又<sub>レ</sub>驪音<sub>ニ</sub>作<sub>レ</sub>ル。(正字) (二)官名、驪ハ天子ノ固ニシテ、虞ハ其獸ヲ司ル者ナリ。【賈誼新書】驪者。天子之固也。虞者。固之司<sub>レ</sub>獸者也。

【都虞旂】 昔時軍隊ヲ解散スルトキニ用キル旗、旗上ニ驪虞ヲ畫クガ故ニ此名アリ。蓋シ人ノ生命ヲ重ズルノ意ニ取ル。

【都使】 隋從<sub>ニ</sub>護衛者<sub>一</sub>ヲ謂フ。【秋燈叢話】「一連官肩輿至。極<sub>ニ</sub>都使<sub>一</sub>之盛。」

世(セ)ノ部

【世家】 祖宗以來世々秩祿ヲ繼承スル名族ヲ指ス。【孟子】文公篇、仲子齊之世家也。【史記】吳太伯世家ノ注、索隱曰。系家者(著者唐司馬貞唐太宗ノ諱)世民<sub>レ</sub>ヲ諱ミ避ケテ系ト爲ス(肥)諸侯本系ニ也。言其下及<sub>ニ</sub>子孫<sub>一</sub>。常有<sub>レ</sub>國。云云。

【世及】 父子相承クルコトヲ謂フ。【後漢書】二十八將傳贊、朝有<sub>ニ</sub>二世及<sub>レ</sub>之私<sub>一</sub>云云。

【世輕世重】 (世ニシテ輕ク) 刑罰ハ時代ノ必要ニ應ジテ輕重其宜ヲ制スルヲ要ス。故ニ或ハ時勢ニ依リテ輕キコトアリ或ハ重キコトアルノ謂ナリ。【書經】呂刑篇、輕<sub>ニ</sub>重<sub>一</sub>請<sub>ニ</sub>罪<sub>一</sub>。有<sub>レ</sub>權。刑罰世輕世重。惟齊非<sub>レ</sub>齊。有<sub>レ</sub>倫有<sub>レ</sub>要。蔡沈註、罰之輕重。亦皆有<sub>レ</sub>權。權者。進退推移。以求<sub>ニ</sub>其輕重<sub>一</sub>之宜ニ也。刑罰。世輕世重者。周官刑<sub>ニ</sub>新國<sub>一</sub>。用<sub>ニ</sub>輕典<sub>一</sub>。亂國。用<sub>ニ</sub>重典<sub>一</sub>。刑<sub>ニ</sub>平國<sub>一</sub>。用<sub>ニ</sub>中典<sub>一</sub>。亂<sub>レ</sub>世而爲<sub>ニ</sub>輕重<sub>一</sub>者也。

【世子】 天子諸侯ノ嫡長子、世世絶エザルノ義ニ取ル。【白虎通】「所<sub>ニ</sub>以名<sub>レ</sub>之爲<sub>ニ</sub>世子<sub>一</sub>。言<sub>ニ</sub>欲<sub>ニ</sub>世世不<sub>レ</sub>絶也<sub>一</sub>。【孟子】滕文公篇、滕文公爲<sub>ニ</sub>

世子。後世ハ天子ノ嫡ヲ太子ト稱シ、諸侯ノ嫡ヲ世子ト稱ス。兩般秋兩庵隨筆「上鄭子大叔。論語作二世叔。天子之子曰太子。而春秋傳曰。會王世子于首丘。諸侯之子曰世子。云云。是レ其古キ一例ナリ。

【世襲】 父子世ヲ相續スルコトヲ謂フ。【三國志】魏志武帝紀「漢高祖之起。曹參以レ功封平陽侯。世襲爵土。至今適嗣。其後幾多ノ變遷アリ。清制ニ及ビテハ爵ノ等級及ビ世襲ノ種類ハ九等、十七級アリ。一ハ「世襲罔替」ノ特典アルモノニシテ、其特典ヲ與フル場合ニハ上諭中特ニ之ヲ言明スルヲ常例トス。他ノ一ハ次數ヲ按ジテ承襲スルモノニシテ即チ始メテ爵ヲ授カリシ者ヨリ其子孫ニ至リ代毎ニ遞減承襲ス。若シ遞減ノ結果爵ナキニ至ルトキハ特定ノ者ニ限リ改メテ「恩騎尉」ヲ授ク。恩騎尉ヲ授カリシ者ハ更ニ之ヲ下スコトナシ。之ヲ「世襲罔替」ト謂フ。(清國行政法) 卷一(上)

【世襲罔替】 (前條ヲ見ヨ)

【世叔】 (一)父ノ兄ヲ「世叔」ト爲ス。【爾雅】「父昆弟。先生(即チ)爲三世叔。後世(即チ)爲二叔父。」(二)翰林(文學)ニ於テハ太老師ノ子ヲ「世叔」ト爲ス。【詞林典故】翰林於太老師之子ニ稱「世叔」。(三)後世ハ父ノ同年輩者ヲ「世叔」ト稱ス。(附註)

【世職】 清制、武官出身ノ途ニ從來世職、武科、廩生、軍功、行伍、捐納ノ六種アリ。武官マラントスル者ハ必ズ其一ニ由ラザルヲ得ズ。但シ、後ニ捐納ハ廢止セララル。國家ニ大勳勞アリテ世襲ヲ授ケラレタル者及ビ其子孫ハ驍將ヲ爲スト同時ニ該爵品級ヲ按シテ武職ヲ補授セララル。滿漢共ニ同ジ。(清國行政法) 卷一(下)

【世父】 伯父ノ別名、即チ父ノ兄ナリ。【爾雅】「父之昆弟。先生爲三世父。後世爲二叔父。」一説ニ依レバ嫡子以外、即チ別家ノ長ト爲ル者ヲ稱スト云フ。(宗法) 卷一(見ヨ) 丘濬曰ク「嫡嗣ニ

世統ニ也。宗子居レ長者稱レ世。若非嫡。通以伯稱。」(大學衍義補) 卷五十三

【世表】 【史記】黃帝以下周共和ノ世ニ至ルマデヲ列シテ表ト爲シ之ヲ名ヅケテ「三代世表」ト曰フ。是レ其世次ヲ記スノミニシテ其年ヲ詳記スル能ハザルヲ以テ別ニ共和以後ノ年表アルモノト區別ス。即チ年表ニ對シテ世次ノモノ表之ヲ「世表」ト謂フ。

【世母】 伯母即チ父ノ兄ノ妻ヲ謂フ。【爾雅】「父之兄妻曰世母」

【世僕】 其祖先ガ實身若クバ自ラ他家ニ投ジテ其家ノ奴ト爲リ、是ガ爲メニ世世其家ノ奴隷タル者ヲ謂フ。此種ノ賤民ハ安徽省及ビ江蘇省ノ一部ニ在リ。主人ヲ「大戶」又ハ「大姓」ト稱シ、世僕ヲ「小戶」又ハ「小姓」ト稱ス。

【世祿之家】 (蘇ト世トニ) 世襲ノ職祿ヲ有スル權門、逸樂ニ流レ禮ニ由ル者鮮シト爲ス。【書經】周書君陳篇「我聞曰。世祿之家。鮮ニ克由レ道。以レ滿腹。德。實性天道。」

井 (部首) (韻)

【井鹽】 四川及ビ甘肅ノ涼縣西河縣等ヨリ產出スル鹽ヲ「井鹽」ト曰フ。即チ井水ヨリ製造スルガ爲メナリ。(清會典) 戶部

【井田】 井田ノ制ハ黃帝ニ始マリ夏代ニ成リ周代ニ備ハルトノ説アルモ井田ノ制ハ載籍ニ明ナラザルヲ以テ種種ノ説傳ハル。中ニモ記錄ノ古ク且ツ正シキハ「孟子」ナルベシ。【孟子】公孫公上黨「夏后氏五十而貢。殷人七十而助。周人百畝而徹。其實皆什一也。」又同書「方里而井。井九百畝。其中爲二公田。八家皆私。百畝。同養二公田。」トアルニ徵スレバ井田ハ凡ソ二ツノ目的ヲ以テ設ケラレタルモノト思惟セララル。一ハ土地ノ分配ヲ平等ニシテ貧富ノ懸隔ヲ防グコト、他ノ一ハ田賦ヲ公廉ニシテ民力ヲ休養スルコト是ナリ。今其概要ヲ示セバ、四方一里ノ土地ヲ一畫ト爲シ、其一畫ノ土地ヲ更ニ井字形ニ區劃スレバ閉形ト成リ、各區ノ面積

百畝ト爲ル。而シテ中央ノ一區ヲ公田トシ、周圍ノ八區ヲ私田トシ、之ヲ八家ニ分給シ、八家ヲシテ中央ノ公田ヲ共同耕作セシメ、其收穫ヲ私田ノ公賦トシテ官ニ納メシム。故ニ一ニ之ヲ「助」ト曰ヒ、或ハ「徹」トモ曰フ。助ハ即チ助ケテ耕作スルノ義、徹ハ通ノ義互ニカヲ通ジテ耕作スルノ義ナリ。【事物紀原】

「通典曰。黃帝始經レ土設レ井。以塞「評論」。立レ歩制レ畝以防レ不足。使レ八家爲レ井。井間四道。此井田之原也。其法肇ニ於黃帝。成ニ於大禹。備ニ於周。壞ニ於秦ニ也。」(卷一)

【井田改屯地】 清制、八旗救済ノ目的ヲ以テ設ケタルモノ、雍正二年ノ創設ニ係ル。先ツ新城固安二縣ニ存在セル內務府及ビ戶部所屬ノ土地二千餘畝ヲ以テ井田ト爲シ旗人中產業ヲ有セザル滿洲八旗五十戶、蒙古十戶、漢軍四十戶合計百戶ヲ選派シテ地畝ト住家トヲ給シ、私田各百畝ト爲シ、八家ヲシテ自作セシムルト共ニ公田百畝ヲ共同耕作セシム。然ルニ

此制度ハ八旗ノ懶惰ニシテ耕作ニ力メザル爲メ公田共同耕作ノ實舉ガラズ。乾隆元年之ヲ廢シテ屯田ト爲ス。之ヲ「井田改屯地」ト謂フ。(會典事例) 卷百三十二、及ビ卷八(百四十一)、並ニ皇朝通典卷二

【井田科】 清制、官有旗地ニ關スル事務ヲ辦理スルモノ、各清吏司ノ郎中、主事若干名ヲシテ其事務ヲ兼擔セシメ、福建清吏司選缺ノ滿洲郎中一人ヲシテ之ヲ統ベシム。(清國行政法) 卷一(上)

制 (部首) (韻)

【制】 制ノ字ガ命令ノ義ニ用キラレタルハ【禮記】曲禮篇「士死レ制」註「制謂ニ君命」ト受レ命致死也。【左氏傳】隱公元年「今京不レ度不レ制」トアルニ依リテ其古キヲ知ルベシト雖モ【事物紀原】「劉向文心雕龍曰。古者有レ命無レ制。則禮大觀作ニ六辭。以通ニ上下。其二曰レ命。是也。云云。」(卷二)トアルニ徵スレバ三代春秋以前ノ制ハ未ダ確定ノ「法令」ノ意義ヲ



有セザリシガ如シ。秦始皇ノ時官制ヲ改革スルニ當リ始テ命ヲ改メテ制ト爲ス。此ヨリ制ハ官吏ニ命令スル特定ノ辭ト爲レリ【史記】始皇紀「臣等昧死。上尊號。王爲秦皇。命爲制。令爲詔。天子自稱曰朕。王曰。去。秦著皇。采。上古帝位號。號曰皇帝。他如。議。以後歷朝之ニ因ル。【制度】「清初修會典」朝廷德音下達。宣示百官曰制。但シ刑律ニ於テ制ト稱スルハ。制書有違等ノ場合ニ用ケラレ。必ズシモ天子ニ限ラズ。太皇太后。皇太后。太子ノ命令位ニ用フ。【例】高宗乘輿車駕ノ條。天子ノ命令位ニ用フ。【唐律】名例篇「易曰。天垂象。聖人則之。觀雷電而制威刑。トアルニ出ヅルノ語。雷電ハ震下離上ニ三三噬嗑ノ卦。震ヲ雷ト爲ス則チ威ナリ。離ヲ電ト爲ス則チ明ナリ。明ニシテ威ナルハ刑ヲ用ケルノ象ナリ。故ニ其象辭「雷電噬嗑。先王以明罰勅法。トアリ。【唐律疏議卷】

【制誥】 天子ノ詔令ナリ。唐代中書省ニ知制誥一人ヲ置キ、之ヲ掌ラシム。【唐書百】

【制勘院】 宋神宗ノ時ニ設ケタル臨時的法院ナリ。但シ事中書省ニ出ル者ハ「推勘院」ト曰フ。【大學衍義補】神宗以來。凡一時承詔置レ推者。謂之制勘院。事出中書。則曰推勘院。獄已乃罷。【卷百】

【制義】 明代以後科舉ニ於ケル經義ノ答案文ハ八股體ヲ用ケルヲ成例トシ之ヲ「制藝」又ハ「制義」ト稱ス。【ハレノ部】八

【制舉】 唐制。天子自ラ詔シテ非常ノ人材ヲ拔用スルコトヲ謂フ。清朝ニ於テハ進士ヲ殿試スルコトヲ「制舉」ト曰フ。【生徒】

【制科】 經制ノ科目。即チ科舉(官吏任)ニ於ケル經文ノ課題ナリ。【文獻通考選舉】

【制軍】 科舉ニ於テ經義ノ答案ハ明以後八股文體ヲ以テ作ルヲ法トス。故ニ經義ヲ「制藝」ト稱ス。【制義】

【制國】 (國ヲ) 一國內ノ行政區畫ヲ分設スルコト。齊ノ管仲ノ法ハ五家ヲ軌ト爲シ、軌ニ長ヲ置キ十軌ヲ里ト爲シ里ニ司ヲ置キ、四里ヲ連ト爲シ連ニ長ヲ置キ十連ヲ郷ト爲シ郷ニ瓦人ヲ置キ以テ軍令ヲ爲ス。【國語】齊語「齊桓公任管仲。作內政。以寓軍令。制國。五家爲軌。軌爲之長。十軌爲里。里有司。四里爲連。連爲之長。十連爲郷。郷有良人。一焉。以爲軍令。五家爲軌。故五人爲伍軌。長帥之。十軌爲里。故五十人爲小戎。里有司帥之。四里爲連。故二百人爲卒。連長帥之。十連爲郷。故二千人爲旅。郷良人帥之。五郷一帥。故萬人爲一軍。五郷之帥帥之。三軍故有二中軍之鼓。有二國子之鼓。有二高子之鼓。云云。【制五刑必即天倫】 (五刑ヲ制スル必) 制ハ斷ノ義。五刑ヲ斷行スルニ當リテハ私情私念ヲ離レテ至正至公即チ天理ニ本ヅクコトヲ要ストノ謂。【禮記】王制篇「凡制五刑。必即天倫。郵罰置於事。」

【制使】 (ハレノ部) 謀殺制使(及本管長官)ヲ見ヨ

【制辭】 清制。祭典其他ノ儀式ヲ行フトキ。皇帝ノ親シク群臣ニ示サル、所ノ制辭ヲ曰フ。【清會典】

【制書】 (一) 天子ノ言ヲ「制」ト曰フ、書ハ則チ其言ヲ書シタルモノニシテ詔敕、諭勅等ノ類ヲ謂フ。【明律】「清律」公式篇ニ「制書有違」ノ條アリ。【清律】同條脚註「天子之言曰制。書則載ニ其言者。如詔敕諭勅之類。若奏准施行者。不在此內。【明律卷三】「制書印信」(二) 制書ハ詔勅ノ一種、三公及比尙書副書シテ州縣ニ頒布スルトキ之ヲ用フ。【サレノ部】

【制書印信】 制書ハ前條ノ解ノ如シ。【前條】尙ホ其次條ノ「毀棄制書印信」ノ條【清律】附註「制書。謂詔令勅旨之類。頒自朝廷。上有御寶者方是。印信ハ各衙門ノ官印。即チ上命ヲ奉ジ民間ニ施行スル官文書ニ捺印シ以テ信ヲ

四方ニ傳フルガ故ニ之ヲ「印信」ト曰フ。【清律】附註「各衙門額ニ有印記。以傳信四方。故曰印信。【明律卷三】

【制書聖旨】 制書ト聖旨トノ異ナルハ制書ハ前條ノ解ノ如ク詔令勅旨ノ類、上ニ御寶ヲ傳ヘ更ニ奉還セシムル制勅、及ビ使臣ニ賜フ所ノ起馬(驛馬)ノ御朱印物(符)等ヲ謂フ。【ケレノ部】「制書聖旨」及ビ「各衙門ガ制書」ヲ撰寫若クハ印刷シテ民間ニ施行シタルモノハ官文書ナリ。【明律】吏律公式篇「棄毀制書印信」ノ條「若遺失制書聖旨符驗印信巡牌者。云云。【清律】同篇同條ニハ略シテ「若遺失制書聖旨印信者。云云」ト規定シ其辭註「棄毀制書。指有御寶者言。蓋棄毀與前施行違錯遲緩者ニ不同。施行則但須還制書內之旨意。故違錯遲緩。即應坐罪。不拘留有無御寶。略若二贈黃翻刻者。止依官文書論。【明律卷六】

【制錢】 國家公設ノ錢局ニ於テ鑄造スル所ノ圓錢ナリ。重量及ビ成色定制アリ故ニ「制錢」ト曰フ。【清律】戶律「倉庫錢法」ノ條「凡錢法設立寶泉寺局一鼓鑄制錢。云云。【卷十】六部成語註解「國家設立定制。由官鑄造之錢也。」

【制台】 清制。總督ノ別名、古名稱トシテ使用ス。

【制臺】 總督ノ敬稱ナリ、明武宗帝自ラ「總督軍務」ト稱ス故ニ臣下之ヲ避ケテ總督ヲ改メテ「總制」ト爲ス。又「制臺」制軍ノ名稱アリ。世宗ノ時總督ノ名舊ニ復ス。然レドモ世俗相沿フテ制臺、制軍ノ名ヲ襲用シテ清代ニ至レリ。

【制置使】 唐ノ宣宗始メテ之ヲ置ク。宋之ニ因リ邊鄙ノ軍隊ノ事ヲ掌ラシム。但シ、臨時之ヲ任命シ常設ノ官ニ非ラザリシガ宋ニ及ビテ漸ク之ヲ常設シ陝西五路制置使、招提使、制置使、行在五軍制置使等ノ官アリ。明清時

代ノ總實ト相類ス。

【制勅斷罪】(ヲ斷ズ)或ル犯罪ニ對シ臨時ノ處分ヲ爲ス必要生ヅタルトキハ特ニ制勅(即チ詔)ヲ發シテ其罪ヲ斷ズルコトアリ之ヲ(勅ノ意)ト謂フ。然レドモ單ニ臨時ノ處分ニ止マリ永格ト爲サザルモノハ附後之ヲ引用シテ斷罪ノ判例ト爲スコトヲ得ズ。【唐律】斷獄篇「制勅斷罪」ノ條「諸制勅斷罪臨時處分不レ爲ニ永格」者。不レ得引爲ニ後比。若輒引致罪有ニ出入者。以ニ故失論。(卷三)

【制勅命之】(ヲ命ズ)唐制ハ庶官五品以上ノ官ハ宰相ヨリ奏請シ制勅ヲ以テ之ヲ命ズ。之ヲ「制勅命之」ト謂フ。六品以下ハ並ニ旨ヲ請ヒテ之ヲ授クルヲ法トセリ。(授ヲ見)

【大學衍義補】「制勅命之」者。蓋宰相商議奏可而除拜之也。旨授者。吏部銓才授職。然後上旨。詔旨但畫聞以從之。而不不可否者也。(卷十)

【制度】(一)制度ノ語ハ「易經」節卦ノ象辭「節以制度。不傷財。不害民」トアルヲ始

メトス。節ハ兌下坎上ノ卦、澤上ニ水アリ其容

ニ限アルノ象即チ事物ノ過不及ヲ節シ其宜ヲ制スルノ義ナリ。程頤ハ「聖人立ニ節度。以爲節」。ト曰ヒ丘濬ハ「聖人體節之義。則立ニ爲制度。量入爲出。無ニ過取。無ニ泛用」ト解ス。蓋シ其所謂「制度」ハ節制ノ義ニシテ法律制度ノ義ニアラズト雖モ其根本義ニ於テハナリ。【史記】秦始皇紀「命爲制。令爲詔」ノ註「蔡邕曰。制書。帝者制度之命也。又正義「制詔。三代無レ文。秦始有レ之。是レ制度ガ法律ノ意義ヲ以テ現ハレタル最初ナリ。(二)奢侈ノ風ヲ匡正スル爲メニ用度ヲ制スルノ義ナリ。漢武帝ノ時、嚴安上書シテ曰ク「上略彼民之情。見美。則顯之。是教レ民以レ侈也。臣願爲レ民制度以防ニ其淫」云云。但レ、丘濬ハ制度ノ義ト爲ス、曰ク「臣按。人民所以修廢者。多見ニ於車馬衣裘。宮室飲食四者。能立爲ニ制度。凡所乘之車馬。所居之宮室。所服之衣裳。所用之飲食。皆有ニ階級等級」云云。(大學衍義補卷

八十)

【制兵】清制、綠營(リノ部本)ノ常備兵ヲ謂フ。【六部成語註解】「綠營額設之兵。曰制兵。」

【性正之供】(部首) (敬)

民人ヨリ上納スル錢糧等ハ國家ノ用ニ供スル正稅ナリトノ謂ナリ。【六部成語註解】「民人所ニ輸納ニ錢糧等。供ニ國家之正項也。」

【成案已經遠年】(成案已ニ遠)或ル事件ニ關シテ作製シタル案文ハ其當時ハ效力ヲ有スルモ數年ヲ經過シタル後ハ其效力ヲ喪フ。故ニ之ヲ援用スルコトヲ得ザルナリ。【讀律提綱】「遠年成案。不レ准援爲ニ依據」屢奉刑部駁。(刑部第五册)

【成交】交付ヲ成スノ義、即チ民間ニ於テ土地等ヲ讓渡スルノ義ナリ。【大典章】戶部篇賣

典章、田宅不レ得ニ私下成交。ノ條アリ。【上諸人典賣田土。不レ經ニ本管官司給據。而私下成交。云云。】ノ規定アリ。(卷十)

【成均】周代ニ於ケル學校ノ名、其虧ケタルヲ整成シ、其過不及ヲ均平ニスルノ義ニ取ル。【周禮】春官、大司樂「掌ニ成均之法。以治ニ建國之學政。而合ニ國之子弟」焉。(杜氏通典學校上參)

【成憲】國家已定(即チ)ノ法制ヲ謂フ。【書經】說命篇「監ニ于先王成憲。其永無レ愆」

【成婚】(婚ヲ)婚姻ノ式ヲ舉ゲテ夫婦關係ノ成立スルコトヲ謂フ。【左氏傳】「會ニ於蔭。成ニ婚於齊。【明律】「清律」戶律婚姻篇「男女婚姻ノ條」上若再許ニ他人者杖八十。已成レ婚者杖八十。云云。(明律卷六)

【成色】金銀貨ノ中ニ含ム所ノ純精ノ實量ヲ謂フ。【明律】「清律」名例篇「給沒贓物」ノ條「其贓罰金銀。並照ニ犯人元供成色」ニ從レ實追徵。云云。(明律卷四)

【成親】元制、夫婦ノ親ヲ成スノ義、夫婦ト爲ルコトヲ謂フ。【元典章】戶部婚姻篇「通姦成親斷離」ノ條アリ。其一例ナリ。(卷十)

【成單】商家賣貨運送ノ契約書、貨物ノ品質數目價銀ノ外凡ソ發送到着ノ地方及ビ其期限並ニ税金運賃等ヲ詳載シタルモノヲ「成單」ト謂フ。

【成丁】男子長シテ成年(成年ハ時代ニ依リ普通ハ滿ニ)ニ達スレバ之ヲ「成丁」ト謂フ。【北史】隋文帝紀「人以三十一歲ニ爲ニ成丁」

【六部成語註解】「幼童長至三二十歲者。曰ニ成丁」

【成童】二説アリ。一ハ八歳以上ノ男女ト爲ス。【穀梁傳】昭公十九年「羈賈ニ成童」註「成童八歳以上。一ハ十五歳以上ノ男女ト爲ス。(禮記内則篇「成童」舞象學射註)

【成賦中邦】(賦ヲ中邦)禹貢ノ田賦ハ一定ノ準則ニ依リテ科スルヲ法トシ、而シテ其範圍ヲ中邦即チ九州以內ニ限ル。之ヲ「成賦中

邦」ト謂フ。【書經】禹貢篇「成則三壤。成二賦中邦」蔡沈ノ註「成二賦中邦。謂土賦或及三于四夷。而田賦則止于中國而已」【大學衍義補】「壤之上者。則出ニ上賦。壤之中者。則出ニ中賦。壤之下者。則出ニ下賦。成有二一定之準則。用ニ是之法。以成二賦于九州之內。若ニ寬限之外。則不ニ取例レ之以此也。(卷二)

【成本】商家ノ貨物ニ對スル總テノ費用、即チ運賃稅項及ビ資本元利、本支店ノ經費等一切ヲ包括シ之ヲ各貨物ニ分攤シテ定價ノ標準ト爲シタルモノヲ謂フ。

【掣驗】險要ノ地ニ番所ヲ設ケ不正商人ヲ牽掣シ、其荷物ヲ検査スルコトヲ謂フ。【六部成語註解】「明ノ萬曆中孫丕揚ガ首相タルトキ、官吏ノ請託ヲ防ケ爲メニ掣捕官ヲ各省又ハ各衙門ニ分發スル場合ニ抽籤ニ依リテ其願香ヲ定ムルヲ法トシ、之ヲ「掣簽」ト謂フ。清亦之ニ因ル。簽ハ籤ニ通ズ。【六部成語註解】「分ニ發各省。及分ニ派各衙門一候補學習之員。皆吏部

【擊】發而定。  
【擊】(前條ニ)  
【擊】(部首) (敬) (類)

【政】 政ノ要ハ二義アリ。一ハ政ハ正ノ義即チ正道ヲ以テ治國平天下ノ要義ト爲スコトヲ謂フ。【政】政。正也。【釋名】政。正也。下所取レ正也。【論語】爲政篇。子曰爲政以德。譬如北辰居其所而衆星共之。他ノ一ハ法制禁令ヲ總稱シテ政ト爲ス。同書同篇。子曰。道之以政。齊之以刑。民免而無恥。【註】其要スルニ前者ハ政ノ根本義ヲ示シ、後者ハ政ノ用ヲ示セルモノナリ。尙ホ後世ニ至リテハ官吏行フ所ノ政務ヲ指シテ政ト曰ヒ、乃チ之ヲ以テ官吏ノ職否ヲ調査考定スル要件ノ一ト爲ス。【清會典】吏部。乃定以四格。一曰守。二曰方。三曰政。云云。其附註ニ有勳有平。トアルハ官吏政務ヲ執ルニ勳勉ト平凡トノ別アルノ義、即チ其成績ニ照シテ職否ヲ定メ賞罰ヲ行フコトヲ謂フ。

【政役】 政一ニ征ニ作ル。賦役ノコトヲ謂フ。【周禮】天官小宰。聽征役以二比居。云云。【義疏】

【政教】 政治ト教化トノ合稱ナリ。【詩經序】風之始也。【風】是諸侯政教也。【史記】申不害傳。內修政教。云云。最近ニ至リテハ近世諸國ノ通例ニ依リテ政治ト宗教トヲ合シテ、政教ト曰フ。

【政事堂】 唐代、宮中ニ政事堂ヲ設ケテ庶政ヲ議セシム。之ニ就キテハ二說アリ。【却掃編】唐之政令。雖出於中書門下。然定於宰相。治事之地。故曰政事堂。是レ其一。【清國行政法】。遂ニ門下省ニ政事堂ヲ設ケ、兩省長官此ニ會シテ政ヲ議スルコト、爲レリ。是レヨリ中書令待中相並ビテ鈞衡ヲ秉リ尙書丞々機要ニ違カリ大事ト雖モ殆ド議ニ與カルコトナク、惟ダ成事ヲ受クルニ至レリ。政事堂設置ノ時代ハ明ナラズト雖モ唐太宗ノ末年若クハ高宗ノ初年ニ係リシガ如シ。高宗ノ永淳二

年之中書省ニ遷シ、又玄宗ノ開元十一年ニハ改メテ中書門下ト稱シ、吏、兵、戶、刑、禮ノ五房ヲ列シ各種ノ事務ヲ掌ラシメタリ。【卷一】是レ其二ナリ。兩書記スル所一致セズ、相互ニ參稽スベシ。降テ民國ニ於テハ大總統府ニ政事堂ヲ設ケ國務卿ヲ以テ監督ト爲シ左右丞ヲ置キ之ヲ補佐ス。内ニ法制、機要、銓敘、主計、印鑄ノ五局及ビ司務所ヲ分置ス。

【整潔銀洋】 品質佳良ナル銀貨ヲ曰フ。【章程】

【整齊】 秩序ヲ正シク齊フルノ義ナリ。【呂覽】簡選。行陣整齊。後世ハ廣ク此語ヲ使用スルモ其義ハ一ナリ。

【整錠】 天寶(錢)ノヨリ滿珠(同)ニ至ルマテ大小ニ論ナク未ダ剪斷セザル銀ヲ謂フ。既ニ剪斷シタルトキハ之ヲ「散碎」ト謂フ。【六部成

語註解】「自天寶一以至滿珠。無論大小。凡宋二剪斷一者。皆曰「整錠」。剪斷者。皆曰「散碎」。

【旌節】 使臣ヲ他國ニ遣ハストキ其身分ヲ保障スル爲メニ攜帶セシムル器物ヲ旌節ト稱シ、節ハ符節、竹ヲ以テ作ル。【周禮】地官掌節。掌守邦節。而辨其用。以輔王命。【中】凡通達于天下者。必有節。以傳輔之。無節者。有幾則不達。【註】以王命ニ往來。必有節。以爲信。同書秋官。行人。掌達天下之六節。山國用二虎節。土國用二人節。澤國用二龍節。皆以金爲之。道路用二旌節。門關用二符節。都鄙用二管節。皆用竹爲之。【鄭玄註】旌節。今使者所執節是也。【孫詒讓】後漢書ノ註ヲ引キテ曰ク「節以符爲之。柄長八尺。上加旄牛尾。爲二其形。三重。謂之旌節。蓋即以竹爲之。又析羽綴之。以爲節。漢節放古旌節。爲之。故鄭舉以相況。後世ニ及ビテハ其制一様ナラズ。繁雜ニ涉ルヲ以テ茲ニ略ス。【史與服志】事物

紀原等】丘濬按。旌以彰之。節以檢之。有二節。節。文書乃得通達。後世給符驗。以傳文書。始此。【大學衍義補】卷九十九

【旌表】 善行者ヲ獎勵スル目的ヲ以テ其居村ノ門閭ニ善行者ノ姓名ヲ旌ニ掲ゲテ之ヲ表彰スルコトヲ謂フ。【南史】邵榮傳。八世同居。旌表門閭。

【旌別】 善人ト惡人トノ區別ヲ爲スコトヲ謂フ。【書經】華命篇。旌別淑慝。表厥宅里。

【旌門】 祭祀、宴會等ノトキニ、旌ヲ以テ構設シタル門ヲ謂フ。【周禮】天官。爲二帷宮。設二旌門。

【旌勞】 國家、社會事業ニ功勞アル者ヲ旌表スルコトヲ謂フ。【元史】順帝紀。右丞相脫脫。治河功成。宜有異數以旌其勞。

【旌閭】 前條ニ同ジク、善行者ノ姓名ヲ其居村ノ門閭ニ旌表スルコトヲ謂フ。【唐書】張迪秀傳。所居堂產芝草。犬乳。鄰。中宗以爲孝感。旌其閭。

【棲流所】 清。順治十年、京師五城ニ棲流所ヲ造リ貧民救恤所ト爲シ司坊官ヲシテ管理セシム。五城トハ即チ中城及ビ東、南、北ノ三城ニ各一箇所、西城ニ二箇所ヲ設ケテ無告ノ窮民行路病者等ヲ收容シ、衣食醫藥ヲ給セシメタリ。【會典事例】卷二百十六

【棲流所章程】 前記棲流所ノ組織、權限ヲ規定シタル法規、十二ヶ條ヲ以テ成ル。【上】

【正引】 清制、餘引ニ對シ各省毎年ノ人口ヲ標準トシテ其額數ヲ定メテ作リタル鹽販賣ノ免許證札ヲ謂フ。【戶部】但シ引ハ鹽ニ限ラズ。

【正印官】 清制、布政使、按察使以下地方單獨機關ノ主任長官ヲ指スノ稱ナリ。蓋シ其正印官ト云フハ其官廳ノ印ヲ管掌スルノ權義ヲ有スルニ因ル。【清國行政法】卷一

【正鹽菜】 【正】見

【正項】 盈餘ニ對シ、國家正稅ノ定額ヲ謂フ。  
(清會典) (下條)  
(戶部) (參照)

【正項錢糧】 一州一縣内ヨリ徵收スル地租  
及ビ丁賦即チ人頭稅ハ皆、正項錢糧ト爲ス。  
【六部成語註解】「凡一州一縣之中、所徵地丁  
兩項、皆爲正項。」

【正鶴】 布ニ畫クテ正ト爲シ皮ニ棲マスヲ鶴  
ト爲ス。即チ射ノ的ナリ。故ニ事理ノ中正ヲ得  
ルヲ正鶴ヲ得ルト曰ヒ中正ヲ失スルヲ中正ヲ  
失スト曰フ。【中庸】「失諸正鶴。」

【正朔】 正月一日ヲ謂フ。古ハ王者姓ヲ易フ  
レバ正朔ヲ改ムルヲ例トセリ。夏ノ正ハ寅ニ  
建テ(寅ノ日ヨ)人統ト爲シ殷ノ正ハ丑ニ建テ  
地統ト爲シ(即チ夏ノ十二月ヲ)周ノ正ハ子ニ  
建テ天統ト爲ス(夏ノ十一月ヲ)之ヲ「三正」  
ト爲シ、亦「三統」トモ稱ス。秦ハ亥ニ建ツ  
夏ノ十月ヲ以、漢之ニ因ル。武帝改メテ夏ノ  
正月ヲ用キ寅ノ月ヲ以テ歲首ト爲ス。以後之ニ

因リテ清末ニ至ル。是レ則チ大陸曆ナリ。民  
國ニ及ビテ始メテ太陽曆ヲ用フ。三代以前ノ  
正朔ニ就キテハ諸說一ナラズ。鄭玄ハ「堯ハ丑  
ニ建テ、舜ハ子ニ建ツ」ト曰ヒ、王肅ハ「夏以  
前俱ニ寅ニ建ツ」ト曰ヒ蔡德晉ハ「黃帝ハ子ニ  
建テ伏羲、顓頊ハ寅ニ建ツ」ト曰フノ類ナリ。

【正支】 (一) 法定支出ノ款目ヲ謂フ。【宋史】  
「寧宗慶元初、詔罷循環鑿鈔、改增三刺鈔、名  
爲正支鈔、給算與已投倉者上通理。先後支  
散。(二) 今人ハ長房長子(嫡長子)ヲ以テ「正  
支」ト爲シ餘ヲ「旁支」(旁系支族)ト爲ス。

【正式】 正當ノ法式ヲ謂フ。【文心雕龍】「若能  
確乎正式、使文明以健、現今ノ法令ニ於テ  
ハ我國法ノ正式ト同義ニ使用セラル。

【正取】 「備取」ニ對シ、試験ノ成績ヲ調査シ  
テ、其優等ナルモノヲ正式ニ選取スルノ義ナ  
リ。若シ其優等者ガ定員ニ滿タザルトキハ備  
取ヲ以テ之ヲ補充ス。【清科場】

【正閏銀】 清制、正月ト閏月トノ經費トシテ

別途ニ發給スル銀ヲ謂フ。【六部成語註解】「正  
月閏月、所應三款項ニ也。」

【正賑】 災害ノ際、直ニ倉米ヲ發シテ罹災民  
一同ニ口糧ヲ給スルコトヲ謂フ。【嘉慶會典】  
ノ分註「題三報成災情形、即一面發倉、將之  
食貧民、先散賑一月、是爲正賑。」(卷十)

【正稅】 雜稅ニ對シ國家收入ノ公賦、即チ地  
賦丁賦及ビ海陸ノ關稅等ヲ指ス。【六部成語註  
解】「地丁及海陸各關所徵曰正稅。其餘俱爲二  
雜稅。」【辭源】「新關ニ正稅、半稅ノ二者アリ。  
凡ソ進口出口ノ貨百兩ニ值ルモノハ稅五兩ヲ  
納ム。之ヲ正稅ト爲ス。洋貨ヲ内地ニ運銷セ  
ントスル者及ビ工貨ヲ内地ヨリ出口セントス  
ル者ハ更ニ正稅ノ半ヲ納ム。之ヲ「半稅」ト爲  
ス。ト記ス。」

【正鈔】 清制、都察院ハ毎日給事中一人ヲ内  
閣ニ派シテ皇帝ヨリ内閣ニ發下スル奏章及ビ  
之ニ對スル諭旨ヲ受領シテ之ヲ所管各科ニ分  
送セシメ各科ハ其諭旨及ビ原疏ヲ錄寫シ且ツ

註銷ノ日期ヲ豫定シテ所管ノ官廳ニ送ル。其  
事ノ數官廳ニ涉ルモノハ先ヅ主任官廳ニ錄送  
シ次ニ關係官廳ニ錄送ス。前者ヲ「正鈔」ト曰  
ヒ、後者ヲ「外鈔」ト曰フ。【乾隆會典】

【正兌米】 清制、漕米(京師ニ運)ノ一種(漕  
米ハ五等ノ別アリ、正兌米、改)京師ノ米倉  
兌米、白糧、麩麥、黑豆是ナリ)京師ノ米倉  
ニ入レハ旗三營ノ兵食ニ供ス。之ヲ「正兌米」  
ト謂フ(戶部)  
ト謂フ(則例)

【正太鐵路借款】 直隸正定縣石家莊ヨリ西  
行シテ井陘關ヲ過ギ山西省城(舊太)ニ至ルノ  
鐵道ナリ。其借款ハ光緒二十三年六月、同二  
十四年三月諭旨ヲ奉シテ初メハ山西巡撫及ビ  
商務局總辦ト華俄銀行ト約訂シ次デ二十八年  
山西巡撫ノ奏議ニ依リテ鐵路總公司ノ辦理ニ  
歸スルニ及ビ同年督辦鐵路大臣盛宣懷ト華俄  
銀行ト重テ商訂シ始メテ借款成立スルニ至  
レリ。總額ハ四千萬元(百萬兩)ニシテ年利五  
分トシ毎半年三月一日、九月一日ニ支拂ヒ十

年償還キテ其後二十年間ニ償還スルノ約ナリ  
キ。名ツケテ「一千九百二年中國國家鐵路五釐  
借款」ト曰フ。

【正途】 清制、變法又ハ特別任用法ニ對シテ  
文官ガ科擧即チ官吏任用試驗ニ及第シテ任官  
スルコトヲ謂フテ「正途」ト爲ス。官吏任用ノ  
正則ノ義ナリ。

【正途出身】 文官出身者ニ「正」ト「雜」トノ  
二途アリ。正途トハ科擧及ビ貢、監、廩生(各  
ヲ見)ノ資格ニ依リテ任官スルコトヲ謂フ【嘉  
慶會典】「各辨正雜、以分職。」(六卷)

【正馬】 驛遞用トシテ常ニ一定ノ數ニ依リテ  
設タル所ノ馬ヲ謂フ。【六部成語註解】「正額  
所設之馬。」

【正白旗】 (旗)ヲ見ヨ  
【正米】 各省ヨリ京師ニ運漕スル正項即チ租  
穀ノ原數ヲ謂フ。【六部成語註解】「應交正項  
漕米之原數。」

【正藍旗】 (旗)ヲ見ヨ

【清】 (部首) (水) (廣韻)

【清修所】 清制、教郵事業ノ一、殘廢人ヲ收  
養シ周ク困苦ノ行旅人ヲ救濟スルヲ目的ト  
ス。地方紳士ノ設立ニ係ル。【清國行政】

【清節堂】 清制、各省各地ニハ清節堂ナルモ  
ノヲ設置シ寡婦ノ節ヲ守リ獨居セル者ヲ收養  
シ、毎月錢米若干ヲ支給シテ之ヲ保護獎勵ス  
ルヲ目的トス。其費用ハ地方有志者ノ義捐ニ  
成ルト云フ。(禹城通纂卷)

【清丈】 清量ニ同ジ。(清見ヨ)

【清白】 (一) 操行純潔ニシテ瑕疵ナキ者ヲ謂  
フ(二) 支那ニ於テハ古來官吏出身ハ四民平等  
主義ヲ採リ士以下庶人ノ子孫ト雖モ官吏登用  
試驗ニ應ジテ及第スレバ官ニ仕フルコトヲ得  
之ヲ稱シテ「身家清白」ト謂フ。惟ダ倡優、阜  
餘、奴僕ハ其資格ナシ。之ヲ稱シテ「身家不清  
白」ト謂フ。然レドモ其業ヲ廢シテ正職ニ就キ  
三代ヲ經タルトキハ其資格ノ付與セラレ。即

チ「身家清白」ト爲ル。(清會典)

【清班】 清貴ノ官ヲ謂フ。【蘇軾詩】「我懷元祐初。主璋滿清班。」

【清吏司】 清制、六部(吏、戶、禮)ノ分局ニシテ猶ホ我國各省ニ於テ局ヲ分ツガ如シ。各部ノ主管事務ハ各、其清吏司ニ分配シテ之ヲ掌理セシム。例セバ吏部ニハ文選清吏司、考功清吏司、稽勳清吏司アリ。戶部ニハ江南清吏司、浙江清吏司等各省ノ清吏司アリテ其事務ヲ分掌セシム。其他兵、刑、戶部亦各清吏司ヲ置キ其事務ヲ分掌セシム。(清會典)

【清量】 私人所有ノ土地、若クハ賃借ニ係ル土地ニ就キテ其種類及ビ面積ヲ査定スルコト一ニ「清丈」又ハ「勘丈開闢」トモ云フ。即チ土地調査ノ義ナリ。(戶部則例卷六)

【牲】 (部首) (鹿) (韻) 祭時ニ用キル犧牲ノ別稱ナリ。(ノ部) (六號) (ヲ見ヨ)

【牲頭】 周制、畜類ノ頭ヲ以テ耳祭(祭ニ供ス。漢代之ヲ「牲頭」祭ト謂フ。【周禮】「掌珥註」以牲頭祭也。疏「漢時祈禱有牲頭祭」。後世ハ耳祭以外ニモ牲頭ヲ用キルニ至ル。

【生員】 俗ニ商賈ノ貿易業ヲ謂フテ「生意」ト爲ス。府州縣學ノ學生ノ稱、唐代ニ始ル。【唐書】「選舉志」永泰中置西監生。而館無定員。於是始定生員。然ルニ此生員ハ生徒ノ員數ノ義ナリ。宋以後始メテ學生ノ稱號ト爲ス。【明會典】記スル所ニ依レバ太祖ノ時府州縣ノ學制ヲ設グルニ當リ、學生ノ定員ヲ限リ毎月各人ニ廩米六斗ヲ給シ後定員ヲ増加スルニ及ビテ前者ヲ「廩膳生」ト稱シ後者ヲ「增廣生」ト稱ス。其後更ニ定員外ノ生徒ヲ收容シ廩米ヲ給セズシテ、前記兩生ノ後ニ附加シ、之ヲ「附生」ト稱ス。之ヲ總稱シテ「生員」ト謂フ。(明會典) 清之ニ因ル。

【生祠】 功德アル人ヲ神トシテ祭ル爲メニ其生存中ニ建設スル社ヲ謂フ。【史記】「萬石君傳」石慶爲齊相。大治。爲立石相祠。【漢書】「于定國傳」其父子公爲郡決曹。決獄平。郡中爲之生立祠。

【生齒】 「一」支那法ハ男子生後八ヶ月ニシテ齒ヲ生ジ、女子生後七ヶ月ニシテ齒ヲ生ズルニ及ビ此ニ始メテ人格ヲ認ム。【周禮】「司民」掌登萬民之數。自生齒以上。皆書于版。【鄭註】「男八月而生齒。女七月而生齒。生齒體備。故以齒名其年。」(周禮地) 又(二)人類其他齒ヲ有スル動物ノ義ニ使用スルノ例アリ【大學衍義補】「丘濬」按「其所謂賢不肖者。乃學校所養之士。蓋以與地之大。生齒之衆。無由以人人以表別之也。云云。」(同書卷八十三)

【生所當生】 生ハ加増ノ義即チ公務ヲ辦理シ、猶ホ餘力アルトキハ應ニ其事務ヲ加増スルコトヲ謂フ。【六部成語註解】「生加増也。言辦理公務。有應加増之所。必當加増之也。」

【省】 (部首) (梗) (韻) 漢學元皇后ノ父ノ名、禁、故ニ避ケテ「禁中」ヲ「省中」ト曰フ。(二)官署ノ名、漢ノ時、尙書中書ノ官署ハ禁中ニ在リ故ニ又禁ヲ諱ミテ「省」ト爲ス。爾後沿用久シク遂ニ官署ノ名ト爲ル。(三)元ノ時行中書省ヲ各路ニ設ケ稱シテ「行省」ト爲ス。明清ハ省ヲ以テ地方區劃ノ大稱ト爲シ初メ全國ヲ十八省ニ分チシガ(八省ヲ見ヨ)後、奉天、吉林、黑龍江、新疆ヲ加ヘテ二十二省ト爲ス。(四)省ト通ズ。過失罪ヲ謂フ。【公羊傳】「莊公二十二年、春王正月肆三大省。」

【生手】 従前未ダ經驗ナキ事務ヲ初メテ行フコトヲ謂フ。【六部成語註解】「従前未ダ做過此官。未ダ辨過此事。而初爲之者。曰「生手。」

【生聚】 生トハ人民ヲ孳生繁殖スルコト聚トハ財物ヲ積聚スルコト斯クシテ國力ノ充實ヲ期スルコトヲ謂フ。【左傳】「哀公二年、越十年生聚。而十年教訓。」

【生徒】 漢代地方郷學ニ在リテ業ヲ修ムル者ヲ生徒ト曰フ。【後漢書】「寇恂傳」恂好學。乃修郷校。教生徒。

【生放】 放債ト云フニ同ジク資本ヲ放出シテ利ヲ規ルコトヲ謂フ。【容齋五筆】「今人出本以規利。謂之放債。又名「生放。」(ハレノ部) (放)

甥 (部首) (庚) (韻)

【甥】 (一)兄弟ノ子ヲ「姪」ト爲シ姉妹ノ子ヲ「甥」ト爲ス。【廣韻】「外甥也。姊妹之子曰甥。」

【贅雅】釋親、謂「我舅」者。吾謂之甥。(二)女

ノ婿ヲ「甥」ト爲ス。【孟子】「萬章篇」帝館ニ甥子貳室。(三)外孫ヲ「甥」ト爲ス。【韻會】「外孫曰甥。云云。」尙ホ種種ノ説アレドモ(一)ノ解ヲ通義トス。

【甥館】 贅婿(邦語)ノ婿(贅)ノ居室ヲ甥館ト曰フ。是レ「孟子」萬章篇「帝館ニ甥子貳室」トアルニ出ヅ。

【省】 (部首) (梗) (韻) 漢學元皇后ノ父ノ名、禁、故ニ避ケテ「禁中」ヲ「省中」ト曰フ。(二)官署ノ名、漢ノ時、尙書中書ノ官署ハ禁中ニ在リ故ニ又禁ヲ諱ミテ「省」ト爲ス。爾後沿用久シク遂ニ官署ノ名ト爲ル。(三)元ノ時行中書省ヲ各路ニ設ケ稱シテ「行省」ト爲ス。明清ハ省ヲ以テ地方區劃ノ大稱ト爲シ初メ全國ヲ十八省ニ分チシガ(八省ヲ見ヨ)後、奉天、吉林、黑龍江、新疆ヲ加ヘテ二十二省ト爲ス。(四)省ト通ズ。過失罪ヲ謂フ。【公羊傳】「莊公二十二年、春王正月肆三大省。」

【省】 (部首) (梗) (韻) 過失ノ義(雷災肆赦)本ハ眼病ノ名、目ヲ病ミテ睛ヲ生ズルコト、蓋シ事物ノ善惡ヲ識別スルノ明ヲ失スルノ義ニ出ヅベシ。【省災】 【尙書】「舜典」雷災肆赦。トアルニ出ヅルノ語、雷ハ過失ニ因ル犯罪、災ハ災禍ニ因ル犯罪、其註「雷謂過失。災謂不幸。」程子ハ災ヲ解シテ「謂非二人之所致而至ト曰ヘリ。近世法上ヨリ觀レバ雷ハ過失犯、災ハ天災ニ因ル犯罪ナリ。故ニ雷ハ肆シ災ハ赦スナリ。肆ハ刑ノ適用ヲ免ジ(刑ノ執行)故ハ全然犯罪ナキ狀態ニ復スノ義ナリ。」(與說多シ。皇清經解)尙書ノ部参照

【告災肆赦】(前條ヲ見ヨ、詳細ハ「シ」ノ部、象以典刑ニ出ス)

【稅】(部首)(類)

【稅權】租稅ヲ徵收シテ其利ヲ獨占スルコトヲ謂フ。【宋史】蒲尚傳「議稅權。皆有可稱道。」

【稅課司】租稅ヲ掌ルノ官署、明代之ヲ設ク北京崇文門及ビ各府皆アリ。大使ヲ派シ其事ヲ司ドル。清之ニ因ル。

【稅關】清制、舊來存スルモノハ之ヲ「常關」ト謂ヒ通商以後條約ニ因リテ設ケタルモノハ之ヲ「新關」ト謂ヒ亦「洋關」トモ曰フ。中ニモ海口ニ在ルモノハ之ヲ「海關」ト謂フ。(各本見)

【稅契】奴婢及ビ牛馬田宅ヲ賣買スルトキハ官ニ一定ノ稅ヲ納メシメ。官ヨリ給スルニ稅契(印ヲ捺シタ)ヲ以テス此式ハ隋代ニ始マル。但シ當時ハ文券ヲ用ケルノミ。稅契ハ後世ノ名ナリ。【隋書】食貨志「晉自過江。凡貨二

賣奴婢馬牛田宅。有文契。云云。是レ後世稅契ノ初ナリ。

【稅契銀】清制、田地家屋等ヲ賣買スルトキ證書ヲ作製シ、官廳ノ保障ヲ請求スル場合ニ買主ヨリ其實買價格ニ準シテ納付スル稅銀ヲ謂フ。【六部成語註解】「置買田房之契券。應按價納稅。請官蓋印。」

【稅草】一種ノ課稅トシテ牛馬ヲ飼養スル雜草ヲ提供セシムルコト、唐太宗ノ時ニ始マル。【事物紀原】「唐書食貨志曰。正觀中始稅草以給諸閑。則稅草起自唐太宗也。」(卷一)

【稅單】清制、稅關ニ於テ關稅ヲ徵收シタルトキハ憑證ヲ給與ス。憑證ニハ某貨ハ某地ヨリ某地ニ至ルコト、税金若干某月日ヲ以テ納了シタルコトヲ記ス之ヲ「稅單」ト謂フ。商人ハ之ヲ所持シ過タル所ノ關卡ニ提出シ其檢査ヲ受ケテ放出セラル。故ニ亦之ヲ「放行單」トモ稱ス。

【稅畝】魯ノ宣公ノ十五年公田ノ法、十分ノ

一ヲ徵スルノ外其餘畝(百畝ニ過)ヲ調査シテ十分ノ一ヲ科シタリ。是レ畝ニ稅スルノ初メナリ。【左氏傳】宣公十五年「初稅畝。」註「公田之法。十取其二。今又履其餘畝。復十收其二。故哀公曰。吾猶不レ足。」

【稅務司】清代ノ官名、各新關皆之アリ。關稅ヲ管理ス。其職務ハ多ク西洋人ヲ以テ之ニ任ズ。其事務ヲ總アル者ヲ「總稅務司」ト曰フ。民國之ニ因ル。

【聖旨】天子ノ命令【晉書】「鄭冲勳三進九錫。日。明公宜承聖旨。受茲介福。」唐宋以後君主ノ命令ヲ稱シテ「聖旨」ト爲ス。

【聖米】唐代淮南地方旱ス。民漕粟ニ遺レル米ヲ拾ヒ、之ヲ灑取リテ自ラ食料ト爲シ、呼ビテ「聖米」ト爲ス。【唐書】「淮南旱。民灑漕粟遺米。自給。呼爲聖米。」

【聖謨】天子ガ汎ク賢臣ニ謀リテ定メタル國是ナリ【書書】伊訓篇「聖謨洋洋。嘉言孔彰。」又

體察云云。(六)

【西】(部首)(類)

【西掖】中書省ノ別名ナリ。【漢官儀】「左右曹受二尚書事。前世文士以中書在右。因謂之中書爲二右曹。又稱二西掖。」

【西階】寢宴ノ堂ニ昇ルニ東西兩階アリ。主人ハ東階ヨリ昇リ。客ハ西階アリ昇ルヲ禮トス。【禮記】曲禮篇「主人就二東階。客就二西階。客若降等。則就二主人之階。」

【西京七族】前漢皇后ノ黨族、呂氏、竇氏、衛氏、霍氏、許氏、史氏、王氏是ナリ。(錦字箋卷一)

【西藏】古代ノ三危、漢之ヲ「羌」ト呼ビ唐ハ之ヲ「吐蕃」ト呼ブ。俗ニ「圖伯特」ト曰フ。前藏後藏ノ二部ニ大別ス。即チ「チベット」ノコトナリ。

【西序】周代小學ノ名ナリ。(トノ部、東)

【西神】痘ノ別名、痘科彙編「國俗稱痘爲二西神。蓋疾之行。每自二西一始。以及二於諸路。云云。(卷一)

【西錢】七十文ヲ以テ百文ト爲スノ稱ナリ。(「セ」部、錢)

【請】(部首)(類)

【請】漢律、諸侯ガ春、天子ニ朝スルヲ「朝」ト曰ヒ秋朝スルヲ「請」ト曰フ。【史記】寶鼎傳注、律ヲ引キテ曰ク、春朝天子。曰「朝」。秋曰「請」。蓋シ、請ニ謁問ノ義アリ。【漢書】張湯傳「造請諸侯。不避寒暑。師古註「請。謁問也。」

【請安】(一)古制、自ラ安息ヲ請フノ義ニ用フ。【左傳】「使華獻而請安。」又賓客ニ禮ヲ安如ニセンコトヲ請フノ義、【儀禮】「主人曰。請安于賓。」(二)清制、官吏ガ休暇滿チテ歸京シタルトキ、又ハ地方出張官吏ノ回京シタルトキ或ハ又考官ガ試驗終了シタルトキ等ニ於テ、天子ノ安否ヲ伺フコトヲ謂フ。而シテ安否ヲ伺フニハ文ヲ以テスルヲ例トスルガ故ニ、之ヲ「請安摺」ト稱ス。(三)普通ニ於テ「尊

同書ニ「大禹謨」準陶謨アリ。皆天子ノ德ヲ敘シタルモノナリ。【說文】「謨力謀也。除曰「謨」。一書。畫。一計。爲「謨」。汎議將定。其謀。曰「謨」。

【聖諭】(下條ヲ見ヨ)

【聖諭廣訓】我國ノ教育勸語ニ當ル。清康熙帝ノ時、聖諭十六條アリ。雍正帝ノ時「廣訓萬言」ヲ作り各學校ニ頒布ス。之ヲ「聖諭廣言」ト謂フ。(科場條例)

【聖容】列祖列宗ノ肖像ヲ謂フ。【皇朝政治學問答】「列祖列宗萬年之後。繪出遺像。懸二挂壽皇殿上。謂之聖容。」

【聲】(部首)(類)

【聲實】名實ト云フニ同ジ。【晉書】劉琨傳「王峰以現侵己之地。數來擊琨。琨不レ能抗。由レ是聲實稍損。」

【聲跡不好】風評ノ成跡良好ナラザルノ義

【元典章】彙編、體察體覆篇「禁治察司等例」ノ條「上該按察司官。有聲跡不好者。仰御史臺

長及び同輩ノ安否ヲ問フニ此語ヲ用ケル。  
(四)滿洲ノ慣例ニ於テハ人ト相見エタルトキ少シク其膝ヲ屈シテ默禮スルヲ「請安」と曰フ。漢禮ノ「揖」ニ當ル。

【請假】官吏ガ休暇ヲ求ムルコトヲ謂フ。【所書】陸彦師傳「遇疾請假。還都。」

【請解侍】(解侍ヲ) (侍ノ部) (解侍ヲ見ヨ)

【請寄】猶ホ請託ト言フガ如シ。【史記】「請寄無所聽。」

【請期】婚姻六禮ノ一、男家女家ニ對シテ婚姻ノ儀式ヲ舉ゲル日ヲ求ムルコトヲ謂フ。(六禮ヲ見ヨ)

【請急】官吏ガ休暇(暇ノ)ヲ請フコトヲ謂フ【宋書】「既無表聞。又不請急。」

【請賅】賅ハ法官ガ收賄シテ法ヲ枉グルノ義即チ被告人又ハ其關係者ガ法官ニ賄賂シテ不正ノ請求ヲ爲スコトヲ謂フ。(晉書刑)【請君入甕】(甕ヲ君入レ)其人ノ法ヲ以テ還

ツテ其人ヲ治ムルコトニ喩フ。【通鑑】唐紀「或告下州典與丘神勳通謀。太后命三來使臣一鞠之。使臣謂典曰。因多不承。當爲何法。典曰。此甚易耳。取三大甕。以炭四周灸之。令三囚入中。何事不承。使臣乃索三大甕。火圍如三甕法。因起謂典曰。有內狀。推見。請見入此甕。典惶恐叩頭伏罪。今請見。請君入甕。」

【請訓】清制。欽差(勅ヲ承ケテ他ニ)及ビ三品以上赴任ノ際皇帝ニ謁シテ挨拶スルノ辭。即チ陛辭ヲ「請訓」と曰フ。訓ヲ請フノ義ナリ。

【請驗單】開港場ニ於テ貨物輸入ノ検査請求書ヲ「請驗單」と曰フ。(清國行政)

【請讞之弊】請託ニ因リテ人罪ヲ議スルノ弊。【大學衍義補】「其子忠。略依寵意。奏上二十三條。爲決事。比以省請讞之弊。」(卷百)此レ「後漢書」ノ陳龜傳ニアル語ヲ取ルナリ。

【請旨】行政上疑問ヲ生ジタルトキ、具指シテ上諭ヲ仰グコトヲ謂フ。【六部成語註解】「凡有下應請旨運行者。則具指奏請。」

【請旨區處】軍官即チ將校ノ犯罪ニ付キテハ先ヅ其功績ヲ論議シ其功罪ヲ明ニシテ、奏請ヲ爲シ勅裁ヲ承ケテ然後ニ處分スルコトヲ謂フ。【明律】名例篇「軍官有犯」ノ條「上略杖罪以上。須要論功定議。請旨區處。」(三)

【請旨缺】清制、官吏任用ノ形式、中央官廳又ハ地方官廳ニ於テ勅裁ヲ仰ギテ補用スル官職ヲ「請旨缺」と曰フ。(清國行政)

【請旨取問】(旨ヲ請ヒ)軍官即チ將校ノ犯罪ニ對シテハ其所屬官廳ヨリ一定ノ順序ヲ經テ奏請シ勅許ヲ得テ犯人ヲ收召推問スルコトヲ謂フ。【明律】名例篇「軍官有犯」ノ條「凡軍官犯罪。從二本管衙門一開具事由。申呈五軍都督府。奏開。請旨取問。」(卷三)

【請室】獄舎ノコトヲ曰フ。【漢書】爰書傳「獄二請室。其註。請室。獄也。」

【請射】地方人民ガ開墾ノ目的ヲ以テ荒蕪地ヲ指定シテ官廳ヘ下渡ヲ求ムルノ義ナリ。【元

志」其說勿レ論ニ牽強。而讀者莫ニ致誰何二者何也。特取其新奇可愛耳。雖然。徂徠取諸說。先生求諸古書。此其所以不不同也。(同書)【賈赦】其罪ヲ寬恕赦免スルコトヲ謂フ。【前漢書】文三王傳「得見賈赦。類師古ノ註。賈。謂寬其罪。」

【賈酒】酒ヲ除フコトヲ謂フ。【史記】高祖紀「常從王媼武負賈酒。」

【鄭】(部首) (度) (讀)

【鄭國宗聖公】元代、曾參ノ謚號ナリ。(復聖公ヲ見ヨ)

【青】(部首) (讀)

【青衣】(一)古ハ青衣ヲ以テ賤者ノ服トス。故ニ婢ヲ稱シテ「青衣」ト爲ス。漢ノ蔡邕「青衣」ノ賦アリ。晋代劉聰、懷帝ヲシテ青衣ヲ著ケテ酒ヲ行ハシメ以テ辱ヲ示ス。近代猶ホ「青衣小帽」ノ語アリ、富貴ノ人間居ノ時冠帶ヲ去リテ賤者ノ服ヲ著ス。以テ自ら身體ノ便違ヲ

圓ル爲メナリト云フ。清代ハ生員ノ不成績ヲ罰スルニ「青衣發社」ノ語アリ。(生員ヲ見ヨ)

【青衣小帽】(青衣) (小帽) (ヲ見ヨ)

【青衣發社】清制、府州縣學ノ學生即チ生員ニシテ歲考、科考ノ兩試ニ落第シタルトキ漸次其待遇ヲ降シ(即チ生員ヲ増生ニ降シ増生ヲ附生ニ降シ附生ヲ降生ニ降シ)類ナリ最後ニハ一時生員ノ待遇ヲ停止シ賤者ノ服タル青衣ヲ襲ケシメ退學セシムルコトヲ謂フ。(會典)

【青腰白臍米】米ノ形狀ナリ。即チ米腰青色ニシテ中間ニ一點ノ白色アルヲ謂フ。【六部成語註解】「米之形狀也。米腰青色。中間有二點白。」

【青黃不接之候】青ハ新米ノ義、黃ハ舊米ノ義、即チ新穀漸ク收穫シ、舊穀將ニ盡キントシ、民人ノ糧食接續スルコト能ハザル時期ヲ謂フ。【六部成語註解】「言新穀米收。舊穀將空。民人糧食不能接續之時也。」

典章「戶部籌覈田部」至元二十八年。至元新格内一款。諸應係官荒地。貧民欲願開種者。許赴所在官司。入狀請射。云云。(卷十)【請託】權勢アル人ニ縁リ私ニ請ヒ頼ムコトヲ謂フ。【漢書】何武傳「欲除吏。先爲科例。以防請託。」

【請帖】招待狀ノコトヲ謂フ。(郵政)

【賈】(部首) (讀)

【賈】(一)【說文】「貨也。廣雅。賈也。【史記】高祖紀。常從王媼武負賈酒。是レ除即チ賈フノ用例ナリ。【前漢書】文三王傳「得見賈赦。」註「師古曰。賈謂寬其罪。」是レ假貨ノ賈ノ義ニ用ケルノ例ナリ。蓋シ式夜ノ切音教ノトキハ教ト相通ズ。今ハ器物ヲ出賃スルコトヲ賈ト曰フ。(二)不償ヲ以テ貸別スルコト、黒賈【賈醉談】「賈。除也。【史記】者。旁註曰。於幾乃留。醉談引。士佐日記。證。於幾乃留之爲。賈而不償之義。以釋。國語。其說奇而併。讀者愛之。美論。當否。往者物徂。往者。南留別

【青詞】 亡弟ヲ追弔スルノ詞ナリ。【野客叢書】「唯室先生作『追弔』青詞。有レ曰。氣分ニ父母。孰如三兄弟之親。痛切ニ肺肝。無レ甚ニ死生之隔。」(四)

【青州】 (州) (見ヨ)

【青社】 廟ノ名、漢武帝元封六年子闕ヲ立テ、齊王ト爲ストキノ策ニ曰ク、「嗚呼小子闕。受ニ茲青社。朕承ニ天序。惟稽レ古建ニ爾國家。封ニ子東土。世世爲ニ漢藩輔。」(大學衍義補)

【青囊】 印ヲ盛ルノ囊ニシテ奏勅(官吏ノ非奏文)ヲ爲ストキニ用フ。【古今註】奏勅者則以ニ青布囊ニ盛ニ印於前。示ヲ奉ニ王法ニ而行也。非ニ奏勅ニ者。則以ニ青綸ニ爲レ囊。盛ニ印於後。

【青苗法】 宋ノ神宗ノ時王安石此法ヲ設ケタルモ必シモ其創意ニ成リタルニアラズ唐代既ニ「青苗錢」ノ名アリ(「青苗錢」)且ツ宋代ニ於テモ陝西轉運使李參已ニ王安石ニ先チ青苗錢ノ制ヲ其管内ニ行ヒ、好結果ヲ奏シタルコトアリ。(上)然ルニ王安石ノ青苗法ハ多少其

趣ヲ異ニス。今其概要ヲ擧グレバ該法ハ神宗ノ熙寧二年ノ制定ニシテ其方法ハ諸路ノ常平倉及ビ廣惠倉ノ錢穀ヲ人民ニ貸付シ、秋收後ニ於テ返納セシムルヲ本則トシ若シ其歲凶災ナルトキハ期ヲ延ベ豐歲ヲ待チテ返納スルコトヲ許セリ。其目的ハ倉穀ヲ減ゼズシテ貧民ヲ救ヒ、富豪高利ノ弊ヲ除クニ在リタリ。安石ハ先ツ蘇軾ノ意見ヲ徵シタルニ蘇軾ハ「錢穀ヲ以テ民ニ貸スハ民ヲ救フノ意ニ本ツクト雖モ出納ノ吏緣リテ姦ヲ爲サバ法アリト雖モ之ヲ禁ズル能ハズ云云」ト言ツテ之ニ反對セリ。安石亦之ヲ理アリトシテ實行ヲ躊躇シタルモ京東轉運使王廣淵略ボ同様ノ方法ヲ實行シテ效驗ヲ得又神宗安石ノ議ヲ嘉納シ内帑ヲ發シテ之ヲ助ケタルガ故ニ、遂ニ之ヲ全國ニ實行スルコトヲ得タリ。(宋史王安石傳)惟ダ安石ノ此法ハ保甲ノ法ニ伴ヒ、若シ一家返納ヲ怠リタルトキハ他ノ九家代リテ之ヲ返納スルコト、シ、各路ニ提舉官ヲ置キテ之ヲ執行セ

シメタルモ執行其官ヲ失シ姦吏相謀リテ私利私慾ヲ爲スニ至リシカバ舉世ノ非難ヲ受ケルニ至レリ。蓋シ法惡キニアラズ。人ヲ得ザリシニ因ルナリ。

【青苗錢】 唐ノ代宗ノ時國用不足ヲ告グルニ際シ、夏秋二季ニ徵スベキ租稅ヲ未ダ其期ニ達セズシテ徵收シタルコトアリ、稍尙ホ青キ時ナルヲ以テ之ヲ「青苗錢」ト稱ス。(唐書食)

【青苗簿】 義倉ノ名ハ隋代ニ始マル。(義倉)唐ハ上王公ヨリ下庶民ニ至ル迄毎年七月以前ニ青苗簿ヲ造リ諸州ヨリ尙書省ニ送

リ秋ニ至リテ每畝ニ粟二升ヲ徵シ商賈ノ如キ田土ナキ者ニ對シテハ上戸ヨリ下中戸ニ至ルマテ八等ニ分チ遞次ニ五石以下五斗以上ヲ課シテ之ヲ徵スルコト、セリ。其主ナル目的ハ饑饉ノ際ニ於ケル賑貸ヲ爲スニ在リ。(唐六等)

【青幫】 (老會) (見ヨ)

【青廬】 北朝時代婚禮ヲ行フトキ青色ノ布幔ヲ門ノ内外ニ張リテ屋ト爲シ、之ヲ「青廬」ト謂フ。此ニ新婦ヲ迎フルヲ例トス。【酉陽雜俎】「北朝婚禮。青布幔爲レ屋。在ニ門内外。謂ニ之青廬。於レ此交拜迎婦。大家領二百餘人。云云。」

【哨官】 清代義勇兵ノ編制ハ百人ヲ以テ一哨ト爲シ一哨ヲ領スル者ヲ「哨官」ト曰フ。

【哨子】 今ノ巡警(我國ノ)用キル所ノ吹器(所謂「ヨブ」)ナリ。

【哨箭】 清代、弓制ノ一種、弓箭ノ鐵ニ哨子(ヨブ)ヲ加ヘテ發スレバ風ヲ受ケテ鳴ル即チ鳴鐘ナリ。(清會典)

【哨船】 海制、水上警察ノ用ニ備フル船、即チ海賊ヲ巡警スル船ナリ。(六部成語註解)

【小(部首) (孫)】

【小(部首) (孫)】

【小(部首) (孫)】

【小(部首) (孫)】

【小(部首) (孫)】

【小(部首) (孫)】

【小(部首) (孫)】

【小(部首) (孫)】

【小(部首) (孫)】

【小(部首) (孫)】

【小(部首) (孫)】

【小(部首) (孫)】

【小(部首) (孫)】

【小(部首) (孫)】

【小(部首) (孫)】

【小(部首) (孫)】

【小(部首) (孫)】

【小(部首) (孫)】

【小(部首) (孫)】

【小(部首) (孫)】



【古今事類】(新集卷十五)

【小司空】 周代創設ノ官、大司空ノ貳官、工政ノ機關、後世ノ「工部侍郎」ニ當ル。(部)大司空

【小司寇】 周代創設ノ官、大司寇ノ貳官、司法ノ機關、後世ノ「刑部侍郎」ニ當ル。(部)大司寇

【小司徒】 周代創設ノ官、大司徒ノ貳官、教育及ビ財政機關、後世ノ「禮部侍郎」及ビ「戶部侍郎」ニ當ル。(部)大司徒

【小司馬】 周代創設ノ官、大司馬ノ貳官、兵政ノ機關、後世ノ「兵部侍郎」ニ當ル。(部)大司馬

【小舍】 明代軍需ノ子弟應ニ父兄ノ封爵ヲ襲フベキ者概ネ之ヲ「廩舍人」ト謂フ。是ヨリ舍人ハ世襲ノ榮稱ト爲リ俗ニ之ヲ「小舍」ト謂フ。其幼ナルヲ以テナリ。(明史何文輝傳)

【小祥】 (一)「喪」ノ部、三年(之喪)ヲ見ヨ

【小寢】 天子諸侯ノ居ル所皆之ヲ「寢」ト謂フ。其中央ニ在ルヲ「路寢」、燕寢ト曰ヒ、東西兩旁ニ在ルヲ「小寢」ト曰フ。休息ノ所ト爲ス。今ノ便殿ニ當ル。(禮記)大夫退。然後適小寢。

【小戩】 戩ハ俗字、權衡ノ一種、大小二種アリ。金、珠、藥物ヲ量ルニ用フ。大戩ハ五十乃至百兩、小戩ハ十兩乃至三十兩ヲ量ルニ用フ。(嘉慶會典卷四十六)

【小宗】 支那古代ノ宗法(即チ相續)小宗ト曰フハ大宗ニ對スルノ語、諸侯委出ノ子ハ諸侯ヲ嗣グテ得ズ。別ニ家ヲ立テ宗ヲ開ク。故ニ之ヲ「別子」ト稱ス。其嫡長子ハ其族人ノ宗ト爲リ百世通ラザルヲ原則トス。其庶子ハ「小宗」ト爲ス。世々通リテ別ニ家ヲ爲スヲ例トス。

【禮記】喪服小記「別子爲祖。繼別爲宗。繼別者爲小宗。」鄭注「諸侯之庶子。別爲二世世。爲二始祖也。謂之別子者。公子不レ得レ稱先君。別子之世長子。爲其族人一爲宗。所謂百

ト爲シ材官校尉中左右三尙方甄官等ノ令ヲ統テ。宋ノ少府ハ左右御府等ノ令丞ヲ領ス。齊梁、陳皆アリ、北齊ハ置カズ。其三尙方司染諸治及ビ細作甄官等ノ署ハ並ニ太府ニ隸ス。隋煬帝大業中ニ至リ始メテ太府少府監ヲ分ツ。唐ハ武德九年將作ヲ分チテ少府監ト爲シ、龍朔年少府監ヲ改メテ内府監ト爲シ咸亨年舊ニ復ス。去宅元年改メテ尙方監ト爲ス。神龍年舊ニ復ス。開元ノ初甲鏡弓弩ニ分チ別ニ軍器監ヲ置ク、同十二年復少府ニ歸ス。少府監ハ百工伎考子政令ヲ掌リ。中尙、左尙、右尙ヲ總ブ。織染ハ五署ヲ治ムルコトヲ掌リ、將作監ハ土木工匠ノ政ヲ掌リ左右中校甄官等ノ署ヲ總ブ。百工等ハ監、少監之ガ式ヲ爲ス。宋ノ少府ハ監少ヲ置キ百工伎巧ノ事ヲ掌ル。將作亦監少ヲ置キ城壁、宮室、橋梁、街道、舟車等凡ソ營造ノ事ヲ掌ル。中興後ハ將作及ビ少府ヲ置カズ、建炎三年始メテ工部ニ併歸ス。紹興三年復タ將作監ヲ置キ少府ハ文思ニ

世不レ通之宗。別子庶子之爲レ子。爲ニ其昆弟一爲レ宗也。謂之小宗者。以其將也。近俗、次房(次男)ヲ稱シテ「小宗」ト曰フ。

【小租權】 (租權)ヲ見ヨ

【小刀會】 清代ノ秘密結社、仇洋ノ一派ナリ光緒二十三年獨逸膠州灣ヲ占據スルヤ、書ヲ獨逸ノ軍營ニ致シ期ヲ約シテ與ニ戰ヒ僅ニ事ナキヲ得タリ。其黨ハ皆游勇驍馬(馬賊)山東人多キニ居レリ。

【小布】 貨幣ノ一種、其幅ノ狭小ナルモノヲ謂フ。(漢書食貨志)

【小殮】 (殮)ヲ見ヨ

【少校】 民國ノ官制、陸海軍第六級官ヲ「少校」ト爲ス。

【少宰】 周禮天官大宰ノ貳官ナリ。當時總理大臣ノ次官ナリ。春秋時代ニハ諸侯國ニモ此官アリ。【左傳】「楚少宰如二番師。」宋ノ政和中

尙書左右僕射ヲ改メテ太宰少宰ト爲シ、尋テ廢ス。明清時代俗ニ吏部侍郎ヲ稱シテ「少宰」ト爲シ又「少宰」ト爲ス。

【少師】 (一)「孤」ノ一ナリ。(二)舜代樂官ノ稱、少師陽ト爲ス。

【少師陽】 (前條ヲ) (見)ヨ

【少傅】 三孤ノ一ナリ。

【少府監】 少昊氏ノ時五雉ヲ以テ「五工正」ト爲ス。是レ其濫竊ナリ。唐虞ノ「共工」、周官ノ「考工」皆其職ナリ。秦ニ「將作少府」アリ宮室ヲ治ムルコトヲ掌ル。又別ニ「少府」アリ。山海池澤ノ稅ヲ掌リ以テ共養ニ給ス。漢之ニ因ル。將作少府ハ宗廟、路寢、宮室、殿閣等木土ノ工事ヲ修飾シ少府ハ山澤陂池ヲ掌ル。實ニ二官ト爲ス。景帝中將作少府ヲ改メテ「將作大匠」ト爲ス。光武(東漢)中興スルハ諸者ヲ以テ其官ヲ領セシム。章帝建初年又「少府卿」一人ヲ置キ、服御諸物、衣服寶貨珍膳ノ屬ヲ掌リ、尙方畫室織室等ノ令ヲ統テ。晋ハ少府亦列卿

併歸ス。元ハ將作監ヲ省キ止ダ尙府監ヲ置ク。監、少監各一人、丞二人邦國百工營造ノ事ヲ掌リ、文思、尙方、圖書、裁造、文綸、織染、甄官ノ七署ヲ管轄ス。(古今事類)尙ホ「大學衍義補」唐代設置ノ官職ニシテ百工伎巧ノ政ヲ掌ルト爲ス。(卷九)

【抄保】 三孤ノ一ナリ。

【抄胥】 胥吏(書)ノコトヲ謂フ。【辭源】胥吏專供抄寫。故謂之抄胥。

【抄封租】 司法上ノ處分ニ由リテ人民ノ財產權ノ中其租權ヲ沒收スルヲ「抄封租」ト曰フ。(臺灣私法)

【抄沒】 人民ノ財產ヲ沒收スルコト、【明律】「抄沒財產」又「依律抄沒」等ノ語アリ。

【招】 (一)「刑」事被告人が其犯罪ヲ承認スルコト(二)自ラ罪過ヲ招クコト【國語】周禮「襄公

曰立子淫亂之世。而好盡言。以招人過。

【招解】 清制、各州縣ニ於テ其管内ノ死罪犯人ノ口供ヲ分別記録シテ簿冊ヲ作製シ而シテ犯人ヲ省城(其省ノ都府)ニ送致シテ處分スルコトヲ謂フ。(會典)

【招梗禮讓】 祈禱ノ名、招ハ善祥ヲ招取スルノ義、梗ハ惡ノ未ダ至ラザル中ニ禦捍スルノ義、禮ハ現在ノ災ヲ除去スルノ義、讓ハ現在ノ變異ヲ推却スルノ義、此ノ四者ヲ「疾殃」ト曰フ。之ヲ除クコトヲ祈ルハ女祝ノ職ナリ。

【周禮】 女祝「掌以時招梗禮讓之事。以除疾殃」。賈公彦ノ疏「招者招取善祥。梗者禦捍惡之未至。禮者除去見在之災。讓者推却見在之變異。此四者皆與人爲疾殃。故云以除疾殃也」(同書註疏。大學)

【招冊】 犯人ノ口供ヲ錄シタル簿冊ヲ「招冊」ト稱ス。

【招弭】 祈禱ノ名、吉祥ヲ招クヲ「招」ト曰ヒ、

禍崇ヲ去ルヲ「弭」ト曰フ。之ヲ祈ルハ男巫ノ職ナリ。【周禮】 男巫「春招弭吉禱去禍。以除疾病」(同書地官ノ註。大)

【招商局】 支那ノ大汽船會社、清ノ同治十一年ニ創設シ光緒初年英商旗昌洋行ノ船舶碼頭ヲ購收シ其基礎始メテ定マル。初メハ官款ヲ以テ資本ト爲シタガ光緒間始メテ商股(商人株式)ニ入レ、商辦ト爲シ、官之ヲ監督ス。

【招婿婚】 (ヲ見ヨ)

【招討】 降ル者ヲ招キ叛ク者ヲ討ツコトヲ掌ルノ官、唐、宋ハ「招討使」ヲ置キ遼、金、元ハ「都招討司」、「副招討」等ノ官アリ、明ハ惟ダ上司ニ「招討司」アルノミ。清ハ當初吳三桂、招討大元帥ト稱ス。(參照)

【招討使】 唐制、武將ノ職名、征討ヲ掌ル。招ト云フハ降服者ハ之ヲ招撫スルノ義、臨時任命ノ官ナリ。【事物紀原】 唐百官志曰。招討使掌征伐。兵罷則省云。天寶未置。招討都統之名。始ニ於此。事始云。開元十七年宰相奏置招

討使。天寶十五年以來瑣爲三頭川大守。兼招討使。職林曰。正元時置。注又云。德宗建中年以馬燧爲二魏博招討使。舊唐志曰。正元末置。用兵權。兵罷則停也。(唐以後ノ制)

【招討司】 (前條ヲ)

【招討大元帥】 (前條ヲ)

【招討都統】 (見ヨ)

【招入婚】 支那及ビ臺灣ニ於ケル變則ノ婚姻女子ガ男家ニ入ラズ、男子ガ女家ニ入ルノ婚姻ナリ。之ニ二種アリ、一ハ家女ガ生家ニ留マリテ夫ヲ迎フルモノニシテ、之ヲ「招婿婚」ト稱ス。他ノ一ハ寡婦ガ前夫ノ家ニ留リテ後夫ヲ迎フルモノニシテ、之ヲ「招夫婚」ト稱ス。前者ハ我民法ノ婿養子ニ類シ後者ハ入夫婚姻ニ類ス。然レドモ兩ナガラ相似テ非ナリ。婿養子ハ男ガ家女ノ夫タルト同時ニ家女ノ父母ノ養子ト爲ルモノニシテ、即チ婚姻ト養子縁組トノ二行爲ヲ兼有スルモ、招婿ハ單ニ家女ノ

夫タルニ止マリ、家女ノ父母ノ養子ト爲ルコトナシ。殊ニ招婿ハ其本姓ヲ維持シ、女家ノ姓ニ從ハズ、其間ニ生レタル子モ女家ニ屬セズ、招婿ニ屬スルヲ通例トス。我國ノ入夫ハ妻ガ女月主タルコトヲ要スルモ、招夫ノ妻ハ女月主タルヲ要セズ、又招夫ハ其本姓ヲ維持シ、女家ノ姓ニ從ハザルガ故ニ一種ノ同居人タルニ止マリ、女家ノ財產ヲ承繼スルノ權利ナシ。其間ニ生レタル子モ招夫ニ屬ス。要スルニ招入婚ハ嫁娶婚ニ於テ女子ガ男家ニ入ルニ反シ、男子ガ女家ニ入ルノ變體ヲ取ルノ外ハ嫁娶婚ト異ナル所ナシ。何故ニ斯ノ如キ婚姻ヲ爲スカト云フニ、被招者ハ大概貧民ニシテ正式ノ婚姻ヲ爲スニハ多額ノ聘金(事實上要スルガ故ニ、已ムヲ得ズ他ニ出費シ、聘金ノ代リニ妻家ノ用ヲ辨ジ、他日之ヲ償ヒテ出合スルノ便法ニ出ツルモノナリ。又對手方ノ招家ニ在リテハ、家ニ男子ナキ場合ニ、招夫又ハ招婿ヲ爲シ、其間ニ生レタル一子ヲ以

テ家産ヲ承繼セシムルノ目的ヲ以テ爲スモノアリ。又ハ生計養老ノ爲メニ爲スモノアリ。故ニ招入婚ハ契字ヲ立テ條件ヲ約定スルヲ通例トス。其條件ガ解除シタルトキハ招夫招婿ハ妻ヲ伴ヒテ出合スルヲ通例トス。(臺灣(備考) 招入婚ハ臺灣ニ特別ナル慣習ニアラズ、支那本土ニモ昔ヨリ行ハレタルコトハ、【前漢書】賈誼傳「秦人家富子壯。則出分。家貧子壯。則出養。」又【史記】滑稽傳「淳于棼者。齊之贅婿也。」近クハ【朱子家禮】「以レ女招婿。曰ニ入贅。俗曰ニ入舍。」トアルニ徴シテ知ルベシ。

【招內】 犯人ノ口供ヲ書留メタル書類内ト云フノ義ナリ。(清律例律)

【招撫使】 官名、邊境ヲ綏撫スルコトヲ任トス。南宋ノ時始メテ設所ヲ以テ河北招撫使ト爲ス。未ダ師ヲ出サズシテ罷ム。其後ハ常ニ置カズ。

【昭(部首)】 (舊)

【昭媛】 唐代女官ノ名、或ハ隋代ニ始マルト云フ。【事物紀原】 唐百官志注曰。唐因隋制有之。而隋志。北史俱不載。疑唐制也。(一)

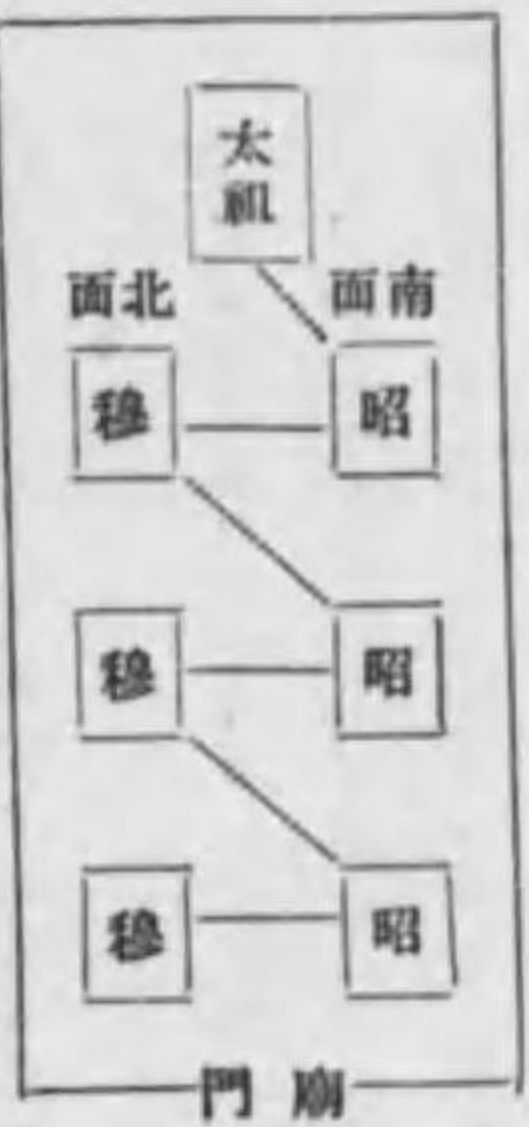
【昭儀】 女官ノ名、漢元帝ノ時ニ始マル。元魏ニ至リテ「左右昭儀」ヲ置ケリ。其官位ハ大司馬ニ視ブ。北齊文宣ノ時ハ丞相ニ比ブ。唐ハ九嬪ノ一ト爲ス。【事物紀原】 漢元帝置昭儀。後代或省。元魏置左右昭儀。視大司馬。北齊文宣時比丞相。唐爲九嬪。(一)

【昭信股票】 內國債ノ一、光緒二十四年正月十四日上諭ヲ發シテ施行ス。京師ニ在リテハ部庫、各省ニ在リテハ藩庫ヨリ發行ス。總額一億兩トシ毎年五分利附ヲ以テ二十年間ニ償還スルコト、セリ。然ルニ各地苛派勒捐(強制的應募)ノ風聞多ク、因テ募債ノ廢止ヲ奏請スル者アルニ至リシカバ已收ノ股票(券)ニ對シテハ章程ニ照シテ辦理スルコト、シ七月二十二日遂ニ諭シテ一般ニ股票ノ發行ヲ停止ス。(通商章程、及ビ政治官報)

【昭忠祠】 清制、京師及直省府縣均シク昭忠祠ヲ建テ殉難戰死ノ文武官及兵丁郷勇ヲ祀ル。文官三品武官二品以上ハ並ニ京師ノ昭忠祠ニ入レ、兵勇ハ五十名ヲ以テ一位牌ニ合シテ祭ル。我招魂社ニ當ル。(清通)

【昭穆】 古代宗廟ノ制、神主ノ位置ヲ定ムルニハ太祖ノ廟ヲ中央ノ上位ニ別置シ、其レヨリ一世昭、二世穆、三世昭、四世穆ノ順序ニ依リテ排置スルヲ法トス。但シ、其廟制ハ身分ニ依リテ異ナル。天子ハ七廟、諸侯ハ五廟大夫ハ三廟、士ハ一廟トシ庶人ハ廟ヲ設ケズ寢ニ祭ルヲ法トス。七廟ト云フハ一世ヨリ六世ニ至ル六廟ノ外ニ太祖ノ廟ヲ加ヘタルモノ、他之ニ準ズ。昭ハ明ノ義ニ取リ、穆ハ深遠ノ義ニ取ル。【禮記】王制篇、天子七廟。三昭三穆。與ニ太祖之廟ニ而五。大夫三廟。一昭一穆。與ニ太祖之廟ニ而三。士一廟。庶人祭ニ於寢云云。【禮記】祭統篇、夫祭有昭穆。昭穆者、所以別父子遠

近長幼親疏之序ニ而無亂也。【管子】君臣篇「昭穆。廟序也。一世昭。二世穆。此等ハ其大則ヲ示スモノナリ。今、天子七廟ヲ圖ニ依リテ示セバ左ノ如シ。



諸侯之廟、大夫三廟之ニ準ズ。【文獻通考】朱子ノ説ヲ擧ゲテ、太祖東向。自如而爲ニ嚴尊之位。群昭之人乎此者。皆列ニ北階之下。南向。群穆之人乎此者。皆列ニ南階之下。而北面。南面者。取ニ其向ニ明。故謂之昭。北面者。取ニ其深遠。故謂之穆。(卷十)要スルニ昭穆ハ尊卑ノ次序ニ依リテ其位置ヲ定メ相侵亂スルトコトヲ許サズ。故ニ宗統相續、又ハ養子縁組等ニ於テモ此原則ニ基キ昭穆相當ノ列ニ依ルベキヲ法トス。例セバ甲ニ男子ナク、養子ヲ爲スト

キハ其男子ト同列ニ在ル者、即チ姪ヲ以テ養子ト爲スヲ原則トスルノ類ナリ。(唐律戶婚去ノ條疏議及ビ明律、清律、戶律篇「立嫡子遺法」ノ條附例)

【昭穆相當之姪】 家ニ男子ナク、祭祀繼承ノ爲メ養子ヲ爲ス必要アルトキハ、昭穆ノ列位ニ於テ(父ガ昭ナルトキハ子ハ昭)相當スル者、即チ其子ト同列位ニ在ル姪ヲ以テ養子ト爲スコトヲ聽ス。國法上、養子ト爲スコトヲ聽サレタル者ヲ「昭穆相當之姪」ト稱ス。(清律「立嫡遺法」ノ條附例) (昭穆ハ前條、附例ノ語) (條ヲ見ヨ)

新安陳氏曰。王制天子七廟。三昭三穆。與ニ太祖之廟ニ而七。昭在レ左。左爲レ陽。昭者陽明之義。穆在レ右。右爲レ陰。穆者陰幽之義。以レ周易之。書於ニ文王曰ニ穆考文王。詩於ニ武王曰ニ率見昭考。父穆。則子昭。父昭。則子穆也。子孫亦以爲レ序。祭統所謂昭與レ穆齒。穆與レ昭齒是也。吳氏澂曰。天子七廟。受レ命之主。爲ニ太祖廟。居中。東三昭。西三穆。凡六廟。彌祖高曾爲ニ四親廟。高祖之父與ニ高祖之祖。爲ニ二親。廟合レ之爲ニ三昭三穆。其有二功德之主。親盡廟當レ毀。則別立ニ一廟於昭穆北廟之北。百世不レ毀。與ニ太祖同。周之文世室。武世室是也。合レ之爲ニ九廟。此天子之制也。諸侯始封之君。爲ニ太祖。合ニ彌祖高曾四廟。爲レ五。無ニ二親。又無ニ功德之宗。故合祭也。有時給ニ而無ニ大給。時給者。遷ニ昭ニ穆之主。合ニ祭於太祖。太給者。三昭三穆ニ宗之外。凡廟之已毀者。皆得レ合ニ食於太祖之廟也。大夫則初爲ニ大夫一者。與ニ祖彌二廟。爲ニ

三廟。上士。二廟。祖彌而已。無ニ太祖也。中士。下士。一廟彌而已。無ニ祖彌也。庶人無レ廟。祭ニ父於寢ニ而已。中士。下士之常祭。但得レ祭ニ祖。若得レ祭ニ祖。則於ニ彌廟祭之。上士。欲レ祭ニ高曾。則於ニ祖廟一祭之。大夫欲レ祭ニ祖以上。則於ニ太祖一祭之。朱子云。周禮建國之神位。左ニ宗廟。則五廟皆在ニ公宮之東南。其制。孫賦云。外爲ニ都宮。內各有ニ寢廟。別有ニ門垣。太祖在レ北。左レ昭右レ穆。差次而南。蓋太祖之廟。始封之君居レ之。昭之北廟。二世之君居レ之。穆之北廟。三世之君居レ之。昭之南廟。四世之君居レ之。穆之南廟。五世之君居レ之。廟皆南向。各有ニ門堂寢室。而墻宇四周焉。太祖之廟居レ中。百世不レ遷。自餘昭穆。每レ易ニ一世而一遷。其遷也。新主附ニ於其班之南廟。則遷ニ其班。北面之主。於ニ大廟之西夾室。而謂ニ之祫廟。凡廟皆南向。廟主在ニ本廟之室中。則惟太祖東向自如。爲ニ最尊之位。羣昭之人乎此者。皆列ニ於北階下。而

南向。羣穆之人乎此者。皆列ニ於南階下。而北向。南向者。取ニ其向ニ明。故謂之昭。北向者。取ニ其深遠。故謂之穆。蓋羣廟之列。則左爲レ昭。而右爲レ穆。給祭之位。則北爲レ昭。而南爲レ穆也。曰。二世之主既終。則三世爲レ昭。而四世爲レ穆。五世爲レ昭。而六世爲レ穆乎。曰。不然也。昭常爲レ昭。穆常爲レ穆。蓋一世終。則四世。遷ニ昭之北廟。六世。附ニ昭之南廟。矣。三世終。則五世遷ニ穆之北廟。七世附ニ穆之南廟。矣。昭附。則穆者不レ遷。穆附。則昭者不レ動。此所以以附必以班。而子孫之列。亦以爲レ序。曰。廟之始立也。二世昭。而三世穆。四世昭。而五世穆。固當ニ以レ左爲レ尊。而右爲レ卑矣。乃三世穆。而四世昭。五世穆。而六世昭。則右反尊。而左反卑矣。而可乎。曰。不然也。宗廟之制。但以ニ左右ニ爲ニ昭穆。而不以ニ昭穆ニ爲ニ崇卑。云云。(二)

【昭穆倫序】 大宗ヲ昭ト曰ヒ、小宗ヲ穆ト曰フ。各一定ノ次序アリ。亂ルベカラズ。之

ヲ「昭穆倫序」ト謂フ。【六部成語註解】「太宗曰昭。小宗曰穆。各爲二次序。不可亂也。」

【昭例銓注】(例ニ昭シ)一定ノ成例ニ昭シテ官吏ヲ銓衡シ名簿ニ記注スルノ義ナリ。【元典章】吏部選格篇「選調官員」ノ條「上諸犯職。經斷。應敍人員。昭例銓注。」(卷八)

【昭】(部首)(嘯) (八)

【照會】公用文書ノ名、清代ニハ地位同等ノ官署間ニ於テ之ヲ用キルヲ例トシタルガ民國ニ於テハ外交上ノ事件ニ付キテ之ヲ用キルヲ例トス。

【照管】委託ヲ承ケテ管理ヲスルコト、又管理ヲ頼ムコト【歐陽修與魚千之簡】「某不不久出。理。欲且奉託照管三數小子。」

【照尺】(一)度ノ名、土地ヲ測量スルニ用フ。(二)槍上ニ裝置シテ彈子ノ發射距離ヲ定ムルモノ、亦之ヲ「照尺」ト謂フ。

【照袋】鳥皮ヲ以テ作レル袋、筆硯諸略刀子樂器等ヲ藏ムルモノナリ。(錄)

【照單道費】照單トハ鑑札ノコト、道費トハ道臺ノ手数料ナリ。即チ商業ヲ營ム者ガ所屬道臺(納ムベキ營業鑑札ヲ受タル手数料ヲ謂フ。(六部成語註解)

【照得】公用文書ノ一種、上ヨリ下ニ行フモノハ毎ニ「照得」ノ二字ヲ用キテ之ヲ首ニ冠スルヲ例トス。但シ宋元時代ハ下ヨリ上ニ行フノ文書ニ之ヲ用キタリ。

【照磨】照對磨勘ヲ職トスルノ官即チ文書ノ非違ヲ検査スルノ官ナリ。

【照臨】(一)天子ノ萬民ニ臨ムノ義ナリ【左傳】「照臨四方」曰「明。勸無私曰「類」本ハ日月ノ下界ヲ照スノ語【書經】「泰誓篇」若「日月之照臨」(二)來客ヲ敬フノ語、光臨ト言フガ如シ【左傳】文公十二年「襄仁辭」玉曰「君不忘先君之好。照臨魯國。云云。」

【燒】(部首)(又嘯)

【燒鍋】北方支那ニ於テ燒酎ヲ釀造スルノ家ヲ「燒鍋」ト曰フ。(例戶部)

【燒鍋稅】燒鍋ニ課スル稅ヲ「燒鍋稅」ト曰フ。(上同)

【燒缸銀】火酒釀造稅ノコトヲ謂フ。(上同)

【燒尾】(一)唐代大臣初メテ官ヲ拜スル者ハ食ヲ獻ズルコトヲ許サル之ヲ「燒尾」ト謂フ。(唐)【二】又唐代士子(鄉貢ノ)初メテ合格シタルトキハ必ズ盛ニ祝宴ヲ催ス、之ヲ「燒尾宴」ト謂フ。說者曰ク「虎變ジテ人ト爲ルモ惟尾ノミ變セズ。須ク之ヲ燒除スレバ乃チ人ト成ルコトヲ得ベシト又曰ク「魚ノ龍ニ化スルモノハ必ズ雷アリテ其尾ヲ燒ク。」ト(封演開)蓋シ野樸ヲ去リ始メテ成人ト爲リタルコトヲ意義ス。

【燒尾宴】(見上條)

【燒餅歌】明ノ太祖燒餅ヲ食スルニ方リテ劉基適、至ル、詢フニ後世ノ治亂ヲ以テス。基隱語ヲ用キテ對フ。全文皆歌謠體ヲ作ス。故ニ「燒餅歌」ト稱ス亦「帝師問答歌」トモ名ヅク。

【燒埋銀】清制、一ニ「埋葬銀」トモ曰フ。人命案件ハ官ヨリ犯人ニ對シ被害者ノ埋葬費ヲ徵收シテ被害者ノ遺族ニ給付ス之ヲ「燒埋銀」ト謂フ。(清律刑律人命篇附例)

【稍】(部首)(又效)

【稍】(一)米倉ヲ稍ト爲ス。【儀禮】聘禮篇「惟稍受之」注「稍、廩食也。疏」以「其稍稍給之。故謂「米廩」爲「稍」。(二)行政區劃ノ名、王城ヲ去ル三百里ヲ稍ト爲ス。【周禮】地官稍人ノ註「距王城三百里曰稍」(三)小ナリ。均ナリ。【廣韻】均也。小也。(四)間食ノ義、又小事アリテ酒ヲ飲ムコト、【周禮】天官小宰「凡王之稍事。云云。」鄭衆註「非二日中大舉之時。而間食。謂之稍事。一說有二小事。而飲食。」(五)小吏ノ俸錢ヲ稍食ト曰フ。【周禮】天官之屬官正「掌三王宮之戒令糾禁。稽其功緒。糾其德行。幾其出入。均其稍食。」註「稍食。羣吏之祿廩也。稍者出物有漸之謂。」

【稍事】稍ハ小ト通ズ。小事ノ義ナリ。但シ鄭衆ハ間食ノ義ト爲シ、鄭玄ハ小事アリテ酒ヲ飲ムノ義ト爲ス。【周禮】地官小宰「凡王之稍事。」【周禮】膳夫「凡王之稍事。設三薦脯醢。」註「鄭衆云。非二日中大舉之時。而間食。謂之稍事。」鄭玄註「稍事。謂有二小事。而飲食。」

【稍食】小吏ノ俸錢ヲ稍食ト曰フ。(見上條)

【稍人】官名、周禮地官ノ屬、丘乘ノ政令ヲ掌ル。【周禮】地官之屬稍人「掌三令丘乘之政令。」

【稍帶】元制、官物ヲ運搬スル吏員ハ稍シモ私物ヲ携フルコトヲ得ス。之ヲ不得稍帶私物」ト謂フ。【元典章】兵部第三篇「押運」章第二條「押運不得稍帶私物」ノ條アリ。此義ナリ。(卷三)

【詔】(部首)(嘯)

【詔】詔ハ本、照ノ義ナリ。天子言ヲ出ス、日ノ天下ヲ照スガ如シトノ謂ナリ。然ルニ三代

其文ナシ。詔ヲ天子ノ命令ト爲シタルハ秦始皇ニ始マリ漢之ヲ承ケテ後世ニ及ベリ。【事物紀原】上三代無文。起於秦漢。史記秦始皇二十六年李斯議。命爲詔。歷代因之。

【公文錄起】六區註。詔。照也。天子出言。如日之照天下也。蔡邕獨斷。詔猶告也。三代無其文。秦始有之。文心雕龍。古者王言稱命。稱詔。稱誓。秦并天下。改命曰詔。制。命曰詔。於是詔興焉。云云。【要スルニ詔ハ機關ヲ經ズ皇帝ヨリ直チニ天下國民ニ發布スル命令ナリ。【清初修會典】布告天下曰詔。【嘉慶會典】「大政事布告國民一垂示衆靈。則有詔有諭。」

【詔格】宋代刑法ノ一種ナリ。【容齋三筆】「法令書。其別有詔。敕令格式是也。神宗聖訓曰。禁於未然之謂敕。禁於已然之謂令。敕於此。以待之。至。謂之詔。詔之格。設於此。使彼效之。謂之式。」

【詔黃】天子下ニ告グルノ文、黃紙ヲ用キタ

【燒餅歌】明ノ太祖燒餅ヲ食スルニ方リテ劉基適、至ル、詢フニ後世ノ治亂ヲ以テス。基隱語ヲ用キテ對フ。全文皆歌謠體ヲ作ス。故ニ「燒餅歌」ト稱ス亦「帝師問答歌」トモ名ヅク。

ルガ故ニ此名アリ。(南史王)

【詔獄】 元來ハ法官ガ天子ノ詔令ヲ承ケテ特殊事件ノ裁判ヲ爲スコト、漢高后ノ時ニ始マ

糾ニ大姦慝。故其事不ニ常見。初羣臣犯レ法。體大者多下ニ御史臺獄。小則開封府。大理寺鞠治焉。

【詔書】 (一)詔勅ノ一種、地方長官等ニ調諭スルトキニ之ヲ用フ。(二)清

制、國家ノ大政事ニ付キテ臣民ニ布告スルモノヲ謂フ。硬黃紙書キ用キルヲ例トス。

代ニ二千石書史一聽レ訟。所レ察過ニ詔條。註出ニ六條之法。

【詔板】 詔書ノ草案ヲ謂フ。後漢書「賈武傳」曹節召ニ尙書官屬。使レ作ニ詔板。

【詔令】 詔ハ前條ノ如ク一般國民ニ布告スルコトヲ謂フ。令ニハ臨時ノ必要ニ基ツキ言又ハ文ヲ以テ特定ノ人ニ命令スルモノト法律トシテ公布スルモノト別アリ。

【鈔】 (一)隱寫ノ義、一ニ抄ニ作ル。(二)鈔引ノ略、紙幣ナリ。【嚴山外集】鈔之名。始見ニ金史。時有二交鈔之制。以一貫至三五貫一名大鈔。一百文至七百文一名小鈔。元以來治ニ製其

制。然ルニ鈔ハ宋紹興二十年女眞氏ニ始マ

【鈔引】 宋代以後紙幣ノ義ニ用キタル。(紙幣稱ス) 宋史記スル所ニ依レバ女眞氏銅少キヲ以テ宋ノ交子法ニ循ヒテ、鈔引ヲ造ル。大小

【鈔關】 明ノ宣德ヨリ嘉靖ニ至ルノ間關内前後ニ鈔關(抽稅徵)十二ヶ處ヲ設ケ凡ソ舟船裝載ノ料量ヲ計リテ關稅ヲ徵收ス。之ヲ「船料」

ト謂フ。每船百料、鈔百貫ヲ收ムルヲ法トス。是レ鈔關ノ稱由リテ起ル所ナリ。

【鈔券】 紙幣ノ稱ナリ。

【鈔料】 鈔關船料ノ略ナリ。(鈔關ノ稱ス)

【銷】 (一)貨物ヲ售ルコトヲ「銷」ト曰フ。行銷「暢銷」ノ類、(二)除去スルノ義「注銷」、「銷假」ノ類、(三)消ト通ス。「銷耗」、「銷滅」ノ類ナリ。

【銷案開復】 官吏ニ過失アリ、一定ノ期間内革職等ノ處分ヲ受ケタル者ニシテ、無事ニ其期限ヲ經過シタルトキハ、原職ニ復セララルコトヲ得、之ヲ「銷案開復」ト稱ス。【嘉慶會典】吏部「有ニ參限ノ者銷案。則開復。」

【夕市】 一日ノ市場ヲ三分シテ朝市、晝市、夕市ト爲ス。(「市」ヲ見ヨ)

【夕牲】 祭日ノ前夕、祭具ヲ展視スルコトヲ謂フ。【漢書】丙吉傳「丙吉子顯。從三祠高廟。至ニ夕牲日。乃使ニ出取ニ齋衣。」

【夕拜】 漢代ノ給事中ハ毎夕宮中ニ入り青瑣門ニ對シテ禮拜ヲ爲ス。故ニ之ヲ「夕拜」一ニ又「夕郎」トモ謂フ。【事物紀原】「漢給事中故事。每日暮時入對三青瑣門一拜。故謂ニ之夕拜。亦爲ニ夕郎。」(五)

【夕郎】 黃門郎ノ異名【漢官儀】「黃門郎日暮入對三青瑣門一拜。名爲ニ夕郎。」(夕拜ノ稱ス)

【石鹽】 (一)鹽ヲ見ヨ

【石開做法】 石開ハ石ヲ以テ造リタル水門ナリ。開一ニ稱トモ曰フ。其築造法ヲ「石開做法」ト曰フ。【嘉慶會典事例】卷六百九十六

【石敢當】 通俗ハ五代晉ノ勇士ノ姓名、後人其姓名ヲ石ニ對シテ百鬼ヲ鎮メ災殃ヲ厭スル守護神ト爲スニ始マルト云フ。我國ニ於テモ

鹿兒島市街等ニハ辻ノ角ノ石垣ニ「石敢當」ノ文字ヲ刻スルヲ見ル。【姓源珠璣】五代劉智遠。爲晉祖押衙。瀟王從珂反。愍帝出奔。遇于衡州。智遠遣力士石敢當。執鐵鏈一待。晉祖與愍帝。事。智遠擁入。石敢當格鬪而死。智遠遣殺帝左右。因燒傳國璽。石敢當生平逢凶化吉。禦侮防危。後人故凡橋路衝要之處。必刻其形。書其姓名。以捍民居。云云。然ルニ其出所ハ遠ク漢代ニ在リ。漢史遊獵【急就篇】ニ「石敢當」ノ三字アリ。

【石渠閣】漢代ノ書庫ノ名。【三輔黃圖】石渠閣。何造。其下鑿石爲渠。以導水。若今御溝。因爲閣名。藏入閣所。得之圖書。至成帝。又於此藏祕書焉。【漢書】施雠傳。甘露中。與五經諸儒。雜論同異於石渠閣。【石獸】石ヲ刻ミテ獸ヲ爲リ墓前ニ列スルモノニシテ漢代ヨリ已ニ之アリ。【讀書】ノ註。霍去病墓前有石人馬。トアルハ其一例ナリ。唐律【雜律】毀人碑碣石獸ノ條アリ。諸毀人碑

碣及石獸者。徒一年。云云。【同書卷二十七】

【石室】漢代書庫ノ名。【大學衍義補】及董卓移都之際。吏民擾亂。自辟雍。東觀。蘭室。石室。宣明。鴻都諸藏。典策文章。悉共割散。其錄帛圖書。大則連爲一。小則制爲一。【卷九十四】

【石塘】石ヲ以テ築キタル堤防。此法ハ清代康熙以後始メテ用キラル。石塘ニハ條石。塊石ヲ用キルコト多シ。柴塘土塘ニ比スレバ多額ノ經費ヲ要スレドモ。濼湖ノ衝激。風濤ノ旋轉ニ堪フルノ力ハ他ノ二塘ノ比ニアラズ。是レ其事ヲ險要ノ處ニ用キラル。所以ナリ。【清國法卷三】

【石炭】俗ニ「煤」ト曰フ。太古時代ノ植物ガ地震其他ノ天變地異ニ因リテ地中ニ埋没シ。遠ク年歲ヲ經。化シテ礦物ト成リタルモノ。支那ニ於テハ昔時ヨリ之ヲ産スト雖モ薪炭代用ト爲スニ至リタルハ隋唐以後ニ屬ス。【隋書】王勃傳。今温酒及炙肉。用石炭。【宋史】陳龜佐傳。徙河宋路。以地寒民貧。仰石炭。以

生。奏除其稅。【本草綱目】時珍曰。石炭南北諸山產處多。晉人不レ用。故識之者少。今則人以代薪炊爨。煨鐵。鑄石。大爲民利。土人皆鑿山爲穴。橫入十餘丈。取之有三大塊。如石而光者。有碎散如炭末者。俱爲「硫黃氣」。

【積穀】清制。每月行官吏ノ補缺選舉ノ度。數ヲ積算スルノ謂。正選者。併選者ハ皆之ニ屬ス。【會典】吏部。每月所選之缺。正選者。併選者。皆積算。積算ノ用ハ之ニ因リテ選期ヲ定ムルノ率ト爲スニ在リ。即チ被選者ノ權利ヲ保障スルモノナリ。

【積穀】荒凶ノ場合ニ窮民ヲ救恤スル目的ヲ以テ平時ニ米穀ヲ儲積スルコト。即チ備荒儲蓄ノ謂ナリ。【福惠全書】積穀所ニ以備荒。【積分法】學生ノ成績ヲ考校スルノ法。元代國子監學生ヲ毎月一次試験ヲ爲シ。其答案辭理共ニ優ナル者ヲ上等ト爲シテ一分ヲ準シ。理優ニ調平ナル者ヲ中等ト爲シテ半分ヲ準シ

斯クテ毎歲其年ノ積分ヲ通計シ八分以上ニ至ルノ者ハ升セテ高等生員ニ充テ課業ヲ免ズ。學則ニ違反スル者ハ初犯一分ヲ罰シ二犯二分ヲ罰シ三犯ニ及バ除名スルヲ法トス。之ヲ「積分ノ法」ト謂フ。蓋シ宋代王安石ガ一時科舉ヲ廢シテ學校ニ此法ヲ用キタルコトアリ。

【脊杖】宋代。杖刑ニ脊杖ト髀杖トアリ。普通ノ杖刑ハ髀ニ加フルヲ例トスルモ流刑其他重罪ニ附加スルモノハ脊ニ加フ。故ニ之ヲ「脊杖」ト謂フ。【大學衍義補】宋太宗定折杖之制。凡流刑四。加役流。脊杖二十。配役三年。流三千里。脊杖二十。二千五百里。脊杖十八。二千里。脊杖十七。並配役一年。云云。【卷百一】

【籍】(一)戶籍ノ略語トシテ用フ。(二)戶籍ノ見ヨ。【籍貫】(一)籍貫ハ籍ノ義。天子親耕ノ田ヲ「籍田」ト曰フハ此ニ因ルナリ。(二)籍貫ハ

【籍貫】特定ノ戶籍ガ特定ノ地方ニ定著セルコトヲ示スノ語。我戶籍法上ノ原籍地ト云フト略ガ同義ナリ。【清律】戶役

【籍田】(一)籍ハ籍ノ義。天子親ラ土ヲ踏ミテ田ヲ耕シ。其米ヲ以テ上帝及ビ先農ヲ祭ルノ禮ニ供フ。即チ一ハ以テ享享ヲ示シ一ハ以テ農業ヲ重ンズルノ意ヲ示ス。【五經要義】天子籍田以供上帝之衆盛。所以先百姓而致孝享也。籍踏也。言親自踏履于田而耕之也。【漢書】文帝紀。其開籍田。朕親率耕以給宗廟粢盛。又【漢書】春始耕於籍田。百官皆從。【禮記】籍田。天子親耕。其後ハ民力ヲ借リテ之ヲ治ムルガ故ニ。籍田ト謂フトノ説アリ。【詩疏】籍之言。借也。借民力治之。故謂之籍田。

【籍沒】或ル重大ナル罪ヲ犯シタル者ハ其所有二保ル一切ノ財產ヲ籍錄シテ之ヲ沒收スル

コトヲ謂フ。普通ノ沒收ハ不正品又ハ犯罪ノ用ニ供シタル物件ヲ沒收スルニ止マルモ籍沒ハ一切ノ財產ヲ全部沒收ス。是レ兩者ノ異ル所ナリ。

【籍錄】不正者ノ財產ヲ沒收スル手續ニシテ其所有ニ保ル一切ノ財產ヲ官ノ帳簿ニ登錄スルコトヲ謂フ。

【舍采】入學ノ時ニ行フ禮。蔬菜ヲ供ヘ誠意ヲ以テ先師ヲ祭ルノ禮ナリ。釋奠ニ比スレバ禮ノ略ナルモノナリ。【周禮】大胥。春入學。會采合舞。舍采。鄭玄註。春始以學士入學宮。而學之。始入學。必釋菜。禮先師也。菜。蘋蘩之屬。呂大臨註。釋菜之禮。禮之至簡者也。皆不在多品。貴其誠也。其用有三。每歲春合舞。則行之。月令云。仲春命樂正。合舞舍菜也。始入學。則行之。文王世子云。既受器用幣。然後舍菜。是也。始入學。則行之。大學始教。皮辨祭菜。示敬道也。【文王

世子、同學記)  
同月令請焉。

【舍奠】「釋奠」ト通ズ。(「釋奠」)  
【實】(部首) (陌韻)

【責課】諸州ニ課シテ其土地ノ特産物ヲ貢セ  
シムルノ義ナリ。【宋史】食貨志「諸州各隨二風  
土所宜。土壤瘠瘠。不宜三種藝者。不須二貢  
課。」

【責主】債主、今ノ債權者ニ當ル。【後漢書】  
「實主日至。跪求無已。」

【責成】成績ヲ督責スルノ義ナリ。【淮南子】  
「人主之術。責成而不勞。」「任放文。」「恭己南  
面。責成斯在。」「明會典」【清會典】ニハ其用例  
多シ。

【責備】人ノ義務ヲ責ムルニ其完備ヲ以テス  
ルノ義ナリ。【唐書】「春秋之法。常責二備於賢  
者。」今ハ通ジテ「責讓用」ニ作ル。

【責付】刑事被告人又ハ犯罪ニ關係アル物件

ヲ被告人ノ親族又ハ隣保等ノ關係アル者ニ責  
任ヲ負ハシテ保管セシムルコトヲ謂フ。【明  
律】「清律」斷獄篇「婦人犯罪」ノ條「凡婦人犯  
罪。除三犯姦及死罪收禁外。其餘雜犯。責二付本  
夫。收管。無三本夫者。責二付有服親屬鄰里二保  
管。云云。」

【責賦】納税ノ義務ヲ責メテ督促スルノ義ナ  
リ。【唐書】高崇文傳「責賦尤急。云云。」

【責令】上司又ハ上官ヨリ下僚ヲ督責シテ其  
職務ヲ勵行セシムルコトヲ謂フ。(清會典吏  
部及戶部)

【釋菜】進士及第者ニ對シテ賤者ノ服ヲ脱シ  
テ官服ヲ服セシムルノ義、大學ニ於テ釋菜ノ  
禮ヲ行フ前ニ之ヲ爲ス。一ノ儀式ナリ。宋ノ  
太平興國二年ヨリ始マル。【事物紀原】「太平興  
國二年正月十二日。新及第進士諸科呂蒙正以  
下。揀袍靴笏御前釋菜。蓋自レ此始。」

【釋菜】釋菜ノ略式、釋菜ハ牛羊等ノ肉類ヲ  
供ヘ、又音樂ヲ用ケルモ釋菜ハ菜蔬ヲ供フル

ノミニテ又音樂ヲ用キズ。釋菜ノ菜ハ蔬菜ノ  
菜ナリ。一ニ「釋菜」又ハ「合菜」ニ作ル。(或ハ  
ト爲スノ說)是レ亦「先聖先師」ヲ祭ルモノニ  
アリ。參、(二)是レ亦「先聖先師」ヲ祭ルモノニ  
シテ、其孔子ヲ祭ルニ至リタルハ漢代以後ニ  
屬ス。【禮記】文王世子篇「始立レ學者。既業レ器  
用レ幣。然後釋菜。明、徐潛撰【路史】「釋菜者。  
釋采也。置三采帛於先師前。以贊レ神也。周禮春  
入レ學。合菜合舞。此高誘註呂覽月令之仲春。歐  
陽公曰。釋奠。釋菜。祭之略者也。古者士之見レ  
師。以レ菜爲レ贊。始入レ學者。必釋レ菜以禮レ其先  
師。其學官四時之祭。乃皆釋菜。釋奠有樂無レ  
尸。而釋菜無樂則又略也。故其禮亡焉。而今釋  
奠幸存。然亦無樂。又不三編舉ニ於四時。獨春秋  
行レ事而已。云云。」

【釋奠】元ト先聖先師ヲ祭ルノ名。故ニ五經  
ニ在ル釋奠ハ凡ソ六種アレドモ、其中ニハ孔  
子ヲ祭ルコトヲ含マズ。【禮記】王制篇「天子出  
征。反釋二奠于學。以三訊。」「同書、文王世子  
篇「凡學。春官釋二奠于其先師。秋冬亦如レ之。」又

年大學及ビ魯國ニ詔シテ四時三牲ヲ備ヘ以テ  
孔子ヲ祀リ、七年皇太子親ラ太學ニ釋奠ス。  
此レ太子釋奠ヲ行フノ始ナリ。(大學衍義補  
卷六十五)

唐ノ武德六年國子學ニ周公及ビ孔子ノ廟ヲ建  
立シテ、四時祭ヲ行フコト、爲シ、七年國子  
學ニ釋奠ヲ行ヒ、周公ヲ先聖ト爲シ、孔子ヲ  
之ニ配シタルモ、貞觀二年改メテ孔子ヲ先聖  
ト爲シ、孔子ヲ以テ之ニ配ス。永徽中周公ヲ  
先聖ト爲シ、孔子ヲ先師ト爲シ、顯慶二年舊  
ニ復シ、春秋二季釋奠ヲ行フコトト爲シ、開  
元二十七年孔子ヲ諡シテ「文宣王」ト爲シタ  
リ。宋遵金元皆孔子ノ廟アリ。明ノ嘉靖九年  
孔子ノ諡ヲ改メテ「至聖先師孔子」ト稱シ、塑  
像ヲ去リテ神位木主ヲ設ケタリ。清ハ毎年春  
秋仲月上丁ノ日大成殿ニ於テ釋奠ヲ舉行スル  
ヲ例トス。(文獻通考及ビ政  
典類纂明清會典)至レ上代ヨリ明ニ  
至レ始メテ釋奠ノ祭ヲ行フ。陰曆二月ノ上丁  
日ト八月ノ上丁日トニ大學學寮ニ於テ行フ

凡始立學者。必釋二奠于先聖先師。及行レ事必  
以幣。又「凡釋奠者。必有合也。有二國故。則  
否」其所謂先聖ハ唐虞三代ノ聖君、其先師ハ學  
校ヲ開始シ教育ニ貢獻シタル人ヲ謂フ。即チ  
有德有道ノ士ナリ。魏了翁曰「前自孔子一以  
前曰聖曰賢。有レ道有レ德。未レ有不レ生都顯レ  
位。沒祭ニ大蒸」者。云云「釋奠ニ六種アリトハ  
始メテ學ヲ立ツルトキノ釋奠四時ノ釋奠共計  
五、之ニ王制ニ所謂師還リテ釋奠ヲ以テスル  
モノ合シテ六ナリ。(大學衍義補  
卷六十五)

ルニ至リタルハ後漢明帝ノ永平六年鄴縣道ニ  
合シ、鄉飲酒禮ヲ學校ニ行ヒテ聖師周公孔子  
ヲ祭ラシメタルニ始マル。魏ノ正始元年、太  
常ヲシテ釋奠セシメ太牢ヲ以テ孔子ヲ辟雍ニ  
祀リ、魏ノ正始元年、明、丘濬曰「漢以來釋  
奠之禮始見於此。前此則孔子一者。皆於二廟  
里。至レ是始行ニ于太學。」ト、蓋シ漢安帝延光三  
年孔子及ビ七十二弟子ノ廟里ニ祀ル。是レ後  
世孔子弟子ヲ祀ルノ始ナリ。晉ノ武帝太始三

年大學及ビ魯國ニ詔シテ四時三牲ヲ備ヘ以テ  
孔子ヲ祀リ、七年皇太子親ラ太學ニ釋奠ス。  
此レ太子釋奠ヲ行フノ始ナリ。(大學衍義補  
卷六十五)

唐ノ武德六年國子學ニ周公及ビ孔子ノ廟ヲ建  
立シテ、四時祭ヲ行フコト、爲シ、七年國子  
學ニ釋奠ヲ行ヒ、周公ヲ先聖ト爲シ、孔子ヲ  
之ニ配シタルモ、貞觀二年改メテ孔子ヲ先聖  
ト爲シ、孔子ヲ以テ之ニ配ス。永徽中周公ヲ  
先聖ト爲シ、孔子ヲ先師ト爲シ、顯慶二年舊  
ニ復シ、春秋二季釋奠ヲ行フコトト爲シ、開  
元二十七年孔子ヲ諡シテ「文宣王」ト爲シタ  
リ。宋遵金元皆孔子ノ廟アリ。明ノ嘉靖九年  
孔子ノ諡ヲ改メテ「至聖先師孔子」ト稱シ、塑  
像ヲ去リテ神位木主ヲ設ケタリ。清ハ毎年春  
秋仲月上丁ノ日大成殿ニ於テ釋奠ヲ舉行スル  
ヲ例トス。(文獻通考及ビ政  
典類纂明清會典)至レ上代ヨリ明ニ  
至レ始メテ釋奠ノ祭ヲ行フ。陰曆二月ノ上丁  
日ト八月ノ上丁日トニ大學學寮ニ於テ行フ

【釋幣】幣物ヲ奠シテ先師ヲ祭ルコト「釋奠」  
ノ一儀式ナリ。【禮記】王制篇「釋奠」ノ註「釋  
菜奠幣。禮ニ先師也。」トアルガ如ク、本來釋  
奠ノ一儀式タリシト雖モ、後世ハ釋菜ト同ジ  
ク先師ヲ祭ル一名稱トシテ用ケラルルニ至レ  
リ。而シテ釋幣ハ皆祭トシテ行ハレ、常ニ行  
ハズ。其常ニ行フモノハ釋奠及ビ釋菜ノ二ナ  
リ。

【截角】(部首) (屑韻)  
清制、鹽ノ販賣ニ關スル正稅以外ノ  
手數料ナリ。引紙即チ免許狀ガ不用ト爲リ商  
人ヨリ政府ニ還納スルトキハ其一角ヲ截斷ス  
ル手數料ナリ。(四川鹽法  
志卷二十)

【截贖銀】建贖(ケノ部)ト云フニ同シク、納  
稅者ヨリハ三十日分ヲ按シテ稅ヲ徵シ、中央  
政府ハハ二十九日分ヲ按シテ解送シ、其每月  
ノ一日分ヲ留メテ公費ニ充ツルコトヲ謂フ。

【六部成語註解】「截。留也。即留三大建曠收之銀。辦公也。」

【截漕】清制、各省ヨリ毎年北京ニ運ブノ漕糧米ヲ或ハ本省ノ都合ニ因リテ増減ノ必要ヲ生ジ或ハ他所ノ急用ニ因リテ中途之ヲ截留(本條ヲ)スルコトヲ謂フ。【辭源】「清制。各省毎年運北漕糧。或本省待賑減數起漕。或他所急用。中途截留。謂之截漕。」

【截取】清制、或官吏ヲ任用スル場合一定ノ制限アル者ハ吏部ヨリ豫メ其年限ヲ酌定シテ其人ヲ選取スルコト之ヲ「截取」ト謂フ。【辭源】「清制。任官以三食俸年限科分名次爲二資格者。由吏部酌定截止之期。而選取其人。用之。謂之截取。」

【截奪】要所ニ通行人ヲ待受ケテ其荷物等ヲ掠奪スルコトヲ謂フ。(六部成語註解)

【截短路】匪盜ノ旅人ヲ要劫スルコトヲ謂フ。(前條ノ)フ。(前條ノ)フ。(前條ノ)フ。

【截票法】納税ノ領收書(即チ)ハ三聯票ヲ造リ、一ハ納稅者ニ給シ一ハ縣衙門ニ留メ、一ハ簿冊ニ貼附ス。故ニ此名アリ。(光緒會典卷一百七十一)

【截留】既ニ郵便局ニ寄託セル郵便物ヲ其未ダ到達セザル以前ニ寄託人ノ依頼ニ由リテ其配達ヲ中途ニ停留スルコトヲ謂フ。(章程) (一)京師ニ解送スル稅物ヲ中途ニテ阻止シ更ニ改メテ解送スル場合ヲ謂フ。【六部成語註解】「解京之款。中途阻止。改解。」(三)【辭源】凡應解往他處之官物。因本處需用。遂留而不解者曰「截留」。蓋シ是レ其一例、截留ハ廣ク中途停留ノ義ニ使用セラル。(見ヨ)

【折(部)首(所)】(一)策書ノ科ト【唐律】名例篇「擇折簡於策書」(一)策書ハ官吏ヲ任免スルトキニ用キル札ナリ。(即チ今ノ辭)漢制ニ皇帝、百官ヲ任免スルトキハ竹簡(竹札)ニ書シテ渡スヲ法トシ、稱シテ「策書」ト曰フニ始マル。(二)全紙ヲ二ツニ折シテ書スル手簡ナリ。【晉書】宣帝紀「王凌面縛迎帝曰。凌若有罪。公當二

折簡召。凌云云。」

【折訖】甲ノ物ト乙ノ物トヲ換算シ終ルコトヲ謂フ。【元典章】「至元六年十月。中書省據御史廉呈。山北東西道按察司申據。北京路張裕爲「折訖官糧」云云。(卷十)

【折桂】試驗ニ合格シテ第一位ト爲ルコト「桂林折一枝」ノ義ニ取ル【避暑錄話】「世以登科ニ爲「折桂」。此謂諸試對策東堂。自云「桂林一枝」也。自唐以來用之。云云。」

【折計】銀ヲ以テ米ニ換ヘ、錢ヲ以テ相ニ換ヘテ計算スルノ類ナリ。【大學衍義補】「其後之弊。且至「與夏稅」並輸。而民家營運生之具。悉從「折計」。而爲「民無窮之害」(卷二)

【折券】債券ヲ破棄スルコト、即チ近世法上債權ヲ拋棄スルノ謂ナリ。【史記】高祖紀「兩家折券棄責」。其註「責與債同。言折毀債券。不復索債也。」

【折獄】訟獄ヲ裁判スルコトヲ謂フ。詳シク曰ハバ獄ハ訟ノ獄(刑事裁判ヲ曰フ)折(民事裁判ヲ曰フ)折

者。必照其情實。惟允克允。致利者。必威於恣惡。惟斷乃成。故君子觀「雷電」明動之象。以折獄致刑也。【折到賠償】放火延燒ノ場合ニ犯人ノ財產ヲ折(折ハ數ノ成分。十分ノ五)シテ被害者ノ損害ヲ賠償セシムルコトヲ謂フ。(明律卷三十二「刑律雜犯」)【折產字據】財產ノ分割ヲ明ニセル證書ノコトヲ謂フ。(印花稅辨)

【折齒】刑律ノ語、人ヲ毆打シテ齒ヲ折ルコト開毆罪ニ於テハ折齒以上ヲ、折傷罪ト爲ス。【唐律】開毆篇「開毆折齒耳鼻」ノ條、諸開毆人。折齒。毀耳鼻。眇一目。折二手足指。云云。」

【折傷】開毆罪ニ於テハ折齒以上ヲ折傷ト爲ス(折齒)ス(折齒)ス(折齒)ス。

【折衝】(一)敵國ノ野心ヲ挫折スルノ義、(下條ヲ)見ヨ(二)隋代ニハ禁衛軍(衛隊)ニ「折衝

果毅諸郎將官アリ。唐ニハ「折衝都尉」アリ。更ニ全國ニ折衝府ヲ設置シタリ。是レ外寇ヲ防グ爲メニシテ、其義ハ(一)ノ敵國ノ野心ヲ防折スルニ在リ。

【折衝樽俎】衛ハ突クノ義、(敵國ガ自國ヒテ來使ス)樽俎ハ宴席、肉類ヲ盛ルノ器、即チ兩國ガ會同宴燕ノ席上ニ於テ自國ノ威武ヲ暗示シテ對手國ノ野心ヲ挫折スルコトヲ謂フ。【晏子春秋】「孔子曰。不出樽俎之間。而折衝千里之外。晏子之謂也。」【戰國策】「千丈之城。拔之樽俎之間。百尺之衝。折之枉席之上。」

【折衝禦侮】敵國ノ來リ使ス野心ヲ挫キテ我ヲ侮ルコトヲ謂フナリ。【詩經】大雅「予曰。禦侮。毛傳。武臣折衝。曰。禦侮。宋胡銓撰「上高宗一封事」。有「如。勝。驍。長。驅。尙能折衝禦侮邪。」

【折訟】本來ハ民訴ヲ裁判スルノ義ナルモ、(折訟) 獄訟ヲ折スルノ略ト看ルベシ。【北

ハ曲直ヲ分チテ二ト爲スコト即チ判決ノ義ナリ。【書經】呂刑篇「非「佞折獄。惟良折獄。」【易經】賁卦象傳「君子以明「庶政。无「致折獄。」【論語】顏淵篇「片言可「以折獄。」【增補四書人物考】「釋名。獄。確也。言實。確。人情。偽也。又謂之「牢。言所「在。堅牢也。又謂之「圖土。言築土之表牆。其形圓也。又謂之「圍圖。圍。禦也。言領。二。徒。禁繫也。又曰「按。急就章。答。蘇造。獄。後代。因之。胡氏曰。折者。折而「之也。治。獄之道。兩辭。俱備。曲直未「分。混爲「一區。乃平。別其孰爲「曲孰爲「直。然兩途。所謂折也。又曰。易。君子以折「獄致「刑。曰。哀。敬折「獄。云云。(六)【折獄致刑】(獄ヲ折シテ)獄ハ刑獄(刑事)ノ義、折ハ解決ノ義、善ク刑獄ヲ判斷解決シテ合理的ニ刑罰ヲ適用スルノ謂、【易經】賁卦ノ象辭「雷電皆至。豐。君子以折「獄致「刑。程頤註「雷電皆至。明震並行也。二體相合。故云皆至。離明也。照察之象。震動也。威斷之象。折「獄



史揚傳「折訟公正。云云。」

【折色】 漕米ヲ(京師ニ運漕)其價ニ照シテ銀ニ替ヘテ徵收スルノ類之ヲ「折色」ト謂フ。

(清會典) 明代ニ始マル。

【折色銀】 應ニ徵スベキ實米不足ナルトキ、其米ノ種類ヲ按シテ銀ニ代ヘ納付セシムルノ類ヲ謂フ。【六部成語註解】「應ニ徵之實米。不足則亦按色折銀納之。」

【折贖】 五刑犯中罪狀ノ輕キ者ニ對シ、金銀ヲ以テ其刑ヲ贖ハシムルコト、折ハ換又ハ代ト同義即チ金銀ヲ以テ刑罰ニ代ヘ、或ハ米ヲ以テ銀ニ換ヘ、銀ヲ以テ米ニ代フル等ノ場合ニ用キルヲ例トス。

【折租】 牛羊ノ類ヲ殺シ其體ヲ折リテ之ヲ租ニ升スコト、王ガ卿ヲ享スルトキ之ヲ用フ。

【左傳】宣公十七年、晉侯使士會平王室。定王享之原。襄公相禮。殺蒸。王召士會。曰。王享有二禮。實有二折。租。云云。」

【折足】 (足ヲ) 大臣ノ器ニ非ズシテ大臣ノ地位ヲ占メ其職責ヲ失敗スルコトニ喻フ。【易經】鼎卦九四、鼎折足。覆公餗。」

【折兌】 甲ノモノヲ換フルニ乙ノモノヲ以テスルノ義。【宋史】「陝西鹽鈔出。多虛鈔。而鹽益輕。以鈔折兌糧草。云云。」

【折中】 太過ヲ損シテ不及ヲ補ヒ以テ中道ヲ得シムルノ義ナリ。【史記】孔子世家、自天子王侯。中國言六藝者。折中於天子。可謂至聖一矣。一ニ「折衷」ニ作ル。

【折杖】 宋太宗建隆四年杖刑ヲ改定シテ從來ノ脊杖ヲ臀杖ニ割當ツルコト、セリ。之ヲ「折杖法」ト謂フ。是レ脊杖ハ生命ニ危險ナルニ因ル。【事物紀原】「宋朝會要曰。建隆四年三月張昭謂加二役流。脊杖二十。配役三年。流三千里。脊杖二十。二千五百里。脊杖十八。二千里。脊杖十七。並役一年。徒三年。脊杖二十。二年。脊杖十八。一年。脊杖十五。一年。脊杖十三。杖一百。脊杖二十。九十。脊杖十八。八十。脊杖十七。七十。脊杖十五。六十。脊杖十三。凡脊杖五。管五十。臀杖十下。四十。三十。臀杖八下。二十。臀杖七下。常行官杖長三尺五寸。大頭闊不過三寸。厚及小頭徑不得過九分。徒流管通。用常行杖。徒罪決而不役。」(卷百)

【折徵銀】 租稅ヲ徵收スルトキニ、米ヲ銀ニ替ヘテ徵收スルコトヲ謂フ。【折色銀】(ヲ見ヨ)

【折跌人支體】 (人ノ支體) 支體トハ手足ヲ謂ヒ折トハ手足ヲ折ルコト、跌トハ蹴ツテ骨體ヲ損傷スルコトヲ謂フ。【唐律卷二十一調訟律】「折跌支體ノ條」

【折納】 納稅物ヲ他ノ物ニ換算シテ納ムルコト、例ヘバ米ヲ銀ニ換算シ鈔即チ紙幣ヲ錢ニ換算シテ納ムルノ類ナリ。【明律卷七、戶律】「倉庫篇鈔法」

【折賣】 鹽ノ小賣ヲ爲ス者ヲ謂フ。【部、轉賣ヲ見ヨ】

【折帛錢】 宋高宗ノ時、凡ソ絹絲ヲ賣買スル者ハ一歲ノ總高ヲ計算シ每匹錢若干ヲ折納(錢ニ代ヘテ)シ以テ國用ヲ補充セシム。之ヲ「折帛錢」ト謂フ。

【折變】 其價值ヲ折算(換算ト云)シ此物ヲ以テ彼物ニ抵テ輕重相當ラシムルコトヲ謂フ。宋代ノ歲賦ニハ此名目アリタリ。今ハ財產ヲ賣却シ其價金ヲ以テ債務ヲ償フコト皆「折變」ト稱ス。

【折俸】 官吏ノ俸給ヲ他物ニ換ヘテ支給スルコト、又ハ全額ノ幾分ヲ減折シテ支給スルノ義アリ。是レ元來國庫ノ窮乏ヲ補フ便法ニ出ヅ。【事實紀原】「宋朝會要曰。唐正元四年。定二百官月俸。倍昭之亂。國用窘闕。天祐中止給。其半。後唐同光初孔謙以軍儲不充。百官俸錢數多而折之。非實請減半數。而支實錢。是後所支半實俸。復從二虛折。宋朝約。後唐所定。其非二虛折者。皆一分實錢二分折支。景德福兵之後。始詔。俸當給他物者。京師每一千。給實錢六百。在外四百。則今折俸之始也。祥符五年十一月詔。又定加文武官月俸。」(四卷)

【接(部)首(才)手(又)治(韻、業)】

【接脚夫】 入夫ノコトヲ謂フ。【居家必用】「接脚夫。謂以異姓二繼。寡婦二者也。」

【接脚夫人】 繼妻ノコトヲ謂フ。【玉泉子】「唐相白敏中始娶。已朱紫。矣。嘗戲其妻曰。接脚夫人。」

【接脚婿】 婿(婿ノ) 正字) 殺シタルトキ更ニ一婿ヲ接脚夫人。」

管五十杖十。四十三十八下。二十七下。舊律二獄官令一用杖。受杖者皆脊背受。殿庭決者皆脊受。至是始折杖。又徒流皆脊受。管杖者皆背受也。孫爽律書又曰。舊制。應決杖。皆依數決之。宋朝建隆四年始有二折杖之制。【十卷】「大學衍義補」宋太祖定二折杖之制。凡流刑四。加二役流。脊杖二十。配役三年。流三千里。脊杖二十。二千五百里。脊杖十八。二千里。脊杖十七。並配役一年。凡徒刑五。徒三年。脊杖二十。徒二年半。脊杖十八。二年。脊杖十七。一年半。脊杖十五。一年。脊杖十三。凡杖刑五。杖一百。臀杖二十。九十。脊杖十八。八十。脊杖十七。七十。臀杖十五。六十。臀杖十三。凡管刑五。管五十。臀杖十下。四十。三十。臀杖八下。二十。臀杖七下。常行官杖長三尺五寸。大頭闊不過三寸。厚及小頭徑不得過九分。徒流管通。用常行杖。徒罪決而不役。」(卷百)

【折徵銀】 租稅ヲ徵收スルトキニ、米ヲ銀ニ替ヘテ徵收スルコトヲ謂フ。【折色銀】(ヲ見ヨ)

招キ之ヲ繼ガシムルコトヲ謂フ。【癸幸雜志】「徐元杰爲林喬伐柯。一豪家爲二接脚婿。今俗ノ所謂。坐產招夫ナリ。」

【接遞】 郵便物ノ取扱ヒヲ爲スノ義、即チ接ハ接手ノ接、遞ハ遞送ノ遞ナリ。【清會典兵部】「接遞」

【接任】 前任官ヨリ其職務ヲ新任官ニ讓リテ之ヲ辦理セシムルノ義、即チ事務ノ授受ヲ爲スコトヲ謂フ。【六部成語註解】

【接任交代】 前任官ヨリ後任官ニ事務ノ引接ヲ爲シ新舊交代スルコトヲ謂フ。【部、任滿ヲ見ヨ】

【接伴使】 外國ノ使臣ヲ接待スルノ官、臨時任命ニ係ル者ナリ。【宋史】李繼承傳「景德二年。遼人請和。欲近臣充使。乃令繼承與其二使姚東之。偕詣遼。使與三韓杞。同至三行在。及遼人聘至。又命至三境首。接伴。」

【接管人】 新舊官交代ノ場合ニ舊官ヨリ管理事務ヲ引接ク人ヲ謂フ。即チ新任官ヲ指ス。【文選】「原管」

攝 (部首) (類)

【攝位】 眞ノ國君ニ非ザル者ガ一時ノ都合ニ依リ假リニ國君ノ名義ヲ以テ其職權ヲ執行スルコトヲ謂フ。【左氏傳】隱公元年、不レ書ニ即位、攝也。【史記】令ニ於百姓、攝レ位行レ政。

【攝主】 上卿ガ其主ニ代リテ政ヲ總クコトヲ謂フ。【禮記】曾子問篇、卿大夫士從ニ攝主ニ北面于西階南。註、攝主、上卿代レ君聽ニ國政。

【攝政】 (一) 皇帝ガ大臣ヲシテ國政ヲ代理セシムルコトヲ謂フ。【史記】五帝紀、舜得レ舉。用レ事二十年、而堯遂使レ攝シ政。(二) 皇帝幼ニシテ政ヲ親ニスルコト能ハザルトキ、又ハ一時皇位空虛ノ時有德ノ大臣代リテ大政ヲ兼執スルコトヲ謂フ。周公ノ成王ニ於ケルガ如シ。【詩經】幽風ノ譜、幽詩七篇、七月、鸛鳴。是周公出居時作。其餘多在ニ攝政之後。【禮記】出居時作。其餘多在ニ攝政之後。【禮記】出居時作。其餘多在ニ攝政之後。

【攝篆】 兼官又ハ代理ヲ謂フ。官署ノ印章、俗ニ之ヲ「篆」ト謂フ。即チ其印章ヲ兼管スル意ニ取ル。

【攝判】 或官吏ガ他ノ官廳ノ事務ヲ兼掌スルコトヲ謂フ。【隋書】長孫熾傳、熾以ニ本官、攝ニ列東宮。

替 (部首) (類)

【替御】 近侍ノ者ヲ謂フ。【詩經】小雅雨無正篇第四章、曾我替御。傳、替御、侍御也。

【竊號】 僭シテ天子ノ尊號ヲ稱スルコトヲ謂フ。【晉書】使ニ竊號之雄、稽ニ類錄問。

【竊盜】 支那法上ノ竊盜ノ定義ハ形ヲ潛メテ人財ヲ取ル者ヲ謂フ。【唐律】賊盜篇「竊盜」ノ條、諸竊盜不得財、答五十。云云。其疏議、竊ニ盜人財。謂ニ潛レ形隱レ面而取。【九】(卷十)

【竊鈔】 竊盜ノ嫌疑ヲ掛ケルコト、鈔ハ斧即チ鈔ヲ竊ミタリト疑フコトヲ謂フ。【列子】說符篇、人有ニ失レ鈔者、疑ニ其鄰之子。視ニ其行歩、竊レ鈔也。顔色、竊レ鈔也。言語、竊レ鈔也。動作、竊レ鈔也。

度。無ニ爲而不レ竊レ鈔也。俄而稱ニ其谷。而得ニ其鈔。他日復見ニ其鄰人子。動作、竊レ鈔也。無ニ似レ竊レ鈔者。」

節 (部首) (類)

【節命】 國家ノ命令權ヲ竊ムノ謂ナリ。【三國志】高后稱レ制。而諸呂竊レ命也。

【節】 (一) 符節、古代使臣ニ授ケテ其身分ヲ保障スルモノナリ。【周禮】地官ノ屬、掌節ノ官アリ。之ヲ掌ラシム。其職制、掌ニ守ニ邦節。而辨ニ其用。以輔ニ王命。(二) 後、使者ノ代命詞ト爲ル。(三) 漢代ハ南簿ニ用ケル儀仗ト爲ス。【事物紀原】周禮地官之屬、掌節有三玉角、虎人、龍符、黑旌等節。漢文有ニ旄節之制。西京雜記曰、漢大駕南簿。有ニ節十六。在ニ左右。則漢始用爲ニ儀仗也。雜談曰、古節如ニ今虎符。其用則有二圭璋龍虎之別。皆檣而將レ之。英壽是也。漢人有レ持節。乃古旄也。然則節自周始。而旄節。則起ニ於漢也。【三】(卷十)

【節下】 使者ニ對スル尊稱、一ニ亦「數下」ト

モ謂フ。【西陽雜俎】秦漢以來。於天子ニ言ニ陛下。於皇太子ニ言ニ殿下。將官ニ屬下。使者言ニ節下。數下。二千石長史言ニ閣下。父母言ニ膝下。通類相言ニ於足下。【同書】(卷二)

【節孝祠】 婦女ノ若クシテ夫ヲ亡ヒタル者能ク寡廉ヲ守リテ舅姑ニ事フル者ヲ節孝ト爲シ祠ヲ孔子廟ノ左右ニ置キテ之ヲ祭ル。之ヲ「節孝祠」ト謂フ。【辭源及比清國】(行政法卷四)

【節食】 衣食ノ制限ヲ爲スコトヲ謂フ。【管子】節ニ飲食。據ニ衣服。

【節度】 官名、三國ノ吳ニ始ル。初メハ軍權ヲ掌ルノ官ナリシガ唐代始テ兵ヲ領スルノ官職ト爲リ。一地方ノ節制ヲ掌ル。【曉讀書齋雜錄】「節度之名。始ニ于三國吳時。江表傳云。權爲ニ吳王。初置ニ節度官。使ニ典ニ軍權。是節度之設。本爲ニ軍中權運ニ耳。至唐景運二年。始以ニ賀拔延嗣ニ爲ニ涼州都督。充ニ河西節度使。自後節度遂爲ニ領兵之官。節制一方。迄五代宋一不改。唐志及通典。並云邊方寇戎之警。則

加以ニ旄節。謂ニ之節度使。不知。命レ名之由。本「據」節用度ニ起リ見。非「旄節」之節一也。云云。【節度使】(參照)

【節度使】 三國吳ノ「節度官」ニ起ル。唐代始メテ節度使ト爲ス。其始メハ惟ダ邊疆ノ地ニ置キタルガ後ハ全國ニ設タルニ至ル。【清國行政法】唐ノ初メ隋制ニ仍リ肝安ノ州ニ總管ヲ置キテ軍事ヲ統ヘシメ嗣キテ之ヲ都督ト改メ其任重キ者ニハ使持節ヲ加ヘテ之ヲ「節度使」ト稱ス。故ニ初メハ惟ダ便宜上ノ稱呼タルニ過ギザリシガ睿宗ノ景雲二年賀拔延嗣ヲ河西節度使ト爲スニ及ビテ始メテ一定ノ官職ト爲レリ。開元、天寶ノ間ニハ朔方、隴右等邊疆ノ地ニハ節度使ヲ置キ尋テ中原各地ニ之ヲ增設シ遂ニ天下ヲ四百餘道ニ分チ數多ノ節度使ヲ列スルニ至リ、其小ナル者ハ二三州ヲ管シ、大ナル者ハ十餘州ヲ管セリ。而シテ節度使ハ大抵該道ノ觀察使並ニ其駐在州ノ刺史ヲ兼ネタルガ故ニ事實文武兩事ヲ兼掌シ、兵甲、財賦

刑獄一トシテ餘ベザルナク、其權威ノ盛ナルコト外任官中、他ニ西儒ヲ見ズ。【中】此節度觀察ノ兩使ハ清朝ニ於ケル總督、巡撫ノ關係ト稍似タリ。【卷十】

【絶陰】 陰陽家ハ四月戊辰ノ日ヲ以テ「絶陰」ト曰ヒ百事不吉ト爲ス。【協紀辨】(方術)

【設科】 (科) 官吏登用試験ノ科ヲ設ケタルノ義ナリ。會試ハ京師ニ開クヲ通例トスレドモ南省ハ路遠キ故ヲ以テ明宣德二年特ニ貴州省城ニ會試ノ科ヲ設ケタルガ如シ。【古歌堂集】(清)田「貴州設科。前レ此未レ有也。明洪熙元年始令ニ貴州生儒就ニ試湖廣。宣德元年詔雲貴合試。嘉靖十四年乃從ニ巡按王杏給事中田秋之請。開ニ科於貴州。宣德二年定ニ會試南北中卷數。以ニ雲貴ニ入レ中。我朝因レ之知レ舊。【上】(卷)

【設色之工】 (色) 設ク (色) 染色ヲ業トスル職工、凡ソ五種アリ。一「畫績」(五色) トシ、二



ノ説アリ。是レ亦皇帝が先農ヲ祭リ親ヲ耕田  
スルト同ジク皇后、壇ヲ設ケ女官ヲ率テ之  
ヲ祭リ、且ツ親ヲ蠶ヲ養ヒテ斯業ヲ獎勵スル  
コト、漢代以降行ハル、慣例ナリ。(五禮通考)

【先師】 先師ト云フハ【禮記】各篇ニ散見スル  
語、昔時ハ必シモ其人ヲ一定セズ、有徳有道  
ニシテ萬世ノ師表タル人ヲ指シ、之ヲ祭リタ  
ルモ、漢代以後ニ至リテハ孔子ヲ指スノ特稱  
ト爲レリ。(釋奠)

【先高】 昔時稼穡ヲ開始シタル人、神農氏、  
后裔ノ如キヲ指ス(禮記郊特牲)(大學衍義補)  
【先聖先師】 唐太宗貞觀二年、房玄齡議シ  
テ曰ク、武徳中詔シテ太學ニ釋奠ス。周公ヲ以  
テ聖ト爲シ孔子ヲ配享ス。臣以爲ウク周公尼  
父俱ニ聖人ト稱ス。庠序ノ置奠本ト夫子ニ緣  
ル。故ニ晉宋梁陳及ビ隋皆孔子ヲ以テ先聖ト  
爲シ顔回ヲ先師ト爲ス。請フ周公ヲ停メ孔子  
ヲ升セテ先聖ト爲シ顔回ヲ以テ配セント、太

宗之ニ從フ。是ヨリ始メテ孔子ヲ先聖ト爲シ  
顔回ヲ先師ト爲ス。(大學衍義補) 宋濂曰ク  
「昔、周天下ヲ有シ、周代ノ學ヲ立ツ。其所謂  
先聖ナル者ハ虞庠ハ則チ舜ヲ以テシ夏學ハ則  
チ禹ヲ以テシ、殷學ハ則チ湯ヲ以テシ東膠ハ  
則チ文王ヲ以テシ復、各々左右四聖其德業ヲ  
成ス者ヲ以テ之ガ先師ト爲シ以テ配享ス焉。  
此レ固ヨリ天子立學ノ法ナリ。云云」(大學  
補卷六)

【先請】 (先) 漢武帝ノ時特定ノ身分アル官  
吏ガ罪ヲ犯シタルトキハ法官罪ヲ定ムルニ當  
リ先ツ朝廷ノ裁可ヲ仰ギテ逮捕スルコトヲ謂  
フ。是レ其初制ナリ。即チ律文「八議」場合  
之ニ屬ス。【大學衍義補】武宣時。二千石有  
罪先請。宣帝時。又詔六百石。位大夫。有罪先  
請。(卷五)

タル元祖ヲ指スノ稱、漢代以後神農氏ヲ以テ  
先農ト爲シ、先農壇ヲ設ケテ之ヲ祭ル。(五禮  
通考)

【全】 (部首) (先) (韻)

【全完】 (半) (先) (韻)

【全罪】 (以) (全) (先) (韻)

【全眞】 俗ニ出家ト道士トヲ指シテ、全眞ト  
曰フ。(三餘)

【全節堂】 清朝時代地方ニム節ヲ設立シ寡  
婦ノ節ヲ守リ獨居セル者ヲ收シ毎々錢米若  
干ヲ給與シ以テ慰完ス。其費用ハ地方有志ノ  
義捐ニ成ル。但シ保定府ニモ同一ノモノナリ。  
是レハ官設ノモノニ係ル。(瓜城通志卷三十八)

【全招】 犯罪人ガ事實ノ全部ヲ供述スルコト  
ヲ謂フ。【六部成語註解】盡行供出也。

【前】 (部首) (先) (韻)

【前衛】 清制、前衛ハ後衛ニ對シテ上級文ノ第  
一行ヲ曰フ。官職姓名ヲ署スルヲ例トス。【皇  
朝政治學問答】擢上第一行爲「前衛」。

【前疑】 昔時ハ天子ノ左右ニ侍スル臣四人ア  
リ。前ニ侍スルヲ「前疑」ト曰フ。【禮記】文王  
世子篇「虞夏商周有ニ師保。有ニ疑丞。疑、古者  
天子必有ニ四隣。前曰疑。後曰丞。左曰輔。右  
曰弼。」

【前妻】 一夫一妻ハ天地陰陽ノ理ニ基キテ定  
メタルモノニシテ支那婚姻制ノ原則ナリ。已  
ニ妻アル者ハ絶對ニ妻ヲ娶ルコトヲ得ズ。晉、  
賈充ノ妻郭氏ニ坐セラレテ徙刑ニ處セラリ。因  
テ後ニ郭氏ノ女ヲ妻トス。前妻李氏大赦ニ會  
フテ還ルヤ、帝詔シテ特ニ左右夫人ヲ置クコ  
トヲ許ス。是レ例外ナリ。但シ前妻トハ現在  
ノ妻ニ對シテ特ニ前ノ妻タルコトヲ示ス。【晉  
書】賈充傳「前妻李氏坐レ徙。後妻郭氏。李以  
大赦ニ得レ還。詔充置ニ左右夫人。」

【前茅】 (一) 茅ヲ以テ旌ト爲シ前ニ敵アルト  
キハ旌ヲ擧ゲテ之ヲ後軍ニ報ス。即チ斥候ノ  
コトヲ謂フ。【左傳】宣公十二年「楚無敢爲。辛。  
軍行。右轅左追。前茅慮無。中權。後勁。云

云。(二) 今試験ニ應ズルトキ、試験ノ前列ニ  
着席スル者ヲ指シテ「前茅」ト謂フ。(清科場  
考)

【前烈】 前人ノ功業ヲ謂フ。【書經】周書「公劉  
克篤ニ前烈」

【刻】 (部首) (刀) (韻)

【刻垣】 劔ヲ以テ地根ヲ刻リテ平ニスルコト  
ヲ謂フ。【唐律】釋文「謂劔刻平垣也。」

【剪】 (部首) (刀) (韻)

【剪徑】 匪盜ノ旅行者ヲ路ニ要シテ劫ス者ヲ  
曰フ。一ニ亦「截短路」トモ曰フ。

【剪髮】 官名、【周禮】秋官(即チ司)ノ屬。  
蠶桑ヲ除クコトヲ掌ル。

【剪邊錢】 清朝制錢ノ一種ナリシト雖モ、雍  
正十三年ヨリ通用ヲ禁止セラレ、私錢ト同様  
ニ看做サル、ニ至レリ。(會典事)

【剪辮】 (一) 剪髮ノ他、人ノ携帶物ヲ劫取ス  
ル者、即チ「キンナヤグキリ」ナリ。【說文】「絳

十隸爲「剪」。謂斷ニ其髮、物之條也。【道  
俗編】「世每誤書「剪」爲「柳」。如「唐卓詩。爭奈京  
城剪柳多」。是也。」

【千】 (部首) (先) (韻)

【千戸】 (一) 官名、元之ヲ置キ明之ニ因ル。  
衛所ノ官ニシテ、兵千人ヲ掌トル。多クハ世  
襲トス。(二) 清制、甘肅、四川、廣西、雲南、  
貴州等ニ於テ一部落ノ長トシテ蕃民ヲ治ムル  
者ニ「千戸」ト稱ス。此等ハ其地蕃族  
ノ有力者ヲ以テ之ニ任ズ。多クハ世襲トス。  
(清國行政)

【千戸侯】 千戸ノ邑ヲ食ム列侯ナリ。【史記】  
貨殖志「渭川千畝竹。若干畝卮酒。千畝棗栗。此  
其人皆與二千戸侯」等。

【千秋節】 天子誕生ノ日、唐玄宗ノ時始メテ  
之ヲ稱ス。【唐書】禮志「千秋節者。明皇以二八  
月五日一生。因以二其日一名節。而君臣以爲三  
樂。自二所宗以後。皆以二生日爲節。【事物紀

原「明皇雜錄曰。唐玄宗八月五日降誕。是日宴宰相於花萼樓。源乾曜請以是日爲千秋節。羣臣獻萬歲壽酒。其後天子誕日節號。自始也。云云」(卷)後「天長節」ト改ム「明皇實錄」開元十七年。百官上表。請以八月五日。爲千秋節。天寶七年。改爲「天長節」。

【千秋令節】 清制。皇后又ハ皇太子ノ誕生日ヲ謂フ。(六部成)

【千乘】 (乗) (部首) (萬) (語註解)

【千總】 清代武官ノ名。總管ノ一小隊ヲ「哨」ト爲ス。哨ノ指揮官ヲ「千總」(我少尉)若クハ「把總」(我軍曹)ト爲ス。(嘉慶會典) (兵部總管)

【占使】 軍隊將校ガ擅ニ兵卒ヲ占領シテ使用スルノ義ナリ。「元典章」兵部第一篇占使章「軍官札也定數」ノ條「上軍官占使軍人。停職。云云」(卷三) (十四)

【占推】 多數ノ兵士ガ米ヲ受領スル時ニ前迫

シテ好地位ヲ占メテ受領ニ便スル行爲ヲ稱ス。(六部成) (語註解)

【占租】 農民ガ自ラ官ニ納ムベキ租稅ヲ承認スルコトヲ謂フ。「漢書」昭帝紀「令民得ニ以律占租」。

【占田】 (田) (國民ガ土地ヲ自己ノ持分トシテ占有スルコトヲ謂フ。「晉書」食貨志「男子一人。占田七十畝。女子三十」。

【宣尉】 官名。元ハ宣尉使司ヲ置キ軍民ノ事務ヲ掌ラシム。明ハ惟ダ邊地ニノミ之ヲ置キ其地ノ名族ヲシテ世襲セシム。其位ハ宣撫使(代)ノ上ニ在リ。清ハ之ヲ置カズ。民國ハ當初蒙古等ノ處ニ宣尉使ヲ置キ。共和ノ眞義ヲ宣傳セシメタルガ後之ヲ廢ス。

【宣徽院】 唐。宣徽使ヲ置ク。始メハ宣者ヲ以テ之ニ充ツ。天祐元年宣徽南北院等九使ヲ留メ餘ハ並ニ停止ス。二年宣徽南北院ヲ廢ス。

院專行ニ密命。後唐復ニ樞密使。以郭崇勳安重誨爲之。始分ニ領政事。小開ニ中書。直行下者。謂之宣。如ニ中書之勅也。是則宣頭之始。出ニ於晚唐。而定ニ於後唐也。(卷二)

【宣撫】 唐代ノ臨時任命ノ官名。事アルニ際シ君主ノ意ヲ宣シテ官民ヲ撫導スルコトヲ掌ル。「事物紀原」宋朝會要曰。咸平三年六月。詔遣參政向敏中。充河北東緣邊宣撫大臣。馮拯陳亮更充副大使。存問官吏。自後隨事即置。事已乃省。蓋自比始也。云云。

【宣布】 廣ク法令ヲ布達スルコトヲ謂フ。周禮「小司寇。乃宣布四方」云云。

【宣付】 君ノ命令ヲ交付スルコトヲ謂フ。宋史「伏望宣付史館」。

【宣麻】 唐代中書省用ケル紙ニ黃白ノ二麻紙アリ。宣旨ヲ書スル用ニ供スルガ故ニ之ヲ宣麻ト謂フ。將相ヲ任免シ。征伐ヲ號令スルニハ白麻ヲ用キ他ハ黃麻ヲ用ケルヲ例トス。「事物紀原」唐書百官志曰。開元二十六年改。翰林

凡ソ公事アルトキハ並ニ中書ニ於テ論議ス。梁ハ王殷ヲ以テ宣徽使ト爲シ南北院使ヲ省キテ副使アリ。後唐ハ南北院使ヲ復シテ副使ヲ省ク。晉。漢。周(代)皆之ニ因ル。宋ハ初二使(南北)院事ヲ通掌シ。院ヲ共ニシ廳ヲ異ニシタルガ後止ダ南院印ノミヲ用フ。元ハ宣徽院ヲ置キ。左宣徽使及ビ右宣徽使アリ。又同知宣徽院事。同簽書宣徽院事。宣徽判官アリ朝會。燕享等凡ソ殿庭禮數ヲ掌リ。又開門板班諸司ヲ管轄ス。(古今事文類聚) 明ハ光祿寺ニ併合ス。

【宣和殿】 宋代書庫ノ名ナリ。(清) (部首) (太) (語註解)

【宣旨】 詔ノ一種ナリ。「春明退朝錄」有「乘朝宣底二卷。其間有云云宣頭口命宣旨」者。「宋書」柳元景傳「遣丹陽尹顏竣。宣旨慰勞」。

【宣尼廟】 宣尼ハ孔子ノ諡號。西漢平帝ノ時追贈ス(後漢) (元) (後漢) (別稱) 文成帝ノトキ宣尼廟別ニ有司ニ勅シテ薦享ノ禮ヲ行ハシム。明。丘濬曰ク「有司薦享始ニ於此。前

供奉一爲ニ學士。專掌ニ內命。凡拜ニ免將相ニ號ニ令征伐。皆用ニ白麻。則麻宣之始。自明皇世也」。

(卷) 向ホ清黃潛編「錦字箋」ニモ略ホ同一ノ記事アリ。黃麻ヲ用ケル場合ハ宣讀スルヲ法トス。(一) (卷)

【宣諭使】 官名。詔諭ノ旨ヲ宣傳スルコトヲ掌ル。南宋ノ時傅杞ヲ以テ淮南宣諭使ニ充ツ。是レ其始メナリ。其後或ハ益賊ヲ鎮撫シ。或ハ官吏ヲ按察シ。或ハ軍馬ヲ節制スル等其權限益重キニ至ル。而モ之ト同時ニ任命專ラナラザルニ至ル。

【專有】 一人ニシテ利益ヲ獨占スルノ義ナリ。「後漢書」荀彧傳「荀ノ人之財。猶ニ之盜。況君奇譎拔出興亡所繫。可專有之耶」。

【專缺】 特定ノ身分ヲ有スル者ニ限リテ任用セラルル官職ヲ謂フ。(清) (會典) (吏部)

此但云「釋奠」而未「嘗言」廟。至是始有「宣尼廟」之文。(大學衍義補) (卷六十五)

【宣政使】 宮中内侍ノ官ナリ。「文獻通考」職官考「凡内侍。其官稱。則有内客省使。延福宮使。宣政使。宣慶使。昭宣使」。

【宣政殿】 唐代宣政殿ノ名。四方蠻族ノ朝貢スルトキ拜謁ヲ賜フ所ナリ。韓愈撰「論佛骨表」「奉ニ其國命。來ニ京師。陛下容而接之。不レ過。宣政一見。禮賓一殿。賜ニ衣一襲。漸而出之。於境。不レ吝。感ニ衆」。「通鑑」胡註「唐時四夷入朝貢者。皆引ニ見於宣政殿」。

【宣頭】 (見) (宣頭) (見) (宣頭)

【宣頭】 天子口頭ヲ以テ中書ニ宣命ス。之ヲ「宣頭」ト謂フ。中書拜承シテ繕ニ錄ス之ヲ「宣底」ト謂フ。「事物紀原」筆談曰。宣頭所レ起。按唐故事。中書舍人職掌「詔語。皆寫ニ四本。一爲レ底。一爲レ宣。謂ニ出行ニ耳。未ニ以名書也。晚唐樞密使。自禁中ニ受レ旨出付ニ中書。即謂ニ之宣。中書承受。錄ニ之於籍。謂ニ之宣底。梁置「崇政

院專行ニ密命。後唐復ニ樞密使。以郭崇勳安重誨爲之。始分ニ領政事。小開ニ中書。直行下者。謂之宣。如ニ中書之勅也。是則宣頭之始。出ニ於晚唐。而定ニ於後唐也。(卷二)

院專行ニ密命。後唐復ニ樞密使。以郭崇勳安重誨爲之。始分ニ領政事。小開ニ中書。直行下者。謂之宣。如ニ中書之勅也。是則宣頭之始。出ニ於晚唐。而定ニ於後唐也。(卷二)

院專行ニ密命。後唐復ニ樞密使。以郭崇勳安重誨爲之。始分ニ領政事。小開ニ中書。直行下者。謂之宣。如ニ中書之勅也。是則宣頭之始。出ニ於晚唐。而定ニ於後唐也。(卷二)

院專行ニ密命。後唐復ニ樞密使。以郭崇勳安重誨爲之。始分ニ領政事。小開ニ中書。直行下者。謂之宣。如ニ中書之勅也。是則宣頭之始。出ニ於晚唐。而定ニ於後唐也。(卷二)

【專制】 權臣が君命又ハ法令ニ依ラズシテ、  
專ラ他ヲ支配スルコトヲ謂フ。【漢書】文帝  
紀「立三諸呂爲三王。擅權專制。」

【專照】 清制、邦法ノ特許證ノ義ニ使用ス。  
(光緒新法令  
第十六册)

【專摺具奏】 清制、死刑ノ裁判ハ刑部及ビ  
都察院、大理寺(之ヲ「三法」)會同シテ擬律上  
奏スルヲ定則トスルモ刑部ノミニテ單獨ニ擬  
律上奏シ他ト會同ヲ要セザル案件アリ。之ヲ  
「專摺具奏」ト謂フ(清律、卷三十七、斷獄篇)  
(有司決囚等第ノ條附例)

【專牌】 商標ノ一種、清光緒三十年清國政府ガ  
總稅務司米人「ロハード、ハート」ヲシテ立案  
セシメ、商部ニ於テ修正ヲ加ヘテ定メタル「商  
標註冊試辦章程」ニ對シ更ニ改正ヲ加ヘテ發  
布シタル「改訂商標條例」ニアル商標ニ三種  
アリ。一ヲ「洋牌」ト曰ヒ、二ヲ「專牌」ト曰ヒ、  
三ヲ「華牌」ト曰フ。洋牌トハ外國商人ノ其本  
國ニ於テ登錄ヲ受ケタル商標ニシテ、之ヲ清

國ニ於テ使用スルモノヲ謂ヒ、專牌トハ外國  
商人ノ專ラ清國ニ於テ使用スルモノヲ謂ヒ、  
「華牌」トハ清國人ノ國內ニ於テ使用スルモノ  
ヲ謂フ。共ニ一定ノ手續ニ依リテ登錄ヲ受ケ  
ルコトヲ得タリ。

【尖】 (部首) (韻)  
旅行ノ中途、小憩シテ飲食スル所ヲ謂  
フ。俗ニ「打尖」トモ稱ス。

【尖量】 米ヲ量リテ斛ヨリ高ク上ニ出スコト  
ヲ謂フ。(六部成  
語註解)

【川】 (部首) (韻)  
官名、周禮「地官ノ屬、一ニ亦「水虞」  
トモ曰フ。川ノ遠近寬狹及ビ物ノ出ル所ヲ辨  
別スルコトヲ掌ル。【禮記】曲禮篇「天子六府  
(略)三日司水。一ノ鄭註「股制。司水。於周爲二  
川。按漢有二水衡都尉。亦其類也。」

【川漢鐵路】 四川成都ヨリ東方、湖北境ニ  
入りテ漢口ニ達ス。川漢鐵路公司ノ此鐵路ヲ

開設シタルハ民軍勃興スル以前ニ在リ。清國  
政府ハ官有ニ改メント欲スルヤ四川民大ニ之  
ヲ争ヒ幾ント大亂ヲ成ス。此鐵路ハ幹線總計  
三千五百里、成都ヨリ宜昌ニ至ル凡ソ二千五  
百里、宜昌ヨリ漢口ニ至ル凡ソ一千里ナリ。

【川師】 官名、周禮夏官ノ屬、川澤ノ名及ビ  
其物ト其利害トヲ辨スルコトヲ掌ル。

【川楚教匪】 清ノ乾隆末年、白蓮教徒安徽  
人劉之協等河南王氏ノ子ヲ奉ジテ爲リテ、明  
ノ後裔ト稱シ民間ヲ煽動シタルモ事覺レテ逮  
捕セラル。時ニ之協間ニ乘ジテ脫走ス。朝廷  
所司ヲ責メテ窮緝ス。其關連スル所湖北最モ  
甚シク、破家亡命スル者勝ゲテ數フベカラズ。  
荆宜ノ民遂ニ反シ四川失業ノ民ニ應ズ。其  
渠魁ニ姚之富及ビ齊林ノ妻王氏等アリ。皆狡  
悍善ク戰フ。嘉慶七年額勒登保等始メテ之ヲ  
討定ス。是レヲ「川楚教匪之亂」ト爲ス。

【川澤】 注瀆(流水)ヲ川ト曰ヒ、水ノ鍾マル  
所ヲ澤ト曰フ。(周禮地官  
大司徒註)

【控】 (部首) (韻)  
(一) 控ト通ズ。控フナリ。(二) 俗ニ馬  
ヲ繫グヲ控ト爲ス。

【控馬】 官兵ニ分給シテ、各自ノ用ニ供スル  
官馬ヲ謂フ。(嘉慶會  
典兵部)

【擯】 (部首) (韻)  
擯ハ專ナリ。大臣ガ君上ニ奏請セズ、  
又副僚ガ上司ニ申請セズ卑幼ガ尊長ニ命ヲ請  
ハズ、庶民ガ官廳ノ認許ヲ經ズシテ自ラ事ヲ  
專行スルコトヲ謂フ。(ケレノ部、嚴於)

【擯典】 擯ハ專ナリ、即チ專斷ヲ以テ兵ヲ興  
シ、工ヲ起スコト歴代刑律ノ禁ズル所ナリ。  
(ケレノ部、典  
律ヲ見ヨ)

【擯典律】 (ケレノ部、典  
律ヲ見ヨ)

【擯造作】 造作ハ土木工事ヲ爲スコト、文武  
官廳ニ於テ造作ヲ爲スニハ監督官廳ノ認許ヲ  
經ザルベカラズ。認許ヲ經ズシテ工事ヲ爲ス  
ヲ「擯造作」ト謂フ。(明律卷二十九、清律卷三  
十六、工律篇「營造擯造

【擯】 (部首) (韻)  
朝廷ノ命ヲ承ケズ、又上官ノ承認ヲ  
經ズ、或ハ法文ノ規定ニ悞ラズ。自己ノ專斷  
ヲ以テ罪人ヲ赦スコトヲ謂フ。【隋書】禮儀傳  
「酒甯運擯所部內獄囚。」

【擯發兵】 (擯ニ兵) 警急ノ事ナク、且ツ上  
請裁可ヲ經ズシテ兵ヲ發スルコトヲ謂フ。【唐  
律】擯發兵ノ條「諸擯發兵。十人以上  
徒一年。百人以上徒一年半。百人加一等。千  
人絞。」(卷十)

【泉】 (部首) (韻)  
泉ハ錢ト相通ズ、錢ノ別名ナリ。【說文】  
「古者貨貝。兩實レ錢。周有レ泉。秦廢レ貝行レ錢。  
要スルニ泉ヲ錢ノ名ト爲スハ其形ガ篆書ノ  
泉字ニ似タルガ爲メナリト曰ヒ或ハ亦流行  
絶エザルコト泉ノ如シトノ意ニ出ヅルトノ說

アリ。(泉布)  
ヲ見ヨ)

【泉布】 錢ノ名ナリ。古ハ貝ヲ以テ貨ト爲ス。  
周太公始メテ錢ヲ作ル。或ハ泉ト云ヒ、布ト  
云フ。泉ハ錢ト通ズ。古錢其形篆書ノ泉文ニ  
似タルガ故ニ「泉」ト曰フ。或ハ曰ク「泉ハ流行  
ノ意ニ取リ布ハ施布又ハ宣布ノ意ニ取ルレト、  
王昭禹曰ク「古者實レ錢而貨レ貝。所以交通ニ者  
惟貝而已。至太公立ニ九府圖法。始用レ錢代レ  
貝。或曰レ泉或曰レ布。布取ニ宣布之意。泉取ニ流  
行之意。其實則一而已。」(丘濬曰ク「流ニ行之一  
以。泉。施ニ布之一以。布。云云。」(大學衍義補  
卷二十六)

【泉布】 官名、周禮地官司徒ノ屬、市場ノ征布  
(金)ヲ以テ市貨ノ積滯シテ售ラザルモノヲ買  
取シ、其處置ヲ爲スコトヲ掌ル。泉ニ錢ニ作  
ル。府ハ委積ノ府ナリ。【周禮】地官泉府「掌人  
以ニ市之征布。(征布。商人所)斂。市之不售  
貨滯ニ於民用ニ者。(市貨有)積滯。小者。以ニ  
其買ニ買之。(使)民不(使)其本(使)其本。而

【**償**】(其) 以待不時而買者。(以時) 買者各從其抵(也) 都部從其主。國人郊人從其有司。(主與) 有司。然後予之。凡除者。祭祀無過。旬日。喪紀無過。三月。凡民之貨(借用) 者。與二其有司。辨而授之。以三國服。爲之息(國) 謂民於國所服之。如農圃之類也。民貨物不取其息。俾其出力以服國事。以代(出) 云云。

【**泉幣**】 貨幣ノコト、【宋史】 蔡京傳、今泉幣所二種軍二五千萬。

【**洗**】(部首) (水) (洗) (韻)

【**洗冤錄**】 宋ノ宋慈撰、後人又之ヲ增訂ス。刑法醫學ノ書、即刑獄裁判ニ於ケル殺傷罪ノ創傷殺傷ノ臨檢皆之ニ據ル。今傳ハル唐律、及ビ清律ニハ之ヲ卷末ニ附ス。

【**洗塵**】 凡ソ公私共ニ、遠人ノ初メテ至ルニ値フトキ或ハ宴ヲ開キ或ハ之ニ物ヲ饒ルコトヲ謂フ。【元典章】 至元二十一年。禁治察司條畫。一不レ得。因二送レ路洗塵。受人禮物。

【**洗馬**】 太子ノ屬官、秦始メテ置キ、漢之ニ因ル。行列ノ時、前驅ヲ掌ル。一ニ、先馬ニ作ル。【漢書】 百官公卿表、太子屬官有洗馬。【國語】 越語、句踐親爲二夫先馬。

【**洗兵**】 (一) 兵器ヲ洗ヒ清ムルノ謂ナリ。【說苑】 武王伐紂。風霾而乘以大雨。散宜生曰。此妖也。武王曰。非也。天洗兵也。(二) 戰ヲ止メ兵器ヲ洗ヒテ收ムルノ謂、【杜甫詩】 安得壯士挽天河。淨洗川兵一長不用。歷代之ニ因ル。清之ヲ廢ス。

【**淺**】(部首) (水) (淺) (韻)

【**淺船**】 船體平低ナル船、淺水ノ場所ニ之ヲ用フ故ニ、淺船ト曰フ。【六部成語註解】 淺水所レ用之平低船也。

【**漸**】(部首) (水) (漸) (韻)

【**漸丁軍人**】 未丁年者ガ漸長(漸ク成) シテ丁年ニ達シ軍人ト爲ルノ義ナリ。【元典章】 兵部第一篇軍糧章第一、漸丁軍人口糧ノ條、上新附軍人。既已身死。地下兒男。亦合充レ

軍。比及三漸長成丁。云云。(卷三)

【**漸臺**】 漢武帝ノ時ノ漸名、池中ニ在リ。漸ハ水ニ浸スノ義、故ニ、漸臺ト曰フ。(漢書郊祀志) 註ニ

【**潛**】(部首) (水) (潛) (韻)

【**潛服**】 甲冑ノ類ナリ。【周禮】 天官、閹人ノ制、掌守王宮之中門之禁。喪服凶器。不レ入レ宮。潛服賊器。不レ入レ宮。云云。王安石註、潛服。則衷甲之類。云云。

【**瞻**】(部首) (目) (瞻) (韻)

【**瞻狗延緩**】 因循遲延ト言フニ同ジ。【清律】 戶律篇、擬斷賊罰不當ノ條附例、瞻狗延緩。以致三格項懸缺一者。云云。(卷十)

【**瞻對**】 (一) 清制、雲南、廣西省等ノ藩界部落ニ在ル蕃族ノ長官即チ土司ノ別稱ナリ。(二) 朝親シテ陛下ニ咫尺シテ奉對スルコトヲ謂フ。(宋史) 野傳

【**禪位**】 天子ガ其位ヲ太子又ハ適任者ニ讓ルコトヲ謂フ。【文獻通考】 經籍考、玄宗禪位於太子亨。是レ其一例ナリ。

【**禪讓**】 天子在世中其位ヲ其子ニ傳ヘズシテ他ノ適任者ニ傳フルコトヲ謂フ。堯ノ舜ニ傳ヘ舜ノ禹ニ傳ヘタルノ類ナリ。【後漢書】 逸民傳論、顧陽洗耳。耻聞禪讓。孤竹長饑。羞レ食ニ周粟。

【**筌**】(部首) (竹) (筌) (韻)

【**筌蹄**】 (一) 筌ハ魚ヲ取ルノ竹器、邦語ノ「モソドリ」蹄ハ兔ヲ取ル耳、邦語ノ「ウナシナリ」。

【**莊子**】 外物篇、筌者所以レ在魚。得魚而忘筌。蹄者所以レ在兔。得兔而忘蹄。云云。此意ハ事物ノ研究ハ要點ヲ得ルニ在リ。筌蹄ハ要點ノ義ニ用フ。(二) 南朝時代ハ士大夫法ヲ説クニハ必ズ筌蹄ヲ用ケル例トス。此ニ所謂筌蹄ハ蓋シ塵毛(ホツ) ノ一種ナリ。【南史】 侯景傳、上素筌蹄。曰。我爲公講。又、牀上常設二胡牀及筌蹄。

【**箋**】(部首) (竹) (箋) (韻)

【**箋**】 (一) 古人ノ意ヲ明白ニスル註解ノ義ナリ。【毛詩鄭箋】 周禮鄭箋ノ如シ。信書亦箋ト曰フ。(二) 清制ハ中外諸管ヨリ封章ヲ上リテ皇后ヲ慶賀スルコトヲ箋ト謂フ。【皇朝政治學問答】 凡中外封章上達。慶賀皇帝皇太后。曰表。皇后曰箋。陳事曰疏。

【**簽**】(部首) (竹) (簽) (韻)

【**簽事**】 司法官(判) ヲ簽事ト爲ス。(清會典) 刑部散 民國ニ於テハ銓叙局ノ職員ニ簽事アリ。(銓叙局)

【**簽字**】 文書ニ本人自ラ姓名ヲ記シテ證ト爲スコトヲ謂フ。署名ト言フニ同ジ。

【**簽首級**】 典首ノ別名ナリ。(ケレノ部) (典)

【**簽書**】 官名、宋代樞密院ノ職官ニ「簽書」アリ。其種別一ナラズト雖モ惟ダ均シク稱シテ「樞密」ト爲ス。【容齋隨筆】 樞密使。副使。知院事。同知院事。簽書。同簽書之別。雖ニ品秩

有ニ高下。均稱爲「樞密」云云。

【**簽廳**】 宋代創設ノ官廳、各州ニ之ヲ設置シ、郡政ヲ裨補協贊シ諸案文移ヲ總理シ可否ヲ斟酌シ以テ之ヲ其上司ニ稟白スル事ノ等ヲ掌ル。政和中改メテ司錄ト爲シ後復ス。明ノ五軍都督亦掌印簽書ノ等級アリ、其後ノ事詳ナラズ。

【**簽判**】 宋代、簽書判官廳公事アリ之ヲ幕職ト爲ス。略シテ「簽判」ト稱ス。其官廳ヲ「簽廳」ト曰フ。各州皆之ヲ置ク。郡政ヲ補佐シ諸ノ文案ヲ掌ル。

【**線**】(部首) (糸) (線) (韻)

【**線賊**】 盜賊中先導ヲ爲ス者ヲ謂フ。【六部成語註解】 賊作二引導ニ之中匪徒也。

【**線索**】 二字トモ繩ノ屬ニシテ普通ハ牽引ノ義ニ用フルモ、清制ニ於テハ或ル官吏間ニ於テ互ニ氣脈ヲ通ジ、私利ヲ謀ルノ義ニ使用ス。(清史) 則例

【**繕**】(部首) (糸) (繕) (韻)

【繕寫】 制書又ハ批答文等ヲ清寫シテ體裁ヲ裝整スルコトヲ謂フ。(清會典)蓋シ此語ハ漢代ヨリ用キラル。

【繕人】 官名、周禮夏官司馬ノ屬官、王ノ用キル所ノ弓矢等ヲ掌ル。其制、掌王所用弓弩矢屨增弋挾持。

【羨】 (羊首) (韻)

【羨】 餘又ハ饒ナリ。周禮地官司徒ニ出ヅルヲ始トス。(義卒) (ヲ見ヨ)

【羨卒】 力役ハ一家一人ヲ徵取シ之ヲ「正卒」ト曰ヒ、其餘ヲ以テ「羨卒」ト曰フ。周禮地官司、小司徒「凡起徒役。毋過一家一人。以二其餘爲羨。其註「正卒之外皆爲羨卒。又「羨、饒也。」

【羨餘】 賦役ノ餘餘(分)ヲ謂フ。隨園隨筆「周禮凡起徒役。毋過一家一人。以二其餘爲羨。此後世羨餘二字之所由始。」清會典等ハ財政上ノ用語トシテ餘利ノ義ニ使用ス。

【翦】 (部首) (鏡)

【翦徑】 匪盜ガ旅客ヲ路ニ擁シテ却テ行フコト俗ニ亦「截短路」ト稱ス。

【翦絨單】 西蕃ヨリ產出スル絨布(布ノ細ナノ織物ナリ。其色ハ紅綠年遠ク日ニ晒スモ永ク退色セズ、緊ニシテ且ツ細ナリ(格古) (要論)

【翦商之業】 (商ヲ翦ス) 商ハ股ナリ翦ハ減ナリ。即チ周ノ武王ガ股ノ村王ヲ征シテ之ヲ滅シタル革命ノ事業ヲ謂フ。詩經公劉高「實始翦商。」唐律疏議「漢表ニ之ヲ引用シテ「西土極翦商之業。」是レ唐ノ功業ヲ以テ周武ノ偉業ニ比ス。(同書) (卷首)

【翦柳】 明ノ永樂中翦柳ノ戲行ハル、大概清明又ハ端午ノ日ヲ以テ會集シ鴉鴉(セキ)ヲ翦(大蘇、其實)ノ中ニ入レ、之ヲ樹上ニ懸ケ弓ヲ彎キテ之ヲ射リ、矢所至ニ中レバ鴉鴉ヲ飛ビ去ル。其飛ア所ノ高下ヲ以テ勝負ヲ定ム。或ハ亦「翦柳」ト同意ニ使用セラル。(下條ヲ) (見ヨ)

然レドモ是レ本ト誤用ニ係ルガ如シ「通俗語」世毎誤書レ爲「柳。如唐卓詩。爭奈京城翦柳多。是也。」蓋シ翦柳ハ小盜(チボ)ノ類ナリ。

【翦絡】 人ノ佩帶物等ヲ剪取スルコトヲ謂フ。(翦柳ノ用) (說文)「絲十據爲翦絡。謂レ斷ニ其繫物之條。」トアルニ取ルガ如シ。

【奕】 (部首) (鏡)

【奕】 弱國ノ稱、奕ハ弱又ハ退ノ義ナリ。戰國策「鄒衛者。楚奕國」

【奕弱不勝任】 (奕弱任ニ) 津制、大官ニシテ心力衰弱、執務ニ勝ヘザルノ義、免官ノ一要件ナリ。漢書「王尊傳、尊子伯。亦爲三京光尹。坐奕弱不勝任免。」

【奕胞】 柔弱ノ貌、胞ハ廣ノ本字ナリ。漢書「司馬遷傳、以二奕胞之體。云云。」

【艾】 (部首) (成)

【艾夷】 剔除スルノ義ナリ。左傳「隱公六年、見、惡如三農夫之務去草焉。艾二夷、種崇之。」

【史通】 夫子之刊書、讀湯斷村。其事甚著。而變夷不存。

【艾汰】 不用ノ文字ヲ剔除スルノ義ナリ。小學彙說(增島)「此編就諸註釋。探其最易。解。一切推行支離務高之說。廢從艾汰。」(卷凡例)

【詮】 (部首) (光)

【詮】 (一) 詮ト通ズ。物ノ經重ヲ量ルヲ詮ト爲ス。爾雅「詮也。疏謂詮量輕重。」(二) 人材ヲ銓衡スルノ義、唐ニ三銓ノ法アリ。唐六典「吏部有三銓法。尚書典其一。爲一尚書銓。侍郎分其二。爲二中銓。東銓。以三事擇其才。曰三身。書判。以三類。觀其異。曰三德。才。勞。凡流外兵部禮部舉人。得自主之。曰三小選。註「尚書掌三品以上選。侍郎掌三品以下選。」

【詮證】 詮ハ事理事實ヲ詮議スルノ義、即チ事實ニ照シテ證明スルコトヲ謂フ。孝經疏「事

「前儒許證。各擅一家。」

【詮讀】 金代ニ於ケル會試(クノ部)會ノ試験官ニ「詮讀」二人アリ。(金史選)蓋シ受験者ノ成績ヲ詮讀シテ朗讀スルノ義ニ取ルベシ。

【詮論】 事理ニ照シテ論議スルノ義ナリ。晉書「武陔傳、文帝數與詮論。云云。」

【詹尹】 (部首) (變)

【詹尹】 古占筮ノ事ヲ掌リタル官名ナリ。(楚辭)

【詹事府】 詹事ノ官ハ秦漢ニ始マル。其官府ヲ詹事府ト曰フ。皇太后及皇后、皇太子ノ宮皆詹事アリタリ。事物紀原「秦官。掌二太子家。歷代因之。西典曰。東宮官序。秦漢加二詹事。庶子及諸府率官也。應劭曰。詹。省也。給也。云云。漢ノ成帝ノ時其名稱ヲ改メ皇太子宮ノミニ詹事ヲ置ケリ。此ヨリ詹事ハ專ラ東宮ノ官ト爲リ後世之ニ因ル。清朝ハ皇太子詹事ヲ立テザリシ故ニ、初メハ明制ヲ襲用シテ詹事府ヲ置ケタルモ光緒二十八年全然之ヲ廢ス。(清會典) (詹事府)

【賤】 (部首) (鏡)

【賤民】 支那法ニ於テハ古來四民平等ニシテ、法律上ノ權利ニ於テ何等ノ差別ヲ設ケザルモ、奴婢其他賤業ニ従事セル者ハ之ヲ賤民ト爲シ、其本身ハ勿論其子孫モ一定ノ年限ヲ經過セザル以上ハ、官吏登用試験ニ應ジ官ニ就クコトヲ得ズ。嘉慶會典「吏部「四民爲良。奴婢及娼優隸卒爲賤。又「大清律例」吏部爲「應俟三放出三代後所生子孫。方准報捐考。試。即チ三代清白ノ後ニ非ザレバ、試ニ應ジ官ニ就クヲ得ザルヲ法トス。

【賤更】 (部首) (鏡)

【賤更】 漢代兵役ノ一、邊防ニ當ル戌卒ノ名、當時兵役ハ錢ヲ出シテ人ヲ雇ヒ代役セシムルコトヲ得タリ。賤ハ前ニ邊戍ニ當ル者ガ更ニ錢ヲ受ケテ他ニ代ハリテ再ビ其役ヲ賤ムノ義ナリ。漢書註「古者正卒無常。人皆當更選爲之。貧者欲得顯更。錢者。次直者出錢顯之。是爲二賤更。蓋シ顯ハ雇ト音義相通ズ。」大





ハ貨幣ノ總稱ト爲レリ。清朝時代ニハ(一)制錢、(明代ヨリ起リタルモノ) (二)普爾錢及ビ(三)法定貨幣ナリ。(一)普爾錢及ビ(二)法定貨幣ハ同種ニ行ハルル錢、純銅ヲ以テ作ル。藏錢ハ西藏ニ行ハルル錢、紋銀ヲ以テ(三)標錢、(戶部ノ鑄造ニ係リ内廷造ル) (四)大錢、(制錢ノ大) (五)銅圓、(光緒七八年以來制錢ノ缺乏ヲ) 等ノ數種類アリ。補フ爲メニ造リタルモノ) 等ノ數種類アリ。今ニ行用セラル。尙ホ其他民間ノ私造ニ係ルモノハ種種アレドモ國法ノ禁ズル所ナリ。

(備考) 錢ノ起原ニ付キテ「事物起原」下ノ如ク記ス。管子曰。湯七年旱。禹五年水。湯以莊山。禹以三歷山之金。並鑄幣以救人。因至周太公。立九府圖法。始名以錢。錢圓含方。輕重以銖。起於禹湯水旱之救。三民困也。後魏高謙之以爲。堯造大水。鑄錢。故湯鑄。錢起於堯也。(十)卷

【錢引】 宋眞宗ノ時張詠蜀ニ鎮タルノトキ、銀錢甚ダ重キヲ以テ「交子」(紙幣)ヲ行用ス。初メハ富民ヲ以テ之ヲ主ラシメタルガ後「交子務」

ヲ設ケ推テ以テ出入セシメタリ。是レ紙幣ノ初メナリ。後名ヲ「錢引」ト更メ交子務ヲ「錢引務」ト改メ諸路ニ通行シタリ。(「カ」部)「交子」ノ部「會子」

【錢引務】 (前條及ビ「カ」部)「交子務」ヲ見ヨ

【錢貨子母相權】 (相權ル) 錢貨即チ貨幣ニ重幣ト郵幣トアリ、重キヲ母ト爲シ、輕キヲ子ト爲ス。物貨貴キ時ハ多ク重幣ヲ通行シ物價賤キ時ハ多ク輕幣ヲ通行シ貴賤相權リテ並ニ行フ。之ヲ「錢貨子母相權」ト謂フ。(「ホ」部)「母權子」ヲ見ヨ

【錢幌子】 錢莊ノ店頭ニ掛ゲルモノ、銅ヲ以テ作りタル錢一二串、若クハ三四串ノ模型ニシテ、即チ官許錢莊ノ標號ナリ(清國行政)

【錢荒】 銅錢及ビ銀貨ノ荒廢スルノ義ナリ。清道光以來銅ノ產出年々逐ヒ衰微シ、光緒年ハ稍チ好況ヲ呈シタルモ旺ナリト言フベカラズ、京外鑄造ノ料ハ主トシテ日本銅ヲ用キタ

ルガ價格昇貴シ本額リニ増大シ、カバ、造ル所之ヲ價フニ足ラズ、虧缺益甚シク遂ニ各省大抵鑄造ヲ停止セリ。其結果制錢缺乏シテ價格暴騰スルト共ニ銀貨亦漸ク減落シタリ。之ヲ「錢荒」ト謂フ。(清國行政)

【錢穀師爺】 清代、幕友(地方長官)中法令ノ事ヲ主トスル者ヲ「刑名師爺」ト稱シ、財政ノ事ヲ主トスル者ヲ「錢穀師爺」ト稱ス。

【錢穀備要】 財政上ニ關スル著書、清、王又錢ノ撰十卷十册ヨリ成ル。乾隆五十八年ノ出版ナリ。

【錢債】 支那法ニ於テ金錢ノ貸借ヲ「錢債」ト曰フ。債ハ「說文」負也。今俗負財曰債。「前漢書」是謂傳「賈田宅」云「子孫以債」。同書谷永傳「爲人起債分利受謝」。此等ハ其義ヲ示スモノニシテ、貸主ヲ「放債人」ト曰ヒ、借主ヲ「債人」ト曰フ。法制ノ上ニ於テハ利息ヲ制限シ、月歩元本ノ三分即チ百分ノ三ヲ過グルコトヲ禁ズ。(「四」部「律九、清律卷」)

【錢莊】 支那ニ於ケル金融機關ノ總稱、預金、貸附、送金爲替、銀錢ノ買賣、兌券ノ發行及ビ兩替ヲ業トス。近來ハ銀行又ハ銀莊等ノ名ヲ用キルモ、支那ハ古來銅錢ヲ以テ本貨幣ト爲シ、今尙ホ内地ニ於テハ銅錢ヲ用キルコト多シ、故ニ銀行ト稱スルモノニ在リテモ、銀行公所ト言ハズ、錢莊公所ト云フヲ普通トス。錢莊ニハ同業組合ヲ有スルモノト否サルモノトノ二種アリ。前者ハ大規模ノ金融機關ニシテ、後者ハ其遺利ヲ拾フモノニ過ギズ。地方ニ依リテハ前者ヲ錢莊ト稱シ、後者ヲ錢館ト稱ス。近來ハ前者ヲ銀號ト呼ビ、後者ヲ錢莊ト呼ブモノアリ。要スルニ我商業銀行ニ當ル(經濟大辭典)

【錢樹子】 金錢ヲ產出スル樹、藝妓ノ錢ヲ儲ケテ其父母ヲ養フ者、即チ藝妓ノ俗稱ナリ。「樂府雜錄」許子和。吉州永新倡家女也。開元末遷入宮。即以「永新」名之。(中)臨幸。謂レ母曰。阿母錢樹子例矣。

【錢鈔】 錢莊ニヨリ發行スル兌換券ノコトヲ謂フ。(清會典)

【錢陌】 (陌ニ伯) 錢ノ勘定ハ古來千文、一百文ト數フル法トシタルニ、梁ノ武帝ノ時、破嶺以東ハ八十文ヲ以テ百文ト爲シ、之ヲ「東錢」ト名ツケ、江都以上ハ七十文ヲ百文ト爲シ、之ヲ「西錢」ト名ツケ、京師ハ九十文ヲ以テ百文ト爲シ、之ヲ「長錢」ト名ツク。其後ノ變遷下ノ如シ。

【事物紀原】 自古用錢。皆以二千一百一皆以足。梁武帝時有二破嶺。以東八十爲陌名「東錢」。江都以上七十名「西錢」。京師九十名「長錢」。大同元年詔通用。足。而人不從。錢陌益少。末年遂以三十五爲陌。錢以二十八爲陌。蓋自梁始也。其事見通典。唐昭宗時。京師用錢八陌五十二爲陌。河南府以二百爲陌。兼說曰。漢陸帝時。三司使王章每出官錢。以二十七爲陌。爲之省陌。蓋自五代漢始也。(十)卷

【錢法】 鑄錢局ノ法例(罰法ヲ規定)又ハ事務

ニ關スル法規ヲ謂フ。「六部成語註解」鑄錢局律例也。又錢局事務也。

【錢範清正】 範ハ鑄造ノ模型、清正ハ字畫ノ清楚ニシテ形制ノ端正ナルコトヲ謂フ。「六部成語註解」範者鑄造之模也。清正者字畫清楚。形制端正也。

【錢文】 錢ニ刻スル文字、周太公望九府圖法ヲ立テタルハ錢法ノ嚆矢ナルモ未ダ錢文アラズ、周ノ景王大錢ヲ鑄リテ「寶貨」ト云フ。是レ錢文ノ始ニシテ、且ツ寶字ヲ用フルノ始ナリ。但シ錢文二年ヲ以テスルハ後魏ノ季文太和年ヨリ始マリ、通ヲ以テスルハ唐ノ高祖武德ヨリ始マリ、重ヲ以テスルハ肅宗ノ乾元ヨリ始マリ、元ヲ以テスルハ晉高祖ノ天福ヨリ始マリ。「事物紀原」其沿革ヲ叙スコト詳ナリ。曰ク「錢貨之興尙矣。周自太公立九府圖法。其文無見。景王鑄大錢。班固云。文曰「寶貨」。秦漢則半兩五銖。王莽則貨泉。貨布。後魏孝文太和十九年公鑄祖備。文曰「太和五銖」。又孝莊

用「楊福計」永安二年福更鑄。文曰「永安五銖」。自是以始以年號鑄錢。唐會要曰。武德四年七月十日廢五銖錢。行開元通寶錢。自是此又以通寶爲文。高宗乾封中。則曰乾封泉寶。肅宗乾元時。則曰乾元重寶。五代會要曰。晉天福三年十一月。詔鑄錢。以天福元寶爲文。及僞蜀之制。有光天成康通正天漢乾德之號。皆曰元寶。至於宋朝。每改元。又鑄其號。更於錢文。蓋錢文之以年自後魏孝文帝始也。以元寶者。自周景王大錢始也。以通寶者。自唐高祖武德始也。以重寶者。自肅宗乾元始也。以元者。自晉高祖天福始也。〔十〕

【錢票】 清制。錢莊ヨリ發行スル爲替手形ノコトヲ謂フ。(經濟大辭典)

【錢鋪】 一ニ「錢莊」ト曰フ、即チ支那ニ於ケル銀行ノ總稱ナリ。但シ地方ニ於テハ規模ノ大ナルヲ「錢莊」ト稱シ、規模ノ小ナルヲ「錢鋪」ト稱ス。(參照)我國ノ兩替店ノ類亦錢鋪ト稱ス。

【錢本銀】 錢(貨幣)ヲ鑄造スル工本即チ原料トシテ、國庫ヨリ鑄錢局ニ發給スル銀ヲ謂フ。【六部成語註解】「由戶部支二發銀兩」云。鑄錢局。以爲工本也。

【錢律】 漢代ノ鑄錢ニ關スル法律、僞鑄者ハ棄市ニ處セラル。【漢書】景帝紀「定二鑄錢。僞黃金棄市律」。

【錢糧交盤冊】 清制、各省布政使等ガ任務交代ノ際ニ、原任者ガ其在任中ノ財政ノ收支ヲ爲シ、之ヲ上司ニ呈出シテ事務ノ引渡ヲ爲ス簿冊ヲ謂フ。(戶部則例)

【錢糧奏銷冊】 清制、各省ヨリ毎年支出シタル錢糧ノ決算報告ヲ朝廷ニ奏呈スルコトヲ要ス。其報告書ヲ「錢糧奏銷冊」ト稱ス。(行政大辭典)

【騙】 (部首) (頭) (又) 騙馬。官牛。羯羊。鬪猪。雞。狗。浮猪。

云云。此等ハ皆去聲シタルモノナリ。【清嘉慶會典】「不レ及三歲一曰驢。及レ歲擇二其壯者。而割之曰騙。」(卷五)(二)「樹ヲ接グヲ騙ト曰フ。【證記】月令篇「騙樹法」ヲ載ス。

【騙樹法】 (前條ヲ)

【騙馬場】 清制、騙馬ノ牧場、張家口外布爾鳴蘇壘河ノ東北ニ在リ。其幅員東西七十清里、南北五十清里アリ。騙馬三歲以上去勢シタル馬ニシテ其群ハ專ラ騙馬ニ限リ他ノ種類ノ馬ヲ混ゼザルヲ制トス。(嘉慶會典五十七卷) 同事例八百十八卷)

そ(ソ)ノ部

【厝】 (部首) (頭) (又) 厝屋。居住ノ目的ヲ以テ築造シタル建物、房屋ト云フニ同ジ。(臺灣私法)

【厝地】 臺灣等ニ於テ厝地ト云フハ宅地ノ義ナリ。厝ハ指ト相通ジ置クノ義、即チ家屋ヲ設置スルコトヲ謂フ。宅地ノ義ニ使用ス。(臺灣私法)

【厝屋】 居住ノ目的ヲ以テ築造シタル建物、房屋ト云フニ同ジ。(臺灣私法)

【厝地】 臺灣等ニ於テ厝地ト云フハ宅地ノ義ナリ。厝ハ指ト相通ジ置クノ義、即チ家屋ヲ設置スルコトヲ謂フ。宅地ノ義ニ使用ス。(臺灣私法)

【疏】 (部首) (頭) 疏ハ種種ノ意義アレドモ、法制上ニ於テハ表又ハ箋等ニ對シテ、政事上ノ件ニ就キテ意見ヲ上陳スルコトヲ謂フ。【皇朝政治學問答】「凡中外封章上達。慶賀皇帝皇太后。曰レ表。皇后曰レ箋。陳事曰レ疏。」

【疏爲令】 (疏シテ令) 疏ハ「漢書」ニ「勅令爲レ疏」トアルガ如ク勅改潤澤ノ義、即チ前主ノ是トスル所ハ著シテ律ト爲スニ對シテ後主ノ是トスル所ハ勅改潤澤シテ令ト爲シ之ヲ天下ニ施行スルコトヲ謂フ。(「律」部) 著

【疏舉】 逐一箇條ヲ分チテ列舉スルコトヲ謂フ。【漢書】賈誼傳「雖二編以疏舉」。

【疏章】 清制、前掲「疏爲令」ノ引令ニ「陳事曰レ疏」トアルガ如ク臣下ヨリ皇帝ニ呈進スル政事上ノ奏文ヲ謂フ。之ヲ大別スレバ凡ソ二種アリ。一ヲ「題本」又ハ「本章」ト爲シ、他ノ一ヲ「奏本」又ハ「奏摺」ト爲ス。政書ニ具題トアルハ前者ヲ指シ、具奏トアルハ後者ヲ指ス。二者ノ具ナル點ヲ舉ゲレバ、題本ハ紙質粗ニシテ文字モ稍大ナリ。奏本ハ紙質文字共ニ細ナリ。又題本ハ具題者ノ官印ヲ捺用スルコトヲ要スルモ、奏本ハ之ヲ要セズ。且ツ題本ハ封緘ヲ施サレモ奏文ハ封緘スルヲ例トス。但シ京官ノ摺ハ或ハ封緘シ或ハ封緘セザルモノアリ。必シモ一様ナラズ。

【疏濬塞】 河ヲ治ムルニ三法アリ。一ヲ疏ト曰ヒ、二ヲ濬ト曰ヒ、三ヲ塞ト曰フ。河ノ流ヲ濬キテ之ヲ導クヲ「疏」ト曰ヒ、河ノ淤ヲ去リテ之ヲ深クスルヲ「濬」ト曰ヒ河ノ暴ヲ抑ヘ

テ之ヲ掘スルヲ「塞」ト曰フ。【大學衍義補】歐陽玄曰。治河一也。有レ疏。有レ濬。有レ塞三者異焉。疏河之流。因而導之。謂之疏。去河之淤。因而深之。謂之濬。抑河之暴。因而掘之。謂之塞。(卷十)

【疏附】 (一)下ヲ率キテ上ニ親マシムルノ義、又疏ナル者ヲ親マシムル義ナリ。【詩經】大雅「予曰有二疏附。傳「率」下親上。曰「疏附」。箋「使二疏者親也」。(二)姓名、今ノ新報省疏勒府ニ屬ス。

【祖】 (部首) (頭) 祖寄。支那戶籍法上ノ用語、「祖」ハ原籍ヲ指シ「寄」ハ寄留地ヲ指ス。

【祖籍】 清制、他省ニ轉籍スル者ハ其原籍ヲ以テ「祖籍」ト爲シ、入籍ノ地ヲ寄籍ト爲ス。出仕者ハ祖籍、寄籍共ニ其地ヲ迴避ス。

【祖祖母】 父ノ從兄弟(「レ」部)ノ妻ヲ謂フ。(「祖」部)

【租道】 道路ノ神ヲ祭リテ遠方ニ行ク人ノ安  
全ヲ祈リ又饗別スルノ義。【詩經】大雅燕民篇  
「仲山甫出祖。四牡業業。」其註「祖。行祭也。」又

【風俗通】祖也。今人謂「餞」行爲「祖道」。  
【祖帳】 道路ノ神ヲ祭リテ遠方ニ行ク人ノ安  
全ヲ祈ルヲ「祖」ト曰ヒ、宴ヲ張リテ遠方ニ行  
ク人ヲ送ルヲ「帳」ト曰フ。祖ハ始ナリ。出立

ノ始ノ義、又祖ニ通ジ租クナリ。旅途ニ出テ  
行クコトヲ曰フ。(祖道ノ  
參照)

租 (部首) (韻)

【租】 田賦(即チ)ノ義ナリ。【說文】田賦也。  
長箋「且古租字田賦、用以給宗廟。故从且。古

ニ在リテハ土地ハ國家ニ專屬シ、人民ハ惟ダ  
之ヲ借受ケテ耕作ヲ爲シ、其收穫ノ中ヨリ一  
定ノ租穀ヲ上納シタルモノナリ。故ニ租ハ即  
チ小作料タル意義ヲ有ス。小作料トスレバ私  
法上ノ收入ナレドモ之ヲ國家ヨリ見レバ土地  
ヲ人民ニ貸付シテ耕作セシメ、一定ノ賦ヲ徵  
收シ其殘餘ヲ以テ耕作者ノ私有ニ歸セシメ、

其地賦ハ公費ニ當テタルガ故ニ公法上ノ收入  
タリ。殊ニ周末秦漢以後人民ノ土地所有ヲ承  
認スルニ及ビテハ、租ハ小作料タル賃借料ニ

非ズシテ、純然タル公法上ノ收入タルニ至レ  
リ。就中魏晉以後隋唐ニ至ル間ニ於テハ國家  
收入ノ主要ナルモノヲ租調庸ト爲シ、租ハ專

ラ土地ニ課スルノ稅ト爲シタリ。(調ハ戶稅)  
然レドモ唐以後租調庸ノ制度スルト共ニ、土  
地ニ對スル公課ハ概シテ賦ト爲シ、租ハ官有

地ノ賃借料タル意義ニ使用セラレ、從テ民間  
ニ在リテモ業主ト小作人トノ間ニ於ケル賃借  
料ハ之ヲ租ト稱シ、寧ロ私法上ノ收入タル性  
質ヲ有スルニ至レリ。是レ注意スベキ點ナリ。

租 (部首) (韻)

【租徭】 租稅ト徭役、地租ヲ租ト曰ヒ、力役  
ヲ徭ト曰フ。【舊唐書】李抱真傳「籍二戶丁。男三

選。其一。有材力者。免其租徭。給二弓矢。」  
【租界】 各國ノ支那通商各港劃定地界ニ在リ  
テ地ヲ租シ商ヲ通ズル區域ヲ謂フ。即チ我舊

時ノ「居留地」ニ當ル。

【租調庸】 唐初始メテ租調庸ノ法ヲ定メ人丁  
(丁年)ヲ以テ本ト爲ス。(一)租ハ田租ニシテ

丁男一人ニ田百畝ヲ授ケ歲ニ租粟二石ヲ納メ  
シム。(二)調ハ家稅ニシテ每丁其鄉土出ス所

ニ隨キテ歲ニ絹或ハ絳(抽)共ニ二丈、  
綿三兩ヲ輸セシム。布ヲ輸スル者ハ麻三斤ヲ

加ヘ或ハ銀十四兩ヲ輸セシム。(三)庸ハ丁賦  
(丁男)役ニシテ每丁一歲定役二十日トシ閏月  
ハ二日ヲ加フ。役セザル者ハ日ニ絹三尺ヲ輸

セシム。加役二十五日ノ者ハ調ヲ免ジ三十日  
ノ者ハ租調皆免ス。(大學衍義補)

蘇 (部首) (韻)

【蘇】 契丹ニ於テハ男子一歲ヨリ十歲マデヲ  
蘇ト曰フ。(丹)ヲ見ヨ

【蘇拉】 滿洲語、執役ノ人ノ義、宮中又ハ雍  
和殿等ノ役務ニ服ス。蘇拉喇嘛アリ、亦執役

ノ喇嘛ト爲ス。  
【蘇拉喇嘛】 (前條ヲ  
見ヨ)

訴 (部首) (韻)

【訴訟】 【唐律】ハ隋ノ開皇律ニ依リ「開訟」ヲ  
以テ篇名ト爲シ、即チ開陳ト告訟トヲ合併シ

テ規定シタルガ、【明律】ハ刑律ノ體裁ヲ改整  
スルト同時ニ兩者ヲ分チテ「開陳」ト「訴訟」ト

ノ二篇ト爲シ各刑律内ニ編入ス。【清律】之ニ  
因ル。訴ハ告訴發ノ義、單ニ自己ノ利害關

係ヲ有スル事件ヲ訴フルノミナラズ他人ノ犯  
罪、即チ謀反逆叛等ノ如キ大罪其他ノ犯罪ヲ

訴フルコトヲモ含ミ、其範圍廣シ。訟ハ專ラ  
自己ニ直接利害關係ヲ有スル事件ヲ訟ヘテ是

非曲直ヲ法廷ニ争フコトヲ意義ス。但シ冤枉  
其他不平ヲ官廳ニ伸告スル場合ハ特ニ訴字ヲ

用ケルヲ例トス。【玉篇】「告ニ訴冤枉」ト曰  
ヒ、又律ニ「上訴」ト曰フ。越訴等アルノ類是ナリ。

訟ト曰フハ篇名ニシテ、自ラ訴訟ヲ爲ス場合  
ハ「開訟」ノ語ヲ用ケルヲ例トス。【明律】及ビ

【清律】刑律訴訟篇「越訴」ノ條、凡軍民詞訟。皆  
須自下而上陳告云云。又同ウク、告狀不受

理ノ條、若詞訟元告被論云云。ト曰フノ類  
ナリ。(明律卷二十二)然ルニ清末及ビ民國ニ

及ビテハ一體ニ訴訟ノ語ヲ用ケルニ至ル。現  
ニ「訴訟法」アリ。我國ノ「訴訟法」ニ倣フモノ

ナリ。  
【訴牒】 訴狀又ハ訴訟書ト云フニ同ジ。【弘簡  
錄】「湖田遇水旱。即有訴牒。按圖示之。以

圖可否。」  
阻 (部首) (韻)

【阻礙】 通行ノ前路ヲ遮リテ通行ヲ妨害スル  
コトヲ謂フ。或ハ人爲的ノモノアリ。或ハ水

害其他天爲的ノモノアリ。【明律】清律兵律、  
郵驛篇「驛使稽程」ノ條、其遇水漲道路阻礙

礙經行者不坐。トアルハ天爲的「阻礙」ノ一  
例ナリ。(明律卷十七)但シ此語ハ本ト易ニ

出ツ。【易經】疏「西南順位。平易之方。東北險。  
阻礙之所。」

【阻當】 船舶ノ往來ヲ取締ル者ガ法ノ規定ニ  
依ラズシテ專制的ニ其進行ヲ防止スルコトヲ

謂フ。(清律)  
蟲 (部首) (韻)

【蟲糞紙薄】 織物ノ製造ノ精ナラザルヲ  
「蟲糞」ト曰ヒ素質ノ惡シキヲ「紙薄」ト曰フ。

【明律】及ビ【清律】工律織造篇「造作不如法」ノ  
條、織造段疋「蟲糞紙薄者。各笞五十。云云。」

(明律卷二十九)  
鼠 (部首) (韻)

【鼠色】 細色ニ對シテ粗略ナル下等ノ種類ヲ  
謂フ。(分)ヲ見ヨ

【鼠牙雀角】 争訟ニ喻フ。【詩經】召南、行  
露篇「誰謂雀無角。何以穿我屋。」(中)誰謂鼠

無牙。何以穿我墻。」  
【鼠耗】 地方官ヨリ稅米ヲ中央政府ニ送ル間

ニ於テ鼠ノ爲メニ侵害セラル、損失ノ義ナリ。故ニ稅米ヲ徵收スル場合ニハ其損分ヲ見積リ附加稅トシテ増收スルヲ例トス。從テ鼠糞ト云ヘバ既ニ正賦ノ附加稅タル意義ヲ有ス。(清會典戶部、戶部則例)

【鼠雀耗】 鼠雀耗トハ耗羨(カノ部)ノ一種ニシテ、地方官ガ稅米ヲ徵收シ、之ヲ中央政府ニ送ルニ付キテハ中間ニ於テ鼠雀ノ害ヲ受クルコトアリ、之ヲ鼠雀耗ト稱シ、正稅徵收ノ時ニ之ヲ見積リテ附加徵收スルヲ例トス。(同上)

【僧伽】 梵語、僧伽那ノ略。衆多ノ僧侶ノ義ト爲ス。【瑞那代那當】 僧伽。唐謂ニ衆僧。云云。  
【僧綱】 清制、府ニ於ケル僧官ノ長、未入流ノ官ナリ。(禮部則例)

【僧祇戶】 北魏ノ制、穀物ヲ僧曹ニ輸納スル者ヲ「僧祇戶」ト爲シ其穀物ヲ「僧祇米」ト爲ス。(老志)

【叢棘】 罪人ヲ監禁スル所、即チ牢獄ノ一種ナリ。【易經】 坎卦上六「保以叢棘。萬子叢棘。三歲不得。凶。古代ハ叢棘ヲ植エテ牢舍ヲ構造シ其逃亡ヲ防ギタルモノナリ。(カノ部)

【叢座】 人君、器ノ小ニシテ大略ナキコトヲ謂フ。【書經】 益稷篇「歌曰。元首叢座哉。云云。其注「叢座、煩碎也。」

【奏案】 (一) 章奏ヲ閱覽スル凡案ヲ謂フ。【三國志】 註「孫權拔刀。研前奏案。」(二) 清代等ニ於テハ凡ソ事ノ奏准ヲ經タルモノ之ヲ「奏案」ト謂フ。

【奏稿】 (カノ部) 入  
【奏稿】 (試ヲ見ヨ)

【奏稿】 軍營ノ豫算ヲ決算シ剩餘金アルトキハ其内容ヲ明ニシテ朝廷ニ返納スルコトヲ謂フ。【六部成語註解】 「以軍營用餘之項。奏明繳還朝廷。」

【奏催】 前既ニ奏請ヲ爲シタル事項ニ付キ、更ニ奏請ヲ爲シテ裁可ヲ追求スルコトヲ謂フ。【六部成語註解】 「凡有應催者。具摺催之。即奏請也。」

【奏事】 天子ノ陛下ニ出デテ事由ヲ面陳スルコトヲ謂フ。【唐律】 詐僞篇「對制奏事不實」ノ條疏議「奏事。謂面陳事由。」(卷五)

【奏事處】 清制、京官及ピ外官(地方)ヨリ事ヲ奏上スル場合ハ必ズ奏事處ニ提出スルヲ要ス。奏事處ハ官中特設セルモノニシテ、奏事太監(即チ)之ヲ御前ニ進呈ス。(嘉慶會典卷三)

【奏獎】 清制、官吏ニ功績アリ又ハ民人ニ捐輸(義捐金)ノ事アルトキ、當該官廳ヨリ其事ヲ一々摺單ニ開明シテ以テ恩典ヲ加ヘテ獎勵センコトヲ謂フノ義ナリ。【皇朝政治學問答】 官員有ニ勞績。民人有ニ捐輸。一一開單。附入摺內。請ニ皇上加恩獎勵。謂ニ之奏獎。

【奏准】 清制、京外各大官ヨリ一定ノ順序ヲ經テ公務上應ニ行フベキ事項ニ付キテ希望ヲ上陳シ、之ニ對シテ裁可ヲ與ヘタルモノヲ謂フ。【皇朝政治學問答】 「事有應准。如此請。具摺奏明。奉旨允准。謂ニ之奏准。」

【奏審】 皇帝ノ直接審判ニ對シ若シ不當ノモアルトキ國家ノ最高審判機關ヨリ其案件ヲ審判シテ上奏スルコトヲ謂フ。(宋史高宗紀)

【奏請】 或事件ニ對シテ希望意見ヲ附セズ、如何ニシテ之ヲ辦理スベキカニ付キ、旨ヲ請フコトヲ謂フ。是レ奏准ト異ナル所ナリ。【皇朝政治學問答】 「不致定。其如此。請旨如何辦理。」

【奏銷】 銷ハ決算報告ノ義、奏銷ハ收支ノ内容ヲ開明シ、摺ニ具シテ奏明スルコト、一言之ヲ蔽ヘバ決算報告ナリ。【皇朝政治學問答】 「凡官項銀錢。動用後。皆應報銷。按數開出。具摺奏明。謂ニ之奏銷。」

【奏銷銀】 各官廳ヨリ朝廷ニ向ヒテ公費ノ決算報告ヲ爲スコトヲ謂フ。然レドモ直チニ朝廷ニ赴キテ之ヲ爲スニアラズ、即チ中央ノ財務機關ニ報呈スルヲ順序トス。【六部成語註解】 「承辦公務之完竣。將所用之款。赴部銷算。」

【奏銷冊】 朝廷ニ奏呈スル決算報告ノ書冊ナリ。(前條對照)

【奏摺】 (疏ヲ) 見ヨ

【奏摺】 普通任官ノ形式ニ由ラズ、吏部ヨリ直接選拔シ、又ハ本屬衙門ヨリ選拔ノ上吏部ニ交渉シテ推薦ノ手續ヲ爲シ、其任命ヲ上請スルコトヲ總稱ス。(清國行政)

【奏調】 調ハ遣送ノ義、官吏ノ更代又ハ事件ノ變更等ニ就キ先ツ奏聞裁可ヲ仰ギテ之ヲ爲スコトヲ謂フ。【皇朝政治學問答】 「調ニ某官員。請ニ某案卷。凡應請用者。皆准奏調。」

【奏報】 文武官ガ承命事項即チ職務上經過ヲ報明スルコト、苟モ摺ニ具シテ報明スルモノ

ハ皆、奏報ト爲ス。【皇朝政治學問答】「凡具摺入奏。報明某事。皆爲奏報。」

【奏本】 清制、上奏文ノ一、其種類ニニアリ。一ヲ「題本」又ハ「本章」ト曰ヒ、他ノ一ヲ「奏本」又ハ「奏摺」ト曰フ。(疏章) (奏見)

【奏留差委】 一定ノ任期アル官吏ニシテ其任期満了シタル場合、尙ホ其人物ノ留任ヲ必要トスルトキニ上司ヨリ奏請シテ解職ノ儘、任地ニ留マリテ執務セシムルコトヲ謂フ。

(兵部稽勳則例) 【宗】 (部首) (頭) (一)家ノ始祖ナリ(タノ部、太) (二)宗廟ヲ尊ビテ宗廟ト爲ス。(三)諸侯ガ朝廷ニ謁見スルコト、夏期ノ謁見之ヲ「宗」ト謂フ。

【周禮】 春官大宗伯「春見曰朝。夏見曰宗。」(四)主人、又ハ本家、本尊等ノ義アリ。(五)又俗ニ一件ヲ以テ一宗ト爲ス。

【宗英】 一族中ノ傑出セル者ヲ謂フ。(漢書) (敘傳)

【宗學】 皇室宗族ノ子弟ヲ教育スル學校ナリ。宋高宗ノ時始メテ宗學ヲ設ケ大學小學ノ兩種アリ。明ノ宗學ハ武宗ノ時ニ始マル。且ツ明ハ教習ノ制ヲ定ム。清亦之ヲ設ケ毎族皆置ク。但シ、明清ハ小學アリテ大學ナシ。

【宗喀巴】 喇嘛教ノ祖、一ニ「羅卜藏札克巴」ト名ヅク。明永樂十五年西寧ニ生ル。蒙古族ノ人ナリ。幼名阿劫ト名ヅク。八歳ニシテ出家ス。二十四歳ニシテ西藏ニ赴ク。後、黃教(クノ部、黄)ヲ闡明ス。二大弟子アリ。達賴喇嘛ト曰ヒ班禪額爾德尼ト曰フ。相傳フ。其身ハ化生轉世、輪廻已マズト。

【宗師】 漢代ノ官名、平帝ノ時德義アル者ヲ選ビテ宗師ト爲シ、教令ニ從ハザル者、冤枉ノ者、失職ノ者等ヲ考察セシム。蓋シ宗伯ノ屬官ナリ。(大學衍義補) (卷九十九)

【宗周】 成周ニ對シテ周ノ舊都鎡京ノ稱、天下臣民ノ宗トスル所ナリトノ義ニ取ル。【書經】周書洛誥篇註「陳大猷曰。成王實都鎡京。

特往來朝ニ諸侯。祀ニ清廟於洛。故鎡京謂之宗周。以其爲天下所宗也。洛邑謂之東都。又謂之成周。以周道成於此也。云云。洛陽ハ周ノ新都ニシテ周道此ニ成ル。故ニ之ヲ成周ト謂フ。今ノ河南洛陽縣ニ在リ。鎡ハ陝西省西安府ニ當ル。

【宗室】 (一)天下ノ總本家ト云フノ義。戰國策「周。天下之宗室也。」(二)太宗ノ廟ヲ稱ス。【詩經】召南「于以尊之。宗室而下。」其傳「宗室太宗之廟也。」(三)清朝ノ如キハ皇族ノ義ニ用フ。即チ清朝ニ於テ宗室ト曰フハ、顯祖宣皇帝ノ直系子孫ヲ指シ、其旁系子孫ハ之ヲ「覺羅」ト謂フ。宗室ヲ別チテ有爵宗室、無爵宗室ノ二ト爲シ。又有爵宗室ハ世襲轉ルナキ者ト、世次遞降スル者トノ二種アリ。前者ニ屬スルハ(一)禮親王(二)睿親王(三)豫親王(四)肅親王(五)鄭親王(六)莊親王(七)順承郡王(八)克勤親王(九)怡親王ト爲ス。此等ハ國初懿親ヲ以テ國事ニ盡シ、功勳特ニ著シキ者ニ與ヘテ

大同小異ナリシガ元ニ至リ改メテ「大宗正院」ト爲シ、明又改メテ「宗人府」ト爲シ清之ニ因ル。(宗人府) 【宗正寺】 唐制、皇族ノ戶籍ヲ掌ル官廳。【唐書】百官志「宗正寺卿一人。少卿二人。掌天子族親屬籍。」 【宗聖】 元ノ文宗曾子ヲ追封シテ「顯宗宗聖公」ト爲ス。明ノ嘉靖年封爵ヲ罷メテ止ダ、宗聖ト稱ス。(大學衍義補) (釋典ノ部) 【宗廟】 宗ハ祖宗中特ニ德ノ尊ブベキ者、彌ハ父ノ廟ヲ謂フ。【漢書】鼎宜記「宗廟。廣祇子帝庭。云云。師古註、宗。謂先帝有二德可尊者也。彌。父廟也。」 【宗祧】 宗ハ宗廟、祧ハ遠祖ノ廟、詳ク言ハバ種種ノ說アレドモ合シテ「宗祧」ト云フトキハ其家ノ宗統ヲ意識シ、即チ嫡長子孫ガ一定ノ順序ニ依リテ父祖ノ祭祀ヲ相承クルノ狀態ヲ指稱ス。(臺漢) (私法)

ル爵名ニシテ、其直系子孫ハ之ヲ世襲スルノ特權ヲ有ス。何レモ其祖先ハ太祖太宗ノ親子ニシテ、例セバ禮親王ハ太祖ノ第二子、和碩禮烈親王僖善ヲ祖トシ、睿親王ハ太祖ノ十四子、睿忠親王多爾袞ヲ祖トスルノ類ナリ。後者ニ屬スルハ(一)親王(二)世子(三)郡王(四)長子(五)貝勒(六)貝子(七)鎮國公(八)輔國公(九)不入八分鎮國公(十)不入八分輔國公(十一)一、二、三等鎮國將軍(十二)一、二、三等輔國將軍(十三)一、二、三等奉國將軍(十四)奉恩將軍ノ十四トス。

【宗室缺】 清朝ノ宗族ニ專屬セル官職、例ヘバ宗人府ノ監察御史及ビ理事官以下筆帖式以上ノ官ハ皆宗人府ニ於テ宗室内ヨリ保題シテ揀選補用スルヲ法トスルノ類ナリ。(會典宗) (人府) 【宗社】 宗廟ト社稷トノ合稱、【五代史】晋家人傳「安宗社。云云。此二ツハ國家存立ノ基礎其一ヲ缺ケバ國家ナシ。殊ニ社稷ノ語ハ國家ヲ代表ス。(各本條) (ヲ見ヨ)

【宗人府】 明代元ノ「大宗正院」ヲ改メテ「宗人府」ト爲ス。清之ニ因ル。皇族ヲ監督シ其譜牒封爵賞賚訴訟等ノ事ヲ掌ル官廳、我宮内者ニ該當ス。然レドモ其任命人員ハ宗室ニ限ラズ。其長官ヲ「宗令」ト爲シ親王又ハ郡王中ヨリ特簡シ、其次官ハ「左右宗正」ト爲シ、親王、郡王、貝勒、貝子等ヨリ特簡ス。(明會典) (正條) (宗) (下條) (宗) (正條) 【宗正】 皇室親族ノ事ヲ掌ルノ官職、周ヨリ始マル。周禮「小宗伯」是ナリ。但シ「宗正」ノ名モ周ニ起ル。秦之ニ因ル。兩漢ハ皇族ノ專官トス。晋始メテ他姓ノ事ヲ兼掌セシメ、「宗正寺」ト稱ス。【事物紀原】「周官也。在二周禮。實小宗伯之職。宋百官春秋曰。周封兄弟之國。十有五。同姓之官。三十有五。選其宗中之長。而董正之。謂之宗正。秦因之。其說置宗正。兩漢皆授皇族。不レ雜姓。晋始兼庶姓也。舊唐志曰。星經有宗正。在帝座東南。漢高紀七年二月。置宗正官。以序九族。」(卷) (嗣後)

大同小異ナリシガ元ニ至リ改メテ「大宗正院」ト爲シ、明又改メテ「宗人府」ト爲シ清之ニ因ル。(宗人府) 【宗正寺】 唐制、皇族ノ戶籍ヲ掌ル官廳。【唐書】百官志「宗正寺卿一人。少卿二人。掌天子族親屬籍。」 【宗聖】 元ノ文宗曾子ヲ追封シテ「顯宗宗聖公」ト爲ス。明ノ嘉靖年封爵ヲ罷メテ止ダ、宗聖ト稱ス。(大學衍義補) (釋典ノ部) 【宗廟】 宗ハ祖宗中特ニ德ノ尊ブベキ者、彌ハ父ノ廟ヲ謂フ。【漢書】鼎宜記「宗廟。廣祇子帝庭。云云。師古註、宗。謂先帝有二德可尊者也。彌。父廟也。」 【宗祧】 宗ハ宗廟、祧ハ遠祖ノ廟、詳ク言ハバ種種ノ說アレドモ合シテ「宗祧」ト云フトキハ其家ノ宗統ヲ意識シ、即チ嫡長子孫ガ一定ノ順序ニ依リテ父祖ノ祭祀ヲ相承クルノ狀態ヲ指稱ス。(臺漢) (私法)

【宗祔】宗祀即チ宗廟ノ祭祀ト云フガ如シ。【東晉文】「禍集子子。宗祔始滅。」

【宗伯】周禮春官ノ長(卿)。邦禮ヲ掌リ。兼ネテ天地祇人鬼ノ事ヲ治ム。其職制。掌ニ邦禮。治ニ神人。和ニ上下。後世ノ禮部尙書ノ職ニ當ル。(周禮註、大學、衍義補卷五)

【宗法】周ハ諸侯ノ系統ヲ分別シテ嫡流、庶流ト爲ス。其正統繼承ノ大法ヲ、宗法ト曰フ。【宗法論】宗法何昉乎。古之時。諸侯之適長爲ニ世子。嗣爲ニ諸侯。其支庶之後族繁多。懼ニ其散而無統也。因制爲ニ大宗小宗之法。經曰。別子爲祖。繼別爲宗。此百世不遷之大宗也。繼高祖者爲小宗。此五世則遷者也。夫諸侯世子之兄弟。不レ分ニ適庶。皆稱別子。特以ニ其爲祖爲繼不同。故大宗小宗遂因之。以異。何以知之。王制云。大夫三廟。一昭一穆與太祖之祖而三。士一廟。祭法言。適士二廟無太祖。鄭註。王制云。大夫太祖別子始爵者。大傳別子爲祖。謂レ此也。禮レ此則諸侯之別子亦必爲ニ大夫。而

後得レ爲ニ後世之太祖。然先王之世。使ニ以レ德以レ爵以レ功。未有ニ無ニ功德。而爲ニ大夫。者。諸侯之別子。豈必皆賢。其爲ニ大夫。者。則爲ニ後世之太祖。故其子孫適長繼ニ此祖。而爲ニ大宗。其爲ニ士者。止得レ爲ニ繼ニ其子。而爲ニ小宗。太祖廟百世不遷。故大宗亦百世不遷。廟廟五世遷。故小宗亦五世而遷也。雖然大宗小宗之別。漸別ニ其後。非ニ違別ニ其初。蓋別子之及身爲ニ大夫。士子ニ公朝。有ニ宗道ニ也。大傳云。公子云。(昭代叢書庚集補清) 云。(萬斯大撰宗法論)

【宗廟】宗ハ祖宗ノ合稱。廟ハ祖宗ヲ祭ル所ヲ謂フ。古ハ天子諸侯皆宗廟アリ。大夫以下。家廟ト曰ヒ。廟號ノ稱スベキナシ。【書經】太甲篇。社稷宗廟。罔レ不ニ祇肅。【禮記】王制篇。天子七廟。諸侯五。大夫三。士一。【宗廟之禮】宗廟ヲ祭ル時ノ禮ハ同宗ノ親族皆集ル。其席次ハ昭穆(親等)ト爵位ト及ヒ事(祭祀ノ事務、賢)トヲ以テ之ヲ定ム。左ヲ昭トシ右ヲ穆トス。(穆)「セ」部「昭」【中庸】宗

後得レ爲ニ後世之太祖。然先王之世。使ニ以レ德以レ爵以レ功。未有ニ無ニ功德。而爲ニ大夫。者。諸侯之別子。豈必皆賢。其爲ニ大夫。者。則爲ニ後世之太祖。故其子孫適長繼ニ此祖。而爲ニ大宗。其爲ニ士者。止得レ爲ニ繼ニ其子。而爲ニ小宗。太祖廟百世不遷。故大宗亦百世不遷。廟廟五世遷。故小宗亦五世而遷也。雖然大宗小宗之別。漸別ニ其後。非ニ違別ニ其初。蓋別子之及身爲ニ大夫。士子ニ公朝。有ニ宗道ニ也。大傳云。公子云。(昭代叢書庚集補清) 云。(萬斯大撰宗法論)

廟之禮。所以序昭穆也。序爵所以辨貴賤也。序事所以辨賢也。旅酬下爲上。所以逮賤也。燕毛。所以序齒也。云云。朱熹ノ註「宗廟ノ次ハ左ヲ昭トシ右ヲ穆ト爲ス。而シテ子孫亦以テ序ヲ爲ス。太廟ニ事アレバ則チ子孫兄弟群昭穆成在リ。而シテ其倫ヲ失ハズ焉。爵ハ公侯卿大夫ナリ。事ハ宗親有司ノ職事ナリ。旅ハ衆ナリ。酬ハ導飲ナリ。旅酬ノ禮ハ賓ノ弟子。兄弟ノ子各々解テ其長ニ舉ゲテ衆相酬ニ。蓋シ宗廟ノ中ハ事アルヲ以テ榮ト爲ス。故ニ賤者ニ逮及ス。亦以テ其敬ヲ申スルコトヲ得シム。燕毛ハ祭畢リテ燕スレバ則チ毛髮ノ色ヲ以テ長幼ヲ別チテ坐次ヲ爲スナリ。齒ハ年數ナリ。踐ハ踏ハ履ムガゴトシ。云云。」(大學衍義補) 卷五十九

【曹】(一)原告被告ト言フガ如シ。【說文】「曹ニ作ル。獄兩臂也。在ニ廷東。从レ東治ノ事者。」(二)官署ノ名。漢始メテ尙書四人ヲ置キテ四

曹トス。後五人ヲ置キ三公曹アリ。斷獄ノ官ナリ。(漢書成)後漢世祖ノ時ハ六曹ニ分ツ。(後漢書百)曹ハ三十四曹、三十五曹ヲ置ク。清ハ各部司官ヲ部曹ト曰ヘリ。(三)古ハ郡縣ノ據屬ヲ功曹亦ハ賊曹ト曰ヘリ。(四)羣ノ義。蘇轍詩「我豈畏レ死如ニ兒曹。」

【曹幹】官署ノ職役ヲ謂フ。【隋書】「文官曹幹。白紗單衣介幘。尙書二臺。曹幹亦同。」

【曹司】官署ノ分課ヲ謂フ。【唐書】鄭虔傳「明皇愛ニ其才。更爲置ニ廣文館。以レ虔爲ニ博士。虔聞レ命。不レ知ニ廣文曹司何在。云云。」

【曹人之刺】春秋時代、曹人詩ヲ作リテ其君ノ失政ヲ刺ル。【詩經】國風ニアル「俟人篇」是ナリ。後世因ツテ國君ノ失政ヲ諷スルニ用ケル。【晉書】「博學ニ天下情德茂才獨行君子。以答ニ曹人之刺。」

【曹務】曹ハ官署ノ分課、分課司ル所ノ事務ヲ「曹務」ト曰フ。【隋書】尙書省三十六侍郎、分司曹務。直宿禁省一如漢制。」

【會經同居今異者】(會)同居ヲ經、不同居繼父ノ別稱、即チ初メ母ニ從ヒテ母ノ後夫ノ家ニ入り同居シタルモ後ニ別居シタル場合ニ母ノ後夫ヲ指スノ語ナリ。(八母)「見」

【會祖、會孫】祖父ノ父ヲ會祖ト爲シ、孫ノ子ヲ會孫ト爲ス。【爾雅】釋親「王父之考爲ニ會祖。孫之子爲ニ會孫。」

【會祖王父】會祖父ヲ指稱ス。爾雅「王父(祖)ノ考(父)ヲ會祖王父ト爲シ、王父ノ妣(母)ヲ會祖王母ト爲ス。其脚註「會ハ猶ホ重ノゴトシ、今ハ會祖父、會祖母ト稱ス。」(大學補卷五)

【會祖王母】會祖母ヲ指稱ス。(上條ヲ) 湊(部)首(韻) 湊(部)首(韻)

【湊支銀】湊ハ補足ノ義、此項ノ銀數足ラザルトキ他ノ項ノ銀ヲ以テ之ヲ補足スルコトヲ謂フ。【六部成語註解】「湊補足。如此項銀數

不足。另取ニ他項ニ湊足支放。」

【漕】(一)水路穀類ヲ運ブヲ漕ト曰フ。又(二)運漕船ヲ曰フ。【說文】水轉ノ穀也。一曰人之所乘及船也。【史記】蕭相國世家「轉漕給軍。」

【漕運交兌冊】漕制、運河沿岸ノ各幫(部)「幫」ニ於ケル糧米交兌ノ數目ヲ列記シタルモノニシテ、各糧道ニ於テ之ヲ調製シ漕運總督ヨリ戶部ニ送リ漕糧全單(本條ヲ)ト對照檢査セシムルモノナリ。(清國行政法) 卷一(上)

【漕運總督】清代ノ官名、山東、河南、江蘇、安徽、江西、浙江、湖北、湖南ノ八省ノ漕政ヲ掌ルヲ職トス。清河縣ニ駐在ス。清末廢ス。【事物紀原】「沿革曰。秦伐ニ匈奴。令ニ天下。飛、芻、粟。此漕運之始也。」(卷)蓋シ上世ヨリ傳來ノ名ナリ。

【漕耗】糧穀ヲ運漕スル途中ノ損耗ヲ「漕耗」

ト曰フ。「正耗」加耗等ノ目アリ。均シク租石徴收ノ時、人民ヨリ加徴ス。(清會典)

【漕解】一ニ「倉斛」トモ曰フ。漕米ヲ領收スルトキニ用フル「マス」ナリ。(清會典)

【漕倉】清制、各省州縣ニハ「常平倉」兵米倉等アリ。米穀ヲ運送スベキ地方ニハ「漕倉」ヲ設置ス。即チ漕米ヲ保藏スル倉ナリ。(會典卷四)

【漕私】清制、漕米ヲ運送スル軍船ガ共同航ニ臨ミテ私ニ鹽ヲ積入レテ運送スルコト、法ノ禁ズル所ナリ。故ニ「漕私」ト曰フ。(盛運文編高卷五十二)

【漕平】衡ノ名、江南、浙西省等ニ通用スルノ平ナリ。漕錢ヲ徴收スルニ用ルガ故ニ此名アリ。

【漕米】江蘇、浙江、安徽、江西、湖北、湖南等ノ租稅ハ米石ヲ徴收ス。故ニ之ヲ「漕米」ト謂フ。即チ京師ニ運漕スル租米ナリ。

【漕糧】法制、地丁稅ヲ除クノ外、山東、河南、江蘇、安徽、江西、浙江、湖北、湖南等ノ省租穀ヲ徴收シテ京師ニ轉漕スルヲ「漕糧」ト曰フ。(會典)

【漕糧全單】清制、其年ニ京師ニ漕運スベキ米糧ノ全數ヲ開列シタル書札ニシテ漕運總督ノ造ル所ナリ。漕事完竣ノ後倉場侍郎ニ送リ侍郎ヨリ戸部ニ送リテ查數ニ責シ戸科查了ノ後ハ更ニ之ヲ漕運總督ニ轉送シテ保存セシムルモノナリ。(清國行政法)

【總目】(部首)(又、尤)

【總甲】清制、一村落ヲ數甲數十百家ニ分チ、每甲ノ中更ニ某鄉某排ニ分チ、一排ノ中ニ排甲稽察等ノ役員ヲ設ケ一鄉ノ中ニ鄉約、約束等ノ規約ヲ設ケテ其部内ノ庶務ヲ辦理セシ

メ、之ヲ總轄スル者ヲ「總甲」ト稱ス。即チ州縣ヨリ官吏ヲ派シテ之ニ充ツルヲ例トス。(六部成語)

【總綱】政治ノ大要ヲ總理スルノ義ナリ。晉書武帝紀「此朕所ヲ以垂拱總綱。責成于良二千石也。」

【總督】魏及ビ晉ハ刺史ヲシテ專ラ民治ノ政事ヲ掌ラシメ、別ニ都督諸州軍事ナル官ヲ設ケテ軍政ヲ掌ラシメタルガ、後周ニ至リ都督ヲ改メテ總督ト爲スト共ニ并及ビ益等ノ大州ニハ「大總督」ヲ特任シ自餘ノ要州ニハ「總督」ヲ置キ、刺史ヲシテ之ヲ兼領セシメタリ。(歷朝職官表)

【總催】納稅組合ノ名稱ナリ。光緒十年ノ頃納稅義務者間ニ於テ「協團」(一ニ義團)ナルモノヲ設立シ、毎年順番ニ一甲(一部落)ヲ「總催」トシ、甲内勤幹ノ人ヲ選ビテ其取締ト爲シ、之ヲ「現年」ト稱ス。現年ヨリ地稅ヲ徵收シ、若シ遲滯シタルトキハ、現年ヨリ催迫追求ス。

故ニ當時ハ納戸ハ完納シテ、漕納スルモノナカリシト云フ。(政典類纂)

【總統】清制、兵ヲ總フル者ノ最上級ノ稱ナリ。數營或ハ數十營ヲ統帶スル者ヲ「統領」ト曰ヒ之ヲ節制スル者ヲ「總統」ト曰フ。又衛官ヲ稱シテ總統ト曰フ。「開明國總統」「火器總統」ノ如キ是ナリ。(各、其本條ヲ見ヨ)

【總督】總督ハ明清時代ニ於ケル地方ノ最上長官、皇帝ニ直隷シ文武ノ兩權ヲ兼有ス。今其由来ヲ按ズルニ明ノ英宗ノ正統六年麓川ヲ征伐スルノ時、兵部尙書王驥ヲ以テ軍務ヲ總督セシメタルニ始マル。然レドモ其常設ノ官ト爲シタルハ憲宗ノ成化五年韓雍ヲ兩廣(廣東)ノ總督兼巡撫ト爲シタルトキニ在リ。清朝ノ制ニ就キテ概言スレバ、清朝ハ國初以來一省若クハ二三省ニ總督一人ヲ置キ改廢常ナカリシガ乾隆以後ニ至リテ漸ク一定セリ。【血慶會典】【光緒會典】ノ規定ニ依レバ總督ハ

(一)直隸總督(二)兩江總督(江蘇江西安徽福建) (三)閩浙總督(浙江福建) (四)湖廣總督(湖南湖北) (五)四川總督(六)兩廣總督(廣東廣西) (七)雲貴總督(雲南貴州)ノ七トス。

【總部】漕運總督ノ本部ヲ謂フ。【六部成語註解】「漕運總督部堂也。」

【總辦】事務ヲ總理スルノ義ナリ。【六部成語註解】「總者總其成也。」又「持其成。以辨二理公務一也。」

【總明觀】宋制、國子監ノ別稱。「錦字箋」宋明官置ニ總明觀祭酒一人。(卷一)

【總歷】軍防丁夫等ニ給スル開津出入ノ證明書、通行券ノ一種ナリ。【唐律】衛禁篇「私度開津」ノ條疏議「軍防丁夫。有二總歷。」(八卷)

【數牧】水ナキノ地ヲ數ト曰ヒ畜類ヲ放棄スルノ地ヲ數ト曰フ。(ソ、部、九)

【贈銀】中央政府又ハ上司ヨリ所屬官廳ノ事業ヲ補助スル目的ヲ以テ贈與スル銀、即チ補助金ヲ謂フ。【六部成語註解】「贈助也。應給補助之費。曰贈銀。」

【贈公】官吏ノ父ヲ「贈公」又ハ「贈君」ト稱シ唐宋古文碑狀多ク之アリ。蓋シ官吏ノ父ニハ官爵ヲ贈封スルヲ例ト爲スニ因ルナリ。

【贈帖盤脚米】「贈貼」トハ補助ノ義、「盤脚」トハ人足ヲ以テ物ヲ運搬スルノ義、即チ正米ノ外ニ幾分ノ米ヲ徴收シテ運搬費ヲ補助スルコトヲ謂フ。【六部成語註解】「贈貼。補助之意。正米之外多徴數分。以爲補助。即盤脚費之用。」

【贈賻】錢又ハ帛ヲ贈リテ喪費ヲ助ケルコトヲ謂フ。詳シク言ヘバ死者ヲ弔フ爲メニ贈ルヲ「贈」ト曰ヒ、遺族ニ贈ルヲ「賻」ト曰フ。【儀禮】士喪禮篇「知死者贈。知生者賻。」

【贈米】贈ハ貼補ノ意即チ官廳各費ノ不足ヲ補充スル目的ヲ以テ留備シ其費目ニ當ツル米



ヲ謂フ。【六部成語註解】贈乃助補之意。留備濟助各費之不足者。

【側陋】微賤ノ人ヲ謂フ。【書經】堯典「明明揚側陋。」

【側室】(一)正室ノ次室ヲ「燕寢」ト爲シ寢室ノ次ヲ「側室」ト爲ス。妻ノ產室又妾ヲ側室ト爲ス。【禮記】內則篇「妻將生子。及二月辰一居側室。夫使二人日再問之。作而自問之。」鄭康成ノ註「側室。謂夾之室。次「燕寢」也。孔疏「夫正寢在前。燕寢在後。側室又次「燕寢」旁。」又「公庶子生。就側室云云。」ノ案「就側室。妾常居側室。故就而見之。與「及二月辰一居側室」者「異也」(欽定禮記義疏)【漢書】文帝紀「朕高帝側室之子也。」(二)庶子(妾出)ヲ謂フテ「側室」ト爲ス。【左傳】桓公二年「趙有側室曰「隸」。」疏「文王世子云。公若有出疆之政。庶子守之。公室。正室守之。大廟。鄭支云。正室適子也。正室是適子。知側室是支子。言在適子之側也。」

【則例】清制、行政上ノ實例ヲ列舉セル法規、吏部則例、戶部則例、禮部則例等アリ。要スルニ行政各部ノ行政ニ關シテ發シタル事例ヲ纂修セルモノナリ。

【側微】卑賤ナル身分ヲ謂フ。【史記】自叙「尙父側微。卒歸西伯。」

【即位】(一)封建時代、人君ガ其位ニ即クノ義、必シモ天子ニ限ラズ諸侯ノ繼承亦之ヲ用ケタリ。【春秋】桓公元年「春王正月。公即位。」【白虎通】「不三歲無君。故逾年即位。改元。」名ニ元年。年以紀事。君名ニ其事。矣。而未發號令也。何以言「逾年即位」。謂「改元即位」。春秋傳曰。以二諸侯逾年即位。亦

知天子隆年即位也。(二)唐次ニ即クノ義ニ用フ。【儀禮】「主人支冠朝服。綰帶素鞵。即位于門東西。」

【即室】(一)正室ノ次室ヲ「燕寢」ト爲シ寢室ノ次ヲ「側室」ト爲ス。妻ノ產室又妾ヲ側室ト爲ス。【禮記】內則篇「妻將生子。及二月辰一居側室。夫使二人日再問之。作而自問之。」鄭康成ノ註「側室。謂夾之室。次「燕寢」也。孔疏「夫正寢在前。燕寢在後。側室又次「燕寢」旁。」又「公庶子生。就側室云云。」ノ案「就側室。妾常居側室。故就而見之。與「及二月辰一居側室」者「異也」(欽定禮記義疏)【漢書】文帝紀「朕高帝側室之子也。」(二)庶子(妾出)ヲ謂フテ「側室」ト爲ス。【左傳】桓公二年「趙有側室曰「隸」。」疏「文王世子云。公若有出疆之政。庶子守之。公室。正室守之。大廟。鄭支云。正室適子也。正室是適子。知側室是支子。言在適子之側也。」

【即眞】(眞ニ)攝政ニ對シテ眞ノ帝位ニ即クノ謂ナリ。【漢書】王莽傳「自謂成德日盛。獲天助。遂謀即眞之事。」

【即政】周ノ武王崩シ成王幼キヲ以テ周公後見ト爲リ政ヲ攝スルコト七年、成王方ニ長ズルヤ、周公政權ヲ成王ニ致ヘス。成王此ニ於テ始メテ政ヲ親ラス之ヲ「即政」ト謂フ。(詩序及注)

【即降】(降ニ)即位ト曰フニ同シ。【史記】孝文紀「皇帝即降。其一例ナリ。」

【即眞】(眞ニ)攝政ニ對シテ眞ノ帝位ニ即クノ謂ナリ。【漢書】王莽傳「自謂成德日盛。獲天助。遂謀即眞之事。」

【即用】清制、官吏登用ノ一方式、殿試及第者等ガ上諭ニ由リ、以「某官」即用。ノ資格ヲ期ヘラレタル者ハ其官廳ニ缺員ヲ生ジタルトキ直チニ補用セラル。(會典)是ヲ即用ト謂フ。

【息債】息ハ利息、債ハ債務、利息ヲ出シテ錢ヲ借ルコト、即チ今ノ債權ニ對シテ債務ノ義ナリ。【唐書】「初官到任。不帶息債。衣食稍足。可レ資清廉。」

【聖】(部首)(職)【聖說設殄行】(議說ノ行ヲ)「サ」ノ部ヲ見

【息錢】息ハ子ノ義、即チ金銀貸借關係ニ於ケル利息ノコトヲ謂フ。

【聖說設殄行】(議說ノ行ヲ)「サ」ノ部ヲ見

【息男】己ノ子ヲ稱スルノ詞ナリ。【曹植、文】「封三息男苗爲高陽郡公。」

【聖周】土ヲ治テ甄(煉)ヲ作り棺ノ坎ヲ周補スト、一ニ「土周」トモ曰フ。【禮記】檀弓篇「夏后氏聖周。」註「聖者治土爲禮。而四周于棺之坎也。」

【息女】息ハ生ムノ義、己レ生ム所ノ女子ヲ曰フ。【史記】高祖紀「臣有息女。願爲季箕幕妾。」

【聖周】土ヲ治テ甄(煉)ヲ作り棺ノ坎ヲ周補スト、一ニ「土周」トモ曰フ。【禮記】檀弓篇「夏后氏聖周。」註「聖者治土爲禮。而四周于棺之坎也。」

【息婦】己レノ息男ノ妻ヲ曰フ。(見)【唐書】「長慶中河北用兵。夜輒自鳴。與軍中一息耗。」

【聖周】土ヲ治テ甄(煉)ヲ作り棺ノ坎ヲ周補スト、一ニ「土周」トモ曰フ。【禮記】檀弓篇「夏后氏聖周。」註「聖者治土爲禮。而四周于棺之坎也。」

【息銀】(一)利息ノ義【齊家要】「併」每年息銀計之。(二)清代錢ヲ鑄造シ錢ノ價格ヲ以テ其原料ノ代價及ビ鑄造ノ費用等(錢本)ヲ辨償シタル餘剩ヲ「息銀」又ハ「息錢」ト謂フ。

【族】(一)族ハ漢又ハ秦ノ義、一家一族ノ義合ヲ謂フ。【增補四書人物考】「周禮小宗伯。掌三族之別。以辨親疏。三族父子孫。又漢書三族。一曰。克明三德。以親九族。九族。一曰。通云族者何也。族者漢也。」

聚也。謂恩愛相流澆也。生相愛。死相哀痛。有會聚之道。故謂之族。(卷六) (一) 刑名、一家一族ヲ死ニ處スルヲ謂フ。(キ) ノ部、九族刑ヲ見)

【族兄弟】高祖ヲ同ジタル兄弟、即チ三從兄弟ノ義ナリ。【儀禮】疏、己之三從兄弟。皆名爲レ族。【爾雅】族父之子。相謂爲族兄弟。後世ハ一族中年輩ノ通稱ト爲ス。

【族師】周官大司徒ノ屬官、其職務ハ四閭即チ百家ノ自治ヲ掌ル。五家ヲ比ト爲シ比ニ比長ヲ置キ、五比(二十)ヲ閭ト爲シ閭ニ閭番ヲ置キ、四閭(百)ヲ族ト爲シ族ニ族師ヲ置キ其部内ノ自治ニ任ジタリ。

【族姓】族ハ同族、姓ハ異姓、即チ親族ト非親族トナリ。【書經】呂刑篇、王曰嗚呼敬レ之哉。官伯族姓。註、族同族。姓異姓也。

【族正】清制、同族集居シ人口衆多ナルトキハ、其族内ノ品位名望アル者一人ヲ選ビテ族正ト爲シ、同族ノ監督ニ任ズ。(戶部則例)

【族祖姑】父ノ從祖姊妹(別名、從堂叔母)ヲ謂フ。【爾雅】父之從祖姊妹。爲族祖姑。

【族祖母】父ノ從兄弟ノ妻ヲ曰フ。別名、從堂伯姑母。【爾雅】父之從兄弟之妻。爲族祖母。

【族祖母】父ノ從祖兄弟(別名、從堂伯叔祖母)ノ母ヲ謂フ。【爾雅】父之從祖兄弟之母。曰爲族祖母。

【族曾王父】父ノ從祖祖父(別名、曾伯叔祖)ヲ謂フ。【爾雅】父之從祖祖父。爲族曾王父。

【族曾王母】父ノ從祖祖母(別名、曾伯叔祖母)ヲ謂フ。【爾雅】父之從祖祖母。爲族曾王母。

【族長】(一)一家族ノ親疏ヲ掌ルノ官吏【儀禮】士喪禮篇、族長泄其註、族長。有司。掌三族人親疏者也。(二)一族ノ長即チ同族中ノ最モ品位名望アル者ヲ以テ族長ト爲シ。同族ヲ管理セシム。【真慶會典】八旗都統ノ項、設三族長。以教其族人。

【族父】父ノ從祖兄弟(即チ從兄弟)ヲ謂フ。一ニ「從堂伯叔」ト稱ス。

【族母】父ノ從祖兄弟(即チ從兄弟)ノ妻ヲ謂フ。(儀禮喪服篇) (三月章)

【族厲】古ノ大夫ノ後絶エテ祭ラレザル者ノ靈魂ナリ。其祟ヲ爲スヲ懼レ、祭ヲ爲スヲ例トス。(禮記祭法篇)

【續案】官吏ガ革職留任ニ處セラレタル場合ニ、四年間謹慎シテ過失ナケレバ、原職ニ復セララルモ、若シ過失アルトキハ又四年間ヲ經過セザルベカラズ。此ノ如キ場合ニ前四年ヲ「前案」ト曰ヒ、後四年ヲ「後案」ト曰フ。其ノ兩案ヲ接續スルコトヲ「續案」ト曰フ。【會典】吏部「若有旨六年八年開復者。至期無過。則開復。有過。則以續案計之。」

【續英獨借款】本借款ハ日清戰爭ノ結果、我帝國ニ對スル第二次ノ賠償金五千萬兩ニ充

テシガ爲メ、光緒二十二年(一千八百九十六年)德華、匯豐ノ二銀行ヨリ借入レタルモノニシテ、總額一千六百萬鎊(庫平銀)年利五分トシ、毎中年四月一日、十月一日ニ支拂ヒ、三十六年間ニ償還スルヲ條件トス。本款ハ二回ニ發行シ前回ノ分ハ每百鎊ニ付キ九十八鎊四分三トシ後回ノ分ハ百鎊ニ付キ九十九鎊トセリ。

【續徵】清制、毎年租稅徵收ノ時期ヲ四期ニ分チ、(一)二月ニ開徵シ(二)四月ニ半額ヲ徵收シ(三)八月ニ續徵シ(四)十一月ニ完徵スルヲ例トス。【會典】戶部、二月開徵。四月輸半。五月停徵。八月續行。十一月完徵。

【續貂】晉書趙王倫傳、貂不足。狗尾續。トアルニ出ヅルノ語、封爵ヲ濫授スルコトヲ謂フ。後世ハ他人ノ開始シテ未ダ成シ終ハラザル事業ヲ續クコトヲ稱ス。但シ諷刺ナリ。

【續備軍】清末ノ新軍制ノ名、常備軍滿期後ハ四籍シ尙ホ之ニ餉銀ヲ減給シ毎年一次練習ヲ行フ。之ヲ「續備軍」ト謂フ。

【續備兵】民國兵制ノ名、【辭源】徵兵現役年滿ヲ豫備役ニ服スルモノハ之ヲ「續備兵」ト謂フ。ト記ス。

【賊】(部首) (職) 【賊器】人ヲ賊スベキ器物ナリ。【周禮】天官、關人制、掌守王宮之中門之禁。喪服凶器。不レ入宮。潛服賊器。不レ入宮。云云。王安石註「賊器。器之可以賊人者。云云。」

【賊曹】官名、西漢、三公曹ヲ置キ斷獄(判)ヲ主ラシム。東漢改メテ、二千石曹ヲ以テ水火、盜賊、訴訟、刑法ヲ主ラシム。亦之ヲ「賊曹」ト爲ス。其職權諸曹ヨリ重シ。各郡ニ之ヲ置キ郡ノ佐吏ト爲ス。

【賊盜律】唐律ノ篇名、其沿革ヲ概言スレバ魏ノ李悝ノ法經六篇ハ「盜法」「賊法」ヲ篇目ト爲シ六篇ノ首部ニ並置ス。是レ賊盜律ノ起原ナリ。秦ノ商鞅法ヲ改メテ律ト爲スニ及ビ盜法ヲ「盜律」ト爲シ、賊法ヲ「賊律」ト爲ス。漢之ニ因ル。後魏ニ至ルマデ改メザリシガ北齊

合シテ「賊盜律」ト爲ス。後周ハ初メ「劫盜律」ト爲シ後別ニ「賊叛律」ヲ設ク。隋ノ開皇律合シテ「賊盜律」ト爲シ唐之ニ因ル。【唐律疏議】「李悝首創三法經。有二盜法賊法。以爲三法之篇目。自秦漢一途至後魏。皆名賊盜律。北齊合爲二賊盜律。後周爲三劫盜律。復有二賊叛律。隋開皇合爲三賊盜律。(卷十) 尙ホ盜ト賊トノ意義ニ就キテハ「寄移文存」記スル所最モ詳ナリ。盜法ニ就キテハ、唐律疏議云。一盜法。今

賊盜律。是也。ト曰ヒ、賊法ニ就キテハ、今詐僞律。是也。按賊盜二字。義本不同。故法經分爲二篇。左氏文十八年傳。周公作三書命。一曰。毀則爲賊。竊則爲盜。杜注。毀則壞也。法也。昭四年傳。叔向曰。已惡而掠。美爲僞。僞。食以取。官爲僞。殺人不レ忌爲賊。夏書曰。昏墨賊殺。卓陶之刑也。此皆法家言レ之最古者。說文。賊。取也。從レ戈。則聲。賊。毀也。與二毀則爲賊之義一合。乃諧聲兼二會意字。盜私利物也。從レ次。次欲。皿者。乃會意字。二字之本義。如此初不レ相

通也。荀子修身篇。害良曰賊。竊貨曰盜。晉張斐律注。無變斬擊。謂之賊。取非其物。謂之盜。周禮朝士疏。盜賊并言者。盜謂盜取人物。賊謂殺人曰賊。盜賊二字連文。唐以前人。分別甚明。不相蒙。其盜賊單言者。賊謂賊害。如孟子賊仁者謂之賊。以及漢書。呂覽。淮南。楚辭諸書之注釋。皆同殺人。乃賊害之甚者。故叔向曰。殺人而不忌。爲賊。又大戴記曾子立事篇。殺人而不忌。賊也。以及書舜典。傳。呂覽。後漢書注。并言。殺人曰賊。與賊害之義。相引伸也。蓋謂盜竊。如穀梁傳定八年。非其所取而取之。謂之盜。莊子山木篇注。盜竊者。私取之謂也。足與說文義。相發明。其餘諸書不勝枚舉。玉篇。廣韻賊下始有盜也。一謂。蓋二書。爲宋所亂。已失。顯野王孫綽之舊。非古義也。ト曰フ。賊ハ國憲ヲ紊亂シ、又ハ爭鬪、竊奪ノ目的ニ非ラズシテ人ヲ殺害スル者ヲ曰ヒ、盜ハ財物ノ掠取ヲ目的トスルモノニシテ近世法ノ強盜竊皆

之ヲ含ム。唐以前ノ沿革ハ前掲唐律ノ記スル所ト大同小異ナリ。唐以後ノ沿革ハ元ハ賊盜律外ニ於テ別ニ「殺傷」ノ目ヲ立テタルガ明ハ刑律ノ體裁ヲ改メ賊盜ニ關スル事項ハ刑律内ニ編入シ刑律ヲ分チテ一賊盜、二人命、三關賊、四罵詈、五訴訟、六受贓、七詐僞、八犯姦、九雜犯、十捕亡、十一斷獄ノ十一篇ニ細別ス。清律之ニ因ル。

【賊發被害之家】(賊發リテ害セ) 盜賊突發シテ殺害セラレタル家ヲ謂フ。【唐律】關訟篇「強盜殺人」ノ條、諸強盜及殺人。賊發被害之家。及同伍即告其主司(卷二)

【足下】(部首) (沃) 他人ニ對スル敬稱。戰國及秦漢時代ハ人主ニ對シテ、足下ノ語ヲ用フ。樂毅ガ、燕惠王ニ報ズル書「蘇代ガ、燕昭王ニ遺ルノ書」又ハ蘇厲ガ、趙惠文王ニ與フルノ書「並ニ秦國樂ガ二世皇帝ニ對シ謝食其ガ漢高祖ニ對シテ

モ足下ノ語ヲ用フ。或ハ亦人主ガ臣ニ對シテモ足下ト稱シタルノ例アリ。【事物紀原】吳苑曰。介之推逃、蘇地、樹燒死。文公拊木哀嘆。伐而製履。每懷其功。俯視其履。曰。悲乎足下。足下之稱。當此爾。史記戰國之士。或上三番時君。或談三說君前。及相與論難多相斥。曰。足下。蓋自七國相承至令也。(卷二) 要スルニ足下ハ對手方ヲ尊仰シ、己レハ其脚下ニ在ルノ義ナルガ故ニ尊敬ノ詞ヨリト雖モ後世ハ人君ニ對シテハ之ヲ用キズ又尊貴ノ人ニ對シテモ之ヲ用キズ。概シテ已レト對等若クハ稍、上位ノ者ニ對シテ之ヲ用キルニ至レリ。

【足陌錢】(中) 徒亂王制。無益民財。同多用九陌錢(略) 徒亂王制。無益民財。自今可通用足陌錢。蓋足陌錢ハ滿ルノ義、即チ九ヲ十ニ滿タスノ義ナリ。

卒 (部首) (又) 又(訓月)

【卒】(一) 兵卒ノ義、百人ヲ卒ト爲ス。【周禮】地官小司徒、乃會三萬民之卒伍二而用之。五人

爲伍。五伍爲兩。四兩爲卒。(一) 民居三百戶ヲ卒ト爲ス。【國語】三十戶爲邑。十邑爲卒。(三) 大夫ノ死ヲ卒ト爲ス。【禮記】曲禮「大夫曰卒」。【白虎通】大夫曰卒。精燭終卒。卒之爲言。終於國也。

【卒更】(一) 邊防ニ當ツル戌卒ノ名、凡テ三種アリ(一) 一ヶ月ニシテ更代スルヲ、卒更ト曰ヒ(二) 當役者錢ヲ出シ他人ヲ雇ヒテ代役セシムルヲ「踐更」ト曰ヒ(三) 當役ノ者錢三百ヲ官ニ納メ、官之ヲ當ニ免役セラル、者ニ給シ更ニ役ニ當ラシムルヲ、過更ト曰フ。【漢書】註、如淳曰。更有三品。有二卒更。有二踐更。有二過更。古者正卒無常。人皆迭爲之。一月一更。是謂正卒更也。貧者欲得雇更錢者。次直者。出錢雇之。月二千。是謂踐更也。天下人皆直。或邊三日。亦名爲更。律(漢) 所謂縣戍也。雖丞相子亦在戍邊之調。人人自行三日戍。又行者出錢三百入官。官以給戍者。是謂過更也。云云。(二) 漢代ノ兵制ニ三品アリ

リ。一ヲ「卒更」ト曰ヒ二ヲ「踐更」ト曰ヒ三ヲ「過更」ト曰フ。卒更ハ其本人ガ兵役ニ服スル者、一月毎ニ更替スルガ故ニ此名アリ。【大學衍義補】上更有三品。有二卒更。有二踐更。有二過更。古者正卒無常。人皆迭爲之。一月一更爲二卒更。(卷百) 蓋シ前者ト同事ナリ。

【卒伍】 民兵編制ノ名、五人ヲ伍ト爲シ五伍ヲ兩ト爲シ四兩即チ百人ヲ卒ト爲ス。【周禮】地官小司徒ニ規定アリ。(見)

【卒哭】 人ノ始メテ死シ之ヲ假葬スルヤ、其子孫哭シテ聲ヲ絶タズ。之ヲ「不時ノ哭」ト謂フ。葬後百日ノ後ハ朝夕刻ヲ定メテ哭ス。此ニ於テカ時アリ。之ヲ「卒哭」ト謂フ。【大清通禮】「百日卒哭」。

存 (部首) (元) 元(訓)

【存慰】 存問(使ヲ遣シテ人ノ) シテ慰籍スルノ義ナリ。【宋書】王徽傳「徽既爲始興王游府吏。游散存慰」。

【存庫銀】 徵收租銀内ヨリ京師ニ解送スル分ヲ除キ、其殘餘ヲ本地ノ金庫内ニ存留スル銀兩ヲ謂フ。【六部成語註解】所徵官項。除解京外。存留本地庫内之款。

【存侍】 家ニ存在シ父母ノ膝下ニ奉侍スルノ義、兵役等ノ義務ヲ免ズ。【元典章】「大德九年二月。欽奉寬恩恤民詔書一款。老者年八十以上。許存侍丁一名。九十以上存侍丁二人。並免雜役」(卷三) 賜(老) 者(高)

【存恤】 存問撫恤ノ義ナリ。(文) 說

【存乘銀】 豫算ノ殘餘ニシテ、庫内ニ存貯スルモノヲ謂フ。【六部成語註解】用剩之銀。存貯於庫。

【存省】 使ヲ遣シテ人ノ安否ヲ問ハシムルコト、存問ト同義ナリ。【周禮】天官「大喪存三貧」。註「欲見其所貧。朝夕存省之意也」。

【存撫使】 唐代ニハ「巡察使」「安撫使」「存撫使」等ノ官アリ。此等ハ後世ノ「按察使」ノ起

因ヲ爲スモノニシテ、存撫ト云フハ人民ヲ存  
問愛撫スルノ意、即チ各地方ヲ巡歴シテ人民  
ノ休戚ヲ觀察シ、官吏ノ非違ヲ檢舉スルコト  
ヲ掌ル。(新唐書)

【存問】

使ヲ遣ハシテ人ノ存否ヲ問フコトヲ  
謂フ。【史記】孟嘗君傳「使使存問獻遺其親  
戚」。【禮記】王制篇「年八十。月告存」。註「告  
猶問也。君每月使人致饋告存問存否也」。

【存養】

【禮記】月令篇「養幼少。存孤」。ト  
アルニ出ヅルノ語、貧家ノ子女、孤兒等ヲ救  
養スルノ義ナリ。【明律】及【清律】戸律戸役  
篇「立適子違法」ノ條「庶民之家。存養奴婢。者  
杖一百。即放從。其」。是レ亦其一用例ナルモ此  
場合ハ良家ノ子女ヲ奴婢ト爲スノ目的ヲ以テ  
養フモノナルガ故ニ之ヲ罰ス。(明律卷四)

【存留】

中央政府へ解送スル税銀内ヨリ其省  
ノ需用部分ヲ留備スルコトヲ謂フ。【六部成語  
註解】留備本省需用之款也。

【存留備支銀】 其地ノ金庫ニ存留シ、他日  
ノ有用支出ニ備フル銀ヲ謂フ。【六部成語註  
解】存留庫中。豫備有レ事支用一之銀。

【存留養親】

存留シテ親ノ死罪犯人ノ祖父  
母父母(高祖父母アル)老(七十)又ハ篤疾、  
廢疾ニシテ家ニ犯人以外十六歳以上ノ男子ナ  
キトキハ其犯ス所ノ罪名ヲ開具シテ奏請上裁  
ヲ取リ、家ニ留メテ侍養セシム。徒罪及ビ流  
罪ノ犯人ナルトキハ杖一百ニ止メ餘罪ハ收贖  
セシメテ侍養セシム、之ヲ「存留養親」ト謂フ。  
(明律卷一、清律卷三)

【存錄】

(一)登錄シテ以テ記念ト爲スコトヲ  
謂フ。【禮記疏】「爲重以存錄其神」也。(二)  
存問シテ其人ヲ採用スルノ義ナリ。【後漢書】  
「又當存錄大臣宛死者子孫」。

【尊】

(一)神佛ノ像一座ヲ「一尊」ト曰フ。  
(二)地方官ヲ稱シテ「尊」ト曰フ。「府尊」「邑

尊」ノ如シ。

【尊事黃耆】

(唐書) 老成人ヲ尊重シ善ク  
之ニ事フルコトヲ謂フ。【詩序】(行葦)「內註」  
九族。外尊三事黃耆。云云。(ヤノ部)

【尊俎】

尊ハ酒樽、俎ハ肉ヲ盛ルノ器。宴飲  
ノ間ヲ謂フ。【後漢書】孔融傳「起謀於尊俎之  
間」。

【尊堂】

人ノ母ヲ稱ス。令堂ト言フニ同じ。  
【陸士龍答車茂安書】「尊堂爰灼」。

【尊長】

尊ハ卑ニ對スルノ語即チ尊屬親、長  
ハ幼ニ對スルノ語即チ長屬親ナリ。【唐律】名  
例篇「以理去官」ノ條疏議「尊長。謂二祖父母。  
父母。伯叔父母。姑。兄。姊。是也」。(二)支那ノ  
家族制ハ二種ノ關係ニ由リテ支配セラル、一  
ハ家長ト家族トノ關係、他ノ一ハ尊長ト卑幼  
トノ關係ナリ。前者ハ家ヲ基トシ外部ニ對ス  
ル關係ヲ主トスルモ、後者ハ必シモ家ニ依ラ  
ズ、寧ロ家族ノ内部ノ關係ヲ主トス。換言ス  
レバ家長ハ一家ノ代表者ナルガ故ニ、外部ニ

對シテハ一家ヲ代表シテ法律行為ヲ爲スノ權  
利義務ヲ有スルト共ニ、内部ニ對シテハ家族  
ヲ保護監督スルノ責任ヲ有ス。從テ家族ノ爲  
シタル行為ニ就キテハ、家長ヲ以テ其實ニ任  
ズ。然レニ尊長ト卑幼トノ關係ハ、道德倫理  
ノ觀念ニ基クモノナルガ故ニ、卑幼ハ尊長ニ  
服從シ、尊長ハ卑幼ヲ教導シ、以テ一家ノ和  
睦融合ヲ圖ラザルベカラズ。故ニ尊長ト卑幼  
トノ關係ハ禮教上ノ支配ニ屬スルモ支那舊法  
ハ禮教ヲ補助スル目的トシタルガ故ニ禮教  
ニ反スル行為アリタルトキハ法律ハ之ヲ罰  
ス。(唐律及ビ明律清律)

【尊卑爲婚】

支那法ハ周制以來同  
宗及ビ同姓ノ婚姻ヲ禁ジ(但シ清律ハ條例ヲ  
宗ニ非ザル者ハ之ヲ許メザルコトト爲シ、尙  
ホ清末ノ改定律及ビ民國現行律ハ同姓禁婚ノ  
條ヲ刪)又外姻間ニ在リテモ喪服關係ヲ有シ  
且ツ尊卑ノ關係ヲ有スル者ハ婚姻ヲ禁ズ。【明  
律】及【清律】戸律婚姻篇「尊卑爲婚」ノ條「凡

外姻有レ服。尊卑卑幼共爲二婚。及娶二同母異  
父姊妹。若妻前夫之女者。各以レ衰論。云云。

【村】

(小) (部) (頭) (阮韻)  
【村】 (部) (首) (元韻)  
【村】 (部) (首) (元韻)

【村】

【村】 (部) (首) (元韻)

【損】

【損】 (部) (首) (元韻)

【損】

【損】 (部) (首) (元韻)

【樽】 (部) (首) (元韻)

【樽】

【樽】 (部) (首) (元韻)

【樽】

【樽】 (部) (首) (元韻)

【樽】

【樽】 (部) (首) (元韻)

【樽】

【樽】 (部) (首) (元韻)



【拿獲】 拿ハ撃ニ同ジタ犯人ヲ逮捕スルノ義ナリ。【六部成語註解】「罪犯業已擒得也。」

【拿捕】 拿獲ト云フニ同ジ。(上條ヲ見ヨ)

【挪】 (部首) (韻)

【挪】 移動、即チ流用ノ義ナリ。(下條用例參照)

【挪移】 挪ハ移動ノ義、甲ノ經費ニ當テタル費目ヲ擅自ラ改メテ乙又ハ丙ノ經費ニ移用スルコトヲ謂フ。【六部成語註解】「如レ此項、應レ作レ某項使用、而擅自改爲レ別項之用、則曰ニ挪移。」

【挪撮】 挪ハ移ス、撮ハ集ムルノ義、即チ各款内ヨリ移シ集メテ一款ト爲スコトヲ謂フ。【六部成語註解】「撮集也。從レ各款中ニ挪移以集レ事也。」

【挪墊】 國庫ニ納ムベキ甲ノ銀未ダ完備セザルトキ、暫ク乙又ハ丙ノ項内ノ銀ヲ以テ之ヲ補足スルコトヲ謂フ。【六部成語註解】「此項未レ完。暫移ニ他項ニ墊ニ補解レ部之款。」

【挪用】 此款ヲ移シテ彼ノ用ト爲スコト、挪移ト同義ナリ。(挪移ヲ見ヨ)

【挪揄】 (一)手ヲ擧ゲテ人ヲ侮弄スルコト、一ニ、邪論ニ作ル。【後漢書】「市人皆大笑。舉手邪揄。」(二)清朝等ハ官吏ガ自己ノ便宜ニ依リ財政ヲ販弄スルノ義ニ用ケルコト、【會典】各部ニ散見ス。

【躲】 (部首) (韻)

【躲閃】 躲ハ匿クルノ義、閃亦身ヲ避クルノ義、故ニ責任ヲ回避スルノ義ニ用フ。下ノ「躲避」ト同義、元代多ク此語ヲ用フ。

【躲避】 自己ノ責任ヲ逃レ避クルコトヲ謂フ。「躲閃」ト言フニ同ジ。【明律】及ビ「清律」戸律戸役篇「逃避差役」ノ條、凡民戶逃ニ住鄰境州縣。躲ニ逃避差役者。杖一百。云云。(明律卷四) (清律卷七)

【代】 (部首) (韻)

【代貨主收價】 代金引換郵便ノ場合ニ用フ。(章程)

【代官】 官吏ノ在職ハ一定ノ年限アリ。新舊交替ノ時、其新官ヲ謂ツテ「代官」ト爲ス。【明律】吏律職制篇「官員赴任過限」ノ條、代官已到。舊官各照ニ已定期限。交ニ割戶口錢糧刑名等項及應レ有卷宗籍冊。云云。(卷)

【代谷】 漢初匈奴買糧單于此ニ居ル、山西省代縣ノ西北ニアリ。

【代奏謝恩】 皇帝ヨリ恩典ヲ受ケタル者ガ、直接奏事ノ資格ナキ場合ニ於テ堂上官(即チ親)又ハ其本省ノ總督、巡撫之ニ代リテ奏聞ヲ爲スコトヲ謂フ。【皇朝政治學問答】「無ニ奏事之責。而應レ謝恩者。俱由ニ堂官或本省督撫。代爲ニ奏聞。」

【代田】 一畝ノ地ヲ分チテ三區ト爲シ、每歲其區ヲ易ヘテ耕種ス。カヲ用ケルコト少シクテ穀ヲ種ルコト多シ。之ヲ「代田」ト謂フ。【漢書】趙過傳、以ニ趙過ニ爲ニ搜粟都尉。趙過能爲ニ代田。一畝三區。歲代レ處。故曰ニ代田。」

【代賠】 官設物ノ賠修ヲ爲ス場合ハ(賠修ト

物ノ監督ニ當リタル官ヲ以テ) 他人ガ其責任修繕ノ責ニ任ズルコトヲ謂フ。他人ガ其責任者ニ代リテ賠修スルコトヲ謂フ。(ハレノ部見ヨ)

【代票】 書役ノ如キ者ガ自ラ富裕ナル農民ヲ選ビテ其名義ヲ宛テタル徵稅書ヲ作りテ之ヲ代納シ、然ル後ニ其票ヲ持チテ本戶ヨリ加倍ノ返還ヲ求ムルコトヲ謂フ。翰林院侍讀王邦璽ノ江西丁漕積欠ヲ論ズルノ文中ニ「書差輒擇ニ中上家産能自完納之花戶一代爲ニ載申ニ完糧。然後持レ票向ニ本戶ニ加倍。糧還入レ己。名曰ニ代票。トアルハ是ナリ。」

【兌】 (部首) (韻)

【兌運】 米ヲ聚收シテ京師ニ運送スルノ義ナリ。【六部成語註解】「兌運。運レ京之米也。」此語ハ明宣宗ノ宣德年官軍(農民ハ農業ヲ妨ゲ)ヲシテ京師ニ稅米ヲ運搬セシメタルニ始マル。

【兌行】 兌ハ聚メル又ハ達スルノ義、即チ米ヲ聚收シテ京師ニ起行スルコトヲ謂フ。【六部

成語註解】「兌收。起行之米也。」

【兌支】 發給又ハ支給スルノ義ナリ。【元典章】兵部第一條「兌支軍人口糧」ノ條、上老小俱各在レ營。月支米四斗。若便一體兌支。(三十四)

【兌赤】 北京通行ノ金塊其重量ハ清秤ヲ以テ計算シ每塊重十兩トシ每千兩ニ純金九百八十兩ヲ含ム。

【兌糶】 (テレノ部)

【台】 (部首) (韻)

【台吉】 蒙古爵位ノ名稱、位輔國公ニ次グ。四等ニ分チ、「一等台吉」ヨリ、「四等台吉」ニ至ル。台吉ハ漢語ノ皇太子三字ノ轉訛タリ。最初ハ惟タ蒙古子第ノ爲メニ之ヲ稱シタルガ後專ラ爵位ノ名ト爲ル。

【台槐】 三公ノ稱ナリ。三公ハ天ノ三槐(星)ニ比ス。槐ハ又周代三槐ヲ朝廷ニ植エテ三公ノ位ト爲ス。【晉書】鄭袤等論傳、晉氏中興。衣

冠斯盛。美彦如林。或以ニ雅望ニ處ニ三槐。」

【台鈔】 台ハ三台ノ台、即チ三公ヲ稱シ、鈔ハ黃耳金鈔ノ鈔即チ鼎ニシテ宰相ヲ稱ス。【唐律】名例篇「降ニ論官於台鈔」。註「春秋漢合琴曰。三公在天。法ニ三台一也。易鼎卦曰。鼎。黃耳金鈔。鄭玄云。金台。喻ニ明レ道畢ニ君之官職一也。以喻ニ台相。」(卷)

【台司】 三公ノ稱ナリ。【孔氏雜說】「荀爽自レ被ニ徵命。至レ登ニ台司。四十五日。」

【台小子】 (台) 台ハ天子ナリ。小子ハ天子自ラノ謙辭ナリ。【書經】說命、王曰。來汝說。台小子。子。子甘盤。王ハ商ノ高宗、說ハ其相傳説甘盤ハ商ノ賢臣ナリ。

【台鼎】 台ハ天ノ三台星(上台、中台、下台)鼎ハ三足ナリ以テ三公ノ稱トス。【後漢書】「位登ニ台鼎。云云。」

【台鼎人】 三公タルベキ人物ノ稱トス。【宋書】謝方明傳、高祖曰。謝方明。可レ謂ニ名家駒。直置便自是台鼎人。無論ニ復有ニ才用。」

【台輔】宰相ノ別稱ナリ。『三國志』馬日磾歷位九卿。必登台輔。

大(部首) (又、備)

【大醫院】(太醫院)

【大醫監】(太醫監)

【大醫局】(太醫局)

【大駕】漢制、天子出御ノ時、諸官一定ノ順序ニ依リテ感從ス。之ヲ、鹵簿ト謂フ。大駕アリ法駕アリ小駕アリ。大駕ハ則チ天子乗ル所ノ車、公卿之ヲ奉引シ大將軍參乘シ、大僕之ヲ御ス。周車八十一乘三行ヲ作ス。尙書御史之ニ乗ル。最後ノ一乘ハ豹尾ヲ垂ル。豹尾以前ハ皆省中ト爲ス。千乘萬騎ヲ備フ。長安ニ出デテ、天ヲ甘泉ニ祠ルトキ之ヲ備フ。

(三輔黃圖、及ビ大(學衍義補卷九十一)

【大合】(給) (見)

【大享】九月ニ於テ天帝ニ天皇ヲ配シテ祀ル

祭名ナリ。(清禮會)

【大考】清制、朝廷ヨリ翰林官ヲシテ庶吉士等ニ行ハシムル試験ナリ。雍正十一年ノ上諭、嗣後庶吉士等雖經授職。或數年以後或十年。朕再加考驗。若依然精熟。必從優錄用。以示鼓勵。其或遺忘錯誤。亦必加處分。是レ翰林大考ノ始、後之ニ因ル。

【大禘】大禘ハ合祭ノ義ナリ。『禮記』王制篇「天子禘於郊。禘於壇。禘於壇。其註ニ依レバ「嘗蒸ノ二祭ハ太祖及ビ群廟ニ止マリ、禘ハ太祖ノ自リテ出ヅル所、下ハ毀廟ノ主ニ及ブ。乃チ此ノ三祭ヲ合シタルモノヲ大禘ト曰フ」ト爲ス。清朝ノ制ニ於テハ肇祖以下太祖以上ヲ祭ルヲ大禘ト爲ス。(會典)

【大行】皇帝ノ崩御セラレタル當坐ノ尊稱ナリ。其語ハ「風俗通」天命有終。往而不返。故曰大行。又「史記」李斯傳「大行未發。喪禮未終。是レ其出所ナリト雖モ古來ニ説アリ。

(讀、平聲、カ) 前記ノ如ク往キテ返ラザル

ノ義ト爲シ、他ノ一(讀、去聲、ギ)ハ德行大ニ備ハリテ具ハラザルナキノ義ト爲ス。『六部成語註解』「皇帝駕崩曰大行皇帝。大行古來有二解。或曰一往不返。謂之大行。或曰皇帝初崩。尊隆未定。暫稱大行。言其德行大備無所不具也。上行讀平聲。作三行路解。下德行之行。讀去聲。皆可通。如三并存之。」

【大行棧】大規模ノ商館ヲ謂フ。(部政)

【大略小略】(賦) (見)

【大計】清制、凡ソ文官ノ治績考察ニハ二種アリ京官即チ中央官廳ノ官吏ニ對スルトキハ之ヲ「京察」ト曰ヒ、外官即チ地方官ニ對スルトキハ之ヲ「大計」ト曰フ。共ニ滿三年一回之ヲ行フヲ例トス。周代ノ「大比」ニ當ル(行政法卷一)

【大榷小榷】(賦) (見)

【大故】二義アリ。一ハ父母ノ喪ヲ曰フ。『禮記』檀弓篇「非有二大故。不宿於外。』『孟子』

「不幸至於大故。他ノ一ハ大惡ヲ指シテ曰フ『論語』微子篇「故舊無大故。則不棄也。」

【大功】喪服ノ名、九ヶ月ノ喪ニ服スルヲ法トス。『儀禮』喪服制「大功布衰裳。九月者。傳曰大功布九升。小功布十一升。鄭玄註「大功布。其鍛治之功盛。治之。買公產。鍛治加灰。但盛治而已。」

【大功以下尊長】(服) (見)

【大紅】大功ニ同ジ。『韻會』大功小功。喪服名(中)史記。漢書。大功小功。作大紅小紅也。

【大昏】昏ハ婚、天子又ハ諸侯ノ婚姻ヲ稱シテ「大昏」ト爲ス。『禮記』哀公問篇「大昏至矣。云云。」

【大差】清制、差ハ差遣、大臣ノ上命ヲ帶ビテ出張スルコトヲ謂フ。屬國大臣ノ朝貢スルコト及ビ總督巡撫ノ公用ヲ以テ往來スルコトモ亦大差ニ屬ス。(編憲全書)

(タ) 大

【大裁】邦國ガ水火ノ災ニ遭ヒ、及ビ年穀熟セザルコトヲ謂フ。此時ハ天神地祇ヲ禱ルヲ例トス。『周禮』小宗伯「大裁。及執事。禱祠于上下神示。凡天地之大裁。類社稷宗廟。則爲位。買公產。註「大裁者。謂國遭水火。及年穀不熟。則禱祠于上下天地神祇。』(同書註及義補卷六十四)

【大三司使】唐代ニ於テハ重大ナル裁判事件ハ刑部、大理寺、御史臺ノ各長官ヲシテ會審セシム、之ヲ稱シテ「三司使會審」ト曰フ。若シ該三長官事故ノ爲メニ會審スルコト能ハザルトキハ、各次官代リテ會審ヲ行フヲ例トス。前者ヲ「大三司使會審」ト曰ヒ、後者ヲ「小三司使會審」ト曰フ。(官表)

【大祀】清朝ニ於ケル大祭、天神地祇ヲ祭ル。當日ハ他ノ祭ヲ爲スコトヲ得ズ。(會典)

【大司空】周代ニ始マル。六官(各其長ニ)ノ一ナリ。漢成帝ノ綏和元年御史大夫何武ノ

奏議ニ基ヅキ御史大夫ヲ改メテ「大司空」ト爲シ丞相及ビ大司馬ト併セテ之ヲ三公ニ列シ各金印紫綬ヲ給セリ。是ニ於テ丞相ノ職ハ三公ニ分タレ三公始メテ實務ノ官ト爲リ宰相ノ事ヲ行フニ至レリ。哀帝ノ元壽中丞相ヲ改メテ大司徒ト稱シ大司徒、大司馬、大司空依然ト公ノ位ニ列セリ。東漢以後單ニ司空ト稱ス。シテ三後世ノ「工部尙書」之ニ當ル。(シ)ノ部

【大司寇】(寇) (見)

【大司寇】唐代祭酒ノ別名ナリ。(國子祭酒) (見)

【大司徒】周ハ大司徒一人ヲ置ク、教官ノ長ナリ。漢哀帝ノ時丞相ヲ改メテ大司徒ト爲シ、大司馬、大司空ト共ニ國ノ三公タリ。東漢以後單ニ司徒ト稱ス。後世ノ「戸部尙書」之ニ當ル。(部)ノ部尙書(見)

【大司農】秦漢時代ノ財政機關、秦代ハ治粟

官ト爲シ、他ノ一(讀、去聲、ギ)ハ德行大ニ備ハリテ具ハラザルナキノ義ト爲ス。『六部成語註解』「皇帝駕崩曰大行皇帝。大行古來有二解。或曰一往不返。謂之大行。或曰皇帝初崩。尊隆未定。暫稱大行。言其德行大備無所不具也。上行讀平聲。作三行路解。下德行之行。讀去聲。皆可通。如三并存之。」

【大行棧】大規模ノ商館ヲ謂フ。(部政)

【大略小略】(賦) (見)

【大計】清制、凡ソ文官ノ治績考察ニハ二種アリ京官即チ中央官廳ノ官吏ニ對スルトキハ之ヲ「京察」ト曰ヒ、外官即チ地方官ニ對スルトキハ之ヲ「大計」ト曰フ。共ニ滿三年一回之ヲ行フヲ例トス。周代ノ「大比」ニ當ル(行政法卷一)

【大榷小榷】(賦) (見)

【大故】二義アリ。一ハ父母ノ喪ヲ曰フ。『禮記』檀弓篇「非有二大故。不宿於外。』『孟子』

「不幸至於大故。他ノ一ハ大惡ヲ指シテ曰フ『論語』微子篇「故舊無大故。則不棄也。」

【大功】喪服ノ名、九ヶ月ノ喪ニ服スルヲ法トス。『儀禮』喪服制「大功布衰裳。九月者。傳曰大功布九升。小功布十一升。鄭玄註「大功布。其鍛治之功盛。治之。買公產。鍛治加灰。但盛治而已。」

【大功以下尊長】(服) (見)

【大紅】大功ニ同ジ。『韻會』大功小功。喪服名(中)史記。漢書。大功小功。作大紅小紅也。

【大昏】昏ハ婚、天子又ハ諸侯ノ婚姻ヲ稱シテ「大昏」ト爲ス。『禮記』哀公問篇「大昏至矣。云云。」

【大差】清制、差ハ差遣、大臣ノ上命ヲ帶ビテ出張スルコトヲ謂フ。屬國大臣ノ朝貢スルコト及ビ總督巡撫ノ公用ヲ以テ往來スルコトモ亦大差ニ屬ス。(編憲全書)

(タ) 大

六一九

内史ト稱セシガ漢景帝ノ時改メテ「大農令」ト爲シ武帝ノ時更ニ「大司農」ト改ム。財賦ノ事概テ其職務ニ屬セリ。蓋シ當時ノ財賦ハ米糧ヲ主トセシヲ以テ大司農ハ專ラ米糧ノ事ヲ專管シタルニ因ル。漢以後ハ「度支尙書」或ハ「戶部」或ハ「左民尙書」ト稱シタルガ隋神龍以後戶部ニ一定セリ。(清國行政)

【大司馬】唐虞時代已ニアリ。稷、大司馬タリ。舜、大尉ト爲ス。周代六官ノ一、夏官ノ首、政官ノ長タリ。漢武帝「大將軍票騎將軍ヲ置」ク。並ニ冠スルニ「大司馬」ノ號ヲ以テス。既ニシテ霍光大司馬大將軍ヲ以テ大政ヲ輔佐ス。實權丞相ノ上ニ在リ。其後ハ單ニ大司馬ト稱ス。大司徒、大司空ト並ニ三公ト爲ス。後漢之ニ因ル。後、名ヲ「大尉」ト改ム。南北朝「大司馬大將軍」ト號ス。隋以後之ヲ廢ス。後世ノ兵部尙書之ニ當ル。(兵部尙書ヲ見ヨ)

【大修】(一)清制、十年一回刑律ノ附例ヲ改修スルコトヲ「大修」ト曰フ。(大清律例ヲ見ヨ)

清制(二)戰船ノ修造ハ大修、小修、折造ノ三種アリ。海戰船ハ新造ノ年ヨリ三年ヲ經レバ小修シ後三年ニ大修シ後三年ニ折造(改)スルヲ例トス。内河戰船ハ三年ニ小修シ五年ニ大修シ大修後三年ニ復小修シ尙ホ用ニ堪フルモノハ更ニ三年後ニ大修シ、然ラザルノモハ折造ス。(嘉慶會典卷四十七)(三)尙ホ土木工事ニモ大修小修ノ別アリ。一定ノ期限ニ之ヲ行フヲ例トス。

【大集校閱】大演習ノコト、天子臨監ス。唐律「擅興黨、校閱違期」ノ條「諸大集校閱、而違期不到者杖一百。云云。其疏議、車駕親行。是名ニ大集校閱。」(卷十)

【大赦】國家ニ慶弔大禮ノ行ハル、ニ當リテ十惡以外ノ犯罪人ヲ一例ニ放免スルコトヲ謂フ。三代盛時ニハ斯カル事例ナシ。「春秋」莊公二十二年ノ經「春王正月肆大賞。」トアルヲ初メトス。是レハ古來學者ノ齊シク非難スル所ナリ。例セバ胡安國曰ク「上舜典書災ハ肆

赦スト曰ヒ、易ノ解卦君子以テ過ヲ赦シ罪ヲ宥スト曰ヒ呂刑ニ五刑ノ疑ハシキハ赦スアリ。云云。周官司刺赦宥ノ法ヲ掌ル云云ト曰フモ未ダ大嘗ヲ肆スルヲ開カズ矣。後世姑息政ヲ爲シ數、恩赦ヲ行ヒ姦宄ヲ惠ミテ良民ヲ賊フ。而シテ其弊益、滋キハ蓋シ此ニ流ス。故ニ諸葛孔明曰ク、世ヲ治ムルニハ大德ヲ以テシ小惠ヲ以テセズ。其政ヲ蜀ニ爲スヤ軍旅數、興リタルモ而モ赦ハ安ニ下サズ。蜀人久クシテ歌思スルコト猶ホ周人ノ召公ヲ思フガゴトシ。斯レ春秋ノ旨ヲ得タリ矣。嘗ヲ肆シテ而モ大嘗ト曰フハ失敗ヲ讓ルナリト、又丘濬ハ其著「大學衍義補」ニ論ジテ曰ク「後世天下ニ大赦スルハ其原蓋シ此ニ出ヅ。夫レ魯ノ肆ス所ノモノハ一國ノ中ニシテ而モ之ヲ嘗ト謂フ。則チ其赦ス所ノモノハ過失ノミ、嘗ニシテ之ヲ大ト謂フハ意フニ魯國向キニ肆ス所アルハ皆小嘗ナリ。今ハ則チ其大ナル者ヲ併セテ之ヲ肆ス。然ルニ罪惡ニ於テ未ダ赦サザル

ナリ。聖人之ヲ書シテ以テ戒ヲ萬世ニ垂レ此ヲ以テ防ト爲ス。後世ノ赦文(大赦ノ)乃チ偏ク天下ニ赦スニ至ル。已ニ發覺スルト未ダ發覺セザルト、已ニ結正スルト未ダ結正セザルト、罪ノ大小トナク咸之ヲ赦除ス。甚シキハ十惡ノ罪、常赦ノ原サザル所ノ者ニ在リテモ(常法ニ於テハ赦免ノ)亦或ハ赦ス。姦宄ヲ惠限ニ在ラザルモノ)再犯(故意犯)志ヲ得、善真ミテ良民ヲ賊ヒ、怙終(再犯)志ヲ得、善真暗啞ス天討ノ公ヲ失ヒ人欲ノ私ヲ縱ニス。皆春秋ノ罪人ナリ。(卷九)

右ハ其一例ニ過ギザルガ明以前ノ眞儒碩學ハ皆其論ヲ一ニス。抑モ大赦令ガ其形式ニ依リテ發布セラレタルハ秦二世ノ時ナリ。西漢時代ニハ高祖在位十二年ニシテ大赦ヲ行フコト九回、文帝在位二十三年ニシテ四回、景帝ハ在位十六年ニシテ五回、武帝在位五十五年ニシテ十八回等ナリ。丘濬ノ按「上四漢ノ世赦令最モ頻繁ナリ。高帝在位十二年ニシテ凡テ九赦、蓋シ漢初メテ天下ヲ得ルヤ人ノ秦俗ニ

染ムモノ深ク事ヲ秦弊ヲ襲フモノ久シ。赦セザルベカラズ。之ヲ赦スハ民ト更始スル所以ナリ。文帝在位二十三年凡テ四赦、文帝ハ呂后ノ後ヲ承ク、蓋シ亦已ムヲ得ザルアリ焉。若シ夫レ景帝十六年ニシテ五赦、武帝五十五年ニシテ十八赦(略)大約之ヲ計ルニ未ダ三年ヲ過ギテ赦セザル者ナシ。數、赦スコト此ノ如シ。何ゾ其良民ノ計ヲ爲スヤ恒ニ足ラズシテ、姦民ノ地ヲ爲スヤ恒ニ餘アル哉云云。(卷九)

【大赦天下】(天下ニ)犯罪ノ眞情ヲ審ニシ個ムベキ事情アル者ハ其者ニ對シテ恩赦スルノ例ハ唐虞三代ヨリ其制備ハル(舜典、書)ト雖モ天下ニ對シテ一例ニ赦ヲ行フコトハ秦二世ノ時ニ始マリ漢代以後盛ニ行ハル。讀者ノ非議スル所ナリ。「大學衍義補」秦二世初即位。大赦天下。但シ馬端臨ノ言ニ依レバ春秋戰國ノ時已ニ大赦ノ法アリシト云フ。蓋シ「春秋」莊公二十三年ノ經「春王正月

肆大嘗」トアルガ如キヲ指スベシ。然レドモ是レハ其舉ヲ非トスルノ謂ナリ。天子ニシテ大赦ヲ行ヒタルハ秦二世ニ始マル。是レ人心籠絡ノ手段ニ外ナシ。(大學衍義補)【大祥】已ニ葬リタル後、十三ヶ月ニ及ビテ祭ルヲ「小祥」ト曰フ。二十五ヶ月ニ及ビテ祭ルヲ「大祥」ト曰フ。「儀禮」士虞禮記「期而小祥。又期而大祥。云云」(卷九)【大主】皇帝ノ姑(父ノ)ノ女ヲ稱ス。一ニ「大長公主」トモ曰フ。蓋シ公主ハ封號ナリ。事物紀原「漢皇帝之始封三長公主二號三太主。史記武帝本紀曰。帝以三衛長公主。妻三驃大。自三大主將相已下皆遺獻之。徐廣云。武帝姑賣太后女也。則大主之號。亦自漢始明矣。(一)【大主考】鄉試ノ主任試驗官ヲ謂フ。【六部成語註解】「正主試之官也」。

【大祝】一ニ「太祝」ニ作ル。殷代ノ官ニ「六太」アリ。太祝ハ其一、禮官宗伯ノ屬官、祭祝ノ詞ヲ掌ル。「事物紀原」商官六太。其一曰「太祝」。



在二周禮ニ爲三禮官宗伯之屬ニ掌三六觀之詞。秦漢有レ丞。隋除ニ合丞。止存ニ太祝。(五)

【大瀆】大修ト云フニ同ジク、道路橋梁等ノ大修繕ヲ行フコトヲ謂フ。(大修)

【大食國】アラビヤノ國ノ稱、回教祖トシテ、默德ノ創ムル所ナリ。其盛時ハ亞洲西部、非洲北部及ビ西班牙等ヲ奄有セリ。後分レテ二部ト爲ル。亞洲ノ「報達」ニ都スル者ハ「黑衣大食」ト爲ス。後、蒙古ノ滅ス所ト爲ル。西班牙ノ「哥爾多華」ニ都スル者ハ「白衣大食」ト爲ス。後ニ今ノ西班牙ノ爲メニ滅サル。

【大侵】侵ハ傷ノ義、大侵ト云フニ同ジク、五穀ノ升(成熟)セザルコトヲ曰フ。大侵ノ歲ハ君、食ニ味ヲ兼ネズ、壅樹(飾ル)ヲズ、(射)ヲ弛(廢ス)シ、延道(延内ノ)除セズ、百官布イテ制セズ(法令ヲ新制)鬼神禱リテ祀ラザルヲ法トス。【穀梁傳】襄公二十四年、五穀不登。謂ニ之大侵云云。【韓詩外傳】五穀不升。曰ニ大侵。(其註詳解)

【大審】明代ノ制、南北兩京及ビ十三省ニ對シ、每五歲一次刑部ヨリ奏請シテ官ヲ遣ハシ、刑獄ノ冤滯ヲ審査判決セシム。一ニ「恤刑」トモ稱ス。(歷代職官表)

【大秦寺】明ノ天啓五年陝西省西安府ニ發見セラレタル石碑ニ「大秦景教流行中國之碑」ト記シタルモノアリ、是レ支那ニ於ケル基督教傳來ニ關スル唯一ノ記録ニシテ、其碑ハ唐德宗ノ建中二年正月大秦寺僧景淨ノ建立シタルモノニ係リ、其文ニ依レバ太宗貞觀九年大秦國大德阿羅本始メテ經像ヲ携ヘテ長安ニ至ルヤ、帝房玄齡ヲシテ之ヲ迎ヘシメ、十二年詔シテ天下ニ布教スルコトヲ命ジ、京師ニ大秦寺ヲ建立シ、僧二十一人ヲ度セリ云トアリ。大秦ハ即チ羅馬ニシテ景教ト云フハ「ネストリアン」ニシテ、即チ基督教ニ屬スルモノナリ(清國行政法第四卷) (後、重出)

【大清律例】大清律ニ附スルニ條例ヲ以テシタルガ故ニ律例ト曰フ。律ハ世祖順治初年法司ニ勅シテ明律ヲ詳譯セシメ參スルニ國則(滿洲)ヲ以テシタルモノナリ。故ニ官制官名ヲ異ニスルノ外ハ全然明律ヲ襲用シタル事實アリ。實際ノ運用上ニ於テ不便多キヲ以テ逐年ノ條例ヲ加ヘテ之ヲ補充ス。故ニ「大清律例」ト曰フ。律ハ「一成不可改」ヲ原則ト爲スモ條例ハ「十年大修」五年小修」ヲ定則トス。故ニ康熙年ヨリ光緒ニ主ルマテ條例ハ幾回ノ増修アリタルモ律ハ光緒年時代ト錯誤セルモノヲ改修スルノ外原體ヲ保持シタリ。(刑律史論詳)

【大秦寺】大秦ハ支那ニ於ケル羅馬ノ古稱、其宗教基督教ヲ「景教」ト曰ヒ本部ヲ「大秦寺」ト曰フ。其支那ヘ入りシハ南朝齊末梁初ノ頃ナルベシ。明ノ天啓五年(西曆一千六百二十五年)陝西省西安府ニ發見セラレタル石碑即チ「大秦寺景淨則ニ就キ中外各官廳ノ永遠進行スベキ職務權限ヲ規定シタルモノ、即チ行政法典ナリ。清代ハ康熙二十三年其編纂ニ著手シ同二十九年ニ成ル。是レ初期ノ會典ニシテ「康熙會典」ト題名ス。凡ソ百六十卷ヨリ成ル。其編纂委員ハ伊桑阿王熙ヲ總裁ト爲シ尹秦ヲ副總裁ト爲シ其他適任者ヲ任命シ明會典ニ倣ヒテ編纂シタルモノナリ。其後四回ノ改修アリ。皆其年號ヲ冠シ「雍正會典」「乾隆會典」「嘉慶會典」「光緒會典」ト曰フ。今我國ニ於テ「大清會典」ト曰フハ乾隆會典ヲ指スラ普通トス。他ノ會典ハ皆其年號ヲ冠スルニ拘ラズ乾隆會典ハ題簽ニ「大清會典」ト書セルニ因ル。但シ初頭ノ會典タル康熙會典ハ今多ク傳ハラズ。(刑律法史論詳)

【大清會典事例】現ニ傳ハル會典事例ハ「嘉慶會典事例」ヲ始メトス。該事例ハ乾隆會典則例ニ就キテ修纂スルト同時ニ逐年ノ事例

テ事例ナシ。【大清律例】大清律ニ附スルニ條例ヲ以テシタルガ故ニ律例ト曰フ。律ハ世祖順治初年法司ニ勅シテ明律ヲ詳譯セシメ參スルニ國則(滿洲)ヲ以テシタルモノナリ。故ニ官制官名ヲ異ニスルノ外ハ全然明律ヲ襲用シタル事實アリ。實際ノ運用上ニ於テ不便多キヲ以テ逐年ノ條例ヲ加ヘテ之ヲ補充ス。故ニ「大清律例」ト曰フ。律ハ「一成不可改」ヲ原則ト爲スモ條例ハ「十年大修」五年小修」ヲ定則トス。故ニ康熙年ヨリ光緒ニ主ルマテ條例ハ幾回ノ増修アリタルモ律ハ光緒年時代ト錯誤セルモノヲ改修スルノ外原體ヲ保持シタリ。(刑律史論詳)

ヲ編入シ則例ノ名ヲ改メテ事例ト爲シタルモノナリ。詳言スレバ「嘉慶會典」ハ其規定ト直接ノ關係アル事例ハ本文ノ下ニ分註トシテ挿入シ其法意ヲ明ニシ、而シテ沿革其他密接ノ關係ナキ事例ハ一切別ニ會典事例トシテ編纂シタルモノナリ。故ニ該事例ハ九百二十卷ノ多キニ及ベリ。以後皆此例ニ因ル。最後ノ「光緒會典事例」ハ「光緒會典」ト共ニ同二十五年修成セルモノニ係リ、嘉慶十八年以後光緒二十八年ニ至ル八十四年間ノ事例ヲ編入シタルモノニ係ル。故ニ該事例ハ更ニ増シテ一千二百卷ノ多キニ至ル。

【大清會典則例】會典ノ補助法ニシテ乾隆會典編修ノ時從來ノ編纂方法ヲ改メテ事例ヲ會典ノ編下ヨリ分離シ別ニ一書ト爲シ大清會典則例ト名ヅケタルモノニ係ル。其則例ハ凡テ一百八十卷ヨリ成ル。其體例ハ會典ノ分類ニ從ヒ年次ヲ違ヒテ各項ノ事例ヲ編加シタルモノナリ。故ニ「乾隆會典」ニハ本則ノミニシ

【大誼】漢代ノ官名、誰何ヲ掌ルノ長官ナリ。【漢書】「故公車大誼卒」。師古註「大誼者。主問ニ非常之人。云姓名是誰也。大誼。本以誰何一稱。因用名レ官。有二大誼長。今此卒者。長所レ領三士卒一也。」

【大成教】一ニ大學教トモ稱ス。儒、釋、道ノ三教ヲ綜合シテ旨ト爲ス。明末林三教程靈莊ノ主倡ニ出ア清ノ道光間ニ至リ周太谷之ヲ宣

【大成教】一ニ大學教トモ稱ス。儒、釋、道ノ三教ヲ綜合シテ旨ト爲ス。明末林三教程靈莊ノ主倡ニ出ア清ノ道光間ニ至リ周太谷之ヲ宣

傳シ、其歌達ニ盛ナリ。屢、官吏ノ勸修スル所ト爲ルモ、然モ今ニ至リテ仍ホ其歌ヲ奉ズル者アリ。

【大成殿】 明洪武十五年大學ヲ新築シ孔子廟ヲ其東ニ設ケ中央ヲ大成殿ト爲シ左右兩廡ヲ設ケ天子親シテ釋奠ヲ行ヘリ。大成ノ語ハ孟子萬章篇「孔子之謂ニ聖大成」トアルニ出ヅ。後世孔子ヲ稱シテ「大成至聖先師」ト曰フ。亦之ヨリ出ヅ。

【大小龍團茶】 宋仁宗初メテ茶務(茶官事)ヲ建テ歲ニ「大小龍團茶」ヲ造ル。宋ノ造茶ニ二種アリ一ヲ「片」ト曰ヒ、一ヲ「散」ト曰フ。片茶ハ蒸造シテ片ヲ成ス者ヲ謂ヒ散茶ハ研合スルニ諸香ヲ以テシテ餅ト爲セルモノヲ謂フ。

【大猷】 猷ハ權即チ術録ノ一名稱、大小二種アリ、大猷ハ五十兩ヨリ一百兩ニ至リ、小猷ハ十兩ヨリ三十兩ニ至ル。(嘉慶會典)

【大泉】 (ハレノ部「寶」) 貨ヲ見ヨ

【大選】 清國法ニ於テハ偶數ノ月即チ二、四、六、八、十、十二ノ六箇月ヲ雙月ト稱シ、此月ニ官吏ノ揀選ヲ行フコトヲ「大選」ト曰フ。會典「吏部月選ノ條」雙月曰ニ大選。トアルハ是ナリ。尙ホ大選ノ方法ニ就キテ一言スレバ、大選ハ揀選ノ本則ニシテ、各官候選ノ名目アル者ヲ吏部ヨリ其名字ト缺班トヲ次第シテ之ヲ冊籍ニ註記シ、應ニ得ベキノ缺アルヲ俟テ先後ノ順序ヲ按シテ選補スルコトヲ謂フ。故ニ一ニ之ヲ「平常選」トモ稱ス。(會典吏部及比六部成語註解)

【大租權】 小租權ニ對スルノ語ナルガ故ニ其性質ヲ明ニセントセバ、兩者ノ由來ニ就キテ一言セザレバカラズ。臺灣ガ清國ノ領土ニ歸シタルハ、康熙二十二年ニシテ、當時ハ全島到ル處荒蕪未墾ノ地ヲ以テ掩ハレシカバ、勢力ヲ有スル者ハ土地ノ墾闢ヲ企テ、官有地ハ官ニ請ヒテ下渡ヲ受ケ、蕃人ノ占有地ハ蕃人ト協約シテ讓渡ヲ受ケ、移住民又ハ十民ヲ招キテ開墾ニ從事セシメ、相約スルニ成墾ノ後

ハ其地區ノ管業權ヲ判與シ、其代價トシテ永遠ニ一定ノ租穀ヲ納付スベキコトヲ以テシタリ、當時起業者ヲ墾戶(或ハ業主)ト稱シ、力墾者ヲ佃戶(或ハ佃人)ト稱シタリ。墾戶トハ即チ開墾權者ノ義ニシテ、佃戶トハ永小作人ノ義ナリ。開墾後一定ノ年限ヲ經過スレバ、官ヨリ實地ノ檢分ヲ爲シ、土地ノ等級ヲ附シテ租稅ヲ賦課ス之ヲ「限年限科」ト稱セリ。陸科後ハ墾戶納稅ノ義務ヲ生ズルト同時ニ、法律上其土地ノ業主タル權利ヲ取得ス。而シテ墾戶ノ官ニ納ムルヲ大租ト稱シ、佃戶ヨリ徵收スルヲ小租ト稱ス。此ニ於テカ大租戶ハ小租戶ノ名ヲ生ズルニ至レリ。然ルニ墾戶即チ大租戶中ニハ自ラ資本ヲ投ジ實在ニ開墾ニ憔悴シ名實共ニ大租戶タル資格ヲ有スル者ナキニ非ザルモ、中ニハ單ニ名義上開墾權ヲ有スルニ止マリ、實際ハ一錢ヲ費サズシテ大租戶タル利得ヲ食ル者少カラズ。且政府ハ稅率ヲ増殖スル爲メニ土地ノ開墾ヲ獎勵シ殆ド無條件

了スルヤ、地租ヲ改正シ、土地產權ノ製ヲ立ツルト共ニ、大租權ヲ買收シテ、全然之ヲ革除シ、同三十八年ヲ以テ土地登記規則ヲ發布シ、土地ノ業主權ハ他ノ重要ナル權利ト共ニ登記ノ方法ニ依リテ之ヲ確保スルコト、爲シタリ。(臺灣私法第一卷)

【大宗】 古代諸侯ノ別子(諸侯嫡ノ子孫ハ嫡子ヲ大宗ト爲シ庶子ヲ小宗ト爲ス。小宗絶ユレバ後ヲ立ツルヲ得ズ。惟ダ太宗絶ユレバ支子ヲ以テ其後ヲ立ツルヲ法トス。蓋シ太宗ハ尊者ノ正統ナルガ故ニ絶ツルヲ得ザルヲ以テナリ。(大學衍義補卷五十二)

【大宗伯】 周禮春官ノ長ナリ。(ハレノ部「宗」) 伯ヲ見ヨ

【大男】 長子ヲ大男ト爲ス(金石稱例)「長子稱ニ大男。漢郎中郎固辟序。先是君大男孟子。有ニ揚鳥之才也。」(卷「金石全書」)

【大中刑律統類】 唐宣宗ノ時、刑律ヲ以テ類ヲ分チテ門ヲ爲シ之ニ附スルニ格勅ヲ以テ

ヲ以テ下渡ヲ爲シタルガ故ニ大租戶ノ唯一依頼トセル開墾權ハ、實際上多大ノ價值ヲ有セザルニ至レリ。此ニ於テカ兩者ノ間ニ權利ノ融合ヲ爲シ、大租戶ノ權利ヲ大租權ト稱スルニ對シ、小租戶ノ權利ヲ小租權ト稱スルニ至ルト共ニ、土地ノ實權果シテ孰レニ在リヤ不明ナルモノ多キニ至レリ。故ニ劉銘傳ガ臺灣巡撫トシテ赴任スルヤ、光緒十四年全島ノ土地測量所謂「清賦事業」ヲ斷行シテ、土地實權ノ所在ヲ明ニスルト同時ニ、小租戶ヲ以テ業主ト公認シテ、納稅ノ義務ヲ之ニ移シ、其代リニ大租戶ニ納ムル租穀ヲ四割減トセシム、之ヲ「減四留六」ノ法ト稱ス。(但シ南部臺灣ニ於テ因リ舊ノ如ク大租戶ニ納稅ノ義務ヲ負ハシメタルモノアリ是レ名實共ニ大租戶タル資格アルニ) 此ヨリ大租戶ハ納稅ノ義務ヲ免カルト同時ニ、土地ノ業主權ヲ失フニ至レリ。然レドモ猶ホ名義上大租戶タル權利ヲ留保シタルモ、我領臺後明治三十六年ヲ以テ土地ノ根本的調査ヲ斷行シ、同三十七年ヲ以テ調査ヲ終

シタルモノ、刑律ノ一種ナリ。【大學衍義補】「宣宗又以刑律一分類爲門。而附以格勅。略爲大中刑律統類。」(卷百)

【大長公主】 (大主) 大主ト見ヨ

【大著】 著作郎ノ別名ナリ。(ハレノ部「著作」) 郎ヲ見ヨ

【大謙】 旗ノ一種、旄牛ノ尾ヲ以テ作ル。唐代ハ節度使行クトキハ節ヲ建テ纛ヲ樹ツルヲ例トス。(會「我國ニ於テハ、天皇旗」ノ稱トス。

【大鎮國】 都督ノ別稱、魏晉時代ニ始マル。(文獻通考) 但シ、唐ハ鎮國節度ヲ置キタルコトアリ。【唐書】方鎮表「上元二年以華州置鎮國節度。」

【大墩】 河岸ニ土ヲ積ミテ墩(平地ニ土ヲ積ミテ成シ堵築ノ用ニ備フルコトヲ謂フ。【六部成語註解】「河岸積土成墩。以備堵築之用。」

【大比】 (一) 人材採用ノ試驗ナリ。【周禮】鄉

大夫之職、三年則大比。(二)三年毎ニ民戸ノ調査ヲ爲スコトヲ謂フ。【周禮】秋官司小司寇「及大比二登三民數、自三生齒、以登于天府、云云。」

【大夫】(一)官名、三代ハ一命シテ士ト爲シ二命シテ大夫ト爲シ三命シテ卿ト爲ス。之ヲ「卿、大夫、士」ト稱ス。大夫又上中下ノ三等ニ分タル。秦漢以來ハ又「御史大夫」「光祿大夫」等アリ。隋唐以來明ニ至リテ文散官ノ稱ト爲ル。中ニモ光祿大夫、榮祿大夫ノ類ハ職ニ隨キテ名ヲ異ニシ事ヲ封贈ノ用ト爲ル。民國文官官秩ニハ上大夫、中大夫、少大夫アリ。(二)爵位ノ名、秦之ヲ設ケテ功勞ヲ賞ス。漢之ニ因ル。五級ニ分タル。(三)大醫院ノ大官ヲ五品ニ列シテ大夫ト爲ス。故ニ大醫ヲ稱シテ大夫ト爲ス。又、北方人ハ今ニ醫生ヲ大夫ト稱スルハ此ニ本ヅクト云フ。(常談)(義録)

【大不敬】(「レ」部、十) 祖父母ノ別稱ナリ。【大學衍義補】

【大廟】天子諸侯ノ始祖ノ廟、但シ、宗族ノ偉勳者ハ特ニ之ヲ尊ビテ大廟ニ祀ル。例セバ周公ヲ大廟ニ祀リタルガ如シ。【禮記】明堂位篇「以二諸禮二祀二周公於大廟。」【公羊傳】文公十三年「周公稱二大廟。」魯公稱二世室。」群公稱レ宮。」

【大理】古ノ理官即チ法官ナリ。唐虞ハ「士」ト稱シ、周ハ「司寇」ト稱シ、秦ハ「廷尉」ト稱シ、漢ハ初メ秦ニ仍リテ廷尉ト稱シ、後ニ改メテ大理ト爲ス。但シ、【事物紀原】春秋元命包曰。堯爲三天子、得二皋陶二爲二大理。舜時爲二士官。韓詩外傳有「晉文公使二李離爲二大理。春秋左氏傳、南侯與二元咺二訟。士榮爲二大理。新序楚平王以二伍奢二爲二大理。則大理。自古有矣。」是ニ依レバ大理ハ漢以前ヨリアリタルガ如キモ其史實詳カナラズ。後世ノ大理寺ハ之ニ因ル。(代)(職官)

【大旅】大旅ハ天帝ヲ祀ル祭名ナリ。(周禮)(表官)

【大戮】昔時ノ極刑、尸ヲ「サラス」シテ戮ト爲ス。【大理院】(「大理寺」) 【大理卿】(「大理寺卿」) 【大理寺】大理が法官ノ名ヲ以テ現ハレタルハ堯ノ時ニ始マル。舜ノ時ハ「士師」略シテ「士」ト爲ス。【春秋元命包】堯得二皋陶二聘爲二大理。舜時爲二士師。理ハ治、士ハ察ノ義ナリ。(法官ハ黃帝ノ時ニ始マル。李)周ハ司寇其屬ヲ士ト爲ス。秦ハ司寇ヲ廢シ、(司寇ト爲)廷尉ト爲シ漢之ヲ承ク。景帝ノ時大理ト爲ス。以後廷尉ニ復ス。魏、宋一時大理ト稱シタルコトアルモ概シテ廷尉ト通稱トス。北齊廷尉ヲ改メテ大理ト爲シ又始メテ寺稱ヲ加ヘテ大理寺ト爲ス。寺ハ廷尉ト同義ニシテ官署名ナリ。但シ大理寺ノ制ノ確立シタルハ隋ナリ。其長ヲ「大理寺卿」ト爲シ。略シテ「大理卿」ト曰フ。唐之ヲ承ク。隋唐ハ六部ノ制ニ備ハリ刑部ヲ以テ司法ノ專官トシタルモ大理寺ハ特別司法官廳トシテ存立シタリ。(元代ハ此)宋

【大父母】祖父母ノ別稱ナリ。【大學衍義補】

以後ハ左右ニ分タレ左寺ハ各地方ノ奏勅及ビ大罪ノ疑獄ヲ掌リ右寺ハ在京百司ノ刑獄ノ審判ヲ掌ル。清ニ至ルマテ大體之ニ因ル。清末改メテ大理院ト爲ス。即チ我大審院ニ相當ス。(清國行政法卷一)及ビ卷二參照)

【太阿】(一)官名、阿衡即チ宰相ノ別稱。【漢書】王莽傳「太阿石拂。大司空甄豐。少阿義知云云。(二)劍名、一ニ「泰阿」ニ作ル。(越絶) 【太醫院】太醫院ハ醫療最高機關ニシテ周代ノ醫師ニ起因スルコト勿論ナルモ(「醫師」部)見)惟ダ其名稱及ビ組織ハ時代ニ因リテ一様ナラズ。秦ハ大醫令ト稱シ前漢ハ太醫令又ハ太醫監ト稱シ後漢ハ太醫令又ハ尙藥監ト稱シ三國ヨリ北齊ニ至ルマデ皆之ニ因レリ。後周ニ至リ事ヲ太醫令ト稱ス。隋唐概シテ之ニ因レリ。五代ニ至リ改メテ翰林醫官吏ト稱シ、宋ハ醫官院ト稱シ遼ハ太醫局ト稱シ金ハ局ヲ改メテ院ト爲シ元ハ提點ノ二字ヲ削リテ太醫院ト稱シ明ハ提點ノ二字ヲ削リテ太醫院ニ復ス。清之ニ因レリ。要スルニ其内部ノ組織ハ名稱ノ改更ト俱ニ多少ノ異同アリタルモ

其職制ノ根本ニ至リテハ敢テ大差ナシ。但、後世ハ一般ノ醫療ヲ爲スコト漸ク少ク惟ダ宮中及ビ百官ノ醫療ヲ專トシ兼ネテ醫術ノ研究ヲ掌ルコトヲ主トシタルガ如シ。(清國行政) 【太醫監】(前條ヲ) 【太醫局】(前條ヲ) 【太醫令】(前條ヲ) 【太尉】(一)堯ノ時ハ舜ヲ大尉ト爲ス。(二)秦ノ時ハ金印紫綬、武事ヲ掌ラシム。(三)漢ハ惠帝六年太尉ヲ置キ、孝文七年ニ省キ、武帝建元二年ニ置キ五年ニ省キ、元狩六年ニ周制ニ法トリテ名ヲ大司馬ト更ム。東漢建武二十七年ニ大司馬ヲ罷メ復タ大尉ヲ置キ、靈帝ノ末劉虞ヲ以テ大司馬ト爲ス。大尉ハ故ノ如シ。(五)宋、齊、梁皆太尉アリ。(六)後魏ハ太尉、司徒、司空ヲ置キテ三公ト爲ス。(七)後魏ハ大將軍アリテ太尉ヲ置カズ、但シ正光以後並ニ置ク。(八)唐ハ太尉一人アリ(九)宋ハ初

唐制ニ仍ル。政和二年太尉ヲ改メテ武選一品ノ任ト爲ス。節度使ノ上ニ在リ。(十)元ハ太尉、司徒、司空ヲ三公ト爲ス。(古今事類) **【太學博士】** 魏、大學ニ五經課試ノ法ヲ設ケ春秋、穀梁博士ヲ置ク。東晉ニ至リ國子博士十六人ヲ置ク、之ヲ太學博士ト謂フ。北齊ハ國子學ニ太學博士アリ隋ハ國子ヲ廢シ惟テ大學ヲ立テ博士五人ヲ置ク。唐ハ三人ヲ增置シ文武五品上郡縣公ノ子孫ヲ敬フルコトヲ掌ル。鄭覃大學ニ五經博士ヲ置クコトヲ請ヒ祿獻王府官ニ比ス。宋ハ元豐三年詔シテ國子監ヲ改メテ講ヲ置キ太學博士ト爲シ每經二人經ヲ分チテ講授スルコトヲ掌ル。程文ヲ考定シ德行道藝ヲ以テ學者ヲ調尋ス。紹聖元年左司諫程思言「熙寧年更ラニ太學博士正條ヲ置キ、朝廷ノ特除アリト雖モ然カモ國子監長貳薦舉シ次ヲ以テ除授ス。元祐以來試法ヲ罷去ス、講ヲ今ヨリ學官ヲ授クルハ舊法召試ニ依ラント、之ニ從フ。紹興年太學博士三員ヲ置

ク。元亦四人ヲ置ケリ。(古今事類) **【太監】** 遼代太府監ノ長官ヲ太監ト曰フ。元ハ太府中尙章佩等監皆太監等ノ官アリ。明代之ニ因リ内官諸監ヲ置キ每監各太監ヲ置キ官官ヲ以テ之ニ任ズ。世俗遂ニ宦官ヲ稱シテ太監ト爲スニ至ル。 **【太皇太后】** 天子ノ祖母ヲ尊ビテ太皇太后ト稱シ略シテ太皇ト稱ス。漢ノ武帝ヨリ始マル。事物紀原「漢因秦事レ母號ニ皇太后。故尊ニ祖母曰ニ太皇太后。其禮雖始ニ於漢。要レ之自ニ孝武始也。(中)武帝即位。迎魯申公。議明堂事。司馬遷於儒林傳。乃始稱太皇太后好老子言。是太皇之號。自漢武帝始明矣。(卷) **【太皇太后】** 皇帝ノ祖母ヲ尊稱ナリ。事物紀原「漢因秦事レ母曰ニ皇太后。曰ニ太皇太后。其禮雖始ニ於漢。要レ之自ニ孝武始也。(上) **【太君】** 唐制ハ四品官ノ妻ヲ郡君ト爲シ五品官ノ妻ヲ縣君ト爲シ、其母ノ邑號ニハ太ヲ加ヘテ太君ト爲ス。事物紀原「唐制。四品妻爲ニ

郡君。五品爲ニ縣君。其母邑號皆加レ太。并封稱レ太。此其始也。(卷) **【太計】** 周代ノ大比ニ當リ、外務各官廳ニ於テ、毎三年一回其所屬官吏ノ成績ヲ調査シテ、順次其上级官廳ヘ提出シ、調抄ヲ行フコトヲ謂フ。(清會) **【太公】** (一)父ノ稱。漢書高祖紀「五日一朝ニ太公。(二)古人祖父ヲ稱シテ太公ト曰フ。後漢書李固傳「自ニ太公。以來云云。註「謂ニ祖父也。(三)俗又曾祖父ヲ稱シテ太公ト曰フ。 **【太后】** 皇帝ノ母ヲ稱ス。秦ノ昭王ヨリ始マル。漢ニ至リ皇太后ト稱ス。事物紀原「史記秦本紀曰。昭王母芈氏號ニ宣太后王母。於是始以爲レ稱。故范曄說ニ秦王ノ有テ獨開ニ太后。之語。其後趙孝成王新立。亦有ニ太后用レ事之說。是太后之號。自秦昭王一始也。漢襲秦。故號ニ皇帝。亦尊レ母曰ニ皇太后也。 **【太宰】** 周禮六官、太宰ヲ以テ天官ノ長ト爲

ス。其始メテ此官ニ任セラレタルハ周武王ノ時周公且ナリ。邦治ヲ掌ルヲ職トシ六卿ノ首ナリ。秦、漢、魏嘗ニ置カズ。晉初周禮ニ依リテ三公ヲ置ク。三公ノ職ハ太師其首ニ居ル。景帝ノ名師ナルヲ以テ特ニ太宰ヲ置キテ之ニ代フ。太宰ハ蓋シ古ノ太師ナリ。殷封ノ時箕子太師タリ。周武王ノ時太公太師タリ。周成王ノ時周公太師タリ。周公薨ズルヤ畢公之ニ代ハル。漢西京初メ置カズ。平帝始メテ復タ太師官ヲ置キ孔光之ニ任ゼラル。漢東京又廢ス。獻帝初メ董卓ヲ以テ太師ト爲ス。卓誅セラル、ヤ亦廢ス。魏世ハ置カズ晉既ニ太師ニ因リテ太宰ヲ置キ安平王孚ヲ以テ之ニ任ズ。(清、顧炎武撰) **【太史】** 三代(夏殷)ニ於テハ太史ヲ史官及ビ

解官ノ長ト爲ス。秦漢ヨリ南朝ニ至リテハ太史並ニ太常ニ屬ス。隋ハ太史監ヲ置キ、唐ハ監ヲ改メテ局ト爲シ元ハ太史院ト曰ヒ司天監ト並立ス。明清以來天文占候ノ事ヲ以テ欽天監ニ歸シ史館ノ事ハ亦多ク翰林ヲ以テ之ニ任ズ。故ニ俗翰林ヲ稱シテ太史ト爲シタリ。 **【太史監】** (ヲ見ヨ) **【太史公】** 漢司馬遷ノ父談、太史令タリ。其職ハ天文及ビ國史ノ編輯ヲ掌ル。司馬遷其職ヲ繼グ。皆太史公ト稱ス。二説アリ。一ハ遷ガ父談ヲ尊ビテ太史公ト稱スルト爲シ。(遷ノニ答フルノ書冒頭「太史公)他ノ一ハ太史令ハ牛馬走云云。ノ語ヲ用フ。故ニ太史公ト稱スト爲ス。 **【太史令】** 官名、主トシテ天文及ビ歴史ヲ掌ル。事物紀原「少昊風鳥氏爲ニ曆正。夏后曰ニ太史。周禮爲ニ春官宗伯之屬。秦爲ニ太史令。唐乾元元年改曰ニ司天監。宋朝(中)復爲ニ太史令。漢代司馬談大史令タリ。(ヲ見ヨ)

**【太師】** 三公ノ一、(一)殷ハ紂ノ時箕子太師タリ。(二)周ハ武王ノ時太公望太師タリ。成王ノ時周公並ニ太師タリ。周公薨ズルヤ畢公之ニ代ハル。但シ周公ハ太宰即チ六卿ノ首ヲ以テ太師ノ職ヲ兼ヌ。(三)秦漢ハ常ニ置カズ平帝ノ時始メテ置ク。獻帝ノ初董卓太師タリシガ卓誅セラル、ヤ又廢ス。(四)魏ハ置カズ(後魏三公) (五)晉ハ初メ周禮ニ依リテ三公ヲ備置シ太師其首タリ。景帝名ハ師ナルヲ以テ太宰ヲ置キテ之ニ代フ。太宰ハ古ノ太師ナリ。(六)後齊ハ後魏ニ循ヒテ太師、太保ヲ置キテ三師ト爲ス(七)唐ハ太師一人ヲ置キ以テ四海ノ儀刑トス。(八)宋ハ尤モ太師ヲ重ンジ、趙韓王ハ偉勳ヲ以テ任セラレ文淵公ハ年功ヲ以テ任ゼラル。其後司空ヨリ五選シテ太師ニ至ルヲ例トス。(九)元制ハ三公ノ部ニ詳ナリ。(新編古今事文) **【太子】** 後世ノ皇太子、太子ノ名ハ周代ニ起ル漢ニ至リテ皇太子ト稱ス。事物紀原「唐虞而

上。皆傳之賢。故無太子之文。夏商之王。雖傳之子。其文略矣。至周始見。文王世子之目。武王繼之稱太子發。此其始也。漢天子號皇帝。故其嫡稱皇太子。漢書高祖紀。五年二月甲午。漢王即皇帝位。尊太子曰皇太子。此其始也。(卷一)

【太子賓客】 唐始メテ官名ト爲ス。以後明ニ及アマデ之アリ。太子附ノ官ナリ。

【太上皇】 皇帝ノ父ノ稱ト爲ス。秦ニ始マル。秦始皇莊襄王ヲ追尊シテ、太上皇ト爲ス。秦世紀皇帝ノ上ニ在リ。故ニ「太上皇」ト稱ス。即チ死後追尊ノ號ナリシガ漢高祖太皇太后ト稱ス。唐睿宗皆尊ビテ太上皇ト爲シ南北朝齊武帝、唐睿宗皆位ヲ太子ニ傳ヘ自ラ太上皇ト稱ス。則チ又皇帝生在ノ父ノ稱ト爲ル。

【太上老君】 道家老子ヲ崇奉シテ、太上老君ト稱ス。(老子内傳)

【太常】 太常ハ元ト旗ノ名、一ニ「太常」ニ作ル。秦代官名ト爲シ「奉常」ト曰フ。漢始メテ

太常ト爲ス。宗廟禮儀ヲ掌ル。【事物紀原】周禮奉官職也。秦有三奉常。漢初改曰太常。蓋秦官也。初學記曰。高祖改。漢百官表曰。景帝中六年改。(卷五)

【太常寺】 秦代創設ノ官名、但シ秦ハ「奉常」ト曰フ。漢改メテ「太常」ト爲ス。宗廟禮儀ヲ掌ル。北齊ニ至リテ「太常寺」ト爲ス。卿、小卿各一人アリ。宋代一時「太常禮院」ト稱ス。清朝ノ制最モ備ハリシガ光緒三十二年ノ官制改革ニ依リテ禮部ニ併歸ス。後禮部ト共ニ廢ス。

【太常丞】 太常寺ノ職官、丞ハ補助官ナリ。【事物紀原】「奉常置官。漢爲太常。亦曰太常丞。(卷五)

【太常博士】 魏文帝ノ時創設ノ官職、禮典ノ故實ヲ掌ルコトヲ主トス。【事物紀原】魏文帝初置之。顏師古注漢書曰。太常。王者旌旗。畫日月。大事則建以行。禮官主奉之。持之。故曰太常。後改曰太常。尊大之義也。(卷五)

【太府】 官名、周代天官ニ屬ス。府藏ノ會計ヲ掌ル。秦漢ハ其職ヲ司農少府ニ併合ス。梁、後魏復太府卿ヲ置キ幣藏(庫)財物ヲ掌ラシム。歷代之ニ因ル。明ニ至リテ廢ス。

【太府監】 周官、太府下大夫ヨリ起ル。秦漢以後置カズ其職ハ司農小府ニ屬ス。梁、天監年ニ至リ夏卿ヲ置ク即チ太府卿、財物庫ヲ掌ル。北齊ハ兼ネテ器物ヲ進ムルコトヲ掌ル。後周ハ大府中大夫貢賦貨賄ヲ以テ國用ニ供スルコトヲ掌ル。大冢宰ニ屬ス。隋初ハ北齊ニ同ジ煬帝太府寺ヲ分チテ少府監管、尙方織染等ノ署ト爲ス。但シ京都ノ市ヲ管シ及ビ左右藏ヲ平準ス。唐之ニ因ル。卿一人、少卿二人財貨

【太保】 古代三公ノ一、品秩冠服共ニ太宰ニ同ジ。(一)周ハ成王ノ時周公之ヲ兼ヌ、後康叔畢公亦之ニ任セラル。(二)秦此官ナシ。(三)漢ハ高后元年丞相王陵ヲ以テ少帝太傅ト爲シ、金印紫綬、位三公ノ上ニ在リ。後漢ハ光武ノ時、此官ヲ置キ卓茂ヲ以テ之ニ任ス。明帝ノ時ハ鄧禹ヲ以テ之ニ任ス。章帝以後ハ天子初メテ即位スレバ皆太傅ヲ置キ尙書事ヲ錄セシム。(四)魏モ三公中唯ダ太傅ヲ置キ鍾繇ヲ以テ之ニ任ズ。(五)晉ハ宣帝魏ノ太傅タリ。(六)齊モ唯ダ太傅アリ。(七)梁ハ武帝受命ノ初官班ハ多ク宋齊ノ舊ニ同ジク太傅アリ。(八)陳ハ贈官ト爲ス。(九)後齊ハ太師、太傅太保ヲ置キ是ヲ三師ト爲ス。(十)唐ハ太傅一人ヲ置ク。(十一)元制ハ三公ノ部ニ在リ。(古今事文)

【太清樓】 宋代書庫ノ名。【大率衍義補】「嚴宗設レ官提舉。募レ工繕寫。一置三宣和殿。一置太清樓。一置三秘閣。其寓レ意深矣。(卷九)

【太中大夫】 秦此官ヲ置キテ議論ヲ掌ラシム。漢晉以來皆之ニ因ル。隋以後散官ト爲ル。元明ハ三品ノ階官ト爲シ清ニ至リテ之ヲ廢ス。

【太內】 (一)天子居ル所(即チ)大内ト曰フ。【宋會要】「今大内。即宣武軍節度住所。(二)京師ノ府藏ヲ謂フ。【史記】武帝紀「以大内爲二千石。置左右内官。屬大内。」其註「大内。京師之府藏也。」

【太妃】 魏晉以來諸王ノ母ヲ太妃ト稱ス。【事物紀原】「前司馬氏之晉。帝母。其嫡爲皇太后。所レ生爲皇太妃。晉書后妃傳。章太妃周氏生哀帝。拜貴人。帝即位。有司議位號。詔崇爲皇太妃。其禮自晉哀帝始也。(卷一)

【太夫人】 漢代列侯ノ母ヲ尊ビテ太夫人ト稱

人之ヲ管ス。朝官ヲ以テ充ツ。凡ソ財貨、廩藏、貿易、四方貢賦百官俸秩ノ事皆錄ス。元ハ寺ヲ改メテ監ト爲シ監一人、少監一人、丞二人ヲ置キ邦國財用錢穀ヲ出納スルコトヲ掌リ左右藏諸倉坊學署ヲ管轄ス。(古今事文類聚卷三十二)

【太廟】 天子太祖ノ廟ナリ。古制ニ在リテハ天子ニ七廟アリ。所謂三昭三穆(サレノ部本)ト太祖ノ廟トナリ。太祖ノ廟ハ其列ニ在ラザルガ故ニ太廟ト曰フ。然レドモ【明律】「清律」ニ於テ太廟門トアルハ七廟ヲ合シテ言フ。兩律兵律宮衛篇「太廟門擅入」ノ條同文ヲ以テ「凡擅入太廟門及山陵兆域門者。杖一百。太社門杖九十。云云。」(明律卷十三清律卷十七其註)

【太保】 古代三公ノ一、(一)殷太甲ノ時伊尹之ニ任ズ。(二)周成王ノ時召公之ニ任ズ。(三)漢ハ平帝元始元年之ヲ置キ金印紫綬。太傅ニ次グノ官トス。始メテ王莽ヲ以テ之ニ任ズ。後漢ハ置カズ。(四)魏ハ末年鄧沖ヲ以テ之ニ任ズ。(五)晉ハ王祥ヲ以テ太保ト爲シ爵ヲ進

メテ公ト爲ス。(六)陳ハ贈官ト爲ス(七)後齊ハ太師、太傅、太保ヲ置キテ三師ト爲ス。(八)唐ハ太保一人ヲ置キ、天寶以前惟ダ其官ヲ以テ賈季謀ニ贈ルノミ。(九)元ノ制ハ三公ノ部ニアリ。(事文類聚)

【太ト】 官名、殷代已ニアリ。周代ハ春官ニ屬スト、夏官ノ長ナリ。秦漢、太ト令アリ。後漢大史ニ屬ス。北齊、太ト局丞アリ。隋唐、太ト令ト曰フ。宋以後廢ス。

【太ト令】 (前條ヲ見ヨ)

【太僕】 官名【周禮】夏官ノ屬、太僕アリ、秦漢之ニ因リ九卿ノ一ト爲ス。與馬及ビ牧畜ノ事ヲ掌ル。北齊ニ、太僕寺アリ。卿及ビ小卿各一人ヲ置キ其職ヲ監理セシム。其後歷朝之ニ因ル。清光緒官制ヲ改革シ陸軍部ニ併入ス。

【太僕寺】 (上條ヲ見ヨ)

【對】 (部首) (韻)

【對越】 越ハ於、對ハ答フ。天地神明ニ答フ

ルノ義ナリ。【詩經】周頌清廟篇、齊齊多多。秉文之德。對越在天。駘奔在廟。【晉書】元帝紀「臣聞天生蒸民。樹之以君。所以對越天地。司牧黎民。」

【對捍】 對抗捍ノ略語、制使又ハ官吏ニ對シテ其命ヲ拒ムコトヲ謂フ。【唐律】職制篇「指斥乘輿」ノ條「對捍制使」而無三人臣之禮者絞。トアルハ其用例ナリ。(十)

【對款】 相對シテ懇談スルノ義ナリ。【蒙陰比事】「王安禮右丞。知開封府。時或投書告一富家有二逆謀。都城稍恐。安禮不以為然。後數日有旨。根三治搜驗富家事。皆無跡。因問會與誰爲仇。對以數月前黨狀馬生者。有所貸而弗與。頗積怨言。於是密以他事一攝馬生一至。對款。取匿名書一較之。字無少異。訊物引伏。此乃用二潤脫奸之術。」(下)

【對策】 天子時務ニ關スル策ヲ出シテ之ニ對シメ士ヲ採用スルコト、即チ人材登用ノ試験問題ナリ。【漢書】公孫弘傳「弘至太常。上

策詔諸儒。對者百餘人。太常奏。弘第居下策。奏。天子擢弘第一。」

【對同】 官文書ノ文字ヲ對照校合スルノ謂ナリ。【明律】吏律公式篇「增減官文書」ノ條「上略傳寫失錯。而洗補改正有。吏典管三十。首領官失於對同。減二等。云云。」(明律卷三)

【對揚】 天子ノ問ニ奉答シ其意ヲ廣ク宣揚スルコトヲ謂フ。【書經】說命下篇「敢對揚天子

之休命。」

【對問】 原被兩告若クバ同犯者ヲ相對シテ訊問スルコトヲ謂フ。【明律】刑律斷獄篇「帶」(部首) (韻)

【帶】 (部首) (韻)

【帶耗】 鹽ハ每引二百斤ヲ一袋帶ト爲シ其耗額ヲ五斤ト爲シテ加算ス。之ヲ「帶耗」ト謂フ。【明律】清律「戶律課程篇」鹽法ノ條「凡起運官鹽。每引二百斤爲一袋帶。帶耗五斤。」(明卷八清律)

【帶甲剩員】 宋制、普通ノ剩員(陶汰)中ヨリ強壯尙水用フベキ者ヲ以テ「帶兵剩員」ト爲シ有事ノ時ノ使用ニ備フ。【事物紀原】「大中祥符五年八月。詔河東諸州軍。昨前歲剩員者。如開向多強壯。可併爲帶甲。以備給使。」(十卷)

【帶官侍】 (官ヲ帶ビ) 祖父母父母老疾(唐律十以上ヲ老ト爲ス、疾)ニ難ミ他ニ侍養スルハ篤疾ナリ本條ヲ見ヨ)ニ難ミ他ニ侍養スル者ナキ場合ハ仕官シテ任ニ赴クコトヲ得ズ。

【帶罪徵收】 州縣官ガ錢糧ノ徵收ニ力メザルトキ、上官其ノ罪ヲ冊ニ書シ罪ヲ帶ビタルマ、錢糧ヲ徵收セシムルコトヲ謂フ。【六部成語註解】「州縣經徵不力。上官書其罪於冊。仍責令帶罪徵收錢糧。」

【帶造】 官設織造局ニ於テ密ニ私用ノ段匹ヲ造ルコトヲ謂フ。【明律】「清律」工律織造篇「帶

造段匹」ノ條アリ。同文ヲ以テ「凡監臨主守官吏將自己物料。輒於官局一帶造段匹者杖六十。云云。」(明律卷二十九)

【帶地投充】 清制、民人ガ土地ノ所有權ヲ帶來シテ旗人ニ隸屬スルトキハ其土地ヲ「帶地投充」ト謂フ。

【帶徵】 帶ハ代又ハ替ト同義、即チ前官ガ租稅ノ徵收未了ラザル以内他ニ轉任シタル場合後任ノ官ガ之ニ代リテ租稅ヲ徵收スルコトヲ謂フ。【六部成語註解】「代替也。此官經徵未了。以事他去。後官代爲徵收也。」但シ【辭源】ハ「國家荒歉ノ爲メニ徵收ヲ停止シタル錢糧ヲ數年ニ分賦シ各該官廳本年ノ錢糧ト同時ニ徵收スルノ義」ト爲ス。

【帶徵銀】 前任官ガ後任官ニ其一年中ノ徵稅不足額ヲ交付シ、後任官之ヲ正稅ニ附帶シ、年ヲ分チテ徵收シ其不足額ヲ補足スル銀兩ヲ謂フ。【六部成語註解】「一年中交不足額之款。分年帶徵以補足。」

【帶來地】 清制、民人ガ旗籍ニ入ランガ爲メニ帶ビ來リタル土地ヲ稱ス。

【待】 (部首) (賄) (韻)

【待罪】 (罪ヲ) 出征等其大命ヲ拜シタル者ガ之ヲ拜受スル謙辭、任重ク非方ヲ以テ之ニ當ルハ問責ノ罪ヲ待ツノミトノ意ニ出ヅ。【史記】衛青傳「臣幸得待罪於行間」是レ其一例ナリ。

【待制】 官名、天子顧問ノ職、唐代ノ創設ニ係ル。文官六品以上輪日(毎日)ヲ以テ待制シ以テ顧問ニ備フ。或ハ集賢門ニ待制ス。宋代ハ殿閣皆待制ノ官ヲ置ク。保和殿待制、龍圖閣待制ノ如シ。此等ハ侍從顧問ノ職ナリ。遼金皆翰林待制アリ。元明之ニ因ル。後廢ス。

【待詔】 (一) 此語ハ漢初代ニ始マルモ最初ハ召サレテ閣下ニ至リ命ノ下ルヲ待ツノ義ニ用フ。【漢書】公孫弘傳「天子擡弘對」爲「第二」召入見ニ容貌甚麗。拜爲「博士」待詔金馬門。其後漢代ハ四方ヨリノ上書ハ皆詔ヲ公車ニ待タ

シム。之ヲ「待詔」ト謂フ。唐代ハ翰林院ニ「待詔所」ヲ設ク。凡ソ經學文詞アル者若クバト第技術ノ流ニ至ルマテ皆別院ニ直シテ天子ノ詔問ニ備フ。玄宗ノ時翰林待詔ヲ置キ張說等ヲ以テ之ニ任ズ。遼ニ「翰林院待詔」アリ。明亦「翰林院對詔」アリ。以テ應對ニ備フ。秩從九品ナリ。清之ニ因ル。(二) 埋髮匠ヲ呼ビテ待詔ト爲ス。

【待對】 (キ)ノ部、物賦停

【待旦】 政事ニ勤メテ寢ニ就クニ違ナキコトヲ謂フ。【書經】先王昧爽不顯。坐以待旦。【老學庵筆記】禁中未明前十刻更終。謂之待旦。

【待漏】 (下條ヲ) (見ヨ)

【待漏院】 朝臣毎晨入朝スルトキ開門時刻マデ集會スル所ヲ謂フ。【國史補】元和初置待漏院。爲「朝臣晨集之所」。元和ハ唐憲宗ノ年號ナリ。宋代亦同院アリ。【宋史】禮志「朝會常參官。並早赴待漏院。缺開內門。蓋待漏ト曰フ

ハ漏刻ノ鳴ルヲ聽キテ入朝ス。故ニ入朝ノ時翹々待漏ト曰フ。

【擡】 (部首) (灰) (韻)

【擡院】 (サ)ノ部、三

【擡家】 御史臺官員ノ略稱ナリ。【元典章】臺綱編、體察體覆章「臺家聲跡體覆」ノ條アリ。

【擡擧】 (卷) 此義ニ用フ。

【擡擧】 擡ハ高擧ノ義、人ヲ獎拔スルコトヲ謂フ。【張元晏、文】「駱谷二轉遷。盡由二擡擧」

【擡轎】 (擡キ) 轎ハ輿、擡ハ輿ヲカクコトヲ謂フ。【明清律兵律郵驛篇】

【擡估】 五代ノ時ハ百官ノ俸廩(即チ)ハ皆供軍ノ餘ニ取ル。不足ノ場合ハ有司ニ命ジ米價ヲ高ク評價セシメテ支給ス。之ヲ「擡估」ト謂フ。【五代史】「百官俸廩。皆取二供軍之餘。不填者。命二有司。高估二其價。估定又增。謂之擡估」

【擡寫】 上奏及ビ一般文書中皇室天地設寮等

ニ關スル文字ハ、別行(或ハ)ノ一段高キ所ニ上グルコトヲ謂フ。此書式ハ清朝ニ於テ特ニ嚴重ナリキ。清朝ノ擡寫ニハ單擡、雙擡、三擡ノ別アリ。單擡ハ一般ノ字格ヨリ一位ヲ高クシ、雙擡ハ二位ヲ高クシ、三擡ハ三位ヲ高クス。單擡ハ皇帝ノ宮殿政府ノ性格及ビ臣民ノ皇帝ニ對スル行爲ヲ指示スル文字ニ用キ、雙擡ハ皇帝皇后ノ性格及ビ行爲ヲ指示スル文字ニ用キ、三擡ハ皇帝ヨリ一等高キ地位ニ在ル列祖列宗太上皇、皇太后並ニ天地郊壇太廟等ニ用キルヲ法トス。

【擡頭】 書式ハ書中貴顯ノ人名ヲ一段又ハ二段高ク間ヲ隔テ、書クヲ「擡頭」ト爲ス。

【替】 (部首) (霽) (韻)

【替僧】 明制、凡テ皇太子諸王生ル、ヤ率ネ幼童一人ヲ割髮シテ僧ト爲ス。名ゲテ「替僧」ト曰フ。【張江陵集】

【替補】 兵役ニ出ヅベキ丁年者ガ軟弱殘疾等ノ場合ハ他ノ丁年者ヲ以テ代補セシムルノ義

ナリ。【元典章】兵部第一篇「替補」ノ章アリ。(卷三) 此義ナリ。(十四)

【替漏】 皇位ノ禪讓、中間缺漏スルノ義ナリ。【三國志】註「堯捐二骨肉ニ而禪ニ有虞。舜發二醜。而君二天下。其相受授。間不替漏。所以急二天命。天下不替可二一日無レ君也」

【泰】 (部首) (泰) (韻)

【泰皇】 人皇ノ最モ貴トキ者ニシテ太皇伏羲氏ヲ指ス。【史記】秦紀「古有二天皇。有二地皇。有二泰皇。泰皇最貴。其註、按。天皇地皇之下。即云二泰皇。當二人皇也。而漢書封禪書云。昔者大帝使二素女鼓瑟而悲。蓋三皇已前稱二泰皇。一云泰皇。太皇也」

【泰水】 俗ニ妻ノ母ヲ稱シテ「泰水」ト爲ス。【歸田錄】

【泰昭】 四時ヲ祭ルトキノ壇ノ名ナリ。【禮記】祭法篇「埋二小宰於泰昭。祭時也」。陳註ノ註「泰昭。壇名。祭時。祭二四時一也」。【學衍義卷五

【泰折】 地ヲ祭ルトキノ壇、地形ヲ方ニシタル丘ナリ。【禮記】祭法篇「瘞二埋於泰折。祭地也」。陳註ノ註「泰折。即方丘。如二折疏之義。喻二方也」。【禮記註疏大學衍義補卷五十五】

【泰半】 泰ノ中ナルハ一半以上ヲ曰フ。賦稅ノ苛酷ナルヲ意義ス。【漢書】「始皇內興二工作。外攘二夷狄。征二泰半之賦」

【泰壇】 天ヲ祭ルトキノ壇、地形ヲ圓クシタル丘、泰ハ尊敬ノ辭ナリ。【禮記】祭法篇「燔二柴於泰壇。祭天也」。陳註ノ註「泰壇。圓丘。泰者尊レ之也」。【禮記註疏大學衍義補卷五十五】

【泰帝】 太皇伏羲ノ異稱ナリ。【漢書】「泰帝使二素女鼓二五十五絃。悲。帝禁不レ止。故破二其瑟。爲二二十五絃」。其註「泰帝亦謂二泰皇也」

【泰厲】 古ノ帝王後ナキ者ノ靈ヲ謂フ。其鬼依歸スル所ナシ。好ミテ民ニ禍ヲ作ス。故ニ之ヲ「泰厲」ト稱シテ祀ル。【禮記祭法】及ビ其註

滯(部首) (韻)

【滯貨】市場ニ積滞セル貨物、價値ナキ物ナリ。抱扑子「和壁變爲滯貨」府「見」

【滯獄】訟獄即チ訴訟事件ノ滯滞スルコトヲ謂フ。【南史】梁始興王憺傳「憺爲都督荊州刺史。曹無留事。下無滯獄。」

胎(部首) (韻)

【胎】臺灣ノ特殊慣習ノ一、債務者が債權者ニ對シ、義務履行ノ保障トシテ物件ヲ提供シ、金錢ヲ借ルコトヲ謂フ。此慣習ハ支那本土ニ於テモ實、典、當等ト共ニ行ハル、コトハ省例等ニ「私當短胎」等ノ語アルニ徴シテ知ルベシ。臺灣ニ於テハ乾隆年間既ニ此名ヲ用キタル記録アリ。蓋シ南清地方ヨリ移住スル者増加スルニ及ビ、民間經濟上ノ必要ニ因リテ發生シタルモノト思惟セラル。胎ノ意義ニ就キ臺灣人ノ説ク所ニ依レバ或ハ曰ク「胎債必有物在」其中。若「價胎」然。或ハ又曰ク「後人以ニ

胎字。有母子之義。而爲借母生子之附會上手。ト、要スルニ胎債ハ借主ヨリ貸主ニ必ズ信憑物ヲ交付スルコト、恰モ懷胎ニ似タルモノアルガ故ニ、此名ヲ附シタリト云フニ在リ。今之ヲ其實際ニ徵スルニ、其最モ多ク行ハルハ、不動産及ビ不動産權ニ關スル字據即チ證書ヲ抵當トシテ貸借スルモノニ係ル。是レ胎ノ特色ナリ。尙ホ胎ニハ對價胎債、起耕胎債等ノ種別アリ。前者ハ一ニ匯租トモ稱シ、其特色ハ債務者ノ外ニ其字據ノ主體タル不動産ノ個人(小作)又ハ借家人等ヲ加ヘ三面會議ヲ以テ契約ヲ結ビ、債權者ハ直接ニ其個人又ハ借用人ニ就キテ契約上ノ利子ニ相當スル小作料又ハ家賃ヲ收受スルコトヲ得ルノ點ニ在リ。後者ハ債權者が字據ヲ占有スルノミナラズ。其目的物タル不動産ヲ占有シ、之ヲ使用及ビ收益スルコトヲ得ルノ點ニ在リ。(臺灣私法)

【胎權】債權ノ擔保トシテ、不動産ニ關スル契券ノ占有ヲ取得シ、又ハ不動産不動産上或ル

範圍ニ於テ權利ヲ取得スルモノ、要スルニ我内地法ノ抵當權ニ似テ非ナルモノナリ。(臺灣法第一卷)

【胎養穀】特別ノ恩意ヲ以テ妊婦及ビ胎兒ノ扶養料トシテ下賜スル穀ヲ謂フ。【後漢書】詔令「諸懷妊者賜胎養穀三斛。」

【胎養令】漢制、子兒ヲ懷妊スル者ニハ穀ヲ給シテ保嬰セシメ又其夫ノ賦役ヲ免セリ。其法ヲ「胎養令」ト曰フ。【漢書】章帝紀「元和二年春正月乙酉詔曰。令云。有產子者。復勿算三年。今諸懷妊者。賜胎養穀。人三斛。復其夫。勿算一歲。著以爲令。云云。後世ニモ其例アリ。(玉海卷六十五)

臺(部首) (韻)

【臺】(一)物見臺、氣氣ヲ望ミ災祥ヲ察シ時ニ之ニ遊ビテ勞佚ヲ節スル處トス。後世ハ概シテ高臨遊觀ノ所ト爲ス。(二)尊稱ノ詞、尊臺、賢臺ノ類ナリ。(三)清代郵便ノ一種ニシテ

西北ノ兩路ニ設置セルモノヲ謂フ。【會典】兵部「西北兩路所設爲臺」トアルハ是ナリ。

【臺院】臺院ハ御史臺ノ稱ナリ。御史ノ名ハ【周禮】春官宗伯ノ屬ナル御史ニ出ツ。本ハ一種ノ史官タリシモ、漢代以後ハ主トシテ殿中ニ給事シ、百官ヲ彈劾シ、官紀風俗ノ肅清ヲ保持スルコトヲ職トスルニ至レリ。(歷代職官表)

【臺閣】東漢ノ光武帝ガ前漢ガ大政ヲ臣下ニ委シタルノ結果、終ニ篡奪ノ禍ヲ招キタルニ鑒ミ、大政ハ親ラ之ヲ裁シ、其親ヲ裁スル能ハサルモノハ尙書ニ任シタリ。尙書ノ官署ヲ「尙書臺」ト稱シ、又「臺閣」ト稱シタリ。(漢後書傳)

【臺諫】唐ニ於テハ侍御史、殿中侍御史、監察御史ヲ「臺」ト爲シ、諫議大夫、拾遺補、諫議正官ヲ「諫」ト爲シ侍從規諫ヲ掌ラシメタリ宋代亦稱シテ「諫院」ト爲シ臺官ハ則チ專ラ官邪ヲ糾劾スルコトヲ主トリ各職守ヲ分ツ。給事中ハ諫議ト同ジク門下ニ居ルト雖モ其職ハ但ダ封駁書牘ヲ主トシ敢テ諫議ト同ジカラズ。

後世門下省ヲ廢シテヨリ諫議、司諫、正言等隨テ俱ニ廢セラレ、諫院已ニ久シク其官ナカリシガ明代給事中實ニ前代諫議等ノ職ヲ兼ユルニ至ル。故ニ流俗遂ニ御史ヲ稱シテ「臺諫」ト爲シ給事中ヲ稱シテ「給諫」ト爲スニ至ル。

【臺獄】御史臺ニ屬スル監獄ノ名。唐ノ李乾祐ニ始マル。【事物紀原】唐書崔隱甫傳曰。隱甫拜御史大夫。初臺無獄。凡有囚。則繫大理。正觀時。李乾祐爲大夫。始置獄。隱甫執政。事罷之。後患囚往來漏泄。復繫三除院。則臺之置獄。自李乾祐始也。(十)

【臺獄】御史臺ニ設クル獄舎ノ名。唐ノ李乾祐ニ始マル。【事物紀原】唐書崔隱甫傳。隱甫拜御史大夫。初臺無獄。凡有囚。則繫大理。正觀時。李乾祐爲大夫。始置獄。云云。(十)

【臺堊】杯堊ノ一種ナリ。【辭源】「ハ」有托之堊。曰「臺堊」ト記ス。

【臺選】唐代李元紘杜運ノ要路ニ當ルヤ宋瑋ヲ表シテ吏部尙書ト爲シ齊澣及ビ蘇晉ヲ侍郎

ト爲ス、世之ヲ稱シテ「臺選」ト曰フ。

【臺端】雜事ヲ掌トルヲ「雜端」ト曰ヒ、殿中監察ノ職ガ進名遷改(推薦、遷任)及ビ令史ノ考第(試験)ヲ掌リ又御史臺ノ事務ヲ專決スルヲ「臺端」ト曰フ。(唐書百官志及「臺端」ト曰フ。(杜氏通典)

【臺郎】尙書郎ヲ謂フ。(晉書賀)

退(部首) (韻)

【退引】退引トハ引即チ鹽又ハ茶等ノ引(鹽)ヲ官司ヘ返納スルコトヲ謂フ(明會典)

【退隱】年七十二進仕ヲ致シテ閑地ニ就クコト即チ邦俗ノ「隱居」ノ義ナリ。(禮記曲)

【退避三舍】晉ト楚ト城濮ニ戰フ晉三舍ヲ退キテ之ヲ避ケ致テ與ニ爭ハズ。古ハ師行三十里ニシテ舍ス。三舍ハ即チ九十里ナリ。今借用シテ人ニ屈服スルノ意ト爲ス。(三舍)ヲ見

【退間】職ヲ退キテ閑居スルコトヲ謂フ。(宋史)



【退食】(一)朝廷ヨリ誤キテ食事ヲ爲スコト、即チ退朝歸宅ノ義ナリ。【詩經】召南羔羊篇「退食自公。委蛇委蛇。」(二)「減食」ノ義ニモ使用ス。

【退省】【論語】「退而省其私。亦足以發。」トアルニ出ツ。此語ハ孔子ガ顔回ヲ美メタル詞ニシテ、即チ顔回ガ孔子ノ前ヲ退キ自己ヲ反省シ夫子ノ道ヲ發明スルニ足ルトノ義ナリ。後世ハ自省ノ義ニ使用ス。

【逮】(部首)(訓) 己レ罪ヲ犯スニアラズ他人ノ犯罪ニ連累スルコトヲ謂フ。(「キレノ部」及「ラ見ヨ」)

【逮係】漢制、被告人ヲ逮捕シテ繫留スルコトヲ謂フ。【大學衍義補】「是時丞相勃免就獄。人有告謀反者。逮係長安獄。云云。」(卷百七)

【逮繫】前者ト同義ナリ。【漢書】刑法志「齊太倉令淳于公有罪。詔獄逮繫長安。」

【欽】(部首)(訓) 漢代刑具ノ一、頸ニ在ルヲ「錯」ト曰フ

足ニ在ルヲ「欽」ト曰フ。(下二語引例參照)

【欽右趾】(右趾ヲ)刑具ノ一、錯ナリ。頸ニ在ルヲ錯ト曰ヒ足ニ在ルヲ欽ト曰フ。【漢書】武帝紀「敢有私鑄鐵器者。欽右趾。沒入其器物。」(史記武帝紀同一記事)

【欽左右趾】(左右趾)漢制、左右ノ趾ヲ拘束スル刑、足械ノ類ナリ。【增補】「在レ頸曰錯。在レ足曰欽。」(前條引例)漢文帝肉刑ヲ廢スルトキ此刑ヲ以テ刑(左右ノ趾)ニ代フ。【漢書】刑法志註「臣瓚曰。文帝除肉刑。皆有以易之。故以完易。完。以管易。刺。以左右趾。易。則。【史記平準書】「欽左趾。註。踏脚錯。張斐ガ漢書律ノ序。狀如跟衣(足)著足下。重六斤。以代刑。【後漢書】光武紀註「錯欽也。【漢書音義】欽。足錯也。【後漢書】朱穆傳「臣願斷首繫趾。註。繫趾。謂欽其足也。以鐵著足。曰欽。」

其本身私事ハ俱ニ奏本ヲ用キ印ヲ用キルコトヲ准サズ。清初ハ科道及ビ在京滿漢各員ノ奏摺ハ俱ニ徑テニ宮門ニ詣リテ陳奏セシム。軍機處ヲ立ツルニ及ビテ内外官員凡テノ緊要事務ハ概シ奏摺ヲ具シ軍機處ニ送ルヲ例トシ、通政司内閣ニ送ルノ題本ニ至リテハ公事ヲ例行スル虛名ニ過ギザルノミ。故ニ光緒庚子以後題本ヲ廢シ專ラ奏摺ノミヲ用キルニ至レリ。

【題調】清制、地方長官ガ其職權ヲ以テ官吏ヲ任用スル形式ヲ謂フ。故ニ「一ニ之ヲ「外補」トモ稱ス。(吏部ノ銓選ヲ内選)詳言スレバ題トハ上奏ノ義、調トハ官缺(官吏ノ)ヲ其部内ニ於テ轉換スルコトニシテ、即チ此ノ場合ニハ吏部ノ手ヲ經ズシテ、直接奏請ノ上調用スルコトヲ得。(會典)吏部

【題補】或ル官衙ニ缺員ヲ生ジタル場合ニ、所屬長官ガ其屬官中ヨリ例ヲ揆シテ適任者ヲ揀選シ、奏請補用スルコトヲ謂フ。(清會典吏部及比六

【題絨】(部首)(訓) 官職ヲ附屬シタル封書、唐代權臣ノ定メタルモノニシテ後世ノ題本ノ類ニハアラズ。【事物紀原】「事始曰。唐元和中李趙公權領天下。四方輻輳日至。蒲路帥部士美有珍獻。趙公。報書。致殷勤。誤入。振武封中。振武阿跌光進知。其誤。還之。公因命。書吏。凡有。書題。各籤。官職。以送之。於。今。爲。式。曰。題。絨。」(卷一)

【題缺】清制、題缺トハ官吏任命ノ手續ニシテ、地方長官ヨリ直接具奏シテ任用スルコトヲ謂フ。詳言スレバ官吏ノ任用ハ吏部之ヲ掌ルモ地方官廳等部下ニ缺出アリタルトキハ其長官(即チ總督巡)ハ直接任用ノ手續ヲ爲スコトヲ得ルモノトス。(會典)吏部

【題估】清制、工事ヲ興ス場合ニ、奏准ノ後當該州縣ヨリ經費ノ豫算ヲ立テ帳簿ニ記入シ、上司ニ送ル帳簿ヲ「估冊」ト曰フ。上司之ニ對シ調査ヲ爲シ、其帳簿ヲ中央政府ニ送ルヲ「題估」ト曰フ。(工部)則例

【題本】清制、京師外省各官廳ノ長官ヨリ大抵成例ニ照シテ事ヲ行フベキ場合ニ、皇帝ニ奏呈スル何書ニシテ、外省ノ題本ヲ「通本」ト曰ヒ、六部ノ題本ヲ「部本」ト曰フ。而シテ題本ハ内閣ヨリ送呈シ、批本官命ヲ承ケテ批出スルヲ法トス。【皇朝政治學問答】「京外皆有題本。題本有。限期。大約。照。例。之。事。用。題。本。題本由。內閣。通呈。批本官批出。交。六。科。領出辦理。」

【題留】題ハ奏ノ義ナリ、即チ京師ニ解送スベキ款ヲ奏請シテ之ヲ留置シ、其省ノ需用ニ充ツルコトヲ謂フ。【六部成語註解】「題亦奏也。應。行。解。京。之。款。奏。請。存。留。本。省。需。用。」

【體解】秦代ノ酷刑、肢體ヲ分解スル刑ナリ。【史記】秦紀「體解。以。徇。何。荊。何。指。體。」

【體究】犯罪人ヲ根本的ニ詮議スルノ義。體察ト同義ナリ。【元典章】臺綱。體察。覆。覆。察

【題准】題准トハ前掲ノ題本ヲ以テ上奏シタル事件ニ對シ、裁可ヲ與ヘタルモノヲ謂フ。(雍正會典及比)乾隆會典吏部

【題署】官文書封筒ノ宛名ヲ謂フ。【唐律】職制篇「驛使不依題署。ノ條。諸驛使受書。不依題署。誤詣。他。所。者。云云。」トアルハ其一例ナリ。(十卷)

【題銷】題銷トハ經費ノ收支計算ヲ爲シテ奏聞スルコトナリ。題ハ奏ノ一種ニシテ即チ題本ニ依リテ決算報告ヲ爲スコトヲ謂フ。(清會典)吏部

【題疏】藥名ヲ其袋ニ題シ其用法ヲ註明スルコトヲ謂フ。(唐律卷二十六雜律)醫合藥不如方ノ條

【題奏】明制、區下上ツル章疏ニ「題本」ト「奏本」トノ別アリ。題奏ハ兩者ノ略ナリ。凡ソ兵部、刑部ノ錢糧。地方民務ニ關スル大小公事ハ皆題本ヲ用キ、官員印ヲ用キテ具題スルヲ例トシ、通政司ニ送リ内閣ニ轉交シテ入奏ス。

司體察等例ノ條、上其管軍官亦不得取受錢物。私放軍人。及冒名代替。如違仰。體究得實。申臺呈省。(卷六)

【體國經野】(國ヲ體シ)身ニ體アルガ如ク國土ノ區劃ヲ分別シ。經緯アルガ如ク野ト郊トノ境域ヲ區別スルコトヲ謂フ。(周禮六)

【體國立法】(國ヲ體シ)國家ノ組織ヲ形作りテ法制ヲ立定スルコトヲ謂フ。【大學衍義補】自古以來體國立法。未有盜一錢一而死者也。(卷百十)【錢業市之法】見一

【體察】犯罪人ヲ根本的ニ究明スルノ義。元典章【養刑篇】體察體覆ノ目アリ。犯罪人ヲ根本的ニ偵察檢舉ノ條項ヲ開列規定ス。(卷六)

【體太乙】天子ノ別稱ナリ。【淮南子】體太乙者。半龍天地。彈歷山川。含吐陰陽。申洩四時。紀八極。經六合。(錦字箋卷一)【體用】體ハ原則、用ハ作用ナリ。【辭源】凡理法之見ニ於行事者。謂之用。其所自包ニ之

原理。謂ニ之體也。

【體例】體ハ實質、例ハ形式ナリ。【晉書】刑法志「革法創制。當先盡開塞利害。理一舉而錯之。使體例大通而無二否滯。今ハ辦事ノ規則。文詞ノ格式皆之ヲ體例ト謂フ。

【體覆】再調査ノ義ナリ。【元典章】吏部教官篇「體覆山長」ノ條、略「仍就呈按察司一體覆。施行。(卷九)

【體例】今ハ各官事ヲ辦ズルノ規則之ヲ體例ト謂フ。【元典章】禮部教官篇「學官考滿體例」ノ條アリ。到ニ考滿。學正山長俱令廉訪使體覆。及錄ニ連所樂文字。一行。移集賢院。云云。(卷九)

【倒(部首)】(路引ヲ)舊路引(旅行)ヲ廢シテ別ニ新路引ヲ給スルコトヲ謂フ。【清律】兵律開津篇「路引給路引」ノ條、註「謂倒其舊引。而換給新引也。(卷十)

【倒困】困ハ米ヲ貯フル處(廩)盡ク其貯フル米ヲ出スコトヲ謂フ。【宋史】「人人皆倒困。以應之」

【倒灌】河水ガ逆流シテ上ニ溯ルコトヲ謂フ。【六部成語註解】「水逆流而上也」

【倒斛】悉ク斛中ノ米ヲ出スノ義ナリ。【六部成語註解】「傾出斛中之米也」

【冬(部首)】(冬)【冬學】農家ハ陰曆冬十月ニ入りテ間ト爲リ子弟ヲ就學セシム故ニ之ヲ「冬學」ト謂フ。【陸游詩】「兒童冬學闌三比鄰」注「農家十月。則遣子入學。謂之冬學」

【冬官】(一)【周禮】官ヲ分チテ天地四時ニ配シテ六官トス。天官冢宰、地官司徒、春官司伯、夏官司馬、秋官司寇、冬官司空是ナリ。冬官司空ノ篇亡佚シテ傳ハラザルヲ以テ漢代考工記ヲ以テ之ニ充ツ。(二)後周(六朝)ハ自ラ周ノ後裔ト稱シ官制モ【周禮】ノ官稱ヲ用フ。唐

ト曰フ。泉ハ水ノ湧クガ如ク周ネケ流通スルノ義ニ取ル。又音義錢ト通ズ。(セノ部)泉ノ義ニ取ル。(布)見ヨ

【刀筆】昔時紙筆ナキ時ハ簡牘ニ竹木ヲ用キ刀ヲ以テ筆ニ代ヘタルヲ以テ筆墨ノ意ニ用フ。【史記】蕭相國世家「太史公曰。蕭相國于秦時。爲刀筆之吏。即筆墨ノ吏ヲ稱ス。(參照)

【刀筆吏】書簡ノ事ヲ掌ル小吏、【史記】蕭相國世家「太史公曰。蕭相國何。子秦時。爲刀筆吏。錄錄未レ有奇節。後漢書劉盆子傳註「古者記事以簡冊。誤謬以刀削而除之。後世ハ訟師(辯護士)ヲ稱シテ刀筆ト爲ス。

【刀布】古ノ貨幣ノ名、其形刀ノ如シ故ニ刀ト曰フ。布ハ流布ノ意ニ取ル。三幣ノ一ナリ。(サレノ部)三【史記】平準書「龜貝金錢刀布之幣興焉。索隱「刀者錢也。以其形如刀。前漢書「利於民。註「如淳曰。名錢爲刀者、以其利於民也」

【報二任安書】「奈何令刀鋸之餘。薦天下豪傑二哉」

【刀鋸鼎鑊】漢初代以前多ク用キラタル刑具。刀鋸ハ前條ノ如シ。鼎鑊ハ人ヲ煮ル釜ナリ。蘇軾撰「留侯論」當三韓之亡。秦之方盛也。以刀鋸鼎鑊。持天下之士」

【刀圭】藥物ノ量名、本草綱目「序例」刀圭ハ十分方寸七ノ一ト爲スト記シ、【金丹玄學】「醫書ニ方寸七ト言ヒ又刀圭ト言フハ刀頭圭角些子ノミト記ス、【池北偶談】「署里雜存ニ云フ、古錯刀三枚ヲ買ヒ得タリ。形今ノ刺刀ノ如シ。其上一圓圭璧ノ形ノ如ク中ニ一孔アリ即チ索ヲ貫ク處、蓋シ服食家刀ヲ擧ゲテ藥ヲ取ル。僅ニ其上ノ圭ニ滿タス。其少キヲ言フノミト記ス。

【刀札】刀ヲ以テ人ノ身體ヲ刺シテ殺スコト、刀ハ刀劍、札ハ殺ナリ【六部成語註解】「以刀刺之也」

【刀泉】刀ハ古錢ノ名、刀ノ形ニ作ル。故ニ刀ト曰フ。泉ハ水ノ湧クガ如ク周ネケ流通スルノ義ニ取ル。又音義錢ト通ズ。(セノ部)泉ノ義ニ取ル。(布)見ヨ

【刀筆】昔時紙筆ナキ時ハ簡牘ニ竹木ヲ用キ刀ヲ以テ筆ニ代ヘタルヲ以テ筆墨ノ意ニ用フ。【史記】蕭相國世家「太史公曰。蕭相國于秦時。爲刀筆之吏。即筆墨ノ吏ヲ稱ス。(參照)

【刀筆吏】書簡ノ事ヲ掌ル小吏、【史記】蕭相國世家「太史公曰。蕭相國何。子秦時。爲刀筆吏。錄錄未レ有奇節。後漢書劉盆子傳註「古者記事以簡冊。誤謬以刀削而除之。後世ハ訟師(辯護士)ヲ稱シテ刀筆ト爲ス。

【刀布】古ノ貨幣ノ名、其形刀ノ如シ故ニ刀ト曰フ。布ハ流布ノ意ニ取ル。三幣ノ一ナリ。(サレノ部)三【史記】平準書「龜貝金錢刀布之幣興焉。索隱「刀者錢也。以其形如刀。前漢書「利於民。註「如淳曰。名錢爲刀者、以其利於民也」

【報二任安書】「奈何令刀鋸之餘。薦天下豪傑二哉」

【刀鋸鼎鑊】漢初代以前多ク用キラタル刑具。刀鋸ハ前條ノ如シ。鼎鑊ハ人ヲ煮ル釜ナリ。蘇軾撰「留侯論」當三韓之亡。秦之方盛也。以刀鋸鼎鑊。持天下之士」

【刀圭】藥物ノ量名、本草綱目「序例」刀圭ハ十分方寸七ノ一ト爲スト記シ、【金丹玄學】「醫書ニ方寸七ト言ヒ又刀圭ト言フハ刀頭圭角些子ノミト記ス、【池北偶談】「署里雜存ニ云フ、古錯刀三枚ヲ買ヒ得タリ。形今ノ刺刀ノ如シ。其上一圓圭璧ノ形ノ如ク中ニ一孔アリ即チ索ヲ貫ク處、蓋シ服食家刀ヲ擧ゲテ藥ヲ取ル。僅ニ其上ノ圭ニ滿タス。其少キヲ言フノミト記ス。

【刀札】刀ヲ以テ人ノ身體ヲ刺シテ殺スコト、刀ハ刀劍、札ハ殺ナリ【六部成語註解】「以刀刺之也」

【刀泉】刀ハ古錢ノ名、刀ノ形ニ作ル。故ニ刀ト曰フ。泉ハ水ノ湧クガ如ク周ネケ流通スルノ義ニ取ル。又音義錢ト通ズ。(セノ部)泉ノ義ニ取ル。(布)見ヨ

【刀筆】昔時紙筆ナキ時ハ簡牘ニ竹木ヲ用キ刀ヲ以テ筆ニ代ヘタルヲ以テ筆墨ノ意ニ用フ。【史記】蕭相國世家「太史公曰。蕭相國于秦時。爲刀筆之吏。即筆墨ノ吏ヲ稱ス。(參照)

【刀筆吏】書簡ノ事ヲ掌ル小吏、【史記】蕭相國世家「太史公曰。蕭相國何。子秦時。爲刀筆吏。錄錄未レ有奇節。後漢書劉盆子傳註「古者記事以簡冊。誤謬以刀削而除之。後世ハ訟師(辯護士)ヲ稱シテ刀筆ト爲ス。

【刀布】古ノ貨幣ノ名、其形刀ノ如シ故ニ刀ト曰フ。布ハ流布ノ意ニ取ル。三幣ノ一ナリ。(サレノ部)三【史記】平準書「龜貝金錢刀布之幣興焉。索隱「刀者錢也。以其形如刀。前漢書「利於民。註「如淳曰。名錢爲刀者、以其利於民也」

【報二任安書】「奈何令刀鋸之餘。薦天下豪傑二哉」

【刀鋸鼎鑊】漢初代以前多ク用キラタル刑具。刀鋸ハ前條ノ如シ。鼎鑊ハ人ヲ煮ル釜ナリ。蘇軾撰「留侯論」當三韓之亡。秦之方盛也。以刀鋸鼎鑊。持天下之士」

【刀圭】藥物ノ量名、本草綱目「序例」刀圭ハ十分方寸七ノ一ト爲スト記シ、【金丹玄學】「醫書ニ方寸七ト言ヒ又刀圭ト言フハ刀頭圭角些子ノミト記ス、【池北偶談】「署里雜存ニ云フ、古錯刀三枚ヲ買ヒ得タリ。形今ノ刺刀ノ如シ。其上一圓圭璧ノ形ノ如ク中ニ一孔アリ即チ索ヲ貫ク處、蓋シ服食家刀ヲ擧ゲテ藥ヲ取ル。僅ニ其上ノ圭ニ滿タス。其少キヲ言フノミト記ス。

【刀札】刀ヲ以テ人ノ身體ヲ刺シテ殺スコト、刀ハ刀劍、札ハ殺ナリ【六部成語註解】「以刀刺之也」

【刀幣】 刀形ノ錢、故ニ「刀幣」ト曰フ。【管子】  
「黃金刀幣、民之通施也。」

【刀墨】 墨刑ノ別稱、刀ヲ以テ其額ヲ割シ、塗  
ルニ墨ヲ以テ故ニ此名アリ。【國語】周語「有ニ  
斧鉞刀墨之民。」

【到】 (部首) (韻) 博載ノ具ニシテ、階官圖ノ如キモ  
ノナリト云フ。(官圖ヲ見ヨ)

【到益錢】 支那内地産ノ阿片即チ土藥ノ洋關  
ヲ經由スルモノニ對シテ、每百斤ニ付キ出發  
稅二十兩、到着稅二十兩ヲ徵收ス。(政法第  
六) 即チ目的地ニ到着シテ徵收スル稅ナリ。

【到底】 官制上、上書類ヲ書ストキ、上段ヨ  
リ下段ノ末マデ書キ到ルノ書式ヲ謂フ。

【唐會要】 唐代政事ノ綱要ヲ摘舉シタルモノ  
宋ノ王溥撰ス。百卷ヨリ成ル。後世年處ヲ經  
ルニ從ヒテ關係多カリシガ清乾隆帝儒臣ヲシ

テ補充訂正セシメ體例略ボ備ハリ今ニ傳ハ  
ル。

【唐十道】 (道ヲ見ヨ)

【唐六典】 唐代ノ官制ヲ編成シタルモノニシ  
テ唐玄宗帝ノ欽定ニ係ル。李林甫救テ奉ジテ  
注ス。六典ハ【周禮】内容ノ六典ニ倣フモノ、  
但シ【唐六典】ハ三公、三省、九寺、五  
監、十二衛ノ官制ナリ。三十卷ヲ以テ成ル。

【唐律】 唐律ハ其種類甚ダ多ク、高祖武德年間  
隋開皇律ニ倣ヒテ編成シタルモノヲ始メトシ  
隋開皇律ニ倣ヒテ編成シタルモノヲ始メトシ  
隋開皇律ニ倣ヒテ編成シタルモノヲ始メトシ  
隋開皇律ニ倣ヒテ編成シタルモノヲ始メトシ

【堂】 (部首) (韻) 宰相人ヲ採用シテ官ニ除スコトヲ謂  
フ。【宗史】「祖宗以來中書有ニ堂選。百司郡縣。  
有ニ奏舉。皆不レ離ニ於有司。」

【堂筭】 清制、一官衙ノ堂官(堂上官ノ義ニシ)  
ガ屬官ヲ派シテ事ヲ執ラシムルトキニ給スル  
辭令書ヲ謂フ。【六部成語註解】「堂官委ニ派屬  
員。差務所レ給之辭付。曰ニ堂筭。」

【堂伯叔】 從伯叔ノコト、父ノ同堂兄弟(即  
從兄)ヲ謂フ。(東軒  
筆錄)

【堂判】 清制、府縣官ノ訴訟判決ヲ「堂判」ト  
謂フ。(會典  
刑部)

【塘】 (部首) (韻) (一)堤防即チ土ヲ築キテ水ノ浸入ヲ豫  
防スルヲ謂フ。(二)池塘ナリ。圓ヲ池ト曰ヒ  
方ヲ塘ト曰フ。(三)郵便ノ一種ニシテ、甘肅嘉  
峪等ノ關口外ニ設置セルモノヲ謂フ。【清會  
典】兵部「甘肅嘉峪關口外所レ設爲レ塘。」

【堂上】 (一)父母ヲ稱ス。穀梁傳「禮。送レ女  
不レ下堂。」(二)堂上官ノ略ナリ。(堂官ヲ  
見ヨ)

【堂上】 (一)父母ヲ稱ス。穀梁傳「禮。送レ女  
不レ下堂。」(二)堂上官ノ略ナリ。(堂官ヲ  
見ヨ)

【堂上】 (一)父母ヲ稱ス。穀梁傳「禮。送レ女  
不レ下堂。」(二)堂上官ノ略ナリ。(堂官ヲ  
見ヨ)

【堂上】 (一)父母ヲ稱ス。穀梁傳「禮。送レ女  
不レ下堂。」(二)堂上官ノ略ナリ。(堂官ヲ  
見ヨ)

【堂上】 (一)父母ヲ稱ス。穀梁傳「禮。送レ女  
不レ下堂。」(二)堂上官ノ略ナリ。(堂官ヲ  
見ヨ)

【堂選】 宰相人ヲ採用シテ官ニ除スコトヲ謂  
フ。【宗史】「祖宗以來中書有ニ堂選。百司郡縣。  
有ニ奏舉。皆不レ離ニ於有司。」

【堂筭】 清制、一官衙ノ堂官(堂上官ノ義ニシ)  
ガ屬官ヲ派シテ事ヲ執ラシムルトキニ給スル  
辭令書ヲ謂フ。【六部成語註解】「堂官委ニ派屬  
員。差務所レ給之辭付。曰ニ堂筭。」

【堂伯叔】 從伯叔ノコト、父ノ同堂兄弟(即  
從兄)ヲ謂フ。(東軒  
筆錄)

【堂判】 清制、府縣官ノ訴訟判決ヲ「堂判」ト  
謂フ。(會典  
刑部)

【塘】 (部首) (韻) (一)堤防即チ土ヲ築キテ水ノ浸入ヲ豫  
防スルヲ謂フ。(二)池塘ナリ。圓ヲ池ト曰ヒ  
方ヲ塘ト曰フ。(三)郵便ノ一種ニシテ、甘肅嘉  
峪等ノ關口外ニ設置セルモノヲ謂フ。【清會  
典】兵部「甘肅嘉峪關口外所レ設爲レ塘。」

【堂上】 (一)父母ヲ稱ス。穀梁傳「禮。送レ女  
不レ下堂。」(二)堂上官ノ略ナリ。(堂官ヲ  
見ヨ)

【堂上】 (一)父母ヲ稱ス。穀梁傳「禮。送レ女  
不レ下堂。」(二)堂上官ノ略ナリ。(堂官ヲ  
見ヨ)

【堂上】 (一)父母ヲ稱ス。穀梁傳「禮。送レ女  
不レ下堂。」(二)堂上官ノ略ナリ。(堂官ヲ  
見ヨ)

【堂上】 (一)父母ヲ稱ス。穀梁傳「禮。送レ女  
不レ下堂。」(二)堂上官ノ略ナリ。(堂官ヲ  
見ヨ)

【堂上】 (一)父母ヲ稱ス。穀梁傳「禮。送レ女  
不レ下堂。」(二)堂上官ノ略ナリ。(堂官ヲ  
見ヨ)

【堂上】 (一)父母ヲ稱ス。穀梁傳「禮。送レ女  
不レ下堂。」(二)堂上官ノ略ナリ。(堂官ヲ  
見ヨ)

【堂上】 (一)父母ヲ稱ス。穀梁傳「禮。送レ女  
不レ下堂。」(二)堂上官ノ略ナリ。(堂官ヲ  
見ヨ)

【堂上】 (一)父母ヲ稱ス。穀梁傳「禮。送レ女  
不レ下堂。」(二)堂上官ノ略ナリ。(堂官ヲ  
見ヨ)

【堂上】 (一)父母ヲ稱ス。穀梁傳「禮。送レ女  
不レ下堂。」(二)堂上官ノ略ナリ。(堂官ヲ  
見ヨ)

【堂上】 (一)父母ヲ稱ス。穀梁傳「禮。送レ女  
不レ下堂。」(二)堂上官ノ略ナリ。(堂官ヲ  
見ヨ)

【堂上】 (一)父母ヲ稱ス。穀梁傳「禮。送レ女  
不レ下堂。」(二)堂上官ノ略ナリ。(堂官ヲ  
見ヨ)

【堂上】 (一)父母ヲ稱ス。穀梁傳「禮。送レ女  
不レ下堂。」(二)堂上官ノ略ナリ。(堂官ヲ  
見ヨ)

【堂上】 (一)父母ヲ稱ス。穀梁傳「禮。送レ女  
不レ下堂。」(二)堂上官ノ略ナリ。(堂官ヲ  
見ヨ)

【堂上】 (一)父母ヲ稱ス。穀梁傳「禮。送レ女  
不レ下堂。」(二)堂上官ノ略ナリ。(堂官ヲ  
見ヨ)

【堂上】 (一)父母ヲ稱ス。穀梁傳「禮。送レ女  
不レ下堂。」(二)堂上官ノ略ナリ。(堂官ヲ  
見ヨ)

【堂上】 (一)父母ヲ稱ス。穀梁傳「禮。送レ女  
不レ下堂。」(二)堂上官ノ略ナリ。(堂官ヲ  
見ヨ)

【堂上】 (一)父母ヲ稱ス。穀梁傳「禮。送レ女  
不レ下堂。」(二)堂上官ノ略ナリ。(堂官ヲ  
見ヨ)

【堂上】 (一)父母ヲ稱ス。穀梁傳「禮。送レ女  
不レ下堂。」(二)堂上官ノ略ナリ。(堂官ヲ  
見ヨ)

【堂上】 (一)父母ヲ稱ス。穀梁傳「禮。送レ女  
不レ下堂。」(二)堂上官ノ略ナリ。(堂官ヲ  
見ヨ)

【堂上】 (一)父母ヲ稱ス。穀梁傳「禮。送レ女  
不レ下堂。」(二)堂上官ノ略ナリ。(堂官ヲ  
見ヨ)

【堂上】 (一)父母ヲ稱ス。穀梁傳「禮。送レ女  
不レ下堂。」(二)堂上官ノ略ナリ。(堂官ヲ  
見ヨ)

【套】 (一)凡ソ物ヲ重疊スルヲ套ト爲ス。衣ノ一襲ヲ「一套」ト曰ヒ、外部ニ蔽フヲ「外套」ト曰フガ如シ。(二)從テ物ノ外面之ヲ套ト爲ス。「筆套」「封套」ノ如シ。(三)他人ノ文字語言ヲ模擬スルコト亦套ト曰フ。(四)又地ノ曲レル處ヲ套ト曰フ。河曲ヲ「河套」ト曰フノ類ナリ。

【套畫押字】 私書私印ヲ偽造スル謂ナリ。【六部成語註解】「假ニ作文券。假ニ畫他人押字。以爲惡也。」

【套寇】 明代ニ於ケル外寇ノ名、套寇ト曰フ。【蒙古野史】ニ據リテ入寇セルニ因ル。

【套禮】 禮物ヲ進呈スル時一定ノ品數ノ外別ニ珍異及ビ土宜適用ノ物數種ヲ添ヘテ選擇ニ備フルコトヲ謂フ。(野獲)【套心】 (部首) (冬) (韻)

【套愚】 性來ノ白痴者、【周禮】秋官ノ制ニ於テハ罪ヲ犯ストモ三赦ノ一、不論罪トス。【周禮】秋官之屬司刺「掌ニ三刺三宥三赦之法。」(中)一

【搭】 教曰「幼弱。再教曰「老愚。三教曰「套愚。云云。」(卷二)或ハ「套愚」ニ作ルハ誤ナリ。

【搭運】 運漕米ヲ分配運送スルコトヲ謂フ。【六部成語註解】「將漕米一分搭配運也。」

【搭截題】 清代ニ於ケル小試驗ノ名、經文ノ上下數字ヲ取りテ題ヲ命ズ。故ニ此名アリ。

【搭放】 搭ハ分配ノ義、放ハ散給ノ義即チ兵丁ニ給スル銀不足ヲ告ゲタルトキ別ニ銀或ハ米ヲ以テ分配シ數ニ足シテ散給スルコトヲ謂フ。【六部成語註解】「搭分配也。銀或不足。則以銀或米。分配足數。以散放於兵丁也。」

【搭放銀】 搭ハ分配ノ義、即チ兵丁ニ給スル米ガ其定數ニ足ラザルトキ、銀ヲ以テ分配シ、兵丁ニ給スルコトヲ謂フ。【六部成語註解】「搭配也。如米不足。以銀分配。放給兵丁。謂之搭放。」

【搭蓬租銀】 工事ヲ爲ス場合工匠ノ集マル所ニハ必ズ民地ヲ賃借シテ茅舎ヲ立ツベク、

其租銀ヲ「搭蓬租銀」ト謂フ。【六部成語註解】「工匠所集之處。必領賃銀租銀。搭蓬以處之。」

【搭放兵米】 米色稍ヤ粗ニシテ、官吏ノ俸祿米ニ充ツルヲ得ザル米ヲ以テ、兵米(兵卒スル)ノ中ニ配搭シテ散給スルコトヲ謂フ。【六部成語註解】「米色稍粗。不充兵米。配搭兵米之中。散放。清代兵力ノ弱キ以テ知ルベシ。」

【拘】 (部首) (家) (韻)

【拘摸】 人ノ不注意ニ乘ジテ物ヲ取ルヲ「拘摸」ト曰ヒ手探シテ物ヲ取ルヲ「摸」ト曰フ。即チ「チボ」ノ類ナリ。【清律】刑律竊盜ノ附註「擄便曰拘。以手取物曰摸。如今白樓剪發。」(卷二)【六部成語註解】「穿窬之盜也。」(辭源)「察人之不備。而窃取之也。」

【擄】 (俗) (部首) (度) (韻)

【擄駕】 竿ヲ以テ舟ヲ進ムルコトヲ謂フ。【明律】清律兵律開津篇「開津留難」ノ條、若擄駕渡船一稍水。如擄遇風浪險惡。不許三擺渡。違

者笞四十。云云。(明律卷十五)【擄駕渡舟稍水】 (渡舟ヲ擄駕) 渡舟ヲ擄駕(前條)スル舟人ヲ謂フ。(對照)

【桃】 (部首) (家) (韻)

【桃夭】 女子出嫁ノ期節、仲春桃花ノ天天ト開キ初ムル時ヲ謂フ。【詩經】周南桃夭篇「桃之夭夭。灼灼其華。之子于歸。宜其室家。」

【桃花水】 二月桃花開クノトキハ山谷ノ冰解ケテ河水必ズ漲ル。之ヲ「桃花水」ト稱ス。故ニ豫メ工事ヲ施シ堤防ヲ嚴ニスルヲ例トス。【漢書】溝洫志「來春桃花水盛。必漲溢。」【六部成語註解】「又名「桃花水」。二月桃花開時。河水必漲。宜加二倍防護也。」

【桃汛】 桃花水ト云フニ同ジ。汛ハ水ノ盛ナル義ナリ。(「桃花水」ヲ見ヨ)

【椿掃夫】 河兵ノ一種ニレテ、堤岸ノ板材(木幹(クヒ)ヲ土)ヲ整理スルコトヲ掌ル。(清工ニ入レルコト)

【梳房】 清制、吏部ノ一科ニシテ、清字堂主事二人アリ、梳案(旗人)ヲ掌ル。(會典)

【梳】 (部首) (家) (韻)

【梳梳】 梳梳ニ義アリ一ハ禹ノ父姁ノ別稱、凶頑凶暴ナキノ義ト爲ス。【左傳】文公十八年「顛頑有二不才子(中)天下之民。謂之梳梳。」註、謂「姁」。梳梳。凶頑無二德匹一之貌。二ハ楚國歷史ノ名、【孟子】離婁篇「晉之乘。楚之梳梳。魯之春秋。蓋シ惡ヲ記シ戒ヲ垂ル、ノ義ニ取ル。婁婁ハ惡獸ノ名、借リテ凶人ノ喻ト爲ス。【左傳】文公十八年「天下之民。以比三凶。謂之婁婁。」註、食レ財爲レ婁。食レ食爲レ婁。【大學衍義補】遠方之民。雖使「婁」爲之郡守。梳梳婁婁爲「縣令」。郡縣之民。群嘲而聚罵者。雖千百千爲「婁」。朝廷不知也。(卷十)

【梳味】 不知情思ノ義、郭璞撰「爾雅序」「僕不レ探「梳味」。少而習焉。」

【淘】 (部首) (家) (韻)

【淘金】 沙金ヲ沙中ヨリ盪ヒ取ルコトヲ謂

【淘沙】 淘金ノ別稱ナリ。(「淘金」ヲ見ヨ)

【淘汰】 蕩滌ノ義即チ疑惑ヲ除去スルノ謂、淘一ニ洗ニ作ル。後漢書「陳元傳」淘一(作洗)本汰學者之累惑。トアルハ其一例ナリ。

【淘漉】 惡ヲ除去シテ善ヲ採取スルコトヲ謂フ。「續耕錄」將三石子一陶漉玩弄。

湯 (部首) (韻陽)

【湯火】 湯ハ沸湯、火ハ炭火ナリ。關殿罪ニ於テハ兇器ト看做シ、湯火ヲ以テ人ヲ傷害シタル者ハ他物(本條ヲ)及ビ手足ヲ以テシタル者ヨリ重ク兵刃ヲ以テシタル者ヨリ輕ク罰スルヲ法トス。(「ホ」部「保」ヲ見ヨ)

【湯火】 湯ハ沸湯、火ハ炭火ナリ。關殿罪ニ於テハ兇器ト看做シ、湯火ヲ以テ人ヲ傷害シタル者ハ他物(本條ヲ)及ビ手足ヲ以テシタル者ヨリ重ク兵刃ヲ以テシタル者ヨリ輕ク罰スルヲ法トス。(「ホ」部「保」ヲ見ヨ)

【湯火】 湯ハ沸湯、火ハ炭火ナリ。關殿罪ニ於テハ兇器ト看做シ、湯火ヲ以テ人ヲ傷害シタル者ハ他物(本條ヲ)及ビ手足ヲ以テシタル者ヨリ重ク兵刃ヲ以テシタル者ヨリ輕ク罰スルヲ法トス。(「ホ」部「保」ヲ見ヨ)

【湯之盤銘】 殷湯王、沐浴ノ盤ニ銘刻シタル自戒ノ辭「大學」湯之盤銘曰。苟日新。日日新。又日新。心ノ汚レヲ滌除スルノ謂ナリ。

【湯沐邑】 沐浴ノ費用ニ備フル特定ノ采地、周代天子ヨリ特ニ諸侯ニ賜ハラレ、其邑ノ收入ヲ以テ湯沐ノ資ト爲ス。「禮記」方伯爲朝。天下。皆有湯沐之邑。以テ齊戒自潔ノ用ニ備フルモノナリ。戰國及ビ漢代又之アリ。漢高祖ハ沛ヲ以テ湯沐ノ邑ト爲セリ。皇后公主等此ヲ得ルモノ多シ。(戰國策、史記高祖紀、同信陵君傳、漢書儀等)

湯 (部首) (韻陽)

【當】 (一) 當ハ勳產質ノ義即チ我國ノ質ト其性質ヲ同クス。支那ニ於テハ古來債權擔保ノ方法トシテ行ハレ、法律モ亦之ヲ認メ、「唐律」及ビ「明律」清律皆之ニ關スル規定アリ。我國ノ如キハ昔ハ僧侶等ノ内業トシテ行ハレ自由營業ナリシモ後世ニ及ビテハ免許營業ト爲

行人、時聘以結諸侯之好。疏、謂時會之年。當方有諸侯不三順服。當方諸侯來。餘方無不順之事。身不來。即大夫來聘。

【當比】 漢制、或犯罪ニ準用シタル比例ヲ「當比」ト謂フ。(「當報」ノ用)

【當舖】 質屋營業、當ト鋪トハ別ナリ。(「當」條「鋪」ヲ見ヨ)

【當報】 罪科ヲ處斷スルノ義ナリ。「大學衍義補」漢高帝制詔御史。獄之疑者。吏或不取決。有罪者久而不決。無罪者久繫不決。自今以來。輕道官獄疑者。各減所屬二千石官。二千石官以其罪名。當報斷也。所不能決者。移廷尉。亦當報之。廷尉所不能決。謹具爲奏。傳所當比。律令以聞。(卷百)

【當免】 當ハ官ヲ以テ罪ニ當テ、相殺スルコト、免ハ居ル所ノ官ヲ免スルコトヲ謂フ。「唐律釋文」當者。以官當罪。免者。免其所居官。(二) (卷)

リタルモノナリ。支那ニ於ケル質ニハ其資本ノ多寡及ビ規模ノ大小等ニ依リテ各其名稱ヲ異ニス。當、質、典、押ノ如キ是ナリ。當ハ四者ノ中其規模ノ最モ大ナルモノニ屬ス。臺灣ニ於テモ當、質、押ハ皆勳產質ヲ業トシ、支那本土ト異ナルナキモ獨リ典ハ其性質ヲ異ニス。(「テ」部) (二) 法律上、罪科ヲ適用スルコトヲ當ト爲ス。「漢書」張釋之傳、廷尉奏。當。一人犯罪。當罰金。

【當官】 在官ト言フニ同シ。「左傳」當官而行。何強之有。「呂祖謙官箴」當官之法有三。曰清。慎。勤。

【當差】 (差ニ) 戶籍ヲ別ツベキ者相冒シテ同籍シタルトキハ其罪ヲ科シタル後ニ別籍ヲ強制シテ差役(力)ニ充當セシムルコトヲ謂フ。「明律」清律「戶律」役當、脫漏戶口ノ條上。相冒合戶附籍者。各減三等。所隱之人並同罪。改正立戶。別籍當差。(「明律」卷七)

【當室】 父ノ後ヲ承ケテ家事ニ當タルコトヲ

【當墟】 (墟ニ) (「當墟」ヲ見ヨ)

【當虛】 (一) 馬首ノ飾(二) 墟ニ、墟又ハ墟ニ作ル。酒ヲ賣ル處ヲ謂フ。當虛ハ酒肆ノ番人ナリ。「漢書」司馬相如傳、相如適合二文君當墟。

【當路】 國家樞要ノ地位ニ當ルコトヲ謂フ。「孟子」公孫丑篇、夫子當路於齊。管仲晏子之功。可三復許(手)。「史記」張儀傳、蘇秦使三人徵感。張儀曰。今秦已當路。子何不往游以求通。子之願也。

盜 (部首) (韻陽)

【盜竿】 盜ノ魁ヲ謂フ。竿ハ五音ノ長タルニ取ル。「表異錄」盜竿。言盜之倡也。竿者五音之長。

【盜械】 盜ハ逃ニ通ズ、逃亡ヲ防グ爲メニ犯罪者ノ手足ニ械ヲ加フルコトヲ謂フ。「漢書」惠帝紀、爵五大夫。吏六百石以上。及官三皇帝一

【當社】 二十五家ヲ社ト爲シ以テ鄉黨公共ノ事ヲ爲ス。當社トハ其當該ノ社ヲ指稱ス。「大學衍義補」隋開皇五年。度支尚書長孫平奏。令民間每家出粟麥一石以下。貧富無差。輸之當社。委社司。檢校以備凶年。名曰義倉。(卷十)

【當十錢】 四廓ニシテ方孔ノ錢、一ヲ以テ十ニ當ツル。故ニ此名アリ。北周ノ建德中ノ五行大布錢ニ始マル。唐ヨリ清ニ至ルマテ之アリ。但シ重量及ビ成色ハ一様ナラズ。

【當夕】 妻妾ガ願番ヲ以テ寢ニ侍スルコトヲ謂フ。「禮記」內則篇、妻不不在。妾御莫敢當夕。

【當千錢】 吳ノ孫權鑄造スル所ノ錢ナリ。一以テ十錢ニ當ツル。故ニ「當千錢」ト稱ス。後世大錢ヲ鑄ルハ此ニ始マル(大學衍義補)

【當方】 或ル一方ト云フノ義ナリ。「周禮」大

當 (部首) (韻陽)

當 (部首) (韻陽)

當 (部首) (韻陽)

當 (部首) (韻陽)

而知名者。謂任官而皇有罪當盜也。被者。皆  
頌繫。云云。【大學衍義補】漢孝惠。即位。制。  
爵五大夫。吏六百石以上。及官三皇帝。而知名  
者。有罪當盜也。被者。頌繫。云云。(卷百)

【盜明】 他人ノ所有地ヲ侵蝕シテ耕作スルコ  
トヲ謂フ。【唐律】戶婚篇。盜耕種公田ノ條  
諸盜二畝人墓田。杖一百。云云。(卷十)

【盜決河防】 (河防ヲ) 自己ノ田地ヲ利セン  
ガ爲メ若クバ私債ヲ報ゼンガ爲メ (仇人ノ家  
入スル) 密ニ堤防ヲ決解 (キリハ) スルコトヲ  
謂フ。【明律】清律工律河防篇。盜決河防ノ  
條アリ同文ヲ以テ。凡盜決河防者。杖一百。  
盜決圩岸陂塘者。杖八十。云云。ト規定ス。但  
シ嚴格ニ言ヘバ盜決トハ專ラ自己ノ田地ヲ利  
スル者ヲ指シ私債ヲ報ゼンガ爲メニ決解スル  
者ハ之ヲ「故決」ト稱ス。(明律卷三十七)

【盜葬】 他人ノ所有地ヲ盜ミテ死骸ヲ埋葬ス  
ルコトヲ謂フ。【唐律】戶婚篇。盜耕種公私田ノ  
條アリ同文ヲ以テ。凡盜決河防者。杖一百。  
盜決圩岸陂塘者。杖八十。云云。ト規定ス。但  
シ嚴格ニ言ヘバ盜決トハ專ラ自己ノ田地ヲ利  
スル者ヲ指シ私債ヲ報ゼンガ爲メニ決解スル  
者ハ之ヲ「故決」ト稱ス。(明律卷三十七)

ノ條。上即盜葬他人田一者。笞五十。云云。  
(卷十)

【盜泉】 山東省泗水縣ノ東北ニ在リ。孔子嘗  
テ此ヲ過ギ其名ヲ惡ミテ飲マズ。【尸子】孔子  
過ニ於盜泉。湯矣而不飲。惡ニ其名也。【說苑】  
「水名ニ盜泉。孔子不飲。醜ニ其名也。」

【盜賊】 戰國ノ時。魏李悝法經六篇ヲ作ルニ  
當リ。第一篇ヲ盜法ト爲シ。第二篇ヲ賊法ト爲  
ス。盜賊ノ二字ヲ首ニ置キタルハ。盜賊ノ二  
事ヲ以テ百惡群罪ノ淵源ト爲シタルニ因ル。  
(ホノ部) 法經 但シ其語ハ「周禮」小宰之職  
六篇ヲ見ヨ

【盜賊】 戰國ノ時。魏李悝法經六篇ヲ作ルニ  
當リ。第一篇ヲ盜法ト爲シ。第二篇ヲ賊法ト爲  
ス。盜賊ノ二字ヲ首ニ置キタルハ。盜賊ノ二  
事ヲ以テ百惡群罪ノ淵源ト爲シタルニ因ル。  
(ホノ部) 法經 但シ其語ハ「周禮」小宰之職  
六篇ヲ見ヨ

ハ近世法ノ竊盜ニ當リ。賊ハ強盜。叛逆並ニ一  
切ノ人命犯ヲ總括スルモノナリ。

【盜賣】 他人ノ田宅 (取テ田宅) ヲ己レノ財產  
ト爲シテ賣却スルコトヲ謂フ。(明律卷五。清  
律卷八。戶律  
田宅篇。盜賣田  
宅ノ條及ビ註  
答 (竹首) (合) 韻)

【答應】 (一) 明代官人ノ稱。清之ニ因ル。【池北  
偶談】內庫柱上。有「董靖閣一帖。寫「答應焦桂  
花傳」。(二) 漢代ハ應報ノ義ニ用フ。【後漢書】  
五行志注。熹平五年天下大旱。禱三請名山。求  
獲「答應」。

【答款】 獄舎ニ繫ガルベキ者ガ官命ニ應ジテ  
來ルコトヲ謂フ。款ハ至ル又ハ來ルノ義アリ。  
若シ答款セザルトキハ罰ヲ加重ス。【隋書】刑  
法志。凡繫獄者。不即答款。應加「調野」云  
云。

【答拜】 先方ノ敬禮ニ對シテ應禮スルコトヲ  
謂フ。【禮記】君子于士不答拜。非其臣。則答  
拜之。

統 (部首) (宋) 韻

【統軍】 武官ノ稱。唐代ノ近衛隊。每軍各「統  
軍」一人ヲ置ク。位大將軍ニ次ク。其後金又  
「大統軍司」ヲ置ク。統軍使。副統軍使アリ。  
鎮軍ノ馬政。封陞ノ鎮撫ヲ掌ラシメタリ。

【統業】 天下ヲ統治スル大業ノ義ナリ。【史  
記】自序。維我漢。繼五帝末流。接三代統業。  
【統制】 武官ノ稱。宋初出征ノ諸將統一ヲ缺  
ギシヲ以テ一人ヲ拔キテ。都統制ト爲シテ之  
ヲ總メシメタルニ始マル。其後高宗ノ時王淵  
ヲ以テ御營ノ都統制ト爲シ始メテ官稱ト爲  
ル。元明時代ハ置カズ。清末各鎮ノ鎮統ヲ稱  
シテ「統制」ト爲ス。

【統攝】 甲ノ官廳ト乙ノ官廳ト統攝連攝ノ關  
係ヲ有スルコトヲ謂フ。【明律】刑律斷  
獄篇。鞠獄停囚待對ノ條。凡鞠獄官推問罪  
囚。有起內人伴。見在。他處官司。停囚待對  
者。雖職分不。相統攝。皆聽直行。勾取。トア  
ルハ其用例ナリ。(明律卷二十八)

統攝 甲ノ官廳ト乙ノ官廳ト統攝連攝ノ關  
係ヲ有スルコトヲ謂フ。【明律】刑律斷  
獄篇。鞠獄停囚待對ノ條。凡鞠獄官推問罪  
囚。有起內人伴。見在。他處官司。停囚待對  
者。雖職分不。相統攝。皆聽直行。勾取。トア  
ルハ其用例ナリ。(明律卷二十八)

綯 (部首) (宋) 韻

【綯首】 繩ヲ以テ首ヲ絞リテ殺スノ刑。即チ  
「絞罪」ノ別名ナリ。【六部成語註解】以繩絞ニ  
其首而死之。即絞罪也。

【踏勘】 踏ハ履ムノ義。勘ハ磨勘ノ勸。即チ實  
地ニ就キテ工事等法ノ如ク成レルヤ否ヤヲ再  
踏調査ヲ爲スコトヲ謂フ。【明律】清律戶律  
田宅篇。功臣田土ノ條。若里長及有司官吏踏  
勘不實。及知而不舉者。與同罪。云云。(明律  
卷八)

【踏五花】 【東京夢華錄】五月十四日車駕  
ニ至リテ迎祥地ヲ觀。御輦圍轉一遭シテ製燈  
山ニ倒行ス之ヲ「踏五花」ト謂ヒ。又之ヲ「踏  
五花」ト謂フ。ト記ス。

【踏青】 【蘇轍。詩序】ニハ。正月八日士女相與  
ニ遊戯ス之ヲ「踏青」ト謂フト記シ。【歲華紀  
麗譜】ニハ。二月二日ハ踏青節ナリト記シ。  
【舊唐書】太宗紀ニハ。大曆二年二月壬午昆明

池ニ幸シテ踏青スレト記シ。【千金月令】ニハ。  
三月三日踏青。鞋履ヲ上ルレト記ス。今ハ清明  
日ニ出遊スルヲ「踏青」ト曰フ。

【踏磧】 慶州ノ俗特ニ踏磧武侯ヲ重ンジ人日  
(正月) 城ヲ傾ケテ八陣磧上ニ出遊ス之ヲ「踏  
磧」ト謂フ。婦人ハ小石ノ磧アルヲ拾ヒ貫クニ  
線索ヲ以テシテ磧頭ニ繫ケ以テ一歲ノ祥ト爲  
ス。

【踏逐】 覓メ取ルノ義ナリ。(武林  
舊事)

【踏白】 軍隊ノ備ニ此名アリ。先鋒隊ナリ。  
【宋史】吳玠傳。自北邊一至武興。列五軍。曰。  
踏白。推鋒。選鋒。策選鋒。遊奕。

逃 (部首) (宋) 韻

【逃嫁】 妻ガ夫ノ不在中任意ニ夫家ヲ逃レテ  
他ニ嫁スコト。秦代ニ於テハ此場合ハ子女ア  
ルトキハ親子關係斷絶シ。子ハ母ト爲ヌヲ得  
ザルモノト爲ス。【史記】始皇紀。男乘義程。妻  
爲ニ逃嫁。子不レ得レ母。

【逃軀】 逃亡ノ軀口。即チ奴隸ナリ。(ク)

【**逃**】 唐ノ初代ニハ陝東益州襄州等ニ「行臺」尙書省ヲ置キ、令僕以下ノ官ヲ設ケテ地方行政ヲ監督セシメタルガ、後天下ヲ十道ニ分チ、「十道巡察使」又ハ「十道按察使」ヲ置クニ至レリ。玄宗ノ時ニハ「探訪使」ノ名アリ。嗣後主宗ノ時ニハ「觀察使」ノ名アリ。嗣後主トシテ觀察ノ名ヲ用キタリ。初メハ吏治民生ノ利弊ヲ訪求スルニ止リタルモ、漸次一道ノ長官タル實權ヲ占メ實際ハ刺史ヲ節制指揮スルニ至レリ。然レドモ其權能ハ文事ニ止マリ、一道文武ノ政權ハ節度使之ヲ掌リ。降テ開元天寶ノ間ニハ朔方、隴右等ノ邊遠ニモ節度使ヲ置キ、遂ニ天下ヲ四十餘道ニ分チ、數多ノ節度使ヲ列スルニ至レリ。而シテ節度使ハ大抵觀察使若クハ刺史其職ヲ兼ネタルガ故ニ、事實上ニ於テハ觀察使文武ノ兩政ヲ兼掌シタリ。(唐會要及ビ歷朝職官表)

【**逃捕律**】 (亡律) (捕見) (部) (捕見)

【**道**】 (部) (道) (部) (道)

【**道**】 唐ノ初代ニハ陝東益州襄州等ニ「行臺」尙書省ヲ置キ、令僕以下ノ官ヲ設ケテ地方行政ヲ監督セシメタルガ、後天下ヲ十道ニ分チ、「十道巡察使」又ハ「十道按察使」ヲ置クニ至レリ。玄宗ノ時ニハ「探訪使」ノ名アリ。嗣後主宗ノ時ニハ「觀察使」ノ名アリ。嗣後主トシテ觀察ノ名ヲ用キタリ。初メハ吏治民生ノ利弊ヲ訪求スルニ止リタルモ、漸次一道ノ長官タル實權ヲ占メ實際ハ刺史ヲ節制指揮スルニ至レリ。然レドモ其權能ハ文事ニ止マリ、一道文武ノ政權ハ節度使之ヲ掌リ。降テ開元天寶ノ間ニハ朔方、隴右等ノ邊遠ニモ節度使ヲ置キ、遂ニ天下ヲ四十餘道ニ分チ、數多ノ節度使ヲ列スルニ至レリ。而シテ節度使ハ大抵觀察使若クハ刺史其職ヲ兼ネタルガ故ニ、事實上ニ於テハ觀察使文武ノ兩政ヲ兼掌シタリ。(唐會要及ビ歷朝職官表)

生。神宗時。張璪賜。號冲簡處士。是也。(七) 卷

【**道舉**】 道教ノ科擧、唐玄宗ノ開元二十九年始メテ之ヲ設ク。【**道中隨筆**】 有「道舉」元宗時。開元二十九年。始置。崇元學。習「老子莊子」文字列子。亦曰「道舉」。

【**道官**】 (一) 道士ヲ以テ普通教官又ハ諫官等ト爲スノ意ニ用フ。【**事物紀原**】 唐高宗時葉靜能入直三輪林。爲「國子祭酒」。孫法善玄宗時。授「銀青光祿大夫鴻臚卿」。又尹愔亦拜「諫議大夫」。道士之命以レ官。自高宗始也。宋初會要曰。開寶五年十二月。賜道士玄昉大師馬志通。【**道契**】 (七) (一) 道教ニ關スル事務ヲ掌ル官吏ナリ。京師ニハ道錄司、左右正、演法、至靈、至義等ノ官アリ。外省ニハ府二道紀、州ニ道正、縣ニ道會等ノ官アリ。(嘉慶會典)

【**道契**】 地契ノ一種、外國人租借地ニ在リテ永遠借地權ヲ得ルニハ舊ト開道ヨリ憑證ヲ發給シタルヲ以テ此名アリ。

【**道庫**】 清國時代ハ鹽運司、鹽法道、糧道、河

道、兵備道等ノ所管ニ屬スル倉庫ヲ謂フ。

【**道士**】 道教ノ僧ヲ道士ト曰フ。其起源ハ其開祖ト稱スル【**黃帝內傳**】ニ之ヲ載スルモ信ズベカラズ。周穆王、平王ノ時ハ已ニ幾多ノ道士アリ。其概要下ノ如シ。【**事物紀原**】 黃帝內傳。有「道士行禮之文」。此疑謂「有道之士」也。據觀本記曰。周穆王因「尹真人」草樓之觀。召「幽逸人」居之。謂「道士」。平王東遷置「七人」。漢明帝永平七年。置「三十七人」。晉惠度「四十九人」。唐此即是自「周」而有也。司馬遷「固敘」秦漢「甚詳」。洎「春秋」以來。殊無「一人」以「一言」彷彿「道」技事「者」。爲「可疑」矣。然「范曄」後漢書於「光武紀」論「始有」言。西門君惠「李守」等云。劉秀爲「天子」。蓋前漢末事。則道士之初當「此」矣。列仙傳又有「道士浮丘公接」周靈王太子晉。上「嵩高山」者。(七) 卷

【**道士女冠**】 道教ノ傳導師、男子ヲ「道士」ト曰ヒ女子ヲ「女冠」ト曰フ。凡ソ律ニ於テ道

士女冠ト稱スルハ佛教ノ僧尼ト云フニ同シ。犯姦等ノ場合ハ凡人ノ罪ニ等ヲ加マルヲ例トス。(明律卷一、清律卷四、稱道士女冠條)

【**道設**】 道士ニ賜ハル號號、梁代ヨリ始マルガ如シ。【**事物紀原**】 梁代陶洪景死。賜「諡正白先生」。則道之設。自「梁陶隱居」始也。(七) 卷

【**道台**】 清制、分守道、分巡道等諸道ノ長官ニ對スル古名稱ニシテ、猶ホ總督ヲ「制軍」又ハ「制台」ト曰ヒ、巡撫ヲ「撫軍」ト曰ヒ、按察使ヲ「臬司」ト曰フガ如シ。

【**道封**】 道士ニ賜ハル封號ナリ。後周武帝ノ時ヨリ始マルガ如シ。【**事物紀原**】 後周武帝時。衛元嵩封「蜀郡公」。蓋道士受「封」之始也。葉法善。玄宗時亦封「越國公」。(七) 卷

【**道路**】 支那法上道路ト云フハ城市通行ノ地(即チ都會)ヲ街巷ト云フニ對シテ、郊野通行ノ地(即チ都會以)ヲ指稱ス。【**大清律例**】 輯註「城市

通行之地曰「街巷」。郊野通行之地曰「道路」。

【**道錄**】 道教ノ官職、隋文帝始メテ玄都觀主王延「威儀」ト爲シタルニ始マル。五代周ニ至リ「諡」(太祖)ヲ避ケテ「道錄」ト改ム。宋之ニ因ル。【**事物紀原**】 「續事始引」仙傳拾遺「曰。隋文帝始以「支都觀主王延」爲「威儀」。唐置「左右兩街」。宋初會要曰。唐有「左右街威儀」。周避「諡」改爲「道錄」。宋初因之。(七) 卷

【**道錄司**】 道錄ハ前條ノ如シ。道錄司ハ道教ニ關スル事務ヲ掌ル官司ニシテ明ノ洪武十五年ノ創設ニ係ル。清代之ヲ襲用シ康熙十三年道錄司職制ヲ制定ス。

【**饗**】 (部) (饗) (部) (饗)

【**饗**】 (部) (饗) (部) (饗)

【**饗**】 (部) (饗) (部) (饗)

【**卓異**】 清制、每三年地方官吏ノ成績ヲ調査スルヲ「大計」ト曰ヒ、大計ノ結果成績ノ最モ

優ナル者ヲ卓異ト曰フ。(會典)蓋シ卓異トハ才能ノ卓越シテ衆人ト異ナルノ謂ナリ。【六部成語註解】「才能極高曰卓。與衆不侔曰異。此語ハ古來ヨリ傳ハル。漢書「宣帝紀」故掖庭令張賀。輔導朕躬。恩惠卓異。厥功茂焉。其一例ナリ。

【卓子】支那ノ饗宴ノ名、酒肉トモニ之ヲ用フ。精選ノ場合ハ「普茶」ト曰フ。酒ヲ禁ジテ茶ヲ用フルガ故ニ此名ナリ。(普茶料理)【卓子宴】(前條ニ)

【卓錫】錫杖ヲ立ツルノ義、僧侶ノ留ル所ヲ謂フ。(張伯淳)「一統志」相傳大鑿師。得法歸南。卓錫于此。因名卓錫泉。

【宅】宅ハ擇ノ義、吉處ヲ擇ビテ家ヲ營ム處天子ノ宅ハ千畝、諸侯ハ百畝、大夫以下九畝、庶人ハ五畝ヲ制トス。是レ周制ニシテ單ニ家ヲ營ムノミニアラズ庭園等之ヲ含ム。庶人ハ桑樹菜類之ニ植種ス。(之宅ヲ見ヨ)【宅】(部首) (韻)

補四書人物考「釋名宅。擇也。言擇吉處而營之也。周地官載師。以宅田任近郊之地。宅田。即五。趙氏曰。古者。一夫一婦。受私田百畝。公田十畝。八家是爲八百八十畝。餘公田二十畝。八家分之。得二畝半。以爲廬舍。城邑之居。亦各得二畝半。春令民畢出在野。冬則畢入於邑。在野曰廬。在邑曰里。廬各在其田中。而里聚居也。又曰。尉繚子云。天子宅千畝。諸侯宅百畝。大夫以下里舍九畝。周禮國宅無征。注云城中之宅無稅也。云云。(八)【宅家】唐代、天子ノ稱、公主以下ヲ宅家子ト爲ス。(困學紀聞)唐時宮中。謂天子爲宅家。【宅家子】(見ヨ)【宅券】宅地ノ證券、即チ宅地ノ所有ヲ證スル券ナリ。宋史陶敦傳。崑山北還。因以宅券一畝進言。崑山李崑。逢吉ハ蘇逢吉ナリ。【宅眷】家眷ハ即チ家族ナリ。【東京夢華錄】

「宅眷坐車中。與平頭車大抵相似。」【度支】(部首) (韻) (藥遇)

【度支尙書】魏始メテ、度支尙書ヲ置キ軍國ノ會計ヲ掌ラシム。是レ財務專官ヲ尙書ニ列シタルノ初メナリ。吳ハ之ヲ「戶部」ト稱ス。是レ戶部ノ名ノ起源ナリ。晋ハ魏ニ仿ヒテ度支尙書ヲ置ク。南北朝ヲ經テ隋ノ開皇三年ニ至リ、改メテ「民部尙書」ト爲ス。唐ハ或ハ度支ト云ヒ、或ハ戶部ト云ヒシガ、神龍以後ニ至リテ戶部ニ一定ス。(歷代職官表)

【度支部】清、光緒三十二年ノ中央官制大改革ノ時戶部ヲ改メテ、度支部ト爲ス。其權限ニモ多少ノ變化ヲ生ゼリ。戶部ハ財政ヲ掌管スルト同時ニ、戶口ノ編審、八旗ノ制裁ヲ掌リタルモ、前者ハ民政部ニ轉屬シ、後者ハ大理院ニ轉屬シ、度支部ハ專ラ一國ノ財政ヲ總管ス。

【度牒】常人ヲ僧侶ト爲スヲ「度」ト曰ヒ、其證明書ヲ「度牒」ト曰フ。【事物紀原】僧史略曰。度牒。自南北朝有之。見高僧傳。名籍限。局。必有之。蓋由即今祠部牒也。唐會要曰。天寶六年五月制。僧尼令祠部給牒。則僧尼之給牒。自唐明皇始也。(七)【戡】(部首) (韻)

【戡記】圖記ノ異名、清制ニ於テハ官ヨリ人長ニ給付スル證明書等ノ結尾ニ捺用スル印ヲ「戡記」ト曰フ。蓋シ印ト看ルベシ。【戡過鐵槍】(鐵鎗ヲ)鐵ヲ以テ作レト曰フ使用スル軍隊ヲ謂フ。【明律】吏律職制篇「選用軍職」ノ條、若選用總旗。須於戡過鐵鎗二人內。(二)【戡袋】米袋ノ上ニ印ヲ押スコトヲ謂フ。【六部成語註解】「印蓋戡記於米袋之上也。」

【拆】(部首) (韻) (藥)

【拆造】戰船ノ修造ニ大修、小修、拆造ノ三種アリ。拆造ハ解體シテ修造スルコト三年一次之ヲ爲ス。(清工部則例)

【桌】一ニ「卓」又ハ「檠」ニ作ル。俗ニ几案ヲ呼ビテ桌ト爲ス。(下條參照)

【桌子宴】桌ハ卓ニ同ジク几案ノコト、邦語之ヲ「シツホコト」ト稱ス。箇々ノ器具ヲ備ヘズ、一箇ノ桌上ニ器物ヲ相供ニシテ鋪張スル宴、即チ友人知己ノ合歡ニ用フ。清人ノ長崎ニ來リテ之ヲ行フヨリ生ズ。(太田資政著)【椽】(部首) (韻) (藥)

【椽】苗族ノ刑罰、漢族ノ宮刑ニ當ル。【書經】呂刑篇「苗族不利用。制以刑。惟作五虐之刑。曰法。爰始淫爲。則則椽。斃。斃人(即チ宮刑ニ處タル者)又椽ト曰フ。【詩經】周南、昏椽。靡共。【源】(部首) (韻) (角)

【涿鹿】(一)刑罰ノ名、人ノ頸ヲ斃ツノ刑ニシテ鹿ノ酷ナルモノナリ。【西陽雜俎】尙書刑德攷曰。涿鹿者。斃三人頸也。斃一人者。馬羈羈人面也。世謂之刀盡之民。(二)山ノ名、今ノ直隸省涿鹿縣ノ東南ニ在リ。黃帝ガ蚩尤ヲ誅シタルノ地ナリ。或ハ云フ。宣化縣ノ東南ニ涿鹿山アリ。即チ古ノ涿鹿山ナリト。

【澤】(一)鬻衣(禮服ニ對シテ)ヲ澤ト曰フ。【詩經】秦風「與子同澤。」(二)清潔ニスルコト。【禮記】曲禮篇「共飯不澤手。」疏「既與人共飯。手宜清潔。」一ニ澤ニ作ル。(三)澤宮、射ヲ練習シテヲ擇ブ所【禮記】射儀篇「必先習三射于澤。澤者所ニ以擇士也。」(四)秩練ノ義アリ。【澤】(部首) (韻) (藥)

【澤虞】山澤ノ禁令ヲ掌ル官、【周禮】地官ノ屬、有ニ山虞澤虞。掌三山澤。【澤人】澤ヲ掌ルノ官、【禮記】命澤人納三材章。【澤梁無禁】人民ノ漁業ヲ禁制セザルコト



古代政治ノ寛大ナル一例ナリ。【孟子】梁惠王篇「昔文王之治岐也。耕者九一。仕者世祿。關市譴而不征。澤梁不禁。罪人不挾。」

穽 (部首) (石) (韻)

【穽】 (一)ニ作ル(二)死刑ノ重キ者ニ適用ス。肢體ヲ分裂シテ市ニ張ルコト、故ニ邦語「ハリツケ」ト曰フ。即チ公衆ニ犯罪ノ長ルヘキヲ示ス。古代性ヲ裂キテ神ヲ祭ルヲ穽ト曰フニ取ル。漢ノ景帝以前ハ穽ヲ死刑ニ用キタルモ景帝中二年穽ヲ改メテ棄市ト爲ス。爾來穽ハ妖逆罪ニ限リテ用キ、他ハ棄市ヲ用キルヲ本則トス(キ)ノ部、【漢書】刑法志「諸死刑。皆穽ニ於市。景帝中二年。改穽曰棄市。勿復穽」。類注「謂張其尸也。」

【穽】 性ヲ裂クヲ穽ト曰ヒ、穽ヲ除クヲ穽ト曰フ。即チ性ヲ裂キテ神ニ供ヘ穽ヲ除クコトヲ新ルヲ曰フ。【禮記】月令篇「季春之月。命國隄。九門。穽。裂性謂之穽。以畢春氣。」

託 (部首) (言) (韻)

【託孤】 支那ニ於テハ後見ニ關シ規定セルモノナキモ、伊尹ノ太甲ニ於ケル、周公ノ成王ニ於ケル、諸葛孔明ノ劉禪ニ於ケルガ如キハ、事實上ノ後見人ナリ。臺灣ニ於テハ後見人ニ當ル慣習アリ、之ヲ「託孤」ト稱ス。託孤ハ「論語」泰伯篇「可也。以託六尺之孤。トアルニ取ル。父母尊長ノ遺囑若クハ親族會ノ選定ニ由リテ其尸主タルベキ幼者ノ身上及ビ財産ノ保護監督ヲ爲スコト、近世法上ノ後見人ニ相當ス。

【託故】 事故ニ託シテ契約ヲ履行セザルノ義ニ使用ス。【明律】「清律」戸律田宅篇「典買田宅ノ條、其所ノ典田宅園林、房廊等物。年限已滿。業主備價取贖。若典主託故。不令贖。贖者。各罰四十。云云(明律卷五)」。【託附】 蒙古語、國老ヲ謂フ。(元史塔)【託附】 人ニ依リテ重キヲ取ルコトヲ謂フ。【唐書】「託附權幸。」

託分 (部首) (言) (韻)

【託分】 託跡ト云フニ同ジク身分ヲ他ニ託シテ世ヲ避クルコトヲ謂フ。【阮籍】詩「託分漁父。トアルハ其一例ナリ。」

謫 (部首) (言) (韻)

【謫降】 官吏ガ罪ニ因リテ邊徼ノ地ヘ改遷セラル、コトヲ謂フ。【甲申雜記】「將引用嶺南謫降人。元祐中同力爲之。又道家ハ墮落スルコトヲ「謫降」ト曰フ。」

謫徒 (部首) (言) (韻)

【謫徒】 官吏ニ對スル罰、凡ソ在官者ガ或ル罪ヲ犯シタルトキ其官位ヲ降シ或ハ革職シテ邊境ニ發遣シテ戍役ニ當ルコトヲ謂フ。(通俗)

謫戍 (部首) (言) (韻)

【謫戍】 凡ソ在官者ガ犯罪ニ因リテ革職、邊外ニ發遣セラレ戍役ニ當ルコト、清朝ノ「軍臺效力」ノ如キ是ナリ。【擿】 (部首) (大) (韻)

擿 (部首) (大) (韻)

【擿】 此語ハ「公羊傳」重「擿」字子之情一蒙無訛。トアルニ出ヅ。即チ國家一朝變急アル場合ニ於テハ縱令父母ノ喪中ニ在ルモ其人ニシテ德望アリ才能アルトキハ猶ホ詔ヲ發シ

テ表服ノマ、穽ニ就カシムルコトアリ之ヲ「擿情」ト稱ス。【資治通鑑】唐紀胡注「起復者。起之否塊之中。而復其官職也。亦謂之擿情」。現ニ清代會國藩ガ母ノ喪ヲ以テ湘鄉ニ家居シタルヲ起シテ軍事ヲ任ジタルガ如キハ其實例ナリ。

【擿爵】 (擿フ) 秦漢制、有爵者ガ罪ヲ犯シタルトキハ其爵ヲ奪ヒテ士伍ト爲スコト。其官職モ亦免ゼラル。律ニ所謂「除名」ナリ。【藝文類聚】五十一「依律有擿爵之法」。【漢書】景帝紀「擿爵爲士伍。免之。註「師古曰。謂奪其爵令免爲士伍。又免其官職。即今律所謂除名也。謂之擿之。言從士伍卒之伍也。」。【史記】秦本紀「武安君有罪。爲士伍。註「如淳曰。嘗有擿爵。而以罪奪之。謂之擿之。士伍。漢舊儀「秦制二十爵。男子賜爵一級以上。有罪以減。年五十六免。無爵爲士伍。六十乃免。老有罪。各盡其刑。是擿爵。本秦制也。」

擿標 (部首) (大) (韻)

擿標 (部首) (大) (韻)

擿勞 (部首) (大) (韻)

【擿勞】 官吏ガ私罪ヲ犯シタルトキ其官ヲ奪ヒテ勞役ニ服セシムルコト、【隋書】刑法志「擿勞百日。杖背一百。【補宋書刑法志】永初元年夏六月丁卯。大赦天下(中)「亡官失爵禁擿擿勞。一依舊準。(宋書武)」。【擿肉】 (部首) (大) (韻)

擿肉 (部首) (大) (韻)

【擿肉】 戶主ガ故意ニ家族ノ戸籍ヲ脫漏シテ課稅ヲ免ガルコトヲ謂フ。【唐律】戸婚篇「脫戶ノ條「諸脫戶者。家長徒三年。無課稅者。減二等。女戶又減三等。」(同書卷十二)

擿漏戶口 (部首) (大) (韻)

【擿漏戶口】 家ヲ計リテ數フルヲ曰フトヒ人ヲ計リテ數フルヲ「口」ト曰フ。戸口ヲ開報(開列)届出シテ戸籍簿ニ登記スルヲ「附籍」ト曰フ。戸口ヲ有スル者ハ必ズ開報セザルベカラズ、戸ノ開報ヲ怠ルヲ「脫戶」ト曰フ、人口ノ開報ヲ怠ルヲ「漏戶」ト曰フ。【明律】及ビ「清律」戸律戸役篇「擿漏戶口ノ條アリ。凡ソ六項ニ分チテ規定ス。第一項及ビ第二項ハ脫戶ニ關スル規定、第三項ハ前二項ノ但書、第四項及

第五項ハ漏口ニ關スル規定、第六項ハ戸口ヲ掌ル官吏ノ責任ヲ規定ス。(明律卷四)【擿】 (部首) (大) (韻)

擿 (部首) (大) (韻)

【擿】 (部首) (大) (韻)

【擿】 (部首) (大) (韻)

【擿】 (部首) (大) (韻)

擿魯花赤 (部首) (大) (韻)

【擿魯花赤】 官名、蒙古語。長官ノ職ナリ。各路府州縣各提舉司、各總管府等皆之ヲ置キテ其長官ト爲ス。【元典章】吏部投下篇「投下達魯花赤遷轉ノ條、上路府州縣達魯花赤人員。須要選正蒙古人員。充各處達魯花赤。云云(九)【清】改譯シテ「達魯噶齊」ト爲ス。

擿魯噶齊 (部首) (大) (韻)

【擿魯噶齊】 元代、地方長官ノ稱ナリ。【擿魯花赤】 (部首) (大) (韻)

擿魯花赤 (部首) (大) (韻)

【擿魯花赤】 貨物ヲ貯藏シテ官ニ報告セザルコトヲ謂フ。【清律】戸律課稅篇「船商隱稅」ノ條載

註「方言。販三停貨物。曰塌貨。言客商將三船船貨物。私自停塌于沿港所在土商牙僧之家。藏匿不報。官也。」(卷十)

【塌頓】 塌頓ニ同ジ。鮮卑ノ名ナリ。【魏志】「鮮卑名塌頓。塌一ニ塌ニ作ル。」

【筒】 (部首) (合) (韻)

【筒】 (一) 英文ノ一種。【正字通】「筒。用以奏事。非表非狀者。謂之筒子。」(二) 割ハ札ニ通ズ。公文書。清ハ上ヨリ下ニ行フ文書ヲ「筒子」ト曰ヘリ。(三) 割子

【筒記】 或ル事項ヲ條記スルコトヲ謂フ。後世用キテ書名ト爲ス。【清韻百詩】「清韻割記」ニ始マル。概シテ校勘、考證ヲ主トス。

【筒子】 【却掃篇】「唐政事堂下所ノ書ヲ堂帖ト曰フ。國初猶ホ此制ニ因ル。尋ア詔アリ禁止ス。其後中書指揮ノ事凡ソ勅ヲ降サマルモノハ「筒子」ト曰ヘリ。猶ホ堂帖ノゴトトシト記ス。清制ハ上ヨリ下ニ行フノ公文ハ之ヲ

「割子」ト曰フ。割ハ札ト通ズ。故ニ又「札子」ニ作ル。民國ハ割子ヲ改メテ「飭文」ト曰フ。

【筒付】 或ル官衙ノ長官ガ委員ヲ派シテ事ヲ辦ゼシムル場合ニ給スル公文書ヲ謂フ。【六部成語註解】「上官派ニ委員ニ辦事。皆付ニ割文。此文即名ニ割付。」元典章「戶部篇」至大元年七月臨江路。奉江西行省割付。云云。(九卷十) 元代已ニ用キルヲ知ルベシ。

【關】 (部首) (合) (韻)

【關載車】 天子、狩獵ニ用キル車。【晉書】「獵車駕ニ四馬。天子校獵所乘也。一名關載車。」

【關茸】 (一) 關茸トハ「楚辭」九款、雜草類。與ニ關茸。トアルニ出フ。性情昏亂。弱ニシテ活氣ナキ者ヲ謂フ。【六部成語註解】「性情昏亂。弱。遇事不知。振作。」又(二) 汚穢。穢ノ義アリ。【漢書】「司馬遷傳」在關茸之中。

【丹】 (部首) (寒) (韻)

【丹辰】 青蒲ニ(居間)ニ對シテ特ニ「丹辰」ト曰フ。青蒲ニ(居間)ニ對シテ特ニ「丹辰」ト曰フ。

ト曰フ。斧(天子、諸侯)ノコトナリ。即チ諸侯ガ天子ニ謁見スルトキ、天子ノ後ヘ立ツル赤色ノ屏風ナリ。(イ)ノ部「辰」及「丹」ル。【舊唐書】「敬宗紀」李德裕獻ニ丹辰殿六首。上深嘉レ之。

【丹墀】 赤色ヲ以テ塗リタル庭、天子在ス殿階ノ下ヲ謂フ。【漢書】「百官志」以丹朱ニ塗地。謂之丹墀。

【單】 (部首) (又銳) (韻)

【單眼花翎】 清朝ニ於ケル勳章ノ一種、文武官ノ軍功アル者ニ授クルヲ例トス。然レドモ光緒末年ニハ捐金ヲ以テ得ル者多キニ至レリ。(清國行政) (法第一卷)

【單桅】 桅ハ小船ノ樞、清朝ノ制ハ各省ノ漁船ハ單即チ一本ヲ用キルヲ法トシ、雙即チ二本ヲ用キルコトヲ得ズ。但シ福建省ノミハ單桅雙桅ヲ兼用スルコトヲ許セリ。

【單月】 清制、雙月ニ對スルノ語即チ奇數ノ

月、正月、三月、五月、七月、九月、十一月ノ奇數ノ月ヲ指ス。即チ官吏任用ノ時期ヲ定メタルモノニシテ、此月ニ任用スルコトヲ「急選」ト稱ス。(典史部)

【單月選】 清制、奇數ノ月ニ官職ヲ選授スルヲ單月選ト稱シ、之ニ屬スル者ハ(一) 捐納(二) 議敘(修史等ノ事務已ニ畢ハリ、本屬長官ノ議敘ヲ推選ニ由リ某官ノ候補者ト爲リタル者)(三) 降調開復(受譴其他ノ事情ノ爲メニ降級ル)(四) 教官等ナリ。(會典)

【單車刺史】 魏及ビ晉代ニハ刺史ヲ以テ專ラ民治ノ職ヲ掌ラシメ、軍政ハ「都督諸州軍事」ナル官ヲ設ケテ之ニ任ジタルモ、要地ノ刺史ハ都督ヲ以テ之ヲ兼管セシメ、自餘ノ刺史ハ「單車刺史」ト稱シテ、之ヲ區別シタリ。(歷代職官表)

【單擡】 清制、上書等ノ據寫中一般ノ字格ヨリ一位高ク上ゲテ寫スコトヲ謂フ。

【單丁】 兄弟ナキ壯丁ヲ謂フ「齊書」「凡單丁之身。及犍獨。並獨今年田租。」

【單馬】 常設ノ馬匹不足ノ場合ニ使用スル爲メ、別ニ備フル所ノ馬ヲ謂フ。(六部成語註解)

【團】 (部首) (寒) (韻)

【團圓節】 八月十五日婦女歸寧シ(實家ニ歸安否ヲ問)其日夫家ニ送ルヲ「團圓節」ト曰フ。(帝京叢書)

【團匪】 拳匪ノ一種、一ニ「義和團」ト稱ス。明治三十三年北京ニ一揆ヲ起シ諸外國ノ公使館ヲ襲撃ス。世ニ之ヲ「北清事件」ト稱ス。(團匪ノ部) (拳)

【團練】 壯丁ヲ彙集シテ兵事ヲ練習スルコトヲ謂フ。【六部成語註解】「聚集壯丁。而團練」

【團練使】 官名、唐始メテ此官ヲ置キ大ナル者ハ十州ヲ領スルニ至ル。並ニ團練副使ヲ置キタルガ後ニ刺史ヲシテ悉ク團練使ヲ兼帶セシム。宋ハ團練使ヲ以テ虛銜(名譽的ノ官)ト爲ス。

【塌】 (部首) (寒) (韻)

【塌戶】 河川沿岸ノ土地ガ水勢ノ爲メニ陷落シタル場合ノ所有者ヲ指ス。即チ塌田ノ所有者ノ義ナリ。若シ後日更ニ水勢ノ變動ニ由リテ復起シタルトキハ、其所有ニ復ス。(清戶部)

【塌江田地】 塌壞シテ江水ニ入ル田地ヲ「塌江田地」ト曰フ。【六部成語註解】「塌江中一之田也。」

【塌倒】 城垣等ガ雨水ノ爲メニ衝破セラル、コトヲ謂フ。【明律】「清律」工律營造篇「擅造作」ノ條、其城垣塌倒。云云。(明律卷二十九)

【塌塌田地】 河畔ノ田地ガ水害ノ爲メニ河中ニ陷落シタルモノヲ謂フ。【六部成語註解】「江河之畔、被水冲塌之地。」

【塌漲】 塌漲トハ沙地ガ水勢ノ爲メニ或ハ發生シ、或ハ消滅スルコトヲ謂フ。塌ハ後者ヲ指シ漲ハ前者ヲ指ス。(清戶部)

【坦】 (部首) (旱) (韻)

【坦緯】 宰相ノ別稱ナリ。(平官)ヲ見ヨ)

【坦腹】 女婿ノ稱ナリ。晉書王羲之傳、郗鑒使三門生求婿於王、王曰、就東廊下觀、子弟、歸謂鑒曰、王氏諸少並佳、然聞信至、咸自矜持、惟一人在東、狀坦腹食、獨若不聞。鑒曰、此正佳婿邪、防之乃義之也。坦腹ハ元ト寛カニ平臥スルノ義。此ヨリ婿ヲ「坦」ト曰ヒ他人ノ婿ヲ「令坦」ト曰フニ至ル。

【堪】 (部首) (韻) 堪、土部。堪、土部。堪、土部。

【堪布】 喇嘛ノ布教ヲ掌ル官名ナリ。(清)

【堪輿】 堪輿ハ漢書藝文志ニ堪輿全圖十四卷アリ。五行家ニ列ス。堪ハ天道輿ハ地道、即チ天地ノ總稱ナリ。今ハ相地家ヲ指シテ堪輿家ト爲ス。

【堪輿家】 天文ト地理トニ通シ陰陽禍福日時方位ノ吉凶ヲ判斷スル者ヲ謂フ。臺灣等ニ於テハ之ヲ「風水先生」ト稱ス。

【彈】 (部首) (韻) 彈、弓部。彈、弓部。

【彈壓】 監督長官ガ其部員ニ對スル特權即チ懲戒權ノ一種ナリ。六部成語註解「壓制管轄之意」。

【彈劾】 官吏ノ非違ヲ天子ニ奏上スルコト、北史魏收傳、南臺將加彈劾、清代ハ都察院科道ノ如キ官吏ノ行動ヲ監察スル權限ヲ有スル者ガ、各官廳ノ職務若クバ官吏ノ行爲及ビ性格ニ就キテ不正非違ノ事實アル場合ニ、之ヲ具奏シ法ニ正シテ處分センコトヲ求ムル手續ヲ謂フ。(會典及比同)

【彈事】 人ヲ彈劾スルノ奏疏、一ニ又「彈章」トモ曰フ。文心雕龍「按劾之名其來久矣。梁昭明輯文選、特立三其名、曰「彈事」。

【彈子】 舟子ハ船ヲ牽クノ索ヲ稱シテ「彈子」ト謂フ。齊東野語「舟子稱牽索之索、曰「彈子」。

【彈章】 彈劾ノ奏文ヲ曰フ。一ニ又「彈事」トモ曰フ。(彈子見)

【彈免】 天平(名)ヲ以テ銀ノ重量ヲ稱リテ高

下ヲ正一ニスルコトヲ謂フ。六部成語註解「稱銀也。凡稱銀。必將天平。彈正高下一如一。故曰「彈免」。

【探】 (部首) (韻) 探、才部。探、才部。

【探花】 科擧ニ於テ殿試(天子ノ親ヲ爲ス試)及第者中優等者三人ヲ拔キ之ヲ「一甲」ト稱シ其第一等ヲ「狀元」ト爲シ第二等ヲ「榜眼」ト爲シ第三等ヲ「探花」ト爲ス。皆學位ノ號ナリ。狀元ハ唐則天武后ノ時ニ始マリ、榜眼ハ宋ノ時ヨリ始マリ(各本條)探花ハ元代ヨリ始マル。但シ探花ノ故事ハ唐代進士ヲ杏園ニ會シ之ヲ「探花宴」ト謂フ。其理由ハ及第者中ノ最少後二人ヲ選ビテ「探花使」ト爲シ偏ク名園ニ遊ビテ名花ヲ折取セシム。若シ他人ニ先取セラレタルトキハ罰セラル。唐進士杏園初會。謂之探花宴。探花使二人。爲探花使。偏遊二名園。若他人先折得花。二人皆受罰。(秦中記略)但シ當時ハ學位ノ稱ニアラズ。文獻通考「選舉志等ニハ前記ノ如ク

元代ニ始マルト爲ス(陸倕叢考)ハ宋南渡後即チ南宋ニ始マルト爲ス。

【探花宴】 (前條見)

【探花使】 (前條見)

【探子】 俗ニ軍事探偵ノ稱ト爲ス。

【探囊】 (一)竊盜ノ一種(キンチャ)ナリ。莊子「將爲三肢探囊發匿之盜。而爲三守備。云云。(二)事ノ易キヲ言フ。即チ囊中ノ物ヲ探グルノ謂ナリ。五代史「李穀傳「中國用吾爲相。取江南。如探囊中物耳。」

【探馬赤軍】 奴隸的賤民ヨリ成ル兵役ノ名ナリ。元史「兵部第一編「探馬赤軍和雇和買」ノ條アリ。即チ此種ノ賤民ニ關スルコトヲ規定ス。

【搏】 (部首) (韻) 搏、手部。搏、手部。

【搏埴之工】 (搏一ニ搏) 陶器ヲ埴トスル職工、凡ソニアリ、一ヲ陶(瓦)トシ、二ヲ埴(瓦)トス。(周禮冬官考工記、大)

【探】 (部首) (韻) 探、手部。探、手部。

【探場錢物】 賭博ニ手ヲ以テ錢ヲ布クコト即チ賭博ニ供スル錢、官ニ沒收セラル、物ナリ。明律「清律」刑律雜犯篇「賭博」ノ條、探場錢物(清律ハ財)入官。(清律卷三十六)

【攤】 (部首) (韻) 攤、手部。攤、手部。

【攤扣】 官吏ノ俸給ヲ政府財政ノ都合ニテ削減スル場合ニ、京官ニ對シテハ「減折」ト曰ヒ、外官ニ對シテハ「攤扣」ト曰フ。(周禮)

【攤沙起竈】 海濱ノ沙地ヲ平ニシテ爐竈ヲ築キ、鹽ヲ煎ルノ用ニ備フルコトヲ謂フ。六部成語註解「海濱沙地。攤使平正。築起爐竈。以煎鹽。」

【攤酒銀】 攤ハ開クノ義、酒ハ分ツノ義即チ應ニ徵スベキ稅銀ヲ各地ニ分開シテ徵收スルコトヲ謂フ。六部成語註解「攤。開也。酒分也。將應徵之款。分開於各所。而徵之。」

【攤錢】 賭博ノ俗名、史傳之ヲ「意錢」ト謂フ。(資暇)

【攤派】 攤ハ均分ノ義即チ民人ヨリ捐(義捐)金又ハ地方)ヲ募ルトキニ、其數ヲ均分シテ徵收スルコトヲ謂フ。六部成語註解「攤乃均分之意。應集捐若干。均分其數於民衆。派令交出也。」

【攤捐】 博戲ノ名ナリ。容齋隨筆「今人意錢賭博。皆以四數之。謂之攤。案廣韻「攤字注云。攤捐四數也。」

【攤】 (部首) (韻) 攤、斤部。攤、斤部。

【攤契】 一紙ヲ兩斷シタル契字、借用證ノ類ナリ。唐律「贓制篇「貸所監臨財物」ノ條、即斷契有數。違負不還。過三十日者。以受所監臨財物論。(同書卷)

【攤決】 裁判ノ確決スルコトヲ謂フ。明律「清律」刑律斷獄篇「淹禁」ノ條「應斷決者。限三日內斷決。(明律卷三十四)

【攤罪依新頒律】 (罪ヲ斷ズルニハ) 凡ソ律ハ頒行ノ日ヲ以テ效力ヲ生ズ。若シ犯罪方頒

行以前ニ在リテ判決ヲ經ザル者ハ並ニ新頒布ノ律ニ依リテ擬斷スルヲ法トス。【明律】及ビ【清律】名例篇「斷罪依新頒律」ノ條「凡律自頒降日爲始。若犯在已前者。並依新律擬斷。」(明律卷四)

【斷罪引律令】(罪ヲ斷ズルニ)獄訟ヲ聽キ罪ヲ斷ズルニハ必ズ律令ノ規定ニ從ヒ其適用スル所ノ法文ハ判決文ニ具引(全文ヲ備載)セザルベカラズ、之ヲ「斷罪引律令」ト謂フ。【明律】刑律斷罪篇「斷罪引律令」ノ條アリ、同文ヲ以テ「凡斷罪。皆須具引律令。違者笞三十。」云云(明律卷三十八)

【斷罪無正條】(罪ヲ斷ズル)罪ヲ斷ズルニハ法文ノ正條ニ據ルヲ本則ト爲スモ偶々律令ニ該載シテ事理ヲ盡サマルモノ、若クハ正條ナキモノハ他ノ類似ノ條項ヲ引キテ罪名ヲ定擬スルコトヲ得、但シ此場合ハ刑部ヘ轉送シ刑部ニ於テ議定以テ勅裁ヲ仰グベキモノトス。【明律】刑律「斷罪無正條」ノ條「凡

律令該載不盡事理。若斷罪而無正條者。引律比附。應加減。定擬罪名。轉達刑部。議定奏聞。若輒斷決。致罪有出入者。以故失論。」(明律卷四)

【斷新錢】(新錢ヲ)新錢ノ鑄造ヲ禁斷スルコトヲ謂フ。【補宋書食貨志】「泰治二年春三月壬子。斷新錢。專用古錢。」(宋書明)

【斷屠】朝廷齊典アルトキハ牛羊等ヲ屠殺スルコトヲ禁斷ス。又此日ハ刑ヲ執行スルヲ得ズ。唐初代ニ始マル。【事物紀原】「唐刑法志曰。武德二年詔。斷屠日。不施行刑。會要曰。武德二年正月二十四日詔。自今後。每年正月、五月、九月及每月十齋日並斷屠。按此則是斷屠之制。起於唐高祖也。云云。」(十)

【斷薄刑決小罪】(薄刑ヲ決ス)【禮記】月令篇ニ出ツルノ語、月令ハ秦呂不韋ノ撰ト傳ヘラル、所、蓋シ戰國時代諸國ニ行ハレタル制度ノ要ヲ摘擧シタルモノニ外ナラズ。其本文「孟夏之月。斷薄刑。決小罪。出輕繫。」孟夏

ハ初夏ニテ天氣初メテ炎ニ大暑ニ向ハントス。罪人獄中ニ繋ガル者氣漸ク鬱滯シテ疾病ニ罹ル者ヲ生ズ。故ニ此時ヲ以テ小罪ニ坐セラレタル被告人ニ對シ連ニ審判ヲ爲シテ罪ノ輕キ者ヲ放免スルノ謂ナリ。

【斷付】(下條ヲ)【斷付前夫同居完聚】(前夫ニ斷付シテ)女家ノ父母ガ婿ヲ逐ヒ出シテ女ヲ改嫁シ「テ」ノ部「逐婿」或ハ別ニ婿ヲ招キタルトキハ其父母ヲ罰シ其女ハ父母ノ拘束ヲ離レテ前ノ夫ニ給付シ女家ヲ出テ從前ノ如ク夫婦共同ノ生活ヲ爲サシム。【明律】及ビ【清律】戶律婚姻篇「逐婿嫁女」ノ條「凡逐婿嫁女。或再招婿者杖一百。其女不坐。」(中)其女斷付前夫。同居完聚。」(明律卷九)

【斷俸】(俸ヲ)兵亂ノ爲メ國帑缺乏ニ際シ臨時官吏ノ俸給ヲ斷テテ與ヘザルコトヲ謂フ。【補宋書食貨志】「五年夏六月癸酉。以軍興。已

來百官斷俸。並給生食。」(宋書明)

【斷沒】不正ノ貨物ハ所有者トノ關係ヲ斷絶シテ沒收スルコトヲ謂フ。【大學衍義補】「漏稅者斷沒。」トアルハ其一例ナリ。(同書卷二十五)

【斷離】不法ノ婚姻ニ依ル夫婦ノ關係ヲ斷絶別離スルノ義、離異ノ別稱ナリ。【元典章】戶部篇「兄收弟妻。斷離。」ノ日アリ。(卷十)

【灘】(部首) (韻) 獨道灘險ノ處ヲ船ヲ遣ル場合、灘所ノ水理ヲ熟知セル者ヲ備ヒテ指導セシム。之ヲ「灘師」ト謂フ。

【灘副】海濱ノ一部ニ設ケタル製鹽地ノコトヲ謂フ。(清會典) 事例

【炭敬】不正官ガ彈劾權ヲ有スル上官ヘ贈ル賄賂ニシテ、冬季ニ贈ルヲ「炭敬」(炭代トシ)ト曰ヒ、夏季ニ贈ルヲ「水敬」ト曰フ。(清國法第一卷)

男 (部首) (韻)

【男女有別】(男女別) (一)男子ハ外部ノ事ヲ主トシ、女子ハ内部ノ事ヲ主トス。其他總テ性行ニ別アルノ義ナリ。【禮記】大傳篇「名者而男女有別。【禮記】內則篇「男不言內。女不言外。非祭非喪。不相授器。云云。」又「男子居外。女子居內。禮始於謹。夫婦爲宮室。辨內外。男子居外。女子居內。云云。」(二)男女喪服ヲ異ニスルコトヲ謂フ。周代ノ喪制、(イ)父ノ爲メニハ斬衰ニ服シ(ロ)母ノ爲メニハ齊衰ニ服シ(ハ)姑、姉妹在室(ニ在ルトキ)ハ期ニ服シ出嫁スレバ、大功ニ服ス(ニ)妻ハ夫ノ爲メニ斬衰ニ服シ(ホ)夫ハ妻ノ爲メニ期ニ服ス。(喪服小記及ビ大學)

【男錢】一種ノ迷信ヨリ出ヅルモノ、徑寸重四錢ノ錢ヲ鍍ニ懸ケテ佩アレバ男子ヲ生ムト稱シ之ヲ「男錢」ト謂フ。【泉志】「舊語曰。徑寸重四錢。懸錢。書文曰。布泉。世人謂之男錢。言佩之則生男也。」

短 (部首) (韻)

【短解】長解(各省ヨリ直ニ)ニ對スル語、驛站毎ニ官役ノ更換ヲ爲シ、官物ヲ京師ニ送ル官役ノ稱ナリ。【六部成語註解】「按驛更換。驛送之官役。曰短解。」

【短錢】宋代民間ニ於テハ錢八十文ヲ陌ト爲シ之ヲ「短錢」ト謂ヒ、官用ハ陌ニ足シテ通用ス之ヲ「長錢」ト謂フ。(宋史食)

【短派】短ハ數ノ少ナキコト、派ハ民家ニ割當テ、地方費ヲ徵收スルコト、例セバ其地方人民財力ニ乏シキカ、又ハ其土地磽确(ヤセ)ナルトキ、特ニ少額ノ徵收ヲ爲スコトヲ「短派」ト謂フ。【六部成語註解】「少派也。或因其人產薄也。或因該地磽确。故減其應派之數也。」

【短派銀】前項ノ方法ニ由リテ徵收スル銀ヲ「短派銀」ト謂フ。故ニ民力餘饒ヲ生ズルニ至ラバ、重額ヲ徵收スルコトアリ。【六部成語註解】「分派之中。所短派之處。或應重派之。」

【短票】 清時代、森商が金ヲ貸ストキ、故ラニ其期限ヲ短クシ三四箇月毎ニ證券ヲ改換シテ、重利ヲ食ルコトヲ謂フ。(會典)

【站】 站ハ驛遞ノ一種、專ラ軍報ノ遞送ヲ掌ルモノヲ謂フ。嘉慶會典兵部「軍報所」設爲レ站。トアルハ是ナリ。站ハ坐立不動ノ貌、別ニ驛遞ノ意義ナシ。蓋シ其官舎ガ坐立不動ノ狀ヲ爲スニ因ルカ、或ハ曰ク「驛站ハ驛遞ノ訛言ナリト」。

【站戸】 驛遞ノ事務ニ従事スル賤役ヲ指ス。元典章戸部「驛典章」站戸典賣田土。ノ條アリ。略今後站戸如ニ必消乏。典賣田土。當該社長里正主首親隣並原簽。同甲站戸ニ從レ實保勤。云云。(卷十)

【站赤】 元代軍用郵便ノ一種、馬匹ニ依リテ軍用ノ使員及ビ文書ノ運搬ヲ掌ル。元典章兵部第三篇「站赤」ノ章アリ。站赤ニ關スル事項ヲ條定ス。(卷三)

【站籠】 刑具、一ニ立枷ト曰フ。(リノ部見) 端(部首)

【端揆】 宰相ノ稱ナリ。端ハ正、揆ハ百揆ノ揆ナリ。晉書「若乃體以二名臣。格三之端揆。周公流連於此歲。魏武得意於二日。南史」沈約傳「約久處端揆。有司台司。論者咸謂爲宜。而帝終不任用」。

【端公】 唐代侍御史ノ俗稱、其御史臺ノ首ニ居ルヲ以テナリ。文獻通考「侍御史之職。臺內之職。悉主之。號爲三端。人稱之曰二端公。其知三雜事者謂之端端。最爲三雜劇」。

【端公太保】 男巫(コ)ノ俗稱ナリ。(明清律「禁止師巫邪術」ノ條)

【端撰官】 尙書ノ異稱、錦字箋「漢光武親提三吏職。天下事。皆尙書與二人主。參決。乃號爲三端撰官」。(卷一)

【端】 (部首) (寒) (韻)

【贖銀】 船ヲ繋グ繩ナリ。六部成語註解「繫レ船之索也」

【贖銀】 船船修繕費ノ剩餘金ヲ謂フ。賈ハ船ヲ修繕スルノ義ナリ、漢ハ剩餘ノ義、即チ船ヲ修繕シタル剩餘銀ナリ。六部成語註解「修船日賈。餘剩日賈。蓋言三修レ船所餘之款也」。

【贖銀】 清制、賈夫(夫)銀ト羨餘銀(剩餘ナルモ此ハ贖備)トノ合稱、各省漕船ノ航海ハ山東河南路ノ附近ヲ除クノ外餘省ハ每石ニ賈夫銀一分ヲ給シ又航海漕船ノ實數ヲ按シテ山東河南ハ每船ニ羨餘銀一兩ヲ給シ。江蘇、安徽ハ二兩、江西、浙江兩湖ハ四兩ヲ給ス。舊欠(前未分)ヲ抵扣スルヲ除クノ外ハ坐糧廳ヨリ發給ス。總テ之ヲ「賈羨銀」ト稱セリ。

【賈夫銀】 賈ハ賈索即チ船ヲ曳ク索ヲ曰フ。賈夫トハ即チ米糧運漕ノ船夫ナリ。賈夫ニ對スル手當ヲ「賈夫銀」ト曰フ。(上條參照)

【耽】 (部首) (覃) (韻)

【耽擱】 郵便物遞送ノ滯留スルコトヲ謂フ。(郵政章程)

【耽酒】 酒色ニ耽溺スルコトヲ謂フ。晉書孔羣傳「性嗜酒。嘗與二親友書云。今年田得七百石。米不足。足二難。其耽酒如此」。

【袒】 (部首) (旱) (韻)

【袒】 左肩ノ衣ヲ免クコトヲ曰フ。凡ソ事吉凶トナク皆左肩ヲ免ク例トス。但ダ罪人刑ヲ受クルトキハ右肩ヲ免キテ刑ヲ受ク。儀禮「袒射禮。可射適堂。袒決遂」註「袒。左免衣也。疏。凡事無問。皆袒左。惟有受刑。袒右」。

【袒右】 (見) (袒) (韻)

【袒護】 上官ガ下僚ノ不正ヲ庇護スルコトヲ謂フ。(清戸部則例)

【袒縛】 肉袒面縛ノ略語、肩ヲ露ハシ手ヲ後ヘニ縛セラレ降ヲ乞ヒテ命ヲ承クル狀ナリ。

【虎牢關銘】 僞鄭袒縛。而請命。

【袒免】 左肩ヲ露ハスヲ袒ト曰ヒ冠ヲ去リ髮ヲ括スルヲ免ト曰フ。五服以外ノ喪章ニシテ遠親ノ間ニ行フ法トス。禮記「五世袒免。殺二同姓也」。

【袒免親】 五服ハ「緦麻」ヲ見ヨ。以テ服經。故ニ緦麻以外ヲ「緦麻絕服」ノ親ト曰フ。五服以外ノ親即チ袒免親ニシテ。(一)高祖ノ親兄弟。(二)曾祖ノ堂兄弟。(三)祖父ノ再從兄弟(四)父ノ三從兄弟(五)己レノ四從兄弟及ビ三從姪。再從姪孫ヲ指ス。唐律「戶婚篇」爲袒免妻嫁娶ノ條。諸書爲袒免親之妻。而嫁娶者。各杖一百。疏議「高祖親兄弟。曾祖堂兄弟。祖再從兄弟。父三從兄弟。身四從兄弟。三從姪。再從姪孫。並緦麻絕服之外。即袒免」。(四)

【袒】 (部首) (感) (韻)

【贖】 (一)物品ヲ購入スルトキ先ヅ其代金ヲ渡スコト。(廣韻)「徒感切音召買物先入直也。我邦俗ノ「サキゼニ」「イレゼニ」ニ當ル。(二)又、書物卷首ノ帖紙ヲ曰フ。「米芾書史」

「隋唐書。皆金題銀額。其註。金題押額也。額。卷首帖紙。又謂之玉池」。

【耽】 (部首) (耽) (韻)

【耽誤公事】 (耽誤) 耽ハ耽ノ俗字、徒ラニ時日ヲ費シテ公務ヲ誤ルコトヲ謂フ。(カ) (合朔行移) (見)

【鍛】 (部首) (韻)

【鍛石】 (一)石灰ヲ鍛石ト曰フ。(本) (二)斧ノ類ヲ鍛屬スル石ヲ鍛石ト爲ス。(詩)

【鍛鍊】 本ト、鍛冶工ガ鐵類ヲ鍛屬スルノ義、取リテ陪史ガ人ヲ罪ニ陷レンガ爲メニ巧妙ニ其罪科ヲ構成スルノ義ト爲ス。漢書「路溫舒傳」上奏長。即。則鍛鍊而周入之。後漢書「章彪傳」鍛鍊之吏。云云。トアルモ亦此稱、陪史ノ義ト爲ス。

ち(チ)ノ部

值(部首) (質) (韻)

【値日】 輪流即チ一定ノ順番ニ依リテ所屬官廳ニ差遣セラレ、當日ノ公務ヲ辦理スルト同時ニ其責任ヲ負擔スル者ヲ謂フ。六部成語註解「輪流按日應差之人。即チ「日直」ノ義ナリ。

【値宿】 輪流法ニ依リテ所屬官廳ニ投宿シ、夜間ノ警衛ヲ爲スコト、邦語ノ「宿直」ニ當ル。【六部成語註解】「輪流日。住夜之人。」

【値堂】 清制、裁判所ノ通譯ヲ値堂ト爲ス。【清國行政】

【法卷五】

【値年】 凡ソ公共事務ニ對シテ或ハ年ヲ按ジ、或ハ日ヲ按ジ一定ノ順番ニテ其事務ヲ辦理シ其年ノ事務擔任者ヲ「値年」ト曰ヒ、其日ノ擔任者ヲ「値日」ト曰フ。

【値年旗衙門】 清制、八旗驍騎衛ニ該衙門アリ。八旗ノ司令本部ナリ。【清國行政】

【値年旗大臣】 清制、八旗驍騎營ノ司令本部長官、毎年各旗ノ都統一人ヲ以テ之ニ任ズ。凡ソ八旗ニ關スル文書ハ必ズ該大臣ノ手ヲ經

由スベキモノトス。但シ、參領章京、驍騎校、印務筆帖式等ヲ選派シテ其事務ヲ處理セシム。【法卷四】

【地】 (部首) (實)

【地】 (一) 地ト云フ問題ニ關シテハ異說多ク。鄭玄ハ崑崙ノ神(周官大司馬)神州ノ神(周官大司馬)ト爲シ方丘ニハ崑崙ノ神ヲ祭リ北郊ニハ神州ノ神ヲ祭ルモノトシ方丘ト北郊トヲ區別セリ。後世其緯書ノ說ニ出ヅルヲ以テ之ヲ難ズル者多シ。按ズルニ地ハ地ヲ主宰スルノ神ナリ。後儒ノ附會固ヨリ採ルニ足ラズ。魏ノ明帝ハ鄭玄ノ說ニ依リ閭丘、南郊、方澤、北郊ノ四者ヲ區別セシガ晉ノ初メ合祭ト爲リ太宰中又分祭ト爲レリ。宋、齊、梁、陳、北齊、後周皆分祭ナリ。唐ノ時ハ分祭合祭一定セズ。宋ハ多ク合祭ヲ用キシモ元豐四年分祭ニ復シ後又合祭ト爲レリ。宋ノ末年ハ分祭ヲ行ヒタルモ北郊ハ天子親祀セザリキ。明ノ初メ方澤ヲ設ケンガ洪武十二年合祭ト爲リ嘉靖九年又初制ニ復

シ方澤ヲ定門外ニ建ツ。清ハ之ニ因ル。【清國法卷】 (二) 文學上ニ於テハ助語ニ用フ。「忽地」特ダノ類ナリ。

【地甲】 一部落ノ長ニシテ「保正」ニ同ク「保甲」清代ニ於テハ縣内ノ巡警事務ヲモ「地甲」ニ任ジタリ。【行政叢書】

【地示】 地示ハ地ノ神、示ハ音「キ」ナリ。「地示」相通ズ。周禮ニ於テハ祭祀ノ神靈ヲ大別シテ天神、人鬼、地示ト爲ス。地示ハ地ノ神ニシテ所謂「地祇」ナリ。

【地祇】 地ノ神、周禮ハ前記ノ如ク「地示」ニ作ル。其他經傳皆「神祇」ニ作ル。祇ハ示ニ同ジク「キ」シ「兩音」アリ。【正韻】「渠宜切音岐。同示。地神。」孫奕示兒編曰。祇兩音。音岐者。神祇之祇。音支者。調適是也。」

【地祇壇】 地神ヲ祭ル壇、清制ハ天神壇ト共ニ內垣南門ノ外ニ合建ス。東ヲ天神壇トシ西ヲ地祇壇トス。【中略】地祇壇ハ天神壇ト同ジク方形ニシテ一成トシ北ニ嚮フ。廣十丈。縱六

丈、高四尺、四面ニ階アリ各六級トス。【清國法卷四】

【地官】 【周禮】六官ノ一、其長官ヲ「大司徒」ト曰フ。【禮部】

【地契】 田地ヲ買賣スルトキ作製スル證書、賣主ヨリ買主ニ交付スルモノナリ。宋代ハ墓ヲ造ルニハ必ズ賣地契ヲ用キ、之ヲ「地契」ト謂フ。【癸辛】

【地股】 支那人ガ外國人ト礦業ヲ營ムトキニ礦地ヲ提供スルトキ其持株ヲ「地股」ト曰ヒ賣金ヲ支出スレバ其持株ヲ「銀股」ト曰フ。股ハ株ト同義ナリ。故ニ株式會社ヲ「股份公司」ト謂フ。【礦務】

【地棍】 地方ノ無賴漢ヲ「地棍」ト謂フ。【編憲】

【地閏銀】 閏年ニ遭遇シタルトキ、平年ノ地賦ヨリ若干ノ租銀ヲ加徴スルコトヲ謂フ。然レドモ其ニ注意スベキハ土地ニ對スル閏銀ハ銀納ノ場合ニ限リ、本色即チ米納ノ場合ニ

ハ平年ト閏年トヲ論ゼズ。同額ナルコト是ナリ。蓋シ米麥ノ收穫ハ平年ト閏年トニ因リ多寡ナキヲ以テナラン。【戶部則例】

【地總】 清代ニ於ケル地總ハ各街ノ取締役ヲ謂フ。即チ我町長村長ノ如キ者ナリ。【戶部則例】

【地聽】 軍事防守ノ法ナリ。井ヲ穿ツコト深サ二丈。薄皮ヲ用キテ新製ノ口ヲ裏ミテ鼓ノ如クシ、人ヲシテ井中ニ於テ墜ニ托シテ敵ノ地道ヲ開掘スルコトヲ聽カシメ、以テ其工事ヲ防ガシム。一ニ亦「聽聽」トモ稱ス。

【地著】 土著ト云フニ同ジク、人民ノ其土地ニ安著シテ他ニ移ラザルコトヲ謂フ。【漢書】

【地丁稅】 地賦ト丁稅トヲ合併セルモノニシテ、土地ニ課スル稅ヲ「丁稅」ト曰フ。其詳細ハ各本條ニ記述ス。

【地丁錢糧】 地方官ヨリ毎年例ヲ按シテ徵收スル地賦ト丁稅トノ合稱ナリ。【六部成語註解】民間地畝丁口。均由地方官ニ毎年按例

徵收錢糧。以供國家倉庫之需。【地頭】 (一) 稅法、唐代青苗地頭錢アリ。每畝錢二十ヲ定メトス。【禮部】 (二) 地頭ハ猶ホ地歩ト言フガ如シ。【宋子語錄】此箇地頭。水不到三眞實地頭。(三) 今俗ハ現ニ所在ノ地ヲ謂フテ地頭ト爲ス。

【地方】 清制、鄉村ノ長官、其職務ハ收稅、裁判、警察其他諸般ノ事務ヲ掌ル。但シ官選ノ自治體機關ナリ。【皇朝通考】順治三年ノ按文「地方一役最重。凡一州縣分地若干。一地方管村莊若干。其管內稅糧完欠。田宅爭辨。詞訟曲直。盜賊生發。命案審理。一切皆與有責。遇有差役。所必需器物。責令備辦。所用人夫。責令備管。稍有差誤。卽責立加。終歲奔走。少有三暇時。云云。【同書卷二十一】

【地方缺】 地方官中、道府以下ハ土地ノ狀況ト其職務ノ繁簡トニ由リテ其官缺ニ差等アリ。曰ク「最要缺」曰ク「要缺」曰ク「中缺」曰ク「簡缺」是レナリ。缺ハ官職ノ義、最要缺ハ最モ

緊要ニシテ多忙ナル官職ヲ曰ヒ、要缺之ニ次  
ギ、中缺又之ニ次グ。簡缺ハ最モ簡ニシテ餘裕  
多キ官職ナリ。從テ其報酬ノ如キモ職務ノ繁  
簡ニ由リテ差等アリ。(清國行政法) (詳細) (ケ  
ヲ見)

【地方檢察廳】 地方審判廳ノ檢事局ヲ謂フ  
【地方審判廳】 地方審判廳ノ檢事局ヲ謂フ  
(地方審判廳參照)

【地方自治章程】 清制、光緒三十四年八月  
憲政(立憲)創設ノ上諭ヲ發スルト同時ニ逐年  
籌備事項ヲ定メテ漸次各種ノ制度ヲ準備セン  
コトヲ計ル。地方自治ニ關スル新制モ亦籌備  
事項ノ一ニシテ當時ノ企畫ニ依レバ第一年ニ  
城鎮地方自治章程ヲ頒布シ第二年ニ廳州縣  
地方自治章程ヲ頒布シ第三年ニ城鎮鄉及比廳  
州縣地方自治ノ設備ヲ爲シ第四年以後順次改  
善ヲ加ヘ第六年第七年ニ至リテ遂ニ之ヲ確立  
センコトヲ期シ、又自治ノ範圍ハ之ヲ廳州縣  
ニ止メテ府ニ及バズ。又京師ニハ城鎮鄉章程

ヲ通用シ、特別章程ヲ設ケザルノ方針ナリシ  
モ(政治官報光緒三十四年八月二日) 其後實際ノ情形ニ徴シテ  
其不可ナルコトヲ認メ京師ニハ特別章程ヲ設  
ケ、廳州縣章程ニハ府ヲ加フルコト、シ、光  
緒三十四年十二月城鎮鄉地方章程及比廳選舉  
章程ヲ頒布シタル後宣統元年十二月京師地方  
自治章程及比廳選舉章程並ニ府廳州縣地方自  
治章程及比廳併設自治職分股細則ヲ頒布シタ  
リ。(清國行政法卷一(下))

【地方審判廳】 清制、光緒三十二年官制ノ  
大改革ニ因リテ刑部ヲ改メテ法部ト爲シ大理  
寺ヲ改メテ大理院ト爲シ以テ裁判事務ヲ總統  
セシムルコト、シ、同年十月二十七日大理院  
審判編制法ヲ發布ス。是レ我裁判所構成法ヲ  
參酌セルモノニシテ、名ハ大理院(即チ我  
ニ當) 審判編制法ト曰フモ其實ハ各級裁判ノ  
編制ヲ定メタルモノナリ。地方審判廳ハ我地  
方裁判所ニ當ル。即チ合議制ノ第一審裁判所  
ナリ。其組織權限亦略ボ我地方裁判所ニ同ジ。

【地方稅章程】 清制、光緒三十二年上諭ヲ  
以テ將來憲政ヲ實施スベキ旨ヲ宣布シ豫備事  
宜トシテ一定ノ事項ヲ定メ三十四年八月ニ至  
リ憲政編查館資政院等會奏シテ逐年應行籌備  
事宜ヲ上レリ。地方稅章程ハ其一ニシテ地方  
租稅徵收ノ新規定ヲ設ケタルモノニシテ各省  
督撫ト憲政編查館トノ同辦ニ係ル。

【地皮地骨】 所謂上土下土(高知縣ノ一  
習)ニ分タルモノニシテ臺灣基隆等ノ埋立  
地ニ行ハル、慣習ナリ。即チ埋立以前ヨリ其  
土地ニ權利ヲ有セシ者ヲ以テ地骨主ト稱シ、  
之ニ埋立工事ヲ施シ、宅地又ハ其他ノ土地ト  
爲シタル者ヲ以テ地皮主ト爲シ、地皮主ハ地  
骨主ニ對シテ若干ノ銀錢ヲ納ムベキ義務ヲ  
負フモノトス。(臺灣私法) (第一卷)

【地賦】 土地ニ課スル稅、即チ地租ノコトナ  
リ。支那ニ於テ地賦ハ國家收入ノ主要ナル  
モノニシテ、其由リテ來ル所悠遠ナリ。【尙書】

禹貢ニ九等ノ賦ハ土地ノ性質及ビ肥瘠ヲ按シ  
テ、上中下ノ三等ニ大別シ更ニ之ヲ上下ヨリ  
下下ニ至ル九等ニ細別シテ、稅率ヲ定メタル  
モノナリ。【周禮】ニモ九賦ノ制アリ、一ヲ「邦  
中ノ賦」ト爲シ二ヲ「四郊ノ賦」ト爲シ、三ヲ  
「郊甸ノ賦」ト爲シ、四ヲ「家削ノ賦」ト爲シ、  
五ヲ「邦縣ノ賦」ト爲シ、六ヲ「邦都ノ賦」ト爲  
シ、七ヲ「國市ノ賦」ト爲シ、八ヲ「山澤ノ賦」ト  
爲シ九ヲ「弊餘ノ賦」ト爲ス。而シテ邦中ニハ  
「廩里」アリ四郊ニハ「宅田」「賈田」「牛田」「實  
田」「牧田」アリ、郊甸ニハ「公邑田」アリ、家削  
ニハ「家邑田」アリ、邦縣ニハ「小都田」アリ、邦  
都ニハ「大都田」アリ。此等ニ對シテ地賦ヲ徵  
收シタリ。【孟子】ニモ「夏后氏五十而貢。殷人  
七十而助。周人百畝而徹。其實皆什一也。」ト  
アリ。是レ三代地賦ノ科則ヲ示セルモノナリ。  
秦漢皆地稅アリ。魏晉以後隋唐ニ至ルノ間ハ  
國家ノ賦稅ヲ租調庸ニ區別セリ。租ハ地賦、調  
ハ戶稅、庸ハ即チ丁賦ナリ。唐宋租調庸ノ制度

シ。宋ハ地丁兩賦ヲ課シ、元及ビ明朝亦然リ。  
唯ダ其稅率ハ時代ニ依リテ一様ナラズ。納稅  
物ハ古來實物ヲ以テ充テ殊ニ地賦ノ如キ糧納  
ヲ本體トシ、即チ專ラ米麥ヲ以テ納付シ銀錢  
ヲ納付スルコトハ例外ノ場合ニ過ギズ。宋ノ  
神宗熙寧十年夏稅ニ銀錢ヲ用キタルコトアル  
モ金元ハ之ヲ行ハザリキ。而シテ明ノ洪武九  
年ニ銀錢納稅ヲ以テ稅糧ニ代用スルコトヲ許  
セリ。是レ即チ「本色」「折色」ノ別ヲ生ジタル  
始ナリ。(文獻通考及ビ  
明會典戶部)

【地傳】 【周禮】朝士職「凡屬實。以二其地傳二而  
聽二其辭。」トアルニ出ヅルノ語ナリ。鄭衆ハ  
屬實ヲ以テ土地境界ノ爭訟ト爲スト共ニ、地  
傳ヲ以テ其土地ノ比時即チ地ノ連屬セル處  
(所謂東ハ某ノ地ニ至リ)ト爲シ之ニ據リテ其  
爭議ノ審判ヲ行フノ義ニ解ス。其孫鄭玄ハ屬  
實ヲ以テ土地賃借上ノ爭訟ト爲スト共ニ地  
傳ヲ以テ其土地ノ附近ニ在ル人ナリトシ、即  
チ其人ノ言ヲ證ト爲シテ審判ヲ行フノ義ニ解  
ス。(周禮) 蓋シ、傳ヲ以テ傳別ノ傳ト爲セバ

腹ニ對シ土地ノ表面ヲ謂フ。地面ヨリ開採スル礦物ハ其所有者ノ所得ニ歸スト雖モ地腹(地腹ヲ)ハ國家ノ固有ニ屬スルヲ以テ地腹ヨリ採掘スル礦物ハ政府モ亦其利益ノ分配ニ與ル。(清國行政) (法卷二)

【地臘】道家ノ語、五月五日ヲ「地臘」ト爲ス。(靈寶) (七卷)

持(才) (部) (首) (支) (韻)

【持盈】已成ノ業ヲ保守スルコトヲ謂フ。淮南子「孔子見二宥冠二曰。善哉持盈者乎」

【持衰】齊戒ヲ持續スルノ義、恰モ衰ニ服スル状態ニ在ルコトヲ謂フ。【三國志】倭人傳「渡海指ニ中國。恒使一人不<sub>レ</sub>梳<sub>レ</sub>頭。不<sub>レ</sub>去<sub>レ</sub>蟻。衣服垢汚。不<sub>レ</sub>食<sub>レ</sub>肉。不<sub>レ</sub>近<sub>レ</sub>婦人。如<sub>レ</sub>喪人。名<sub>レ</sub>之爲<sub>レ</sub>持衰」

【持質】衰徒ガ先ツ官民ノ臣僕又ハ子女等ヲ捕ヘ、之ヲ質トシ、然ル後ニ財物ヲ強請スルコト、一ニ「切質」トモ曰フ。今ノ「脅取財」ノ類

ナリ。【漢書】橋玄傳「玄少子十歲獨遊<sub>レ</sub>門。次卒有<sub>レ</sub>三人。持<sub>レ</sub>杖切<sub>レ</sub>之。入<sub>レ</sub>舍登<sub>レ</sub>樓。就<sub>レ</sub>玄求<sub>レ</sub>貨。玄顧<sub>レ</sub>呼<sub>レ</sub>曰。玄豈以<sub>レ</sub>一子之命。而縱<sub>レ</sub>三國賊。促<sub>レ</sub>令<sub>レ</sub>兵追<sub>レ</sub>。女子亦死。玄乃詣<sub>レ</sub>關謝<sub>レ</sub>罪。乞<sub>レ</sub>下<sub>レ</sub>天下。凡有<sub>レ</sub>切質。皆命<sub>レ</sub>殺<sub>レ</sub>之。不<sub>レ</sub>得<sub>レ</sub>贖以<sub>レ</sub>財質。開<sub>レ</sub>張蓋路。詔書下<sub>レ</sub>其章。切質遂絕。【魏志】夏侯惇傳「乃著<sub>レ</sub>令。自<sub>レ</sub>今以後。有<sub>レ</sub>持質者。皆并<sub>レ</sub>擊勿<sub>レ</sub>。由<sub>レ</sub>是切質者遂絕。【晉書】刑法志「科有<sub>レ</sub>持質。皆非<sub>レ</sub>盜賊。故分<sub>レ</sub>以<sub>レ</sub>爲<sub>レ</sub>切略律。持質(持質)持<sub>レ</sub>見器ト言フニ同ジ。財物ヲ盜得<sub>レ</sub>セズト雖モ人ヲ脅ス者ハ流<sub>レ</sub>二千里ニ處ス。【唐律】賊盜篇「強盜ノ條。其持<sub>レ</sub>仗者。雖<sub>レ</sub>不<sub>レ</sub>得<sub>レ</sub>財。流<sub>レ</sub>二千里。云云。(同書卷)

【持仗拒捍】(仗持) 拒捍(拒捍) 捕吏ガ犯罪人ヲ逮捕スルニ際シ、犯人ガ兇器ヲ以テ捕吏ニ抵抗シテ捕縛ヲ拒ムコトヲ謂フ。此場合ハ捕吏之ヲ格殺スルモ其罪ヲ論ゼズ。【唐律】捕亡篇「罪人持<sub>レ</sub>仗拒捍<sub>レ</sub>條。請捕<sub>レ</sub>罪人。而罪人持<sub>レ</sub>仗拒捍。其捕者格<sub>レ</sub>殺<sub>レ</sub>之。逃走逐而殺。若<sub>レ</sub>迫窘而自殺

者。皆勿<sub>レ</sub>論。(同書卷) (二十八)

【持服】(持服) 喪服ヲ持守シテ死ニ事フルノ道ヲ全ワスルコトヲ謂フ。俗ニ「守孝」ト曰フ。例セバ喪中ニ在リテ戒心ヲ旨トシ、婚姻セズ、燕樂ニ與カラズ、其他一切ノ吉事ニ關與セザルノ類ナリ。(清會典) (禮部)

【持平】公平ヲ持スルノ義ナリ。【漢書】杜延年傳「延年議論持平。合<sub>レ</sub>和朝廷」

池(部) (首) (支) (韻)

【池鹽】池水ヨリ製シタル鹽、山西、陝西、甘肅等皆之ヲ産ス。中ニモ山東ノ解縣、甘肅ノ鹽池縣ノ、花馬池ハ最モ著名ナルモノナリ。

【池藥】(一)池邊ニ竹ヲ折リ纏ヲ以テ之ニ聯ネ、人ヲシテ往來セシメタルコトヲ謂フ。【漢書】「詔。池藥未<sub>レ</sub>御幸<sub>レ</sub>者。假<sub>レ</sub>與貧民」(二)池中ニ竹ヲ纏ミテ集ヲ造リ魚ヲ養フモノ、即チ邦語「イケス」ナリ。【山堂肆考】「池藥。池中纏<sub>レ</sub>竹。以<sub>レ</sub>養<sub>レ</sub>魚者」

【池樹】池上ニ設ケル所ノ臺、(物見)【宋史】

之。安國曰。死灰不<sub>レ</sub>復燃<sub>レ</sub>手。甲曰。然即溺<sub>レ</sub>之。王嘉下<sub>レ</sub>獄。獄吏稍侵<sub>レ</sub>辱<sub>レ</sub>之。嘉喟然仰<sub>レ</sub>天歎曰。幸得<sub>レ</sub>充<sub>レ</sub>備宰相。不<sub>レ</sub>能<sub>レ</sub>進<sub>レ</sub>賢退<sub>レ</sub>不<sub>レ</sub>肖。死有<sub>レ</sub>餘責。嗚<sub>レ</sub>血而死。蕭望之。不<sub>レ</sub>肖入<sub>レ</sub>獄。仰<sub>レ</sub>天歎曰。吾備<sub>レ</sub>位宰相。老入<sub>レ</sub>獄牢。苟求<sub>レ</sub>生活。不<sub>レ</sub>亦鄙<sub>レ</sub>乎。飲<sub>レ</sub>藥而死。夫以<sub>レ</sub>宰相大臣。獄吏尙不<sub>レ</sub>恤。況其他乎。是以路溫舒上<sub>レ</sub>書有<sub>レ</sub>曰。秦有<sub>レ</sub>十失。其一尙存。治獄之吏是也。云云。(同書) (卷五)

【治罪】犯罪ノ事實ヲ判問シテ刑ヲ科スルコトヲ謂フ。【國語】齊語「付<sub>レ</sub>獄治<sub>レ</sub>罪。云云」

【治塾之約】(塾ヲ治ム) (シノ部) (司約) (ルノ約) (ヤノ部) (約劑) (ヲ見)

【治書】(見ヨ) (下條ヲ)

【治書侍御史】官名、漢宣帝ノ時、侍御史二人ヲシテ書ヲ治メ廷尉ノ奏事ヲ平ニセシム。後遂ニ之ヲ「治書侍御史」ト謂フ。其職權ハ疑獄ヲ評議シ、六官以下ノ官ヲ糾察ス。魏晉ヨリ陪ニ至リ「持書侍御史」ト稱ス。唐改メ

京師都尉。守<sub>レ</sub>京兆<sub>レ</sub>尹上<sub>レ</sub>(二)行ノ音、カウ<sub>レ</sub>ナルトキハ旅行ノ準備ヲ爲スコトヲ謂フ。【史記】曹相國世家「趣<sub>レ</sub>治行<sub>レ</sub>」又【同書】鄭當時傳「自請<sub>レ</sub>治行<sub>レ</sub>五日」

【治官】周禮ニ於テハ天官ヲ指シテ「治官」ト曰フ。天官、冢宰(ノ長)其關係ヲ率キテ邦治ヲ總アルガ故ナリ。周禮「天官冢宰、鄭康成ノ註、邦治。王所<sub>レ</sub>以<sub>レ</sub>治<sub>レ</sub>邦國也。鄭衆ノ註、邦治。謂<sub>レ</sub>總<sub>レ</sub>六官之職也」

【治古】「亂今<sub>レ</sub>ノ語(秩序ナ)ニ對シテ國ノ治マレル古代ト云フノ義ナリ。荀子「世俗之爲<sub>レ</sub>說。以<sub>レ</sub>爲<sub>レ</sub>治古者。無<sub>レ</sub>實刑。有<sub>レ</sub>象刑」

【治功之約】(功ヲ治ム) (シノ部) (司約) (ルノ約) (ヤノ部) (約劑) (ヲ見)

【治獄之吏】刑事裁判ヲ司ル法官、慘酷ニシテ無情ナルコトヲ特色トス。【野客叢書】「漢獄固酷。獄吏尤不<sub>レ</sub>郵。試被<sub>レ</sub>數事。周勃下<sub>レ</sub>廷尉。吏稍侵<sub>レ</sub>辱<sub>レ</sub>之。既出曰。吾嘗將<sub>レ</sub>百萬軍。安知<sub>レ</sub>獄吏之貴<sub>レ</sub>也。韓安國抵<sub>レ</sub>罪。蒙<sub>レ</sub>獄吏田甲辱<sub>レ</sub>

張齊賢傳「齊賢以<sub>レ</sub>司空致仕歸<sub>レ</sub>洛。得<sub>レ</sub>裴度午橋莊。有<sub>レ</sub>池榭松竹之盛。日與<sub>レ</sub>新舊<sub>レ</sub>一鴈<sub>レ</sub>詠其間」

【池田】苑中ニアル池ヲ埋メテ田ト爲シタルモノヲ謂フ。【漢書】孝元帝紀「詔罷<sub>レ</sub>農墾。池田假<sub>レ</sub>貧民。顏師古註「晉灼曰。池田。苑中田也」

治(部) (首) (支) (韻)

【治河三策】漢哀帝ノ時、賈誼奏ス。河ヲ治ムルニ上中下ノ三策アリ之ヲ決シテ道カシムルヲ上策ト爲シ、多ク漕渠ヲ穿ツヲ中策ト爲シ、故隄ヲ繕完シ、埽ヲ增シ薄ヲ培ヒ勞費已ムナク、數々其害ニ逢フヲ下策ト爲ス。世ニ之ヲ稱シテ「治河三策」ト爲ス。(漢書賈) (誼傳)

【治器之約】(器ヲ治ム) (シノ部) (司約) (ルノ約) (ヤノ部) (約劑) (ヲ見)

【治行】(一)地方官ガ其管内ノ民ヲ治ムル成績ヲ謂フ。【漢書】趙廣漢傳「以<sub>レ</sub>治行尤異。遷<sub>レ</sub>



テ「御史中丞」ト爲ス。宋之ヲ置カズ。元復タ置ク。明ハ初メ之ニ因リタルモ後之ヲ廢シ省キテ「治書」ト稱ス。(源)

【治神之約】 (神ヲ治ム) (「シ」ノ部「司」約「ル」ノ約) (「ヤ」ノ部「約」約「ル」ノ約) (ヲ見)

【治粟都尉】 漢代ニ始マル官名、漢武帝桑弘羊ヲ以テ「治粟都尉」ト爲シ大農ノ職ヲ領セシメ、兼テ天下ノ鹽鐵ヲ管ラシム。(漢書桑)

【治粟內史】 秦代ノ官、九卿ノ一ナリ。穀粟及ビ貨財ノ事ヲ掌ラシム。漢ハ名ヲ「大司農」ト改ム。隋以後ハ「司農卿」ト爲ス。明ニ至リテ廢ス。

【治地之約】 (地ヲ治ム) (「シ」ノ部「司」約「ル」ノ約) (「ヤ」ノ部「約」約「ル」ノ約) (ヲ見)

【治中別駕】 官名、刺史ノ輔佐官、治中ハ官廳内ニ在リテ長官(刺史)ノ政治ヲ輔佐スルノ義、別駕ハ刺史ニ隨テ外出スルトキハ長官

ノ車ニ陪乘セズ別仕立ノ車ニ乘ル資格ヲ有スルノ義ナリ。【蜀志】「關士元。非三百里才。使爲治中別駕。乃展其職足。」

【治典】 國家ヲ治ムル法典、太宰ノ職ナリ。【周禮】天官大宰、治典。以經邦國。以治官府。以紀萬民。」

【治兵】 演習ニ際シテ兵ヲ編出スコトヲ「治兵」ト曰ヒ、兵隊ヲ編メテ遣ヘルコトヲ「振旅」ト曰フ。【周禮】大司馬、中秋教治兵。如振旅之陳。疏凡出兵曰治兵。入曰振旅。【左氏傳】隱公五年、三月而治兵。入而振旅。」

【治民之約】 (民ヲ治ム) (「シ」ノ部「司」約「ル」ノ約) (「ヤ」ノ部「約」約「ル」ノ約) (ヲ見)

【治命】 病氣未ダ危篤ニ陥ラザル以前ノ命令、通常ノ遺命トハ多少其趣ヲ異ニス。【左氏傳】宣公十五年、魏武有疾。武子病。謂其子曰。我死嫁此妾。病亟。又曰。殺爲殉。及死。願曰。寧從治時命。而嫁之。云云。」

【治禮郎】 奉禮郎ノ別名ナリ。(禮郎ヲ見)

知 (部首) (支韻)

【知印承差】 知印ハ官印ヲ掌ルノ官、承差ハ地方官廳ノ書吏ナリ。(明律卷二、清律卷五ハ差設官吏ノ條及註)

【知院】 五代、晋ノ時桑維翰ヲ以テ、知樞密院事ト爲ス。宋、元之ニ因ル。遂ニ略シテ、知院ト稱ス。知ハ事務ヲ主管スルノ義、知府、知州、知縣皆是ナリ。

【知院官】 唐ノ代宗ノ時劉晏財賦ヲ掌ルヤ理財ヲ以テ愛民ノ先ト爲シ、諸道ニ「知院官」ヲ置キ旬月毎ニ州縣豐歉(豐ハ豐年ノ狀ヲ具シテ使司ニ進白シ豐ナルトキハ貴ク糶シ、歉ナルトキハ賤ク糶シ或ハ穀ヲ以テ糶貨ニ易ヘ官用ニ供シ或ハ豐ナル地方ニ令シテ之ヲ賣ラシム。知院官始メテ不稔ノ端ヲ見レバ先づ某月ニ至ラベ如干ノ蠲免シ某月ニハ如干ヲ救助スベシトノ旨ヲ使司ニ申告シ其期ニ及ベバ晏、州縣ノ申請ヲ俟タズ之ヲ奏行(奏請シテ實

シテ民ノ急ニ應ゼシム。是ニ由リテ民其居業ニ安ンズルコトヲ得、戶口蕃息ス。(大學衍義補卷十六)

【知舉】 地方ノ人才ヲ選舉スルコト、唐玄宗帝ノ時、之ヲ以テ禮部ノ職務ト爲ス。禮部士ヲ選ブコト此ヨリ始マル。【事物紀原】「唐選舉志曰。隋唐之代貢士皆考功主試。開元二十四年。考功員外郎李昂爲舉人一詆訶。玄宗以員外郎望輕。遂移貢舉於禮部。以侍郎一主之。禮部選士。自此始也。」(卷三)

【知會】 通知ト言フニ同ジ。【明律】名例篇「吏卒犯死罪ノ條(略)轉連刑部。奏聞知會。」(同卷) 物徂徠ハ「知會トハ如レ此行ヒタルト云フコトヲ知ラス也」ト註ス。(同氏明律圖)

【知縣】 一縣ノ長官、其名ハ宋代ニ始マル。秦漢郡縣制ヲ布キテ以來縣ニハ令即チ縣令ヲ置クヲ通例トシタルモ、五季ノ時牧民ノ官ヲ輕ジタル結果、縣令ノ官無能者多カリシヲ以テ、宋ノ太宗ハ此弊ヲ矯ンガ爲メニ朝官、京官等ヲ派シテ、縣治ヲ掌ラシメ之ヲ「知縣事」

ト謂フ。明清兩朝皆之ニ因リ府ニ知府アリ州ニ知州アルニ至レリ。(歷代職) 民國ニ於テハ府州ヲ廢シ知縣ヲ以テ縣知事ト爲ス。

【知貢舉官】 清朝ニ於ケル鄉試ノ正副試驗官ノコトナリ。外省ニ在リテハ「大主考」ト曰フ。【六部成語註解】「鄉試正副大主考也。在外省。稱曰大主考。順天鄉試稱爲知貢舉。」

【知而不舉】 (知リテ) 監督權ヲ有スル者ガ其部内ニ不正ヲ爲ス者アルヲ知リテ之ヲ檢舉セザルコトヲ謂フ。此ノ場合ハ兩者同罪トス。(唐律及比明) (清律雜出)

【知州】 一州ノ長官、唐代宗帝ノ大曆十二年ヨリ始マル。【事物紀原】「唐李師道之阻兵也。謂其弟師古曰。是不更民疾苦。要令知州衣食所從。乃署知密州。唐會要曰。太和四年八月御史臺奏。按大曆十二年五月一日勅。刺史有故乃闕。但令上佐依文次知州事。則知州

之名。自二代宗ニ始也。云云。(卷六)

【知情】 (知ル) 其實際ノ事情ヲ知悉スルコト例ヘバ不正品タルヲ知リテ之ヲ買ヒ(即チ故)官司ガ不正ノ事實ヲ知リテ不問ニ付ス場合ヲ謂フ。【唐律】雜律篇「校斛斗秤度ノ條(略)上監校者。不覺減一。等知知情。與同罪。」(同卷二十六)

【知制誥】 官名、唐代翰林學士ガ學士院ニ入りテ一歳ヲ經レバ「知制誥」ニ遷シ事ヲ内命ヲ掌リ編旨制誥(詔勅及ビ)ノ事ヲ司ル。宋之ニ因ル。明初翰林ヲ知制誥ト稱シ、其後内閣ヲ以テ其職ニ任ズ。

【知道】 清制、各衙門ヨリ例ニ照シテ奏聞シタル事件ニ對シ、皇帝ガ其衙門ニ裁斷ノ結果ヲ傳ヘテ議准(奏議ヲ聽)若クハ議駁(奏議ヲ却下スル)ニ便シ、或ハ記錄ニ留メテ行政上ノ參考ト爲サシムルコトヲ謂フ。【皇朝政治學問答】「皇上命一那一知道。以便議准議駁。或留」

案據。  
【知道了】前項ノ手續ヲ終了シタルトキ指ニ  
横ニ一筋ヲ引キ、皇上ノ決裁ヲ經タルコトヲ  
證スルヲ例トス。  
【皇朝政治學問答】「各衙門  
照例奏聞者。皇上降旨知道了。此摺下來。橫  
畫ニ一道」

【知判】官名、唐中宗ノ時ヨリ始マル。知判  
ハ事務ヲ管掌スルノ義ナリ。  
【事物紀原】職林  
曰。唐中宗神龍二年。既置員外。官同正員。又  
有檢校試攝知判等官。知判者。云レ知某官。判者  
云レ判某官。宋朝皆沿用之。府寺監省州縣城  
寨。各以官知判。蓋自唐中宗始也。(四)

【知府】(知縣)  
(竹見ヨ)

【答】漢文帝ノ時、御史大夫馮敬ノ建議ヲ納  
レテ古來ノ制刑及ビ斬左止ノ刑ニ代フルニ答  
ヲ以テシタルニ始マル。答ハ擊ツノ義、又調  
ヲ取ト爲ス。人小罪ヲ犯ストキ挿捷ヲ加ヘテ

之ヲ取カシメテ其良心ヲ懺悔セシムルノ義  
ニ取ル。  
【漢書】刑法志。丞相張敖。御史大夫馮  
敬奏言。肉刑所以禁姦。所ニ由來者久矣。陸  
下(帝)下明詔。憐萬民之一有過被刑者。  
終身不レ息。及罪人改行爲善。而道亡。終  
至ニ於盛德。臣等所不レ及也。臣謹議請定レ律  
曰。諸當完者。完爲三城且春。當黥者。完爲二  
城且春。當劓者。答三百。當斬左止者。答五  
百。當斬右止。及殺人先自告。及吏坐受。賂  
枉法。守官財物。而即盜之。已論命。復  
有答罪者。皆棄市。是レ答罪ガ史志ニ現ハ  
レタルノ始トス。景帝ノ世ニ及ビテハ更ニ答  
法ヲ減ジ前世ノ五百ヲ三百ト爲シ、三百ヲ二  
百ト爲シ次テ又三百ヲ二百ト爲シ二百ヲ一  
百ト爲シ同時ニ答法ヲ改メテ答令ト爲シ從來ノ  
杖ハ荊ナリシヲ竹ニ代ヘ。答長五尺、本一寸、  
末半寸ト爲シ其節ヲ平ニシテ答部ヲ打ツコト  
トシ且ツ答ヲ行フ人ヲ中途ニテ更フルコトヲ  
得ズト爲セリ。  
【漢書】刑法志。景帝元。下

【答掠】犯罪者ヲ訊問スルトキ、答ヲ加ヘテ  
強制的ニ白ヲ逼マルコトヲ謂フ。  
【史記】酷吏傳。告劾不レ服。以答掠定之。  
【答】(部首) (真) (訓) (四) (部首) (真) (訓) (四) (部首) (真) (訓) (四)

詔曰。加レ答與二重罪一無レ異。幸而不レ死。不レ可レ  
爲レ人。其定律。答五百。曰三百。答三百。曰二  
百。猶尚不レ全。至ニ中六年。又下詔曰。加レ答  
者。或至レ死而答未レ畢。朕甚憐之。其減答三  
百。曰二百。答二百。曰一百。又曰答者。所以教  
之也。其定三德令。丞相劉舍。御史大夫衛綰。請  
答者。答長五尺。其本大一寸。其竹也。末薄半寸。  
皆平。其節。當レ答者。答部。毋得レ更レ人。畢二  
罪。乃更レ人。  
【同書卷二十三】關後歷次改定アリタル  
ガ南北朝北齊ニ至リ始メテ(一)死(二)流(三)  
耐(後)刑(四)杖(五)答ノ五刑ヲ以テ刑律ノ正  
刑ト爲ス。隋ノ經唐ニ及ビテ答ハ(一)(二)(三)  
二十(三)三十(四)四十(五)五十ノ五種ト爲  
ス。(唐律卷)【唐書】刑法志ニモ下ノ如ク記ス  
「斷獄之刑有レ五。一曰答。答之爲言。取也。凡  
過之小者。推捷以取之。漢用竹。後世更以  
楚。【明律】清律之ニ因ル。  
【答斬】答ヲ加ヘテ辱カシムルコトヲ謂フ。  
【唐書】安祿山傳。時遭三答斬。云云。」

【答刑】隋唐以後五刑ノ一。漢ハ竹ヲ用キ、後  
世ハ楚ヲ用フ。  
【唐書】刑法志。斷獄之刑有レ五。  
一曰答。答之爲言。取也。凡過之小者。推捷以  
取之。漢用竹。後世更以楚。  
【答捶】答ヲ以テ挿ツコト、之ヲ挿メテ暴國  
ヲ震懾スルノ義ニ用フ。  
【荀子】答ニ挿暴國。  
【答杖】答ハ答刑、杖ハ杖刑、答ハ唐漢法刑  
(書經舜)ノ鞭、杖ハ扑ニ當ル。(或ハ反對説)漢  
文帝ノ時、齊太倉令淳于意罪アリ。將ニ刑セラ  
レントスルニ際シ、其少女緹縈ノ歎願ヲ憫ミ  
テ肉刑ヲ除キ始メテ答刑ヲ用フ。答杖此ニ始  
マル。  
【事物紀原】(書)曰。鞭作官刑。即答  
之始也。扑作教刑。即杖之始也。  
【蓋前後】唐  
虞之盛。與二肉刑ニ並用。及漢齊大倉令淳于意  
有罪當刑。少女緹縈上書。文帝憐其意。爲  
除二肉刑。也。刑始專用ニ答杖。(十)卷

【置傳】傳車ヲ置ク所、因テ傳車ノ義ニ用フ。  
傳車ハ公務ノ爲メニ往來スル官吏ノ乗用ニ供  
スル車ナリ。  
【漢書】文帝紀注。師古曰。置者。  
置ニ傳車ノ所。因名置也。云云。  
【置郵】驛遞ノコト。  
【孟子】公孫丑篇。孔子  
曰。德之流行。速於置郵而傳命。  
【呂覽】上德篇。德之速。疾乎以郵傳命。  
【置贊】人ノ臣ト爲リテ其新君ニ見エルトキ  
ニ獻上スル禮物ヲ謂フ。  
【呂氏春秋】「今日置  
贊爲レ臣。云云。」  
【置酒】【史記】高祖紀。高祖置酒前殿。奉三玉  
卮。爲二太上皇。壽。殿上群臣皆呼萬歲。  
【置傳】驛遞ノ馬車、上馬四匹ヲ附ケタルモノ  
ヲ謂フ。  
【部首】(部首) (真) (訓) (四) (部首) (真) (訓) (四)

テ所有權ヲ設定スルコトヲ謂フ。官吏ハ任地  
ニ在リテ田宅ヲ賣買スルヲ得ズ。是レ官權ヲ  
濫用シテ私利ヲ計ルヲ防グ爲メナリ。  
【明律】  
【清律】戶律田宅篇。任所置買田宅ノ條アリ、  
同文ヲ以テ、凡有司官吏不レ得於任所  
置買田宅。違者答五十。解任田宅入官。ト  
規定ス。(明律卷五)尙ホ置買ノ義ヲ按ズルニ  
同條【清律】ノ附例。各關出差官員。不レ許携  
家眷。多體奴僕。任所置買田宅。不レ許携  
テ前條ノ場合ハ上述ノ如ク置買ニ因リテ所有  
權ヲ設定スルノ義ニ解スベシ。  
【置簿立限】(簿)置キ(限)立ツ  
シテ參考ニ備フルコトヲ「置簿」ト曰ヒ其事件  
ヲ落著スル期限ヲ立ツルヲ「立限」ト曰フ。  
【明律】卷三十二清律卷二十八刑(ホ)ノ部、本律  
律訴訟篇。告狀不受理ノ條(公事)ヲ見ヨ  
【致齊】(部首) (真) (訓) (四) (部首) (真) (訓) (四)

日。思其居處。思其笑語。思其意思。思其所樂。思其所嗜。齊三日。乃見其所爲。齊者。齊其相。齊其相通也。

【致事】(事ヲ致) (一) 各官廳ヨリ屬僚ノ成績ヲ調査シテ所屬長官ニ提出スル成績報告ヲ謂フ。周禮「天官太宰。歲終。則令百官府。各正其治。受其會。聽其致事。而詔王廢置。」(二) 年老イテ圓滿辭職スルコトヲ謂フ。【致記】曲禮「大夫七十。而致事。註。致。其所掌之事。於君。後者ハ致ハカヘスト訓スベシ。

【致仕】年七十ニ達シ圓滿辭職スルコトヲ謂フ。【致記】曲禮篇。大夫七十而致事。ト同義ナリ。【公羊傳】宣公元年。退而致仕。蓋シ年老イテ官職ヲ辭シ隱棲スルコトハ股ノ伊尹ニ始マル。【事物紀原】尙書成有一德曰。伊尹既復政厥辟。告歸。疏云。告。老致政事於君。此臣下致仕之初也。至周乃有大夫七十致仕之禮。其事自伊尹ニ始也。(四) 【致死】(死ニ致) 刑律ノ用語。人ヲ傷害シテ死ニ至ラシムルコトヲ謂フ。(明律。清律刑律各處ニ散見ス)

【致法】(法ニ) 刑法ヲ適用スルコトヲ謂フ。【史記】呂不韋傳。賓客辯士。爲遊說者衆。王不忍致法。

【考】(部首) (紙) (韻) (考) (イノ部) (有) (考) (イノ部) (有)

【多史】御史ノ別稱。考ハ神羊。能ク人ノ曲直ヲ知ル。故ニ官吏ノ彈劾ヲ掌ル御史ノ冠トシテ稱ト爲ス。【初學記】職官部。漢官儀曰。御史四人。皆法冠。一名柱後。一名獬豸。獬豸獸名。知人曲直。云云。【後漢書】與服志。法冠。或謂之獬豸冠。獬豸。神羊。能知曲直。故以爲冠。

【遲滯】(部首) (支) (韻) (遲) (元) (支) (韻) 裁判事務等速ニ決定スベキモノヲ遲延滯シテ決セズ。徒ラニ延引スルコトヲ謂フ。【通鑑】後唐莊宗。必慮刑獄遲滯者。【遲駭】駭ハ遲ノ反。即チ遲ナリ。遲速ト云フニ同ジ。(唐律釋文 卷二十六)

【欽】足ヲ斬ルノ刑。即チ刑ニ處セラレタル者ノ足ノ形ヲ「欽」ト曰フ。即チ欽ハ膝蓋骨ヲ斷絶シタル痕跡ヲ形容シタルモノ、如シ。青藤山人撰「路史分釋」欽。音則。足之形也。(平御覽第六百三十五卷)

【雉】(部首) (紙) (韻) (雉) (佳) (紙) (韻) 周制。雉ハ城ノ堵ナリ。長三丈高一丈。雉ト爲ス。詳シク言ヘバ雉ハ元來禽ノ名。即チ邦名。キウナリ。一飛三丈ニ過ギズ。故ニ方丈ヲ堵ト曰ヒ三堵ヲ雉ト曰フ。大夫ノ堵ハ百雉ヲ限トス。【周禮】冬官。考工記。匠人篇。王宮門阿之制五雉。宮隅之制七雉。城隅之制九雉。其註。雉。長三丈。高一丈。【左傳】隱公元年。都城過百雉。國之害也。其註。方丈曰堵。三堵曰雉。一雉之牆。長三丈。高一丈。侯伯之城。方五里。經三百雉。故其大都不過三百雉。

【雉經】縊死スルコトヲ謂フ。【國語】晉語。申生雉經於新城之廟。其註。雉經。頭搶而懸也。

也。【證記】禮弓篇。申生再拜稽首乃卒。鄭玄註。既告孤突。乃短經。【釋文】雉經。如雉之自經也。【雉壇】個人間ニ於テ朋黨ノ盟ヲ爲スコトヲ謂フ。【閉戶錄】五代時三人爲朋。築壇以丹雉白犬一獻血而盟曰。卿乘車。我戴笠。他日相逢下車。揖我步行。卿乘馬。他日相逢。馬當下。

【馳】(部首) (支) (韻) (馳) (馬) (支) (韻) 古ノ乘傳。清代ニハ各省皆驛ヲ設置シ、凡ソ官吏ガ要差(緊要ナル要件ノ命)ヲ奉ジテ京ヲ出ヅルトキハ其治道ノ地方官ヨリ驛馬人夫及ビ廩糧ヲ供ス。之ヲ「馳驛」ト謂フ。(清會典)

【馳割】心ヲ敵ニ馳セ味方ト分離シテ敵ニ服從スルコトヲ謂フ。【戰國策】「秦攻魏。陳診謂秦王一曰。國形不便。故馳。交不親。故割。今割矣。而交不親。馳矣。而不止。臣恐山東之無以馳割一事王者矣。其註。馳。反走示服也。」

【馳檄】(檄ヲ) 迅速ニ檄文ヲ配布スルコトヲ謂フ。【後漢書】孔融傳。融到軍。收合士民。起兵討武。馳檄飛輪。云云。

【馳道】天子通行ノ道ヲ謂フ。【史記】秦始皇紀。二十七年賜爵一級。治馳道。

【馳傳】驛遞ノ馬車。中馬(中等)四匹ヲ車ニ附ケタルヲ法トス。(エノ部) 駟傳。シノ部。乘傳ヲ見ヨ

【中】(部首) (東) (韻) (中) (ハ) (一) (心) ニ在リテハ不偏不倚ノ義、事ニ在リテハ過不及ナキノ義ナリ。即チ【尙書】ニ於テハ、虞書「允執其中」ニ始マリ同書、刑書「成中有慶」ニ終ハル。呂祖謙「書經」呂刑篇ノ註「中者。呂刑之綱領也。苗民罔是中」者也。卑陶明「是中」者也。穆王之告「司政典獄。勅是中」者也。末章訓迪。自中之外。亦無他說。今爾何所當監。豈非德於民之中乎。云云。丘潛註「臣按。帝王之道。莫大於中。中者。在心則不偏不倚。在事。則無過不及。帝王傳授心法。以此爲傳道之要。以

此爲三出治之則。書經始。虞書允執中。大舜以之而傳達。書終。於周書成中有慶。云云。(卷百) (一) 尙ホ一說ニハ中ハ簿書ノ義、官府簿書之ヲ「中」ト謂フ。即チ裁判ノ案件ノ如キ亦然リト爲ス。【周官】小司寇。斷三庶民獄訟之中。【中】簿書即チ簿書ニ照シテ審判スルノ義ナリト爲ス。【皇清經解】周禮ノ解「凡官府簿書。謂之中。故諸官言治中受中。小司寇。斷三庶民獄訟之中。皆謂簿書。猶今之案也。此中字之本義。故掌三文書者。謂之史。其字从レ又从レ中。又者右手。以手持簿書也。云云。

【中允】漢代ニ設ケタル官職。太子附ノ官吏ナリ。宋齊ハ「中允人」ト稱ス。唐又改メテ「中允」ト爲シ詹事府ニ屬ス。侍從禮儀及ビ啓奏ノ職正ヲ掌ル。其後歷朝皆アリ。清末之ヲ廢ス。

【中尉】官名、凡ソ五種アリ。(一) 戰國ニ始マ

ル。即チ趙烈侯、荀欣ヲ以テ中尉ト爲ス。秦漢之ニ因ル。其職ハ京師ヲ警察スルコトヲ掌ル武帝改メテ「執金吾」ト爲ス。漢諸王國亦中尉ヲ置キ盜賊ニ備フ。元代内史府ニ中尉ヲ置ク漢制ニ倣フ。(一)主爵中尉秦代置ク。漢初メ之ニ因リ後改メテ「右扶風」ト爲ス。(三)御史中尉、後魏置ク即チ「御史中丞」ノ別稱、百僚ヲ監督ス。(四)護軍中尉、唐中葉以後神策軍ヲ置キ宣官ヲ以テ護軍中尉ト爲シ之ヲ統領セシム。(五)民國海陸軍官制皆中尉アリ。我日本ノ軍制ニ倣フ。清代ノ千總(見ヨ)等ト其資格ヲ一ニス。

【中慰】 君上ノ憂事アルトキ之ヲ慰ムル上表ヲ「中慰」ト曰フ。

【中鹽】 商人ヨリ粟米又ハ銀ヲ官ニ輸納シタルトキ官ヨリ其代價トシテ之ニ給スルニ鹽ヲ以テス、之ヲ「中鹽」ト謂フ。【清律】「戶律課程篇」監臨勢要中鹽ノ條アリ。【清律】「職註」按。宋朝以「用兵乏」饋餉。初令商人輸鹽

粟于塞下。聽聽輸粟京師。皆優其價。而給以鹽。謂之折中。故曰「中鹽」。商賈國用。民食二官鹽。兩利。明初猶仍其制。至弘治間。始停三輪粟法。而改令輸銀于運司。給以引鹽。其中鹽之名。至今因之。(明律卷八) 清律卷十二

【中饋】 婦人家ニ在リテ飲食ノ事ヲ主トルコトヲ謂フ。【易經】家人卦「无攸遂。在中饋。トアルニ出ツ。故ニ主婦ノ職ニ使用ス。【唐律】戸婚篇「有妻更娶」ノ條疏議「依禮。日見ニ於申。月見ニ於庚。象ニ夫婦之義。一與レ之齊。中饋斯重。故有妻而更娶者。合徒一年。(卷十)

【中極殿大學士】 明朝、世宗以後ニ及ビテハ大學士ノ朝廷ノ地位遂ニ六部尙書ノ上ニ列スルニ至ル。蓋シ大學士ハ原則内閣以外ノ官タリシト雖モ仁宗宣宗以後内閣ニ歸屬シ、殿閣大學士ノ衙門閣臣ノ專ニスル所ト爲レリ。明初華蓋殿以下五殿閣大學士ヲ設ケ尋テ仁宗ノ時「謹身殿大學士」ヲ添設セシガ宣宗ニ至リ「華蓋」ヲ改メテ「中極」ト爲シ、謹身ヲ改メテ

「建極」トセリ。是ニ於テ學士ニハ中極殿、建極殿、文華殿、武英殿、文淵殿、東閣ノ六大學士アルニ至レリ。(清國行政) 法卷一上

【中和樂處】 清制、禮部附屬官廳ノ一ナリ。音樂ハ初メ太常寺鑾儀衛等ノ分掌タリシガ乾隆七年別ニ樂部ヲ設ケテ之ヲ總轄セシム。中和樂處ハ其一課ニシテ宮廷ノ樂ヲ掌ル。故ニ又兼ネテ内務府掌儀司ニ屬ス。(清國行政) 法卷一上

【中和殿】 清制、北京ニ於ケル皇居ハ之ヲ外朝、内庭ニ分チ外朝ハ大和殿、中和殿、保和殿アリ。門内ノ中央ニ在ルヲ大和殿ト曰ヒ其後ニ在ルヲ中和殿ト曰フ。(清國行政) 法卷三

【中和殿大學士】 清制、順治三年一たび翰林院ヲ廢シテ其官ヲ「内三院」(太宗、天聰十年内三院ト爲ス。(ナ)ニ分屬セシメシガ同十五年之ヲ復興シ尋テ内三院ヲ改メテ「内閣」ト爲シ、中和殿、保和殿、文華殿、武英殿、文淵閣、東閣ノ六大學士ヲ列シ舊ニ仍リテ各部尙書ノ衙門(官)ヲ兼ネシメタリ。(清國行政) 法卷一上

【中華】 二説アリ。(一)古代支那ノ君主ハ多ク都ヲ黄河ノ南北ニ建テタルガ故ニ後世其地ヲ指シテ「中華」又ハ「華夏」ト曰フト爲ス。(三)國志「若使游二步中華。胸ニ其龍光。」

【鏡書】 下迄魏晉趙秦二燕。雖地據ニ中華。德祚微淺。是ナリ。近世ノ所謂中華ハ此ノ意味ヲ擴張シタルモノナリト爲ス。(二)中ハ中央ノ中、華ハ文華ノ華、即チ中央文華國ノ謂ナリ。【唐律釋文】「中華者中國也。親被ニ王化。自爲ニ中國。衣冠威儀。習俗孝悌。居ニ身體義。故謂ニ之中華。(同書) 卷三

【中缺】 地方官ハ其任地又ハ事務ノ繁簡トニ由リテ、其官缺即チ職務ニ要缺簡缺等ノ別稱アリ。中缺トハ要缺ト簡缺即チ緊要ナル職ト簡易ナル職トノ中間ニ在ルコトヲ謂フ。

【清國行政】 法第一卷

【中國通商銀行】 光緒二十三年大理寺少卿盛宣懷ノ奏議ニ基キテ設立シタルモノニ係

リ、官商合辦ノ銀行ナリ。當時ハ部庫庫庫ノ銀兩ヲ存貯シ、各省ヨリ京師ニ送附スル官廳ノ爲替ヲ取扱ヒ、並ニ紙幣ヲ發行シ銀貨ヲ鑄造スルノ特權アリ。是レ實ニ支那銀行ノ嚆矢ナリ。(清國行政) 法卷二

【中祀】 大祀小祀ニ對シテ社稷、大歲及ヒ孔子、關帝等ノ祭ヲ謂フ。

【中伏】 中伏トハ皇上巡行ノ際中途食事ヲ行ハル、所ヲ謂フ。普通人ハ「半路打尖」ト稱スト云フ。【皇朝政治學問答】「中途豫備」皇上用ニ早膳ニ之處。即中伏也。尋常人行路。半路打尖亦此意。伏ノ字ハ字典ニナシ。蓋シ「伏」ヲ改稱シタルモノトセバ故ト同字ニシテ置(韻)ノ義アリ。即チ休息ノ意ニ取ルガ如シ。

【中舍人】 晋代設クル所ノ官、太子附ノ官職ナリ。故ニ「太子中舍人」ト曰フ。唐代以後ハ「人」ノ字ヲ刪リテ「太子中舍」ト稱ス。【事物紀原】「晋成寧中。初置太子中舍人官。宋朝神

宗。又置之。唐以來有二太子中舍。而無中舍人。(五) 卷

【中傷】 人ノ過失ヲ攻メテ之ヲ陷害スルコトヲ謂フ。【後漢書】「有奸ニ逆於心者。必求レ事

中傷。肆其凶忿。」

【中書】 (長壽) 中書省

【中書謁者令】 (中書省) 中書省ノ

【中書監】 (中書省) 中書省ノ

【中書侍郎】 漢武帝ノ時、中書ヲ置キ、尙書ノ職權ヲ領セシム。魏代黃初中、「通事郎」ヲ置キ、後改メテ「中書侍郎」ト爲ス。蓋シ「侍」ヲ加ヘタルハ晋時ナリト云フ。【事物紀原】「漢武帝。置中書。領尙書事。有三令丞郎。魏黃初初。置通事郎。後改曰中書侍郎。唐志曰。晋加二侍字。(五) 卷

【中書舍人】 魏代中書ニ始メテ通事一人ヲ置ク。後改メテ「通事郎」ト爲シ尋テ「通事侍郎」ト爲ス。晋初舍人、通事各一人ヲ置ク。

東晉ノ時各一職ト爲ス。梁代始メテ詔誥ヲ掌  
ラシム。其後「通事」ヲ除キ直ニ「中書舍人」ト  
曰フ。舍人ハ本ト周代ノ官名、宮中ノ政ヲ掌  
ル。「事物紀原」初學記曰。魏世中書始置「通事  
一人。明帝時有「通事劉泰」是也。高貴卿公。改  
曰「通事都尉」。尋爲「通事侍郎」。晉初置「舍人通  
事各一人。東曹各爲一職」。梁始掌「詔誥」。其後  
除「通事」。直曰「中書舍人」。舍人本周官。掌「平  
宮中之政」。(五)卷

【中書省】<sup>チウシュウシヤウ</sup> 中書ノ名ハ前漢ヨリ起ル。後漢ハ  
尙書ヲ置キテ中書ヲ置カズ。魏ノ文帝ノ時ニ  
「中書監」及ビ「中書令」ヲ置キ、樞機ニ參シ、秉  
衡ノ職ニ任ジ、詔命詔記悉ク之ヲ掌レリ。晉  
代ニハ其權力甚ダ重ク、世人認メテ「相職」  
(宰相)ト爲セリ。魏晉時代ニハ中書省ノ外ニ  
「門下省」ナルモノ起リ、漸次樞要ノ地ヲ占ム  
ルニ至レリ。門下省ハ初メ「侍中寺」ト云ヘリ。  
侍中ノ官ハ秦時ヨリ起ル。隋ヲ經テ唐ニ及ビ  
テハ中書、門下、尙書ノ三省鼎立シ、其長官ヲ

以テ宰相ノ職ト爲シタリ。宋亦之ニ仍リタル  
モ、徽宗政和申太師ヲ以テ三省ヲ總領セシメ、  
號シテ「公相」ト曰ヘリ。遼金共ニ三省ヲ設ケ  
タルモ、遼ハ三省ノ上ニ宰相府アリ。故ニ秉  
衡ノ權ハ宰相之ヲ握リ、三省ノ權ハ薄弱ト爲  
レリ。金ハ三公ヲシテ三相ノ事ヲ總領セシメ  
名ツケテ「領三省事」ト云ヘリ。元ハ中書令ヲ  
以テ國政ノ中樞ト爲シ、門下尙書ノ二省ハ一  
時之ヲ設ケタルモ、後ニ廢シタリ。明ハ當初  
中書省ヲ置キタルモ、後ニ之ヲ廢シテ六部尙  
書ノ地位ヲ進メ、漸次其權限ヲ重クセリ。尋  
デ翰林院ノ才識卓絶ナル者ヲ拔擢シテ樞政ヲ  
典ラシムルコト、シ、之ヲ「內閣」ト稱ス。此ニ  
至リテ中書省ハ他ノ二省ト共ニ消滅ニ歸ス。  
(備考) 魏、黃初ノ初「秘書省」ヲ改メテ「中  
書」ト爲ス。晉ハ秘書ヲ以テ「中書省」ニ併合  
ス。南齊ハ中書省ノ職ニ「主書令史」ヲ置キ、  
梁ハ監、令各一人ヲ置ク。後齊ハ中書省ハ  
王官ヲ管司シ及ビ進御ノ音樂ヲ司ラシメ又

「舍人省」ヲ領シ宣旨ヲ示シテ勞問スルコト  
ヲ掌ラシム。隋ハ煬帝大業十一年「內史省」  
ヲ改メテ中書省ト爲シ、唐ハ武德三年內書  
省ヲ改メテ中書省ト曰ヒ、龍朔元年改メテ  
「四臺」ト曰ヒ、光宅元年中書省ヲ改メテ「鳳  
閣」ト曰フ。其後中書省ニ復シタルモ開元  
元年又中書省ヲ改メテ「紫微省」ト曰フ。  
(時ニ尙書省ヲ別省ト爲シ、門下中書ヲ北省  
ト爲シ、亦門下ヲ左省ト爲シ、中書ヲ右省  
ト爲シ或ハ通ジ) 宋ハ中書省、庶務ヲ進擬シ  
命令ヲ宣奉シ省臺寺監長貳館閣帶職提舉官  
已上ヲ除授シ臺諫ノ章奏、臣僚ノ陳請、興革  
廢置及ビ内外旨ヲ取ルコトヲ掌ラシム。且  
ツ中書省ハ尙書省、門下省ト共ニ之ヲ「三  
省」ト謂フ。(三省ハ宋始メテ稱スルニ) 元  
ハ初メ尙書省アリタルモ續イテ中書省ヲ以  
テ「那省」ト改メ中書令其職ヲ掌ル。外ニ在  
リテハ又行中書省ヲ置キ、至元二十四年復  
改メテ尙書省ト爲ス。(古今事文類  
改) 齊代ノ「納言」周代ノ「內史」ヨリ起

ル。秦始皇ノ時「中書謁者」ヲ置ク。漢元帝ノ  
時「謁者」ノ二字ヲ去リテ「中書令」ト爲ス。其  
職ハ皇帝ニ侍シテ謁者ノ取次ヲ爲スコトヲ掌  
ル。初メ宦官ヲ以テ之ニ任ジタルモ後士人ヲ  
以テ之ニ任ズ。隋文帝ノ時三公府廢シ中  
書令ト侍中トヲシテ政事ヲ行ハシム。此ヨリ  
遂ニ宰相ノ權利ヲ有スルニ至レリ。「事物紀  
原」「奏納官。周內史。皆中書之任也。漢武帝  
後庭。始置者典事。尙書謂之「中書謁者」。置レ令  
不言謁者。省レ文也。漢典云。唐百官志則曰。  
秦始皇置「中書謁者」。漢元帝去「謁者」字。漢魏  
品卑而任重。隋文帝廢「三公府」。令「中書令  
與「侍中」知政事。遂有「爲」宰相。職林以謂。漢  
成帝建始四年改「中書謁者」令「曰」中謁者令。  
以「士人」爲之。魏文帝黃初初。改「秘書令」爲「  
中書令」也。(五)卷

射ヲ置ク。司馬遷腐刑ヲ被リテ後「中書令」ト  
爲ル。宣帝中、尙書官ヲ任ズルニ皆宦官ヲ以  
テス。元帝モ亦宦官ヲ以テ中書令ト爲ス。蓋  
シ宦官ハ外黨ナシト爲シ遂ニ委スルニ政事ヲ  
以テシ、事、大小ナク皆之ニ決ス。成帝、中  
書令者令ヲ改メテ「中書省令」ト曰フ。中書令  
者ヲ罷メ更ニ士人ヲ以テ之ヲ爲ス。魏ハ黃初  
ノ初中書令ヲ置キテ秘書ト爲ス。東晉ハ更ニ  
其職ヲ重クシ諸公ヲ以テ之ヲ任ズ。南北朝改  
廢一ナラズ。隋ハ三公府廢令ヲ廢シ中書令、侍  
中、知政事ノ三官遂ニ三公ノ職ト爲ス。煬帝  
十二年改メテ「內書省」ト爲ス。唐ハ武德ノ初  
「內史省」ト爲シ、龍朔二年令ヲ改メテ右相ト  
爲シ、光宅三年內史ト改メ、開元ノ初「紫微令」  
ト改ム。宋ハ中書令ハ正一品トシ檢校官ヲ以  
テ中書ヲ兼ネシム。後之ヲ「使相」ト謂フ。元  
ハ中書省ニ中書令アリ宰相ノ職ト爲ス。(古今  
類聚新  
集卷五)

【中丞】<sup>チウシヤウ</sup> 漢代ノ御史大夫ノ屬ニ二丞アリ。一ヲ  
射ヲ置ク。司馬遷腐刑ヲ被リテ後「中書令」ト  
爲ル。宣帝中、尙書官ヲ任ズルニ皆宦官ヲ以  
テス。元帝モ亦宦官ヲ以テ中書令ト爲ス。蓋  
シ宦官ハ外黨ナシト爲シ遂ニ委スルニ政事ヲ  
以テシ、事、大小ナク皆之ニ決ス。成帝、中  
書令者令ヲ改メテ「中書省令」ト曰フ。中書令  
者ヲ罷メ更ニ士人ヲ以テ之ヲ爲ス。魏ハ黃初  
ノ初中書令ヲ置キテ秘書ト爲ス。東晉ハ更ニ  
其職ヲ重クシ諸公ヲ以テ之ヲ任ズ。南北朝改  
廢一ナラズ。隋ハ三公府廢令ヲ廢シ中書令、侍  
中、知政事ノ三官遂ニ三公ノ職ト爲ス。煬帝  
十二年改メテ「內書省」ト爲ス。唐ハ武德ノ初  
「內史省」ト爲シ、龍朔二年令ヲ改メテ右相ト  
爲シ、光宅三年內史ト改メ、開元ノ初「紫微令」  
ト改ム。宋ハ中書令ハ正一品トシ檢校官ヲ以  
テ中書ヲ兼ネシム。後之ヲ「使相」ト謂フ。元  
ハ中書省ニ中書令アリ宰相ノ職ト爲ス。(古今  
類聚新  
集卷五)

ノ首府其他商賈輻湊ノ地ニ在リテ大抵私立ニ  
係ルト雖モ、中ニハ布政使司稅關等ニ隸屬ス  
ルモノアリ。爐房ニ於テ用ナル權衡ハ均一ナ  
ラザルノミナラズ銀ノ成色モ異ナルガ故ニ取  
引ヲ爲スニ當リテハ秤量シテ價ヲ定ムルヲ通  
例トシタリ。(清國行政)

【中統寶鈔】 元ノ世祖ノ中統年間ニ發行シ  
タル通貨ナリ。十文ヨリ二貫文ニ至ルノ十等  
アリ。均シク通用期限ヲ定メズ、京師及ビ各  
路ニ平準庫ヲ置キ、金錢ヲ以テ鈔本ト爲レ、  
鈔價ノ漲落ニ應ジテ收發ヲ行ハシメタリ。  
(清國行政)

【中二千石】 中ハ滿ノ義、俸米滿二千石ヲ  
給セラ、地方長官ノ稱ナリ。漢書百官表、制  
中二千石。註、謂、滿二千石。  
【中納錢糧】 (錢糧) 官ヨリ鹽ノ給付ヲ受  
ケンガ爲メニ錢糧ヲ納ムルコトヲ謂フ。中ハ  
中鹽ノ中ヨリ來ル。(中鹽) 【明律】 清律【戶

律課程篇、監臨勢要中鹽ノ條、凡監臨官吏跪  
名、及權勢之人。中納錢糧。謂、買鹽引勸合。  
侵奪民利一者。杖一百。徒三年。鹽貨入官。  
(明律卷八清)

【中買】 (一) 宋代ニ於テハ民有地ヨリ產出ス  
ル鹽ハ一定ノ額ヲ官ニ納メシメ、之ヲ「課鹽」  
ト稱ス。即チ課稅トシテ鹽ヲ徵收スルナリ。  
其他ハ錢ヲ出シテ買收セシム。之ヲ稱シテ「中  
買」ト曰フ。是レ官民ノ中間ニ在リテ官ヨリ買  
民間ニ賣ルガ爲メナリ。(清國行政法)

【明律】 戶律篇、鈔法ノ條、若諸人將賣鈔。赴  
倉庫場。折納諸色課稅。中買鹽貨。云云。  
(七)

【中賣】 商民ガ官許ヲ得テ民間ノ所有ニ係ル  
鹽銅ヲ買收シテ之ヲ官ニ賣納スルコト、即チ  
御用商人ノ所爲ナリ。【明律】 戶律篇、錢法ノ

條(上) 其餘鹽銅並聽、赴官中賣云云。(七)

【中飽】 奸吏ガ政府ト人民トノ中間ニ在リテ  
私賣ヲ飽スコトヲ謂フ。  
【中幣】 (幣) 幣ノ見ヨ

【中票料】 地賦ノ附加稅ノ一種ナリ。附加稅  
ノ名稱ハ地方ニ依リテ一様ナラズ、中票料ハ  
清國時代臺灣等ニ於テ用キラレタルモノナ  
リ。(臺灣)

【抽解】 買易ノ貨物ニ對シ商稅トシテ其幾分  
ヲ抽キ取リテ解送セシムルコトヲ謂フ。大學  
衍義補、孝宗(宋)隆興二年臣僚言。熙寧(宗  
之)年。創立市舶。以通貨物。舊法抽解。有定  
數。而取之不理。納稅寬其期。而使之待  
價。使遠之意。實寓焉。(同書卷)

【抽課】 清制、稅銀ヲ徵收スル方法トシテ、  
其課稅物ニ就キテ幾分ヲ抽取シ、之ヲ稅物ト  
爲スコトヲ謂フ。例セバ礦業稅ノ如キハ各廠

產出ノ礦物ノ斤量ヲ計リ其幾分ヲ抽取スルヲ  
法トシ、之ヲ「礦物之抽課」ト云フノ類ナリ。

【抽簪】 官ニ仕フル者ハ簪纓ヲ以テ飾ト爲  
ス。故ニ「抽簪」ハ官ヲ棄ツルノ意トス。

【抽頭】 博徒ヲ家ニ招キテ之ニ飲食セシメ其  
堵シテ勝ツヲ何ヒ二十或ハ十五ノ一ヲ取ル。  
之ヲ「抽頭」ト謂フ。邦俗ノ「頭」ハネルト云  
フニ同ジ。(東坡)

【抽分】 商品中ヨリ商稅トシテ幾分ヲ抽取ス  
ルコト、即チ後世ノ釐金ノ如シ。元ノ至元七  
年宋制ニ因リテ市舶(交易用)ヲ設ケ蕃邦トノ  
交易ヲ行ハシム。其法ハ每歲船商ヲ蕃邦ニ招  
集シ珠翠香貨等ノ物ヲ貿易セシメ、次年廻船  
ノ時ニ及ビテ貨物ヲ検査シ其中ヨリ一定ノ數  
ヲ抽分シ然ル後ニ商貨トシテ賣ルコトヲ聽  
ス。其抽分ノ數ハ細色(上等)ハ二十五分中  
ヨリ一ヲ取り麤色(下等)ハ三十分中ヨリ一

ヲ取ル。漏稅ノ者ハ其貨物ヲ沒收スルヲ法ト  
ス。仍ホ金銀銅錢及ビ人身ノ賣買ハ之ヲ禁ジ  
輸出ヲ許サズ。【大學衍義補】(上略、抽) 元  
因宋制。每歲招集船商於蕃邦。博易珠翠香  
貨等物。及二次年廻帆。驗貨抽解。然後聽其貨  
賣。其抽分之數。細色於二十五中取一。麤  
色。於三十分中取一。漏稅者。仍禁金  
銀銅錢男女。不許溢出。(同書卷)

【抽釐濟餉】 (餉) 抽キテ 濟餉ノ中業マテ  
ハ海陸運送ノ貨物ニ對シ、單ニ關稅ノミヲ徵  
收シタルモ、咸豐同治以來變亂多ク軍餉不足  
セシガ爲メニ、各要處ニ卡局(番)ヲ設ケテ商  
貨ヨリ其幾分(即チ)ヲ抽收シ、以テ之ヲ補濟  
シタリ之ヲ「抽釐濟餉」ト謂フ。【六部成語註  
解】「從前祇有二關稅。咸同以來中國多亂。軍餉  
不足。乃各處設卡。抽收商貨釐金。以濟之

也」。

【時】 (部首) 尤(韻)  
【時】 (一) 穀田之ヲ田ト謂ヒ。麻田之ヲ時ト  
謂フ。禮記月令篇、季夏之月。可。以養田  
時。疏、穀田曰田。麻田曰時。(國語齊語)

【時其爵邑】 (其爵邑) 時ハ等シキナリ。初  
封者、全秩ヲ受クルノ謂ナリ。漢代始メテ封  
ヲ與フル者ニ非レバ十分ノ二ヲ減ズルヲ法ト  
ス。漢書宣帝記、時其爵邑。註、漢律。非二始  
封。十減二。時者等也。言。不復減一也。

【時官】 世々其業ヲ繼承スル者、漢制ハ民年  
二十三、其姓名ヲ文書(名簿)ニ記入シテ其父  
ノ職ヲ繼ガシム、之ヲ「時官」ト謂フ。漢書律  
曆志注、家業世世相傳爲時官。尙ホ漢書溝洫  
志注、年二十三傳之時官。各從其父。學一  
之。云云。【史記】高祖時。因秦太卜官。文景  
因襲掌故。未遠三講試。繼父子時官。世世相  
傳。而精微深妙。多所遺失。

**【嗜人】** (一)嗜官ト同ジク世々父祖ノ業ヲ承クル者。【漢書】律曆志注「如淳曰。家業世世相傳爲嗜。」(二)屠數家ヲ謂フ。【史記】屠書「周室微。陪臣執政。不記時。君不告朔。故嗜人子弟分散。」(三)後世ハ算數家又ハ算數ノ名ト爲ス。嗜ヲ假リテ籌ト爲スニ因ル。

**【籌】** (一)數ヲ計ル者ヲ謂フ。「算籌」酒籌ノ如シ。(二)料量ヲ計算スルコトヲ籌ト謂フ。「籌商」「籌辦」ノ如シ。

**【籌議】** 會同シテ計畫協議スルコトヲ謂フ。【周書】蘇亮傳「有籌議。善談笑。大祖重之。有籌所。籌議。率多會旨。」

**【籌斛】** 一斛ヲ量ル毎ニ木籌ヲ以テ數ヲ記スルコトヲ謂フ。【六部成語註解】「每量一斛。以三木籌記數也。」

**【籌濟編】** 德濟編ハ清、道光四年ニ楊景仁ノ編述セルモノニシテ三十二卷ヨリ成ル。荒政即チ非常時ニ於ケル救濟方法ヲ論述シタルモノナリ。

**【籌策】** 計畫ト言フガ如シ。軍事上ニ於テハ「計略」ノ義ニ解スベシ。【史記】高帝紀「夫運籌策帷帳之中。決一勝於千里之外。吾不レ如子房。」一本「運籌帷帳之中」ニ作ル。

**【籌算】** 數字ヲ割セル竹籌(ソロ)ヲ用キテ運算スルコトヲ謂フ。

**【籌餉事例】** 清、咸豐元年軍隊ノ費用ヘ捐納シタル者ニ對シテ官吏ノ資格又ハ勳徽章ヲ給與スルコトヲ規定シタルモノナリ。凡ソ五十八條ヨリ成ル。同二年其備ハラザル所アルニ因リ豫工各例條ノ酌留スベキモノヲ加ヘテ二十九條ヲ續纂シタリ。而モ其後尙ホ章程ヲ奏改セシコト一ニシテ足ラズ。故ニ官員ト雖モ其詳細ヲ審ニスルコト能ハズ。因テ同治五年戶部ヨリ咸豐元年以來官廳ニ於テ取扱ヒタル案件ヲ調査シテ訂正ヲ加ヘ籌餉事例九十一條、常例十六條ヲ定メ又原定ノ火器營章程三十五條ノ内四條ヲ削除シ籌餉事例ニ編入ス。

所謂「增修籌餉事例」增修現行常例」是ナリ。

**【籌賑局】** 荒政事務ヲ行フ官廳ナリ。荒政トハ國民ガ天災地變ニ因リテ困難ニ陥リタル場合ノ救濟政策ヲ謂フ。古來之ニ關シテハ種種ノ救濟法行ハル。籌賑局ハ清國ノ新設シタルモノナリ。(法卷四)

**【籌馬】** 投壺(博)ノ勝負ヲ記スル器具ヲ謂フ。(證記投壺)

**【籌備】** 或ル費用ニ就キテ豫メ計算ヲ爲シ其用ニ備フルコト、即チ豫算ノ義ナリ。(下條)

**【籌備餉需】** 清制、籌備餉需ハ初メ「近畿防餉」ト稱シ、又「籌邊軍餉」ト稱ス。光緒十八年以後今ノ名ニ改ム。即チ軍備餉食ニ關スル設備ニシテ、年額二百萬兩トシ、四月マデニ其半額ヲ輸送シ、十月内ニ其半額ヲ輸送ス。其稅源ハ地賦丁賦及ビ關稅ヨリ取ル。(清國法卷)

**【籌邊軍餉】** (前條ヲ見ヨ)

**【籌邊使】** 官名、邊疆ノ屯田ニ關スル事務ヲ掌ル。民國ノ初、之ヲ設ケタルモ後ニ至リテ之ヲ廢ス。

**【酎】** (部首) (韻) 酎(酉)

**【酎金律】** 漢文帝ガ舊律ニ加ヘタル律ノ篇名。酎ハ醇酒ノ名、即チ今ノ燒酎ナリ。其最モ純粹ナルモノヲ以テ宗廟ニ薦ムル例トス。之ニ對シテ每歲列侯ハ其祭酒料トシテ黃金ヲ漢廷ニ獻ズルヲ定トス。其獻金ニハ一定ノ法アリ。法ノ如クセザル者ハ奪爵等ノ罰アリ。之ヲ「酎金律」ト謂フ。要スルニ是レハ一種ノ列侯減殺ノ手段ナリ。【漢書】禮儀志ノ註「酎金律。文帝所加。以正月且作酒。八月成。名ニ酎酒。因合諸侯助祭黃金。」【史記】平準書ノ註「如淳曰。漢儀註。侯。歲以二戶口酎黃金。獻於漢廟。皇帝臨受。獻金。以助祭大祠。曰。飲酎。飲酎。受金少。不レ如二斤兩。色惡。王制。縣。侯免國。」又【漢書】武帝紀「元鼎五年。列侯。坐酎金。不レ如法。奪爵者。百餘。」

人。(【史記】孝文帝本紀注「漢書景帝紀注。同王子侯表。同韓王信傳注參照。)

**【酎黃金】** 漢代、每歲朝廷ヨリ諸侯ニ對シテ祭酒料トシテ黃金ヲ獻ゼシム。其供酒ハ酎酒トス。故ニ此名アリ。(【酎金律】附例及ビ「酎酒」) 酎酒、重釀ノ酒、今、之ヲ「雙套酒」ト謂フ。我國ノ「燒酎」ニ當ル。(【酎】見ヨ)

**【酎酒】** 醇酒、重釀ノ酒、今、之ヲ「雙套酒」ト謂フ。我國ノ「燒酎」ニ當ル。(【酎】見ヨ)

**【鑄刑書】** (刑書) 刑書ヲ罪ニ歸シテ國ノ常法ト爲スコトヲ謂フ。【左傳】昭公六年。「鄭人鑄刑書。叔向使詰之。遺子產書曰。昔先王議事以制。不爲刑辟。懼民之有爭心也。民知有辟。則不レ忘於上。竝有爭心。以微於書。而微幸以成之。弗可爲矣。夏有亂政。而作二刑。商有亂世。而作三刑。周有亂政。而作三刑。三刑之與。皆叔世也。今吾子相鄰國。制三參。鑄刑書。將以靖民。不亦難乎。民知爭端。將棄禮而徵於書。無鑄之末。將盡爭之。亂獄滋豐。賄賂並行。終子之

世。鄭其敗乎。辟聞之。國將亡。必多制。其此之謂乎。杜預註「權移於法。故民不レ畏上。因三危文。以生爭。緣微幸以成其巧僞。孔穎達ノ註「刑不レ可知。威不レ可測。民畏上也。今制法以定之。勅罪以示之。民知在上下者不レ敢越法以罪己。又不レ能曲法以掩罪。則權柄移於法一矣。云云」

**【鑄刑鼎】** (刑鼎) 晉ノ趙鞅ガ范宣子爲ル所ノ刑書ヲ鼎ニ鑄リ之ヲ刑鼎ト謂フ。鼎ハ肉及ビ魚膳ヲ養ルノ器、乃チ大罪ヲ犯ス者ハ亦此ノ如クスベシトノ威ヲ示シテ犯罪ノ怖ルベキコトヲ警ムルモノナリ。【春秋左氏傳】昭公二十九年「晉鑄刑鼎。著范宣子所爲刑書焉。仲尼曰。晉其亡乎。失其度一矣。夫晉國將守唐叔之所受法度。以經緯其民。卿大夫以序守之。民是以能尊其貴。貴是以能守其業。貴賤不レ愆。所謂度也。今棄其度一也。而爲刑鼎。民在鼎矣。」

**【鑄錯】** (錯) 錯誤ノ甚キコトヲ謂フ。【五

代史「聚六州四十二縣鐵鑄一箇鑄。不  
成。方岳ノ詩、鑄鑄空座六州鐵。」

【鑄山煮海】(山ニ鑄リ)銅山ノ銅ヲ採取シ  
テ鑄ヲ鑄造シ、海水ヲ挹取シテ鹽ヲ製造スル  
コトヲ謂フ。(史記吳  
王濞傳)

【鑄人】(人ヲ)人オヲ養成スルノ義ナリ。揚  
子法言「或問世言鑄金。金可レ鑄歟。曰。吾聞  
鑄君子者。問レ鑄人。不レ問レ鑄金。或曰人  
可レ鑄歟。曰。孔子鑄二顔淵一矣。」

【鑄鼎象物】(鼎ヲ鑄テ)夏ノ禹王嘗テ九  
州ノ牧(牧民官即テ)ヨリ金ヲ收メテ九鼎ヲ鑄  
リ之ニ百物ノ象ヲ刻シテ上帝ヲ享シ以テ民財  
ノ充實ヲ祈ル。左傳「宣公三年。昔夏之方有レ  
德也。造方圖。物實ニ金九牧。鑄鼎象物。百物  
而爲之備。使民知ニ神意。」

【妯娌】(部首) 兄ノ妻ヲ「妯」ト爲シ、弟ノ妻ヲ「娌」  
ト爲ス。漢書「郊祀志。神君者。長陵女子。以レ  
妯娌」

乳死見レ神。於ニ先後ニ宛若。注「兄弟妻相謂曰ニ  
先後。古謂ニ之娣姒。今閩中俗呼爲ニ前後。吳楚  
呼爲ニ妯娌。」廣雅「兄弟之妻。相呼曰ニ妯娌。」  
揚子法言「娣姒ニ作ル。」(娣姒見ヨ)

【竹園】(部首) 天子ノ子孫ヲ謂フ。前漢孝文帝ノ子  
孝王梁ニ封ゼラル、ヤ、苑園ヲ作リ之ニ多ク  
竹ヲ植エテ樂ミタル故事ニ出ヅ。地道志「梁  
孝王苑苑方三百里。即苑園也。多植竹。中有  
修竹園。」史記「梁孝王世家。於是孝王築ニ東苑  
三百里。註「在宋州宋城縣東南十里。俗人言ニ  
梁孝王竹園。」和訓之ヲ「竹ノソノフ」ト謂フ。

【竹篋方】(部首) 粟粟ヲ盛ル器。竹ヲ以テ之ヲ作ル。  
古ハ篋字此器ノ專名ト爲ス。儀禮「聘禮篇。大  
人。使ニ下大夫勞以ニ三竹篋方。」

【竹刑】(部首) 鄭ノ郭折、刑書ヲ作リテ之ヲ竹ニ書  
ス。故ニ之ヲ「竹刑」ト謂ヘリ。左傳「定公九年  
郭酈歆。殺ニ郭折。而用ニ其竹刑。」郭折ノ死ニ  
對シテハ二說アリ。一ハ「郭折君命ヲ受ケズシ

テ、私ニ刑書ヲ作ル。君權ヲ侵害シタル爲ナ  
リ」ト曰ヒ、他ノ一ハ「死ニ處セラレタルハ刑  
書ヲ作リタルガ爲ニアラズ、他ニ大罪ヲ犯シ  
タルガ爲ナリ」ト曰フ。(同書)余謂フニ若シ私  
ニ刑書ヲ作リタルガ爲ナリトスレバ其刑書モ  
不詳物トシテ破棄スベキハ當然ナリ。然ルニ  
之ヲ破棄セズ採用シテ國法ト爲シタルハ郭折  
ノ死ガ刑書ヲ作リタルニアラザルコトヲ證  
ス。同書正義「昭六年。子產鑄ニ刑書於鼎。令ニ郭  
折別造ニ刑書。明是改ニ郭所鑄舊制。若用ニ君  
命ニ違造。則是國家法制。郭折不レ得ニ擅專ニ其  
命。知其不レ受ニ君命。而私造ニ刑書。書ニ之於竹。  
謂ニ之竹刑。郭酈歆用ニ其刑書。則其法可レ取。殺レ  
之不レ爲レ作ニ此書ニ也。下云「棄ニ其邪ニ可也。則  
郭折不レ爲レ私作ニ刑書。而殺レ。蓋別有ニ當レ死之  
罪。郭酈歆不レ殺レ之耳。」(左傳註疏)

【竹笏】(部首) 笏ハ自己ノ思フ所ヲ書キテ上命ニ對  
フルニ備フモノ、(笏一、忽)天子ハ球玉ヲ用キ  
(天子ハ宗)諸侯ハ象ヲ用キ、大夫ハ魚須文竹

【逐客令】(部首) 秦始皇ノ時、諸國遊説客來リテ國  
民ヲ疑惑スルノ懼アリ。因リテ「逐客令」ヲ頒  
布シ此等外來者ヲ國外ニ放逐セントス。此時  
ニ當リテ李斯書ヲ上リテ逐客ノ理由ナキコト  
ヲ論ジテ之ヲ諫ム。仍チ逐客令ヲ停止ス。  
(史記、秦始皇紀  
同、李斯傳參照)

【逐婿嫁女】(部首) 婿ハ贅ナリ(本  
條見)支那婚姻制ハ妻ガ婚姻ニ依リテ夫ノ家  
ニ入ルヲ本則トスルモ、民間ニハ變則ノ婚姻  
行ハル。之ヲ「入婿婚」ト曰フ。即チ妻ガ夫ノ家  
ニ入ラズシテ夫ガ妻ノ家ニ入ル。一見贅養子  
ノ如シト雖モ決シテ然ラズ。支那法ハ同姓間  
ノ婚姻ヲ禁ズルガ故ニ夫ハ絕對ニ女家ノ姓ニ  
從フコトヲ得ザルヲ以テナリ。惟ダ女ノ父ト  
婿トハ贅婿ノ關係ヲ有ス。隨テ婿ガ女家ニ在

ヲ用キ士ハ竹ヲ用キルヲ定法トス。之ニ依リ  
テ對フルヲ「筴筴」ノ言ト謂フ。徒然トシテ屈  
スルナキノ義ナリ。(儀禮士喪禮鄭  
注禮記玉藻篇)

【竹醉日】(部首) 五月十三日ヲ「竹醉日」ト爲ス。一  
說ハ五月十八日、又ハ八月八日ト爲ス。竹ヲ種  
エテ活シ易キガ爲ナリト云フ。岳陽風土記「  
岳人五月十三日。謂ニ之龍生日。種竹多茂。即  
竹醉日也。又曰ニ竹迷日。可ニ以種竹。」居家必  
要「五月十八日栽竹。及十三日爲ニ竹本命日。  
栽之無ニ一死。須試實效。」山家清事「八月八  
日。爲ニ竹醉日。種竹易活。」

【竹帛】(部首) 昔時未ダ紙竹ナキ時代ハ竹木ニ刻書  
シタルガ秦代ニ及ビテ紙發明事務繁劇ト爲リ始  
メテ紙書ヲ以テ篆書ニ代フルト共ニ竹木ニ代  
フルニ帛ヲ以テシタリ。此レヨリ竹帛ハ書籍  
ヲ代名スルニ至レリ。(段玉裁說)淮南子「本  
經訓」著ニ於竹帛。漢ニ於金石。可レ傳ニ於人者。  
其祖也。」

【竹布】(部首) 竹葉ヲ以テ製シタル布、廣東地方ノ

物産ノ一ナリ。中ニモ丹竹(ト曰フ)ヲ以テ  
製シタルモノハ「竹練」ト稱ス。廣東新語「唐  
時編湖貢ニ蕉布。蕉貢ニ竹布。竹布産ニ仁化。其竹  
一名ニ丹竹。亦曰ニ單竹。節長可ニ緝絲織之。一  
名ニ竹練。」

【竹夫人】(部首) 竹ヲ編ミテ作りタル籠、暑時牀席  
ノ間ニ置キ、以テ手足ヲ慰フ。俗ニ之ヲ「竹夫  
人」ト謂フ。蘇軾詩「贈レ君無レ語竹夫人。」一  
ニ亦「竹夾膝」トモ曰フ。唐ノ陸龜蒙「竹夾膝」  
ノ詩アリ。

【築】(部首) 新築又ハ築ニ小城ノ義、春秋「隱公七  
年。夏。城ニ中丘。」胡安國註「凡書城者完舊  
也。書築者創始也。又莊公二十八年。冬。築レ  
郕。胡安國ノ註「凡用レ功。大曰城。小曰築。」

【築氏】(部首) 金工ヲ爲ス者ヲ曰フ。考工記「ニ在  
リ。孫詒讓曰ク、築。搆也。攻レ金之事。必推搆而  
成。故作削之工。謂ニ之築氏。」

【築煙】(部首) 關西ニ於テハ兄弟ノ婦相呼ビテ「築



ル間ハ女ノ父ハ女ノ夫(即チ)ニ對シテモ親權ヲ有スルト共ニ家長權ヲ有ス。殊ニ入贅者ハ大概貧者ニシテ聘金ヲ備フルコト能ハズ聘金ノ代リニ女家ニ在リテ勞役其他ノ事務ニ服スル者ナルガ故ニ其妻ニ對スル權利ハ極メテ薄弱ナリ。然レドモ法律ハ其夫婦關係ヲ認ムルガ故ニ女家父母ノ任意ヲ以テ婿ヲ逐ヒ女ヲ改嫁スルコトヲ聽サズ。【明律】清律ハ戶律婚姻篇「逐婿嫁女」ノ條アリ。同文ヲ以テ「凡逐婿嫁女。或再招婿者一百(中)略」其女斷ニ付前夫ニ出居完業。ト規定ス。(明律卷九)

【逐鹿】鹿ヲ以テ帝位ニ喻フ。亂世ニ當リテ英雄交々起リテ天下ノ主權者タラシコトヲ競爭スルノ謂ナリ。【前漢書】劉向傳「秦失其鹿。天下共逐之」張晏曰「以鹿喻帝位」。

秩(部首) (韻)

【秩】秩ハ多寡ノ義ハ先後ノ義ナリ。一定ノ順序ニ依リテ俸祿ヲ定ムルコトヲ謂フ。

【秩宗】禮官ノ名。百神ノ順位ヲ敘シ、其祭祀禮式ヲ掌ル。舜ノ時代ニ起リ伯夷ヲ以テ之ニ任シタルヲ始トス。【書經】舜典「帝曰。咨伯。汝作秩宗」即チ禮官ニシテ後世禮部ヲ謂フ。秩宗ト爲スハ之ニ因ルナリ。

秩祿 秩ハ次序ノ義、祿ハ俸ノ義ナリ。即チ官職ノ次序ニ依リテ俸祿ヲ定ムルコトヲ「秩祿」ト謂フ。(周禮)

茶(部首) (麻韻)

【茶】茶ハ經傳ニハ見エザルモ爾雅「二ハ之アリ。其註ニ「樹小ニ魁子ノ如シ。冬葉ヲ生シ煮テ羹ト作シ飲ムベシ。云云。トアリ。其種類ハ(一)茶(二)檟(三)設(四)茗(五)蔎ノ五種アリ。古ハ苦茶ト稱ス。其盛ニ飲用セラル、ニ至リタルハ唐代ナリ。後世ハ其製法ニ依リテ幾多ノ異名アルモ大別スレバ「紅茶」「綠茶」ノ二種トス。江淮以南ノ諸國皆之ヲ產ス。【親燈錄】

【茶果銀】清制、船主ヨリ漕運米ヲ倉庫ニ納ムル料金ナリ。茶果ノ名目ヲ以テ徵スルガ故ニ名ヅク。舊制茶果銀ハ米一廩(一倉)ニ每計六七十兩ナリシガ、後額ヲ定メテ每廩六十兩トシ其内七分ハ官ニ交シテ米修廢等ノ用ト爲シ、三分ハ書讀頭役(書記及比)ニ分給シテ造冊刷卷等ノ費ニ備フルコト、爲ス。

【茶市】茶ヲ營業トスル家ナリ。【元史】「存留茶引二三千本。以茶戶消乏」爲レ名。轉賣與ニ新興之戶。

【茶馬司】官名、茶ヲ以テ番馬(蒙古其他)ト交易スルコトヲ掌ル。明洪武ノ時、洮州、秦州、河州ニ三茶馬司大使ヲ置キ茶馬ノ出納ヲ掌ラシメ、且ツ私茶(密賣)ノ開出ヲ稽查セシム。永樂年中行人二十四員ヲ遣ハシテ之ガ巡視ニ任ズ。宣德年中三月一回行人ヲ派遣スル

【茶法】抽茶即チ茶專賣ノ法、唐代ヨリ起ル。【唐書】王涯傳「涯拜三司使。始變茶法。益其稅。以濟用度」。

丈(部首) (夬韻)

【丈出】土地ヲ測量シテ書面積ヨリ量出シ得タル步數ヲ謂フ。【六部成語註解】清丈所得之數也。

【丈人】(一)妻ノ父ヲ稱ス。(二)長老又ハ尊老ノ稱ナリ。【史記】匈奴傳「自謂我兒子。安敢望漢天子。漢天子。我丈人行也」是レ妻ノ父ヲ指スノ例ナリ。【易經】師卦「師貞。丈人吉」。

西、浙江、湖北、湖南、甘肅、四川、雲南、貴州ノ十州ニハ茶引ノ設アルモ其他ニ於テハ殆ド茶引ノ設ナシ、茶引ノ設ナキ地方ハ自由營業ニ屬スルコト勿論ナリ。(清會典)

【茶引局】清制、茶引ノ頒布及ビ茶課ノ徵收ヲ掌ル官署ナリ。【徽寧池三府屬庄茶引捐撥章程】「皖南設立茶引局。由皖南道督辦」トアルハ其一例ナリ。

【茶禁】國家ガ茶利ヲ抽取(專賣)センガ爲メニ設ケタル禁令。唐ノ建中年代ヨリアリ。宋代ニ至リテハ茶禁日ニ嚴ト爲リ罪ヲ被フル者甚ダ多シ。因テ茶籠ヲ目シテ「草大蟲」ト爲ス。其人ヲ傷タルコト虎ノ如シトノ謂ナリ。(宋史食貨志)及ビ拊掌錄

【茶課】茶引ニ對スル公課、即チ茶販賣ノ課稅ナリ。故ニ茶引ヲ設ケザル地方ニハ茶課アルコトナシ。(戶部則例)宋代ヨリ已ニ之アリタルガ如ク【宋史】「程之邵主管茶馬。市場至二萬匹。得茶課四百萬緡」ト記ス。

【茶馬司】官名、茶ヲ以テ番馬(蒙古其他)ト交易スルコトヲ掌ル。明洪武ノ時、洮州、秦州、河州ニ三茶馬司大使ヲ置キ茶馬ノ出納ヲ掌ラシメ、且ツ私茶(密賣)ノ開出ヲ稽查セシム。永樂年中行人二十四員ヲ遣ハシテ之ガ巡視ニ任ズ。宣德年中三月一回行人ヲ派遣スル

【茶博士】茶ヲ賣ル人ヲ云フ。【封氏見聞】「李季卿宣慰江南。時茶飲初盛行。陸羽來見。既坐。手自烹茶。口通茶名。區別指點。季公心鄙之。茶罷。命二奴子。取錢三十二文。酬茶博士。」

【茶油】茶ノ實ヲ以テ製造シタル油ニシテ兩湖及ビ福建ニ出ア功用ハ豆油菜油ニ同シ。

【茶引】茶販賣ニ對スル免許證札ナリ。清代ニ於テハ茶ハ鹽ニ比スレバ頗ル簡ニシテ政府ハ只ダ一定ノ公課ヲ徵收スルニ止マリ其製造ニ對シテハ勿論、販賣ニ對シテモ敢テ干涉スル所ナシ。從テ茶引ノ如キモ江蘇、安徽、江

无レ替。是レハ長老、又ハ尊者ヲ指スノ例ナリ。(三)祖父ヲ稱シテ丈夫ト爲ス。【顔子家訓】「今世俗猶呼ニ其祖考ニ爲ニ先亡丈人。」

【丈人行】(一)義兄弟間ニ於テ他ノ一方ノ父ヲ指スノ語ナリ。(見母)又(二)妻ノ父ヲ指スニ此語ヲ用フ。(例)丈人ノ引

【丈増】土地測量ノ結果、其畝數ノ増加シタルコトヲ謂フ。【六部成語註解】「因ニ丈量、而知ニ其畝數増加。」

【丈單】臺灣ニ於ケル地券ノ名ニシテ、其因リテ來ル所久シ。乾隆嘉慶時代ヨリ、島知丈單等ノ名ヲ用キタルモ、之ヲ一般ニ下付シテ地主ノ權利ヲ保障スルト共ニ、納稅義務者ヲ確定シタルハ、劉銘傳ガ光緒十四年臺灣全島ノ土地丈量ヲ行ヒタル時ヲ始メトス。(法第一卷)

【丈夫子】古ハ男女通ジテ子ト稱ス。因テ兩者ヲ區別スルニハ男子ヲ「丈夫子」ト曰ヒ、女子ヲ「女夫子」ト曰フ。戰國策「非ニ徒ニ可愛レ子也。又不レ愛ニ丈夫子一獨甚。」

【丈母】(一)義兄弟間ニ於テ他ノ一方ノ父ヲ「丈行人」ト曰ヒ、母ヲ「丈母」ト曰フ。【通鑑】「韓洪謂ニ劉元佐曰。丈母垂白。其註、洪與二元佐、結爲ニ兄弟、觀ニ其父ニ爲ニ丈人行。故呼ニ其母ニ爲ニ丈母也。」(二)妻ノ母ヲ稱シテ「丈母」ト曰フ。(柳子厚)

【丈量】土地ヲ測量シテ田畝ノ面積界限ヲ明ニスルコトヲ謂フ。【六部成語註解】「丈ニ量畝數。清ニ境界限一也。」

【帳】(部首) (灬部) 帳幕ト云フニ同ジク、幕ナリ。詳シク言ヘバ四モヲ圍ムヲ帳ト曰ヒ、王ノ居所ヲ帳ト曰フ。周代ニ始マル。後世ハ諸侯、將軍等亦之ヲ用フ。【周官】幕人ノ制、掌ニ帷幕帳之事。註、四合象宮室。曰、帳。王之所居居帳也。【事物紀原】周官幕人。掌ニ帷幕帳之事。註云。四合象宮室。曰、帳。王所居居帳也。則帳

【帳目】會計簿ノコトヲ謂フ。明周新撰【名義考】「今俗謂ニ簿籍一曰帳目。」

【帳落】游牧者ノ聚マル部ヲ謂フ。【宋史】「將傳傳、論、會家、共帳落。獲馬牛羊一千計。」

【帳】帳ノ新字、帳簿ノ義トシテハ今ハ多ク「帳」字ヲ使用ス。是レ本來帳字ニ帳簿ノ義ナキニ因ル。(帳簿) (見母)

【杖】(部首) (木部) 支那法五刑ノ一、杖ハ持ノ義、一定ノ刑具ヲ持チテ罪人ヲ笞シシ悔悟セシムルノ義ニ取ル。蓋シ五刑ハ舜代以來(一)墨(二)劓(三)剕(四)宮(五)大辟(刑)ノ五ナリシガ(刑)刑(刑)漢文帝ノ時齊ノ大倉令淳于意罪アリ刑ニ當テラレテ長安ノ獄ニ繋ガル、ニ當リ其小女綈榮ガ文帝ニ哀願シテ身ヲ以テ父ニ代ラントス。文帝之ヲ憫ミテ肉刑ヲ廢シ之ニ代フルニ答刑ヲ以テス。(漢書文)又梁ノ武帝天監元年詔シテ笞挿法ヲ定メ尋テ鞭杖ノ

【杖】(家) 三代ノ制、官吏在職年五十ニ達シタルトキハ其邸内ニ於テ杖ヲ用キルコトヲ許シ、之ヲ「杖家」ト謂ヒ、六十ニ達シタルトキハ其邸内ノ往來ニハ杖ヲ用キルコトヲ許シ之ヲ「杖鄉」ト謂ヒ、七十ニ達シタルトキハ其國內ノ往來ニハ杖ヲ用キルコトヲ許シ之ヲ

【杖】(家) 三代ノ制、官吏在職年五十ニ達シタルトキハ其邸内ニ於テ杖ヲ用キルコトヲ許シ、之ヲ「杖家」ト謂ヒ、六十ニ達シタルトキハ其邸内ノ往來ニハ杖ヲ用キルコトヲ許シ之ヲ「杖鄉」ト謂ヒ、七十ニ達シタルトキハ其國內ノ往來ニハ杖ヲ用キルコトヲ許シ之ヲ

經當ニ周制一也。左傳有ニ子我有ニ鞭。又衛侯爲ニ虎擘。皆周事云。又所レ廢之鞭。謂ニ之帳一者、黃帝内傳曰。王母爲帝設ニ九眞十絕妙帳。此疑帳之起也。漢武帝作ニ甲乙式帳。蓋因レ此耳。

【帳飲】餞別ノコトヲ謂フ。【晉書】石崇傳「崇有ニ別館。在ニ河陽之金谷。送者傾都帳飲於此焉。」

【帳下兒】猶ホ兵卒ト言フガゴトシ。【魏略】「劉表自作レ書。與ニ孫伯符。以示ニ爾衡。衡笑曰。欲レ示ニ孫郎帳下兒一耶。將使ニ張下布見一乎。」

【帳下吏】三國時代ノ官、軍中ノ會計ヲ掌ル。軍營中帳幕ヲ張リテ其中ニ居レリ。故ニ「帳下吏」ト曰フ。今ノ軍吏ニ當ル。【三國志】「樂進從ニ太祖。爲ニ帳下吏。」

【帳籍】戶籍登記ノ帳簿ナリ。【唐書】「戶部郎中員外郎。掌ニ戶口田土賦役貢賦簿免復婚籍之事。以ニ男女之黃小中丁老。爲ニ之帳籍。」

【帳房鑰鑰】帳房ハ軍士居所ノ布幕ヲ曰ヒ、鑰鑰ハ銅ヲ以テ作り、形鑰ニ似タルモノ

制ヲ定ム。大杖、法杖、小杖ノ三種アリ。(書)刑法)而モ未ダ舊五刑ニ代ハル新五刑ノ目、確定セザリシガ北齊ノ時始メテ(一)死刑(二)流刑(三)耐刑(徒刑)(四)杖刑(五)答刑ヲ以テ五刑ノ正刑ト爲ス。(隋書刑)其後隋唐時代ニ及ビテハ「耐」ヲ改メテ「徒」ト爲ス。他ハ總テ北齊律ニ因リテ五刑ノ目定マル。後世一ニ之ニ因ル。【唐律】「依ルニ(隋律)今、五刑圖說」ニハ杖刑ヲ分チテ(一)六十(二)七十(三)八十(四)九十(五)百ノ五等ニ分チ而シテ每十ヲ以テ一等ト爲シ其本刑ヲ加減スルヲ法トス(同書)【明律】「清律」皆唐律ニ從ヒテ六十ヨリ百ニ至ルヲ法トス。(明律卷一)

【杖家】(杖) 三代ノ制、官吏在職年五十ニ達シタルトキハ其邸内ニ於テ杖ヲ用キルコトヲ許シ、之ヲ「杖家」ト謂ヒ、六十ニ達シタルトキハ其邸内ノ往來ニハ杖ヲ用キルコトヲ許シ之ヲ「杖鄉」ト謂ヒ、七十ニ達シタルトキハ其國內ノ往來ニハ杖ヲ用キルコトヲ許シ之ヲ

【杖鄉】(杖) 三代ノ制、官吏在職年五十ニ達シタルトキハ其邸内ニ於テ杖ヲ用キルコトヲ許シ、之ヲ「杖家」ト謂ヒ、六十ニ達シタルトキハ其邸内ノ往來ニハ杖ヲ用キルコトヲ許シ之ヲ「杖鄉」ト謂ヒ、七十ニ達シタルトキハ其國內ノ往來ニハ杖ヲ用キルコトヲ許シ之ヲ

【杖鄉】(杖) 三代ノ制、官吏在職年五十ニ達シタルトキハ其邸内ニ於テ杖ヲ用キルコトヲ許シ、之ヲ「杖家」ト謂ヒ、六十ニ達シタルトキハ其邸内ノ往來ニハ杖ヲ用キルコトヲ許シ之ヲ「杖鄉」ト謂ヒ、七十ニ達シタルトキハ其國內ノ往來ニハ杖ヲ用キルコトヲ許シ之ヲ

【杖鄉】(杖) 三代ノ制、官吏在職年五十ニ達シタルトキハ其邸内ニ於テ杖ヲ用キルコトヲ許シ、之ヲ「杖家」ト謂ヒ、六十ニ達シタルトキハ其邸内ノ往來ニハ杖ヲ用キルコトヲ許シ之ヲ「杖鄉」ト謂ヒ、七十ニ達シタルトキハ其國內ノ往來ニハ杖ヲ用キルコトヲ許シ之ヲ

【杖鄉】(杖) 三代ノ制、官吏在職年五十ニ達シタルトキハ其邸内ニ於テ杖ヲ用キルコトヲ許シ、之ヲ「杖家」ト謂ヒ、六十ニ達シタルトキハ其邸内ノ往來ニハ杖ヲ用キルコトヲ許シ之ヲ「杖鄉」ト謂ヒ、七十ニ達シタルトキハ其國內ノ往來ニハ杖ヲ用キルコトヲ許シ之ヲ

【杖鄉】(杖) 三代ノ制、官吏在職年五十ニ達シタルトキハ其邸内ニ於テ杖ヲ用キルコトヲ許シ、之ヲ「杖家」ト謂ヒ、六十ニ達シタルトキハ其邸内ノ往來ニハ杖ヲ用キルコトヲ許シ之ヲ「杖鄉」ト謂ヒ、七十ニ達シタルトキハ其國內ノ往來ニハ杖ヲ用キルコトヲ許シ之ヲ

【杖鄉】(杖) 三代ノ制、官吏在職年五十ニ達シタルトキハ其邸内ニ於テ杖ヲ用キルコトヲ許シ、之ヲ「杖家」ト謂ヒ、六十ニ達シタルトキハ其邸内ノ往來ニハ杖ヲ用キルコトヲ許シ之ヲ「杖鄉」ト謂ヒ、七十ニ達シタルトキハ其國內ノ往來ニハ杖ヲ用キルコトヲ許シ之ヲ

杖國ト謂ヒ、八十ニ達シタルトキハ朝廷ニ出ヅルトキニモ杖ヲ用ケルコトヲ許シ之ヲ杖朝ト謂フ。禮記王制篇、五十杖于家。六十杖于鄉。七十杖于國。八十杖于朝。

杖期 喪服制ニ於テハ、期即チ一年間ノ喪ニ「杖期」不杖期ノ別アリ。杖期ハ不杖期ニ比シテ喪ノ重キ者哀悼ニ衰レテ歩行困難ナル者ニ杖ヲ與ヘテ歩行ヲ扶クルコトヲ總スノ義即チ夫ガ妻ノ爲メ嫡子、衆子(他ノ妾)ガ庶母ノ爲メニ杖期ニ服ス。但シ夫ニ父母アルトキハ夫ハ妻ノ爲メニ不杖期ニ服ス。(「喪制」ヲ見)

杖郷 (杖家ヲ見)

杖國 (杖家ヲ見)

杖式 杖刑ヲ用ケル方式ナリ。【金史】刑法志、上以法不ニ適平。鑄銅爲杖式。頌之天下。刑部員外郎馬復言。外官尙苛酷者。不遵銅杖式。輒用大杖。多致人死。云云。ト記ス。

杖制 刑杖ノ大小長短ヲ定メタル制度ナリ。

リ。年代ニ依リテ一様ナラザルモ其始メテ杖制ヲ定メタルハ南朝ノ梁ニシテ其材ハ荆ヲ用ケルヲ通例トス。大頭ヲ管轄スルヲ目的トシタルガ故ニ大杖(外ニ杖)ハ大頭三分二釐。小頭二分二釐。長六尺トス。杖及ビ小杖ノ制ハ明ナラズ。【隋書】刑法志「杖皆用生荆。長六尺。有大杖法杖小杖三等之差。大杖大頭圍一寸一分。小頭極杪。云云。唐制ハ杖ハ一種ニシテ長三尺五寸。大頭三分二釐。小頭二分二釐トス。【唐律】附【五刑圖說】杖者持也。可ニ以擊人。杖大頭三分二釐。小頭二分二釐。長三尺五寸。亦平ニ去其節一用之。是ハ元ノ王元亮ガ古制ヲ調ヘテ撰シタルモノ、後世皆之ニ準據ス。但シ【事物紀原】ハ宋書會要ヲ引用シテ下ノ如ク記ス。宋書會要曰。杖皆制節目。常行杖大頭二分七釐。小頭一分七釐。管杖大頭二分小頭一分半。皆長三尺五寸。建隆四年張昭等定常行杖。昭請。官杖長三尺五寸。大頭圍不超過二寸。厚及小頭徑不超過九分。小杖長四尺

五寸。大頭徑六分。小頭徑五分。今官府常用者。是。此蓋其始也。(十)此ニ依レバ杖ニハ常行杖、官杖、小杖ノ三種アリ。建隆四年張昭等ノ奏請ニ依リテ官杖ハ長三尺五寸。大頭圍二寸以下厚及ビ小頭ノ徑九分以下トシ、小杖ハ長四尺五寸。大頭徑六分。小頭徑五分ヲ定トシ、法衙常用ケルハ小杖ナリシガ如シ。但シ最末ニ「蓋其始也」トアルハ前掲ノ事例ニ徵スルモ事實ニ反スト謂フベシ。

杖朝 (杖家ヲ見)

杖頭錢 酒ヲ沽フノ錢ヲ謂フ。【世說】阮宣子常歩行。以三百錢一挂杖頭。至店便醉酣。雖三當世貴盛。不レ可レ詣。

杖督 杖ノ一種、官吏ノ職務上ノ罪、即チ公罪ニ科スルノ刑、實ハ其非違ヲ監督スルノ義、梁ノ武帝ノ時ニ設ケタル刑ナリ。但シ、官吏之ヲ犯シタルトキハ贖ヲ以テ之ニ代フルコトヲ聽ス。【隋書】刑法志「梁武帝承齊齊廢之。餘刑政多僻。既即位。乃制禮典。依周漢舊

事。有罪者贖其科。凡在官身。凡ニ罰金鞭杖杖督之罪。悉入贖停罰。其贖省令吏士卒。欲レ贖者聽之。

長 (部首)

長安 古ノ都ニシテ其名ハ漢ニ始マル。長安ノ故城ハ惠帝ノ時ニ築キ一ニ斗城トモ稱ス。今ノ陝西省長安縣ノ西北ニ在リ。

長腰槍 (長槍ヲ見)

長解 解ハ送ルノ義、長解ハ短解(驛遞ニスル)ニ對シ其省ヨリ官吏ヲ附シ直接ニ人又ハ物ヲ京師ニ發送スルコトヲ謂フ。【六部成語註解】由本省ニ所レ派之官役。直送至京者曰長解。

長工 (一)凡ソ工匠(工職)ガ雇傭契約ニ依リテ其職務ニ服スル期間「長工」「中工」「短工」ノ別アリ。四月ヨリ七月ニ連續スルヲ長工ト爲シ二月、三月、八月、九月トニ分レテ職務ニ服スルヲ中工ト爲シ、十月ヨリ正月ニ至ルヲ短工ト爲ス。【唐書】凡工匠以四月至七月

月ニ爲長工。二、三、八、九月爲中工。十月至正月爲短工。是ハ期間ノ長短ヲ以テ差等ヲ爲スモノナリ。(二)吳中ニ於テハ久シク人ニ雇傭セラル、者ヲ長工ト爲シ、暫時雇傭セラ、者ヲ短工ト爲ス。是ハ工賃ノ長短ヲ以テ區別スルモノナリ。【三餘贅筆】吳中田家。凡久傭於人者。謂之長工。暫傭者。謂之短工。

長江 長江ハ揚子江ノ別名ナリ。源ヲ青海巴顏喀喇山ノ南、黃河源ニ發シ上游ヲ木魯烏蘇ト稱ス。屈折東南流シテ雲嶺山脈縱谷中ヲ經テ雲南麗江縣ニ至ル。麗江ト稱ス。俗名ハ金沙江ナリ。屈曲シテ四川雲南兩省ノ間ヲ界シテ一大曲ヲ爲ス。東四川ノ境ニ入りテ宜賓縣ニ至ル。岷江北ヨリ來リテ會ス。東、瞿塘峽、巫峽ヲ經テ湖北宜昌縣ノ西陵峽ニ入ル。古來「三峽」ト稱ス。峽中灘多ク水急ナリ。西陵峽ヨリ以下ニ至リ始メテ平流ト爲ル。東、江西、安徽、江蘇ヲ經テ吳淞口ニ至リテ海ニ入

ル。九千九百六十里ト稱ス。江口ニ崇明島アリ、口外ニ黃海、東海交界ノ處アリ。江ニ入ルノ大川甚ダ多シ。其著明ナルハ四川ノ雅羅江、嘉陵江、湖北ノ漢水、(又入江ノ巨浸アリ)湖南ノ洞庭、江西ノ鄱陽是ナリ。要スルニ長江ハ北嶺以南、南嶺以北ノ諸水之ニ合セザルナク實ニ東洋第一ノ大川ナリ。

長公主 皇帝ノ女ヲ「公主」ト稱シ其尊崇ナル者ハ加ヘテ「長公主」ト稱スルモ普通ハ帝ノ姉妹ヲ長公主ト稱ス。皆漢代ニ始マル封號ナリ。【事物紀原】秦邑曰。漢帝女爲公主。姉妹爲長公主。職林曰。漢制。皇女皆封公主。儀制同列侯。其尊崇者。加號長公主。儀制同藩王。(中)漢書昭帝紀。後元二年二月戊辰帝即位。鄂邑公主益邑爲長公主。即帝姉妹爲長公主也。云云。(卷一)

長槍 米ノ別名ナリ。【李賀詩】「長槍江米熟。註。漢人呼米爲長腰槍。其形ニ取ル。」

長秋宮 漢代、皇后ノ居ラル、宮殿ノ稱、

故ニ皇后ノ稱ト爲ス。略シテ「秋宮」ト曰フ。  
【後漢書】馬皇后紀「永平三年。有司奏立長秋宮。註「皇后所居也。」

【長楫】 兩手ヲ全部下ニ垂ラシテ禮シ、敢テ拜セザルコトヲ謂フ。【史記】鄒生傳「沛公方倡。使兩女子洗足。而見鄒生。鄒生入。則長揖不拜。註「長揖者。手自而上而極下。」

【長城】 戰國ノ時燕趙秦三國各北邊山險ニ因リテ長城ヲ築キ、以テ胡戎ニ備フ。秦ノ始皇六國ヲ滅スニ及ビテ首尾之ヲ連綴ス。臨洮ヨリ起リテ遼東ニ至ル。北魏、北齊及ビ唐代ニ至リテ屢々修築アリ稍、其位置ヲ變ズ。今ノ西、甘肅安西縣布隆吉爾城ヨリ起リテ東、直隸臨榆縣ノ山海關ニ抵ルモノハ唐以來改定ノ形勢ナリ。明代之ヲ修シテ砲臺ヲ防グ。長五千四百四十里、號シテ「萬里長城」ト曰フ。皆礮石ヲ以テ之ヲ築ク。三十六丈毎ニ一礮臺ヲ築キテ烽火臺ヲ其上ニ置キ、寇來ラバ晝ハ烟ヲ舉ゲ夜ハ火ヲ舉ゲテ遠近ニ警告シテ兵ヲ徵

シタリ。清ノ時蒙古内附シ、此城國防ニ關係ナキニ至レリ。今ハ惟ダ税關ヲ各口ニ置キテ商貨ノ出入ヲ稽察スルニ過ギズ。

【長癆】 八歳ヨリ十一歳ノ小兒ノ死ヲ「下癆」ト曰ヒ、十六歳ヨリ十九歳ヲ「長癆」ト曰フ。明徐渭撰「路史」十六至十九爲「長癆」。十二至十五爲「中癆」。八歳至二十一爲「下癆」。七歳以下爲「無服之癆」。未ニ三月ニ不レ爲レ癆。(上)

【長主】 長公主ノ略ナリ。(長公主) 之長庶也。刑律ニ所謂「庶長子」ニ當ル。

【長隨】 賤民ノ一種ニシテ、終生家長(一家主)ニ附隨シ、其使用ニ服スル者ヲ謂フ。然レドモ其奴隷ト同シカラザルハ、奴隷ハ買賣ニ因ルモ、長隨ハ典當(質)若クハ終生の雇傭契約ニ因ルノ點ニ在リ。但シ、恩養三年以上ニ及ビ又ハ家長ガ配偶セシメタルトキハ、奴婢ト同一ノ關係ヲ生ズ。(清會典事例戶部)

ハ短任ノ窮民ヲ收容スルコト、爲シタリ。  
(通纂)

【長嫡】 本妻ノ生ミタル長子、刑律ニ所謂「嫡長」又ハ「嫡長子」ニ當ル。【南史】徐湛之傳「湛之母。會稽公主。身居長嫡。爲文帝所禮。」

【長徒】 北齊時代ニ起リタル刑罰ノ一種、遠方ニ流配スルニ耐ヘザル者ニ對シテハ特ニ長ク徒役ニ服セシムルコトヲ謂フ。【隋書】刑法志「其不合三遠配者。男子長徒。」

【長徒之身皆原遣】 (長徒ノ身ハ特ニ) 長期ノ徒刑ニ處セラレタル者ガ大赦令ニ依リテ配遣ヲ原サルコトヲ謂フ。【補宋書刑法志】「永初元年夏六月丁卯。大赦天下。其有「犯三鄉論清議。贓汗淫盜。皆漏滌洗除。與之更始。長徒之身。特皆原遣。云云。」(宋書武帝本紀參照)

【長本】 法令ノ發布ヲ周知スル方法ノ一ニシテ、抄本ガ公文ノ要領ヲ摘寫シテ報道スルヲ以テ其名アルガ如ク、長本ハ公文ヲ詳寫シテ

【長籍】 宮殿宿衛ノ長上人(宿衛監)ヨリ宿衛ニ交付スル門札ヲ謂フ。【唐律】宿衛篇「無著籍入宮殿」ノ條「諸應入宮殿。未著門籍。而入。雖有長籍。但當直。而輒入者。各減三兩入五等。」(同書卷七)

【長錢】 (陌ヲ見ヨ) 錢

【長租】 地主ト小作人トノ土地耕作ニ關スル契約ハ、一定ノ成例ニ由ラザルベカラズ。殊ニ租稅ハ毎年之ヲ納付スルヲ原則トス。但シ其例外トシテ三年以内ノ期限ヲ定メテ豫納スルコトハ之ヲ認容スルモ、三年以上ニ及ブモノハ之ヲ「長租」ト稱シテ國法ノ禁ズル所ナリ。(嘉慶會典戶部)

【長孫額】 一ニ「大孫額」トモ稱シ、家産分割ノ場合ニ特ニ被繼承人ノ嫡長孫ニ給付スル財產ヲ謂フ。是レ臺灣ニ特殊ナル慣習ノ一ナリ。從テ律例省例其他ノ政書ニ於テモ長孫額等ノ字樣ヲ觀ズ。惟ダ支那本土ニ於テモ嫡長子ノ

報遺スルヲ以テ此ノ名アリト云フ。(清國訂約)

【長名】 長名榜ノ略ナリ。(下條ヲ)

【長名榜】 唐、裴延齡吏部ト爲リ長名榜ヲ造リ、一定ノ次序ヲ以テ檢補ス。此ヨリ私情ヲ以テ前後スルヲ得ズ。【封氏聞見記】「高宗龍朔二年後。以「不堪」任職者衆。遂出「長榜」。放之冬集。俗謂之「長名。」

【頂契】 清制、土地開墾等ノ場合ニ於ケル交代證書即チ小作人ノ名義書換ノ證明書ヲ謂フ。(部例)

【頂紅】 吳中ノ俗、代理人ガ中間ニ介在シテ不當利得ヲ爲スコトヲ謂フ。

【頂替】 名義ヲ取リ替ヘルコト、即チ軍役ニ充ツル者ヲ平人ト爲シ又ハ平人ヲ以テ軍役ニ充ツルノ類ナリ。【明律】刑律訴訟篇「詭告充軍及遞徒」ノ條「若官吏故將平人一頂替他人軍

【長住】 清制、順治十年窮民收容ノ目的ヲ以テ、京師五城ニ棲流所ヲ造リ、之ニ收容スル窮民ヲ分チテ「長住」「短住」ト爲シ、文昌門保安門ノ棲流所ニハ長住ノ窮民ヲ收容シ、他ニ